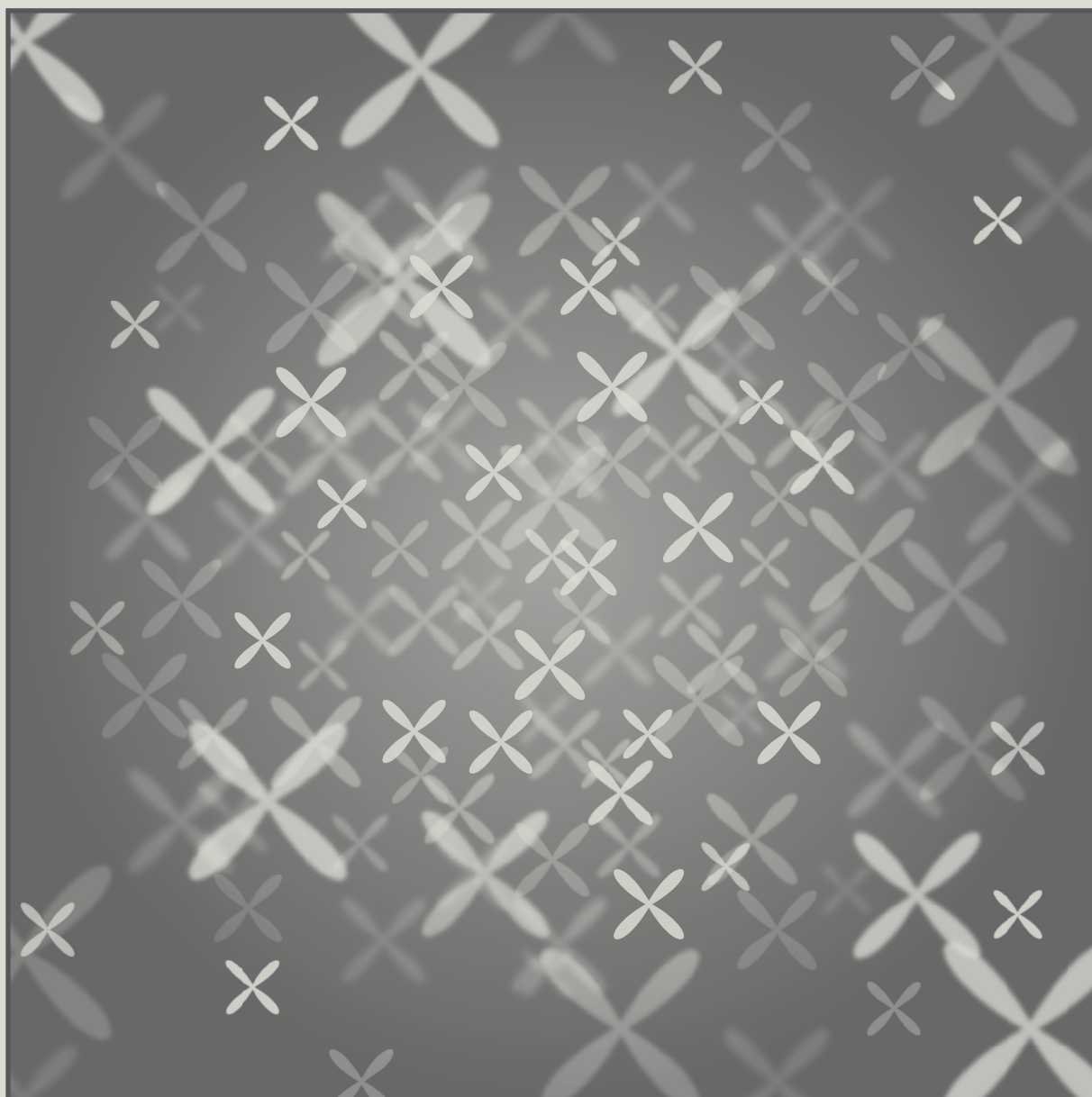

2012年度

シラバス

全学共通授業科目



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部 養：国際教養学部

経：経済学部 法：法学部

独：ドイツ語学科 養(*1)：国際教養学部、スペイン語履修者

済：経済学科 律：法律学科

英：英語学科 養(*2)：国際教養学部、中国語履修者

営：経営学科 国：国際関係法学科

仏：フランス語学科 養(*3)：国際教養学部、韓国語履修者

総：総合政策学科

交：交流文化学科

言：言語文化学科

言(*1)：言語文化学科、スペイン語履修者

言(*2)：言語文化学科、中国語履修者

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

08～12年度……2008～2012年度入学者

07年度以前……2007年度以前入学者

05～07年度……2005～2007年度入学者

※2002年度以前入学者は、学部ごとに別途配布する読み替え表を参照してください。

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤授業で使用するテキスト、参考文献

⑥評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
春学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
秋学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

※「全学総合講座」および一部の科目は、記載方法が異なる場合があります。

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

「全学共通授業科目」は定員を設けています。『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

③集中講義

集中講義を伴うスポーツ・レクリエーション科目は上・下両段に記載してあります。

開講学期に注意してください。

全学共通授業科目 目次(2008年度～2012年度入学者用)

全学総合講座

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
全学総合講座 (芸術と社会－芸術が社会の中で果たす役割について)				青山 愛香	木3	1	－	14
全学総合講座 (環境学1)(環境基礎学-自然を見つめる)				秋本 弘章	火4	1	－	15
		全学総合講座 (環境学2)(環境応用学－環境と社会)		秋本 弘章	火4	1	－	16
全学総合講座 (社会を生き抜くセルフブランディングⅠ)				有吉 秀樹	木2	1	－	17
		全学総合講座 (社会を生き抜くセルフブランディングⅡ)		有吉 秀樹	木2	1	－	18
		全学総合講座 (ジェンダーで眺めてみれば)		上野 直子	水3	1	－	19
全学総合講座 (多文化社会のメディア・リテラシー)				岡村 圭子	火3	1	－	20
		全学総合講座 (メディア社会とロック)		岡村 圭子	火3	1	－	21
全学総合講座 (獨協学)				川村 肇	水3	1	－	22
全学総合講座 (教えるという仕事)				川村 肇	金5	1	－	23
全学総合講座 (現代世界論)				佐藤 勘治	月4	1	養	24
全学総合講座 (NPO論 人を変える・地域を変える・世界を変える)				高松 和幸	金4	1	－	25
		全学総合講座 (地域活性化システム論－これからの「まちづくり」のヒントを探る)		高松 和幸	金4	1	－	26
		全学総合講座 (情報社会とルール)		夢賀谷 一照	水3	1	－	27
全学総合講座 (経営者が語る現代企業論1)				高安 健一	金2	1	－	28
		全学総合講座 (経営者が語る現代企業論2)		高安 健一	金2	1	－	29
全学総合講座 (働くための基礎知識－知って得する労働問題)				野村 容康	火3	1	－	30
全学総合講座 (ポピュラー文化と社会)				平田 由紀江	水2	1	－	31
全学総合講座 (あなたのキャリアデザインを考える)				町田 喜義	土2	1	－	32
全学総合講座 (健康をスポーツを世界を考える)		全学総合講座 (健康をスポーツを世界を考える)		松原 裕	火4	1	－	33
		全学総合講座 (童話(メルヘン)の可能性をめぐって)		矢羽々 崇	金3	1	－	34
全学総合講座 (キャンパスライフと仕事)		全学総合講座 (キャンパスライフと仕事)		山越 徳	木2	1	－	35
		全学総合講座 (食文化と人間生活「気候と風土と食文化」)		和田 智	火4	1	－	36
		全学総合講座 (自由時間の達人)		和田 智	金4	1	－	37

全学共通講義科目部門

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想1 (言語学a)		ことばと思想1 (言語学b)		安間 一雄	金1	1	養	38
ことばと思想1 (日本語教育概説)				石塚 京子	月4	1	養	39
ことばと思想1 (倫理の基本について考える)		ことばと思想1 (環境と生命の倫理)		市川 達人	火3	1	養	40
ことばと思想1 (社会思想史1)(市民的社会像の黎明期)		ことばと思想1 (社会思想史2)(市民的社会像の確立期)		市川 達人	火4	1	－	41
ことばと思想1 (応用言語学)		ことばと思想1 (第二言語習得)		臼井 芳子	火2	2	養	42
ことばと思想1 (国際語としての英語)		ことばと思想1 (多言語環境と英語)		臼井 芳子	火4	2	養	43
ことばと思想1 (倫理学a)		ことばと思想1 (倫理学b)		川口 茂雄	金3	1	養	44
ことばと思想1 (心理学)(人間の行動・認知・動機的一般法則)		ことばと思想1 (心理学)(人間の個性・多様性理解)		杉山 憲司	木1	1	－	45
ことばと思想1 (心理学)(人間の行動・認知・動機的一般法則)		ことばと思想1 (心理学)(人間の個性・多様性理解)		杉山 憲司	木2	1	－	45
ことばと思想1 (こころの世界)				田口 雅徳	木2	1	養	46
ことばと思想1 (哲学の諸問題1)		ことばと思想1 (哲学の諸問題2)		谷口 郁夫	月4	1	－	47
ことばと思想1 (生と死の意味の哲学1)		ことばと思想1 (生と死の意味の哲学2)		谷口 郁夫	月3	1	－	48
ことばと思想1 (通訳・翻訳論)				永田 小絵	水3	2	－	49
ことばと思想1 (英語圏の社会と思想a)		ことばと思想1 (英語圏の社会と思想b)		福井 嘉彦	火2	2	英	50
ことばと思想1 (日本語文法形態論)		ことばと思想1 (日本語文法統語論)		松浦 恵津子	月2	2	養	51
ことばと思想1 (社会思想史1)(東洋古代から近世まで)		ことばと思想1 (社会思想史2)(東洋近世から現代まで)		松丸 壽雄	水2	1	養	52
歴史と文化1 (歴史学1)(中世の仏教と社会)		歴史と文化1 (歴史学2)(中世の「悪党」と民衆)		新井 孝重	火4	1	－	53
歴史と文化1 (日本文化論)				飯島 一彦	木2	1	養・法	54
歴史と文化1 (文化人類学a)		歴史と文化1 (文化人類学b)		井上 兼行	月3	1	養	55
		歴史と文化1 (異文化社会の認識と世界観b)		井上 兼行	火3	2	養	56
歴史と文化1 (英語圏の小説a)		歴史と文化1 (英語圏の小説b)		上野直子/島田啓一	水2/木3	2	英・養	57
歴史と文化1 (日本思想史1)				川村 肇	火3	2	養	58

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
		歴史と文化1 (教育の歴史2)		川村 肇	火3	1	養	58
		歴史と文化1 (日韓交流史)		金 熙淑	月3	2	養	59
歴史と文化1 (大衆文化論)				木本 玲一	火4	2	養	60
歴史と文化1 (歴史学1)(イスラーム世界の成立と拡大)	歴史と文化1 (歴史学2)(イスラーム世界の近代化とその後)			熊谷 哲也	木3	1	－	61
歴史と文化1 (東西の文化を結ぶもの)	歴史と文化1 (東西文化と近代化)			熊谷 哲也	木4	2	－	62
	歴史と文化1 (スペイン・ラテンアメリカの社会文化)			兒島 峰	火5	2	養	63
歴史と文化1 (日本事情とコミュニケーション教育)				小山 慎治	月2	1	養	64
歴史と文化1 (歴史学1)(文明史研究a)	歴史と文化1 (歴史学2)(文明史研究b)			櫻井 悠美	月2	1	養	65
歴史と文化1 (韓国文化各論c)				佐藤 厚	火2	2	養	66
	歴史と文化1 (ラテンアメリカ研究入門)			佐藤 勸治	月5	1	養	67
歴史と文化1 (恐怖の日本文学)	歴史と文化1 (日本文学現代)			佐藤 毅	木1	1	養(秋のみ)	68
歴史と文化1 (歴史学2)(アメリカのエスニック・ヒストリー)	歴史と文化1 (歴史学1)(アメリカのエスニック・ヒストリー)			佐藤 唯行	金3	1	－	69
歴史と文化1 (都市と建築1)	歴史と文化1 (都市と建築2)			鈴木 隆	火3	1	－	70
歴史と文化1 (中国史a)	歴史と文化1 (中国史b)			張 士陽	木4	2	養	71
歴史と文化1 (スペイン研究入門)				二宮 哲	月5	1	養	72
歴史と文化1 (民俗学)				林 英一	木1	2	養	73
	歴史と文化1 (地域文化)			林 英一	木1	2	養・法	73
歴史と文化1 (日本文学古典)	歴史と文化1 (平安時代の文学を読む)			福沢 健	月2	1	養(春のみ)	74
歴史と文化1 (文化史入門)				古川 堅治	水2	1	養	75
歴史と文化1 (歴史学1)(ヨーロッパ史1)	歴史と文化1 (歴史学2)(ヨーロッパ史2)			増谷 英樹	水3	1	－	76
	歴史と文化1 (英語圏の文学)			松山 響子	月2	1	養	77
歴史と文化1 (歴史学1)(「15年戦争」をどうとらえるか)	歴史と文化1 (歴史学2)(戦後史の中の「15年戦争」)			丸浜 昭	水2	2	養	78
歴史と文化1 (移民・交易に見る文化変容)	歴史と文化1 (グローバル化と情報・通信の文化史)			水口 章	月4	1	－	79
歴史と文化1 (アラブ文化・芸術a)	歴史と文化1 (アラブ文化・芸術b)			嵯峨 カリマ エルザムニー	月2	2	養	80
	歴史と文化1 (異文化間コミュニケーションb)			山本 英政	月2	1	英・養	81
歴史と文化1 (英語圏の文化)	歴史と文化1 (英語圏事情)			山本 英政	水2	2	英・養	82
現代社会1 (ブラジル研究)				E.ウラノ	火2	2	養	83
現代社会1 (地理学1)(自然環境と文化)	現代社会1 (地理学2)(自然環境と文化)			秋本 弘章	水2	1	－	84
現代社会1 (地誌学1)(ヨーロッパ地域論)	現代社会1 (地誌学2)(ドイツ地域論)			飯嶋 曜子	火4	1	独	85
現代社会1 (教育法1)	現代社会1 (教育法2)			市川 須美子	木2	2	法	86
現代社会1 (国際法1)(国際社会と私たち)	現代社会1 (国際法2)(国際紛争を考える)			一之瀬 高博	月1	1	－	87
現代社会1 (国際関係の構造と展開)	現代社会1 (近現代の国際関係史)			伊藤 兵馬	木5	1	－	88
	現代社会1 (地域メディア論)			岡村 圭子	水2	2	養	89
現代社会1 (社会学a)	現代社会1 (社会学b)			岡村 圭子	土1	1	養	90
現代社会1 (民法1)	現代社会1 (民法2)			小川 佳子	火4	1	法	91
現代社会1 (家庭と職場のジェンダー)				片山 亜紀	金4	1	－	92
現代社会1 (日本国憲法)	現代社会1 (日本国憲法)			加藤 一彦	火2	1	法	93
現代社会1 (地理学1)(世界の自然環境と文化)	現代社会1 (地理学2)(世界の自然環境と文化)			北崎 幸之助	金4	2	養	94
現代社会1 (社会科学概論1)	現代社会1 (社会科学概論2)			木村 くに子	火3	1	法	95
現代社会1 (経済学1)(はじめての経済学)	現代社会1 (経済学2)(はじめての経済学)			黒木 亮	月1	1	経	96
現代社会1 (日本国憲法)				古関 彰一	火1	1	法	97
現代社会1 (グローバル化を巡って)	現代社会1 (日本の表象と世界)			柴崎 信三	木2	1	経	98
現代社会1 (歴史の中のメディア)	現代社会1 (メディアと現代社会)			柴崎 信三	水2	1	－	99
	現代社会1 (NGO論)			清水 俊弘	水4	1	養	100
現代社会1 (コトバと社会)	現代社会1 (コトバと社会)			下川 浩	火5	1	－	101
現代社会1 (政治システムの構成要素)	現代社会1 (現代の民主主義)			鈴木 宏尚	火4	1	－	102
現代社会1 (基礎から学ぶマネジメント)	現代社会1 (基礎から学ぶマネジメント)			高松 和幸	火1	1	経	103
現代社会1 (韓国社会各論b)				全 載旭	木3	2	養	104
	現代社会1 (ジェンダーとメディア表象)			西山 千恵子	月4	1	－	105
現代社会1 (中東の社会空間)	現代社会1 (中東政治と市民社会)			水口 章	月5	1	－	106
現代社会1 (経済学1)(ミクロの視点で考える)	現代社会1 (経済学2)(マクロの視点で考える)			米山 昌幸	木1	1	経	107
自然・環境・人間1 (歴史における科学技術1: 古代から近代までの科学技術)	自然・環境・人間1 (歴史における科学技術2: 近現代における科学技術)			内田 正夫	木3	1	－	108
自然・環境・人間1 (自然観察a)	自然・環境・人間1 (自然観察b)			加藤 僊重	火1	2	養	109
自然・環境・人間1 (地球環境の変化とその要因)	自然・環境・人間1 (地球環境問題と環境保全)			鈴木 滋	火2	1	－	110
自然・環境・人間1 (科学史a)	自然・環境・人間1 (科学史b)			野澤 聡	金4	1	養	111

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
自然・環境・人間1 (数学a)		自然・環境・人間1 (数学b)		福井 尚生	月3	1	養	112
自然・環境・人間1 (恒星天文学)		自然・環境・人間1 (銀河天文学)		福井 尚生	水1	1	－	113
自然・環境・人間1 (宇宙論a)		自然・環境・人間1 (宇宙論b)		福井 尚生	金1	1	養	114
自然・環境・人間1 (地球外文明論a)		自然・環境・人間1 (地球外文明論b)		福井 尚生	月1	1	－	115
自然・環境・人間1 (天文学a)		自然・環境・人間1 (天文学b)		福井 尚生	金3	1	養	116
自然・環境・人間1 (私の自由時間設計)				和田 智	金4	1	－	117

全学共通実践科目部門

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想2 (写本を読む)		ことばと思想2 (碑文を読む)		飯島 一彦	金2	2	養	118
ことばと思想2 (日本語音声表現のトレーニング基礎篇)		ことばと思想2 (日本語音声表現のトレーニング表現篇)		梅津 正樹	土2	1	－	119
ことばと思想2 (ラテン語Ⅰa)		ことばと思想2 (ラテン語Ⅰb)		小倉 博行	金3	1	－	120
ことばと思想2 (ラテン語Ⅱa)		ことばと思想2 (ラテン語Ⅱb)		小倉 博行	金2	2	－	121
ことばと思想2 (古典ギリシア語Ⅰa)		ことばと思想2 (古典ギリシア語Ⅰb)		櫻井 悠美	月3	1	－	122
ことばと思想2 (書き言葉の問題)		ことばと思想2 (話し言葉の問題)		佐藤 毅	木2	1	－	123
ことばと思想2 (ロマンス語研究入門1)		ことばと思想2 (ロマンス語研究入門2)		島津 寛	木1	2	－	124
ことばと思想2 (プレゼンテーション実習)		ことばと思想2 (プレゼンテーション実習)		清水 絹代	月3	1	－	125
ことばと思想2 (プレゼンテーション実習)		ことばと思想2 (プレゼンテーション実習)		清水 絹代	月2	1	－	125
ことばと思想2 (生きたコトバづかい・文章編)		ことばと思想2 (生きたコトバづかい・文章編)		下川 浩	金3	1	－	126
		ことばと思想2 (心理検査法と自己理解)		田口 雅徳	木2	2	養	127
ことばと思想2 (反＝コミュニケーション論)		ことばと思想2 (反＝コミュニケーション論2)		谷口 亜沙子	水1	1	－	128
ことばと思想2 (英語通訳)(英語通訳の仕事)		ことばと思想2 (英語通訳)(英語通訳の仕事)		中島 直美	土2	1	－	129
ことばと思想2 (生活文化の発見)		ことばと思想2 (生活文化の記述)		林 英一	木2	1	－	130
ことばと思想2 (論文を書く)		ことばと思想2 (口頭発表を行う)		福沢 健	月3	1	－	131
ことばと思想2 (古典ギリシア語Ⅱa)		ことばと思想2 (古典ギリシア語Ⅱb)		古川 堅治	木3	2	－	132
歴史と文化2 (Japanese Legends, Tales and Myths as Expressed in the Arts:1)		歴史と文化2 (Japanese Legends, Tales and Myths as Expressed in the Arts:2)	Aゾーリンジャー	木4	1	－	133	
		歴史と文化2 (西洋絵画の主題と様式2)	阿部 明日香	水2	1	－	134	
歴史と文化2 (アメリカ詩入門)		歴史と文化2 (イギリス詩入門)	遠藤朋之/白鳥正孝	木4/水3	2	英・養	135	
歴史と文化2 (日韓比較文化論b)		歴史と文化2 (日韓比較文化論a)	金 熙淑	火3	2	養	136	
歴史と文化2 (スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)			倉田 量介	火3	2	養	137	
歴史と文化2 (能楽論)		歴史と文化2 (能楽における中世武士の諸像)	瀬尾 菊次	火2	2	－	138	
歴史と文化2 (イタリアの音楽史)		歴史と文化2 (イタリアの声楽曲)	園田 みどり	水3	1	－	139	
歴史と文化2 (詩と音楽5)		歴史と文化2 (詩と音楽6)	園田 みどり	木2	1	－	140	
歴史と文化2 (近代パリの風景と文学1)		歴史と文化2 (近代パリの風景と文学2)	福田 美雪	木4	1	－	141	
歴史と文化2 (日本事情1)		歴史と文化2 (日本事情2)	守田 逸人	木4	1	－	142	
現代社会2 (ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』1)		現代社会2 (ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』2)	大井 正博	金2	1	－	143	
		現代社会2 (ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	大重光太郎	月3	1	独	144	
現代社会2 (経理入門1)		現代社会2 (経理入門2)	大坪 史治	木3	1	経	145	
現代社会2 (英文会計入門1)		現代社会2 (英文会計入門2)	大坪 史治	木4	1	－	146	
現代社会2 (教育の現場:教師と語るa)			川村 肇	金3	1	－	147	
		現代社会2 (教育の現場:教師と語るb)	川村 肇	金3	2	養	147	
現代社会2 (異文化理解教育)			小島 優生	金3	2	養	148	
現代社会2 (生きたコトバづかい・話し合い編)		現代社会2 (生きたコトバづかい・話し合い編)	下川 浩	金4	1	－	149	
現代社会2 (インターナシッブ)			杉山 晴信	木2	2	－	150	
現代社会2 (模擬国際裁判)			鈴木 淳一	火2	3	法	151	
		現代社会2 (韓国社会論)	平田 由紀江	水2	2	養	152	
		現代社会2 (ポストコロナリアル研究入門)	平田 由紀江	火3	2	－	153	
現代社会2 (新聞を読む1)		現代社会2 (新聞を読む2)	細野 徳治	水4	1	－	154	
現代社会2 (コンピュータ入門a)		現代社会2 (コンピュータ入門b)	久東 義典	火3	1	外・養・経	155	
現代社会2 (コンピュータ入門a)		現代社会2 (コンピュータ入門b)	黄 海湘	金3	1	外・養・経	155	
現代社会2 (コンピュータ入門a)		現代社会2 (コンピュータ入門b)	黄 海湘	金4	1	外・養・経	155	
現代社会2 (コンピュータ入門a)		現代社会2 (コンピュータ入門b)	杉村 和枝	金3	1	外・養・経	155	
現代社会2 (コンピュータアドヴァンス1)		現代社会2 (コンピュータアドヴァンス2)	長 慎也	月4	1	外・養・経	156	
現代社会2 (ホームページ作成)		現代社会2 (ホームページ作成)	和泉 順子	金2	1	養	157	
現代社会2 (ホームページ作成)		現代社会2 (ホームページ作成)	久東 義典	火5	1	養	158	

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
自然・環境・人間2 (統計と調査法)				安間 一雄	火3	2	養	159
自然・環境・人間2 (観察と実験生物学a)		自然・環境・人間2 (観察と実験生物学b)		加藤 僖重	木3	2	養	160
自然・環境・人間2 (観察と実験生物学a)		自然・環境・人間2 (観察と実験生物学b)		加藤 僖重	木2	2	養	160
自然・環境・人間2 (体育経営スポーツマネジメント)				川北 隼人	月3	2	養	161
自然・環境・人間2 (コンピュータと言語)				呉 浩東	月2	1	外・養	162
		自然・環境・人間2 (コンピュータ構造論)		呉 浩東	月2	2	養	163
自然・環境・人間2 (情報検索と加工)				黄 海湘	水3	2	養	163
自然・環境・人間2 (マルチメディア論)				田中 雅英	火4	2	養	164
		自然・環境・人間2 (スポーツコーチ学b)		松原 裕	金3	2	養	165
自然・環境・人間2 (スポーツコーチ学a)				依田 珠江	木4	2	養	165
		自然・環境・人間2 (からだの仕組み)		依田 珠江	木4	1	－	166
自然・環境・人間2 (リーダーシップ論)				和田 智	金2	2	養	167

外国語科目群

英語部門(English)

外国語学部英語学科・交流文化学科、国際教養学部の学生は、英語部門「English」を履修することはできません。

■クラス指定科目(再履修クラス含む)

対象・コース等	科目名	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
独・仏・経・法のみ	English(リーディングI a,b)	/(Academic Reading Strategies I a,b)	各担当教員	-	201
指定された者のみ	English(リーディングI a,b)	/(Academic Reading Strategies I a,b)	岡田 圭子	月 5	- 202
指定された者のみ	English(リーディングI a,b)	/(Academic Reading Strategies I a,b)	飯島 優雅	火 5	- 203
国・総のみ	English(ライティングI a,b)	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	各担当教員	-	204
経のみ	English(スピーキングI a,b)	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	各担当教員	-	205
Sounds Good利用クラス	English(リスニング I a,b)	/(Academic Listening Strategies I a,b)	各担当教員	-	206
Quest Intro利用クラス	English(リスニング I a,b)	/(Academic Listening Strategies I a,b)	各担当教員	-	207
指定された者のみ	English(リスニング I a,b)	/(Academic Listening Strategies I a,b)	M. クロフォード	火 5 金 4 金 5	- 208
独・仏・法のみ	English(リーディング II a,b)	/(Academic Reading Strategies II a,b)	各担当教員	-	209
指定された者のみ	English(リーディング II a,b)	/(Academic Reading Strategies II a,b)	辻田 麻里	火 5 木 5	- 210
国・総のみ	English(ライティング II a,b)	/(Academic Writing II a,b: Essay)	各担当教員	-	211
独・仏・法のみ	English(リスニング II a,b)	/(Academic Listening Strategies II a,b)	各担当教員	-	212
指定された者のみ	English(リスニング II a,b)	/(Academic Listening Strategies II a,b)	J. ラシーン	火 5 木 5	- 213
独・仏のみ	English(リーディング III a,b)	/(Academic Reading and Writing Strategies III a,b)	各担当教員	-	214
指定された者のみ	English(リーディング III a,b)	/(Academic Reading and Writing Strategies III a,b)	宇野沢 和子	月 3	- 215

■対象者指定科目

対象・コース等	科目名	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
外国人学生・帰国学生	English(留学生I a,b)	/(Basic English Skills for International Students I a,b)	飯島 優雅	木 2	- 216
外国人学生・帰国学生	English(留学生II a,b)	/(Basic English Skills for International Students II a,b)	長坂 達彦	水 3	- 217

■選択科目

科目の種類	科目名	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
Writing	English(ライティングI a,b)	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	松岡 昇	月 3	国・総 218
	English(ライティングI a,b)	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	三谷 裕美	水 3	国・総 219
	English(ライティングI a,b)	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	遠藤 朋之	木 2	国・総 220
	English(ライティングI a,b)	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	高畑 哲男	木 3	国・総 221
	English(ライティングI a,b)	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	石月 正伸	木 4	国・総 222
	English(ライティングII a,b)	/(Academic Writing II a,b: Essay)	斎藤 裕紀恵	火 3	国・総 223
Speaking	English(スピーキングI a,b)	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	W. ヘイ	月 2	経 224
	English(スピーキングI a,b)	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	M. H. ウィキンズ	月 3	経 225
	English(スピーキングI a,b)	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	D. R. ギブソン	火 4	経 226
	English(スピーキングI a,b)	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	J. ハサウエイ	木 3	経 227
	English(スピーキングI a,b)	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	J. クレイグ	金 3	経 228
	English(スピーキングI a,b)	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	S. A. フルトン	金 4	経 229
	English(スピーキングII a,b)	/(Speaking in Academic Contexts II a,b: Presentation)	J. ハサウエイ	木 2	- 230
Reading	English(リーディング II a,b)	/(Academic Reading Strategies II a,b)	履修希望者は教務課 経済学部係窓口へ	独・仏・法	209
	English(リーディング III a,b)	/(Academic Reading and Writing Strategies III a,b)	履修希望者は教務課 各学部係窓口へ	独・仏	214
Listening	English(リスニング II a,b)	/(Academic Listening Strategies II a,b)	履修希望者は教務課 経済学部係窓口へ	独・仏・法	212
e-learning	English(e-ラーニング)	/(Computer Assisted English Learning (CAEL))	岡田 圭子	月 3	1年生 231
Content-based	English(コンテンツ)	/(English Explorations)	岡田 圭子	火 4	TOEIC450 点未満 232
	English(コンテンツ ii)	/(English Explorations)	J. ラシーン	火 4	TOEIC450 点未満 232
Test-taking	English(資格I)	/(Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	河原 伸一	金 4	TOEIC400 点以上 233
	English(資格II)	/(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	松岡 昇	月 4	TOEIC400 点未満 234
Pronunciation	English(発音)	/(Special Topics: Pronunciation Workshop)	辻田 麻里	木 4	- 235
	English(発音)	/(Special Topics: Pronunciation Workshop)	三谷 裕美	金 4	- 235
Basic Grammar	English(基礎文法 a,b)	/(Special Topics: Grammar Refresher a,b)	垣下 圭子	火 4	- 236
	English(基礎文法 a,b)	/(Special Topics: Grammar Refresher a,b)	長坂 達彦	水 4	- 237

外国語科目群

外国語部門(英語以外)

対象・コース等	科目名(副題)	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
(基礎コース)	ドイツ語(Ia,b 基礎)	各担当教員		独	239
(総合コース)	ドイツ語(Ia,b 基礎)	各担当教員		独	240
(総合コース)	ドイツ語(Ia,b 会話)	各担当教員		独	241
(基礎コース)	ドイツ語(Ⅱ a,b 基礎)	各担当教員		独	242
(総合コース)	ドイツ語(Ⅱ a,b 基礎)	各担当教員		独	243
(総合コース)	ドイツ語(Ⅱ a,b 会話)	各担当教員		独	244
	ドイツ語(Ⅲa,b 会話)	D.パイアー=タグチ	木 3	独	245
(基礎コース)	フランス語(Ia,b 基礎)	各担当教員		仏	246
(総合コース)	フランス語(Ia,b 総合J)	各担当教員		仏	247
(総合コース)	フランス語(Ia,b 総合F)	各担当教員		仏	248
(基礎コース)	フランス語(Ⅱ a,b 基礎)	S.ジュンタ	火 3	仏	249
(総合コース)	フランス語(Ⅱ a,b 総合J)	各担当教員		仏	250
(総合コース)	フランス語(Ⅱ a,b 総合F)	各担当教員		仏	251
	フランス語(Ⅲa,b)	S.ジュンタ	火 2	仏	252
(基礎コース)	スペイン語(Ia,b 文法)	各担当教員		養(*1)	253
(総合コース)	スペイン語(Ia,b 文法)	各担当教員		養(*1)	254
(総合コース)	スペイン語(Ia,b 会話)	各担当教員		養(*1)	255
(基礎コース)	スペイン語(Ⅱ a,b 文法)	各担当教員		養(*1)	256
(総合コース)	スペイン語(Ⅱ a,b 文法)	各担当教員		養(*1)	257
(総合コース)	スペイン語(Ⅱ a,b 会話)	各担当教員		養(*1)	258
	スペイン語(Ⅲa,b 講読)	北岸 団	木 3	養(*1)	259
	スペイン語(Ⅲa,b 会話)	C.ガリード	火 3	養(*1)	260
(基礎コース)	中国語(Ia,b 会話)	各担当教員		養(*2)	261
(総合コース)	中国語(Ia,b 会話)	各担当教員		養(*2)	262
(総合コース)	中国語(Ia,b 講読・文法)	各担当教員		養(*2)	263
(基礎コース)	中国語(Ⅱ a,b 会話)	各担当教員		養(*2)	264
(総合コース)	中国語(Ⅱ a,b 会話)	各担当教員		養(*2)	265
(総合コース)	中国語(Ⅱ a,b 講読・文法)	各担当教員		養(*2)	266
	中国語(Ⅲa,b 会話)	頼 明	月 2	養(*2)	267
	中国語(Ⅲa,b 講読・文法)	平野 佐和	火 1	養(*2)	268
	韓国語(Ia,b 総合)	金 泰植	月 3	養(*3)	269
	韓国語(Ia,b 総合)	金 鉉洙	火 4	養(*3)	270
	韓国語(Ia,b 総合)	呉 吉煥	金 1	養(*3)	271
	韓国語(Ia,b 総合)	呉 吉煥	金 2	養(*3)	271
	韓国語(Ia,b 講読・会話)	金 泰植	月 5	養(*3)	272
	韓国語(Ia,b 講読・会話)	呉 吉煥	水 2	養(*3)	273
	韓国語(Ia,b 講読・会話)	沈 民珪	金 3	養(*3)	274
	韓国語(Ia,b 講読・会話)	沈 民珪	金 4	養(*3)	274
	韓国語(Ⅱ a,b 総合)	佐藤 厚	火 4	養(*3)	275
	韓国語(Ⅱ a,b 講読・会話)	佐藤 厚	金 5	養(*3)	276
	外国語(イタリア語Ia,b 基礎)	園田 みどり	水 4	-	277
	外国語(イタリア語Ia,b 基礎)	園田 みどり	木 3	-	277
	外国語(イタリア語Ia,b 基礎)	島津 寛	土 1	-	278
	外国語(イタリア語Ⅱ a,b 基礎)	島津 寛	土 2	-	279
	外国語(ポルトガル語Ia,b 文法)	牧野 真也	金 3	-	280
	外国語(ポルトガル語Ⅱ a,b 応用)	牧野 真也	金 4	-	281
	外国語(ロシア語Ia,b 総合)	齊藤 毅	水 4	-	282
	外国語(ロシア語Ia,b 会話)	小西 昌隆	月 4	-	283
	外国語(ロシア語Ⅱ a,b 総合)	齊藤 毅	水 3	-	284
	外国語(ロシア語Ⅱ a,b 会話)	小西 昌隆	月 3	-	285
	外国語(タイ語Ia,b 会話)	江藤 双恵	火 3	-	286
	外国語(タイ語Ⅱ a,b 文字の読み書き)	江藤 双恵	火 2	-	287
	外国語(アラビア語Ia,b 会話と文化)	師岡カリマ・エルサムニー	月 3	-	288
	外国語(アラビア語Ⅱ a,b 読み書きと文法の基礎)	師岡カリマ・エルサムニー	月 4	-	289
	外国語(現代ヘブライ語Ⅰ a,b 基礎)	阿部 望	金 2	-	290

日本語部門

対象・コース等	科目名(副題)	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
(外国人・帰国学生)	日本語(総合IAa,b/総合IBa,b/総合ICa,b)	各担当教員		-	291
(外国人・帰国学生)	日本語(総合Ⅱ a,b)	桂 千佳子/岩沢 正子	水 4	-	292
(外国人・帰国学生)	日本語(総合Ⅱ a,b)	生田 守	木 2	-	293
(外国人・帰国学生)	日本語(総合Ⅱ a,b)	桂 千佳子	木 3	-	294
(外国人・帰国学生)	日本語(総合Ⅱ a,b)	武田 明子	金 3	-	295

スポーツ・レクリエーション部門 / カテゴリーⅤ 体育科目

科目名	(副題)	開講学期	担当教員	曜 時	開始学年	履修不可	ページ
スポーツ・レクリエーション							
	(インラインスケートb)	秋	和田 智	火 1	1		170
	(インラインスケートb)	秋	和田 智	土 1	1		170
	(ウェルネス入門a,b)	春・秋	依田 珠江	水 1	1		171
	(ウェルネス入門a,b)	春・秋	依田 珠江	木 3	1		171
	(エアロビックダンスa,b)	春・秋	中村 恭子	水 3	1		172
	(エアロビックダンスa,b)	春・秋	中村 恭子	水 4	1		172
	(硬式テニスa,b)	春・秋	松原 裕	水 2	1		173
	(硬式テニスa,b)	春・秋	松原 裕	水 3	1		173
	(硬式テニスa,b)	春・秋	松原 裕	金 1	1		173
	(硬式テニスa,b)	春・秋	松原 裕	金 2	1		173
	(硬式テニスa,b)	春・秋	田中 茂宏	木 3	1		174
	(ゴルフa,b)	春・秋	小笠原 慶太	金 1	1		175
	(ゴルフa,b)	春・秋	小笠原 慶太	金 2	1		175
	(サッカーa,b)	春・秋	菊原 伸郎	火 1	1		176
	(サッカーa,b)	春・秋	菊原 伸郎	火 2	1		176
	(サッカーa,b)	春・秋	西川 誠太	水 1	1		177
	(サッカーa,b)	春・秋	西川 誠太	水 2	1		177
	(スポーツ型デトックスa,b)	春・秋	齋藤 初恵	火 3	1		178
	(スポーツ型デトックスa,b)	春・秋	齋藤 初恵	火 4	1		178
	(ソフトボールa,b)	春・秋	萩野 元祐	木 1	1		179
	(ソフトボールa,b)	春・秋	萩野 元祐	木 2	1		179
	(卓球a,b)	春・秋	山口 知恵	月 2	1		180
	(卓球a,b)	春・秋	神宮司 親治	金 1	1		181
	(卓球a,b)	春・秋	太田 朝博	金 2	1		182
	(トレーニング入門a,b)	春・秋	大森 一伸	火 1	1		183
	(トレーニング入門a,b)	春・秋	大森 一伸	火 2	1		183
	(ニュースポーツa,b)	春・秋	村山 光義	月 3	1		184
	(バスケットボールa,b)	春・秋	依田 珠江	水 2	1		185
	(バスケットボールa,b)	春・秋	依田 珠江	水 3	1		185
	(バスケットボールa,b)	春・秋	川北 準人	月 1	1		186
	(バスケットボールa,b)	春・秋	川北 準人	月 2	1		186
	(バドミントンa,b)	春・秋	依田 珠江	木 2	1		187
	(バドミントンa,b)	春・秋	梶野 克之	火 2	1		188
	(バドミントンa,b)	春・秋	梶野 克之	火 3	1		188
	(バドミントンa,b)	春・秋	山口 知恵	月 3	1		189
	(バドミントンa,b)	春・秋	田中 茂宏	木 1	1		190
	(バレーボールa,b)	春・秋	横矢 勇一	金 1	1		191
	(バレーボールa,b)	春・秋	横矢 勇一	金 2	1		191
	(バレーボールa,b)	春・秋	太田 朝博	金 3	1		192
	(フットサルa,b)	春・秋	神宮司 親治	金 3	1		193
	(フリスビーa,b)	春・秋	村山 光義	月 2	1		194
	(ボールルームダンスa,b)	春・秋	内堀 祐子	水 1	1		195
	(ボールルームダンスa,b)	春・秋	内堀 祐子	水 2	1		195
	(アウトドアレクリエーション)	春	和田 智	月 2	1		196
	(アウトドア山岳)	夏季集中	和田 智	集中	1		196
	(アウトドア海浜)	夏季集中	和田 智	集中	1		197
	(アウトドアレクリエーション)	春	和田 智	火 2	1		197
	(ウィンドサーフィン)	夏季集中	和田 智	集中	1		198
	(アウトドアレクリエーション)	春	和田 智	水 2	1		198
	(スケートトレーニング)	秋	和田 智	土 2	1		199
	(アイススポーツ)	冬季集中	和田 智	集中	1		199
	(バランストレーニング)	秋	松原 裕	火 2	1		200
	(スキー&スノーボード)	冬季集中	松原 裕	集中	1		200
	(学生交流支援プログラム)	春	依田 珠江	土 1	1	外・経・法	*
	(学生交流支援プログラム)	春	依田 珠江	土 2	1	外・経・法	*
	(学生交流支援プログラム)	春	松原 裕	土 1	1	外・経・法	*
	(学生交流支援プログラム)	春	松原 裕	土 2	1	外・経・法	*
	(学生交流支援プログラム)	春	和田 智	土 1	1	外・経・法	*
	(学生交流支援プログラム)	春	和田 智	土 2	1	外・経・法	*

全学共通授業科目 目次(2003年度～2007年度入学者用)

カテゴリーⅠ 全学総合講座

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
全学総合講座	(芸術と社会－芸術が社会の中で果たす役割について－)			青山 愛香	木3	1	－	14
全学総合講座	(環境学1)(環境基礎学－自然を見つめる)			秋本 弘章	火4	1	－	15
		全学総合講座	(環境学2)(環境応用学－環境と社会)	秋本 弘章	火4	1	－	16
全学総合講座	(社会を生き抜くセルフブランディングⅠ)			有吉 秀樹	木2	1	－	17
		全学総合講座	(社会を生き抜くセルフブランディングⅡ)	有吉 秀樹	木2	1	－	18
		全学総合講座	(ジェンダーで眺めてみれば)	上野 直子	水3	1	－	19
全学総合講座	(多文化社会のメディア・リテラシー)			岡村 圭子	火3	1	－	20
		全学総合講座	(メディア社会とロック)	岡村 圭子	火3	1	－	21
全学総合講座	(獨協学)			川村 肇	水3	1	－	22
全学総合講座	(教えるという仕事)			川村 肇	金5	1	－	23
全学総合講座	(現代世界論)			佐藤 勘治	月4	1	言・養	24
全学総合講座	(NPO論 人を変える・地域を変える・世界を変える)			高松 和幸	金4	1	－	25
		全学総合講座	(地域活性化システム論－これからの「まちづくり」のヒントを探る)	高松 和幸	金4	1	－	26
		全学総合講座	(情報社会とルール)	夢賀谷 一照	水3	1	－	27
全学総合講座	(経営者が語る現代企業論1)			高安 健一	金2	1	－	28
		全学総合講座	(経営者が語る現代企業論2)	高安 健一	金2	1	－	29
全学総合講座	(働くための基礎知識－知って得する労働問題)			野村 容康	火3	1	－	30
全学総合講座	(ポピュラー文化と社会)			平田 由紀江	水2	1	－	31
全学総合講座	(あなたのキャリアデザインを考える)			町田 喜義	土2	1	－	32
全学総合講座	(健康をスポーツを世界を考える)	全学総合講座	(健康をスポーツを世界を考える)	松原 裕	火4	1	－	33
		全学総合講座	(童話(メルヘン)の可能性をめぐって)	矢羽々 崇	金3	1	－	34
全学総合講座	(キャンパスライフと仕事)	全学総合講座	(キャンパスライフと仕事)	山越 徳	木2	1	－	35
		全学総合講座	(食文化と人間生活「気候と風土と食文化」)	和田 智	火4	1	－	36
		全学総合講座	(自由時間の達人)	和田 智	金4	1	－	37

カテゴリーⅡ 概論科目

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
哲学a	(哲学の諸問題1)	哲学b	(哲学の諸問題2)	谷口 郁夫	月4	1	－	47
倫理学a	(倫理の基本について考える)	倫理学b	(環境と生命の倫理)	市川 達人	火3	1	養	40
倫理学a	(倫理学と人間性)	倫理学b	(現代倫理学の諸問題)	川口 茂雄	金3	1	養	44
社会思想史a	(市民的社会像の黎明期)	社会思想史b	(市民的社会像の確立期)	市川 達人	火4	1	－	41
社会思想史a	(東洋古代から近世まで)	社会思想史b	(東洋近世から現代まで)	松丸 壽雄	水2	1	養	52
心理学a	(人間の行動・認知・動機の一般法則)	心理学b	(人間の個性・多様性理解)	杉山 憲司	木1	1	－	45
心理学a	(人間の行動・認知・動機の一般法則)	心理学b	(人間の個性・多様性理解)	杉山 憲司	木2	1	－	45
言語学a	(一般言語学)	言語学b	(一般言語学)	安間 一雄	金1	1	養	38
言語学a	(応用言語学)	言語学b	(第二言語習得)	臼井 芳子	火2	2	養	42
文学a	(日本文学－奈良時代の文学を読む)	文学b	(日本文学－平安時代の文学を読む)	福沢 健	月2	1	養(春のみ)	74
文学a	(恐怖の日本文学)	文学b	(癒しの日本文学)	佐藤 毅	木1	1	養(秋のみ)	68
歴史学a	(イスラーム世界の成立と拡大)	歴史学b	(イスラーム世界の近代化とその後)	熊谷 哲也	木3	1	－	61
歴史学b	(アメリカのエスニック・ヒストリー)	歴史学a	(アメリカのエスニック・ヒストリー)	佐藤 唯行	金3	1	－	69
歴史学a	(中国近代史概説－清朝国家の黄昏)	歴史学b	(中国近代史概説－近代国家創成の試み)	張 士陽	木4	2	養	71
歴史学a	(中世の仏教と社会)	歴史学b	(中世の「悪党」と民衆)	新井 孝重	火4	1	－	53
歴史学a	(「15年戦争」をどうとらえるか)	歴史学b	(戦後史の中の「15年戦争」)	丸浜 昭	水2	2	言・養	78
歴史学a	(ヨーロッパ史1)	歴史学b	(ヨーロッパ史2)	増谷 英樹	水3	1	－	76
文化人類学a	(未開文化の理解へ)	文化人類学b	(未開文化の理解へ)	井上 兼行	月3	1	養	55
現代文化論a	(グローバリゼーションを巡って)	現代文化論b	(日本の表象と世界)	柴崎 信三	木2	1	経	98
		比較文化論b	(地域メディア論)	岡村 圭子	水2	2	言・養	89
比較文化論a	(東西の文化を結ぶもの)	比較文化論b	(東西文化と近代化)	熊谷 哲也	木4	2	言	62
経済学a	(ミクロの視点で考える)	経済学b	(マクロの視点で考える)	米山 昌幸	木1	1	経	107
経済学a	(はじめての経済学)	経済学b	(はじめての経済学)	黒木 亮	月1	1	経	96

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
日本国憲法	(憲法と私たち)			古関 彰一	火1	1	法	97
日本国憲法	(憲法と私たち)	日本国憲法	(憲法と私たち)	加藤 一彦	火2	1	法	93
国際法a	(国際社会と私たち)	国際法b	(国際紛争を考える)	一之瀬 高博	月1	1	-	87
政治学a	(政治システムの構成要素)	政治学b	(現代の民主主義)	鈴木 宏尚	火4	1	-	102
社会学a	(他者と自己)	社会学b	(現代社会の諸問題)	岡村 圭子	土1	1	養	90
地理学a	(自然環境と文化)	地理学b	(自然環境と文化)	秋本 弘章	水2	1	-	84
地理学a	(世界の自然環境と文化)	地理学b	(世界の自然環境と文化)	北崎 幸之助	金4	2	言・養	94
女性学a	(家庭と職場のジェンダー)			片山 亜紀	金4	1	-	92
		女性学b	(ジェンダーとメディア表象)	西山 千恵子	月4	1	-	105
数学a	(微分学)	数学b	(積分学)	福井 尚生	月3	1	養	112
物理学a	(相対論の世界)	物理学b	(量子論の世界)	野澤 聡	金4	1	養	111
化学a	(歴史における科学技術1:古代から近代までの科学技術)	化学b	(歴史における科学技術2:近現代における科学技術)	内田 正夫	木3	1	-	108
生物学a	(植物の特性と自然の仕組み)	生物学b	(植物の分布)	加藤 信重	火1	2	養	109
地球科学a	(恒星天文学)	地球科学b	(銀河天文学)	福井 尚生	水1	1	-	113
スポーツ・レクリエーション学a (自由時間とクオリティオブライフを考えよう)				和田 智	金4	1	-	117

カテゴリーⅢ 各論科目

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想(Ⅲ)(英語圏の社会と思想a)		ことばと思想(Ⅲ)(英語圏の社会と思想b)		福井 嘉彦	火2	2	英	50
ことばと思想(Ⅲ)(科学としての心理学とこころの世界)				田口 雅徳	木2	1	養	46
ことばと思想(Ⅲ)(外国語としての日本語教育)				石塚 京子	月4	1	言・養	39
ことばと思想(Ⅲ)(通訳・翻訳論)				永田 小絵	水3	2	言	49
ことばと思想(Ⅲ)(生と死の意味の哲学1)		ことばと思想(Ⅲ)(生と死の意味の哲学2)		谷口 郁夫	月3	1	-	48
ことばと思想(Ⅲ)(国際語としての英語)		ことばと思想(Ⅲ)(多言語環境と英語)		臼井 芳子	火4	2	言・養	43
ことばと思想(Ⅲ)(日本語の談話と日本語教育)				武田 明子	水4	2	言・養	168
		ことばと思想(Ⅲ)(日本語教材における学習項目の扱い)		中西 家栄子	水2	2	言・養	169
歴史と文化(Ⅲ)(日本事情とコミュニケーション教育)				小山 慎治	月2	1	養	64
歴史と文化(Ⅲ)(移民・交易に見る文化変容)		歴史と文化(Ⅲ)(グローバル化と情報・通信の文化史)		水口 章	月4	1	-	79
		歴史と文化(Ⅲ)(未開人の認識b)		井上 兼行	火3	2	養	56
歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の小説a)		歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の小説b)		上野直子/島田啓一	水2/木3	2	英・養	57
歴史と文化(Ⅲ)(スペイン研究入門)				二宮 哲	月5	1	言・養・06以前入学	72
		歴史と文化(Ⅲ)(ラテンアメリカ研究入門)		佐藤 勤治	月5	1	言・養・06以前入学	67
歴史と文化(Ⅲ)(日本文化論)				飯島 一彦	木2	1	言・養・06以前入学	54
		歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の文学文化)		松山 響子	月2	1	養	77
		歴史と文化(Ⅲ)(異人種共生の試練＜アメリカ編＞)		山本 英政	月2	1	英・言・養・06以前入学	81
歴史と文化(Ⅲ)(文化史入門)				古川 堅治	水2	1	言・養	75
歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の文化)		歴史と文化(Ⅲ)(英語圏事情)		山本 英政	水2	2	英・言・養	82
歴史と文化(Ⅲ)(韓国文化各論c)				佐藤 厚	火2	2	言・養	66
歴史と文化(Ⅲ)(大衆文化論)				木本 玲一	火4	2	言・養	60
歴史と文化(Ⅲ)(民俗学)		歴史と文化(Ⅲ)(地域文化)		林 英一	木1	2	言・養	73
		歴史と文化(Ⅲ)(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)		兒島 峰	火5	2	言・養	63
歴史と文化(Ⅲ)(アラブ文化・芸術a)		歴史と文化(Ⅲ)(アラブ文化・芸術b)		御園 カリマ エルサムニー	月2	2	言・養	80
		歴史と文化(Ⅲ)(日韓交流史)		金 熙淑	月3	2	言・養	59
歴史と文化(Ⅲ)(日本思想史a)				川村 肇	火3	2	言・養	58
		歴史と文化(Ⅲ)(教育の歴史b)		川村 肇	火3	1	養	58
歴史と文化(Ⅲ)(都市と建築1)		歴史と文化(Ⅲ)(都市と建築2)		鈴木 隆	火3	1	-	70
現代社会(Ⅲ)(中東の社会空間)		現代社会(Ⅲ)(中東政治と市民社会)		水口 章	月5	1	-	106
現代社会(Ⅲ)(歴史の中のメディア)		現代社会(Ⅲ)(メディアと現代社会)		柴崎 信三	水2	1	-	99
現代社会(Ⅲ)(社会科学概論a)		現代社会(Ⅲ)(社会科学概論b)		木村 くにと子	火3	1	法	95
現代社会(Ⅲ)(教育法a)		現代社会(Ⅲ)(教育法b)		市川 須美子	木2	2	法	86
現代社会(Ⅲ)(民法a)		現代社会(Ⅲ)(民法b)		小川 佳子	火4	1	法	91
		現代社会(Ⅲ)(NGO論)		清水 俊弘	水4	1	言・養	100
現代社会(Ⅲ)(国際関係の構造と展開)		現代社会(Ⅲ)(近現代の国際関係史)		伊藤 兵馬	木5	1	-	88
現代社会(Ⅲ)(コトバと社会・言語文化概論)		現代社会(Ⅲ)(コトバと社会・言語文化概論)		下川 浩	火5	1	言・06以前入学	101
現代社会(Ⅲ)(ヨーロッパ地域論)		現代社会(Ⅲ)(ドイツ地域論)		飯嶋 曜子	火4	1	独	85

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
現代社会(Ⅲ)(韓国社会各論b)				全 載旭	木3	2	言・養	104
現代社会(Ⅲ)(ブラジル研究)				E.ウラノ	火2	2	言・養	83
自然・環境・人間(Ⅲ)(地球環境の変化とその要因)		自然・環境・人間(Ⅲ)(地球環境問題と環境保全)		鈴木 滋	火2	1	－	110
自然・環境・人間(Ⅲ)(宇宙論a)		自然・環境・人間(Ⅲ)(宇宙論b)		福井 尚生	金1	1	養	114
自然・環境・人間(Ⅲ)(地球外文明論a)		自然・環境・人間(Ⅲ)(地球外文明論b)		福井 尚生	月1	1	－	115
自然・環境・人間(Ⅲ)(太陽系天文学a)		自然・環境・人間(Ⅲ)(太陽系天文学b)		福井 尚生	金3	1	言・養・06 以前入学	116

カテゴリーⅣ 実践実習科目

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想(Ⅳ)(論文を書く)		ことばと思想(Ⅳ)(口頭発表を行う)		福沢 健	月3	1	－	131
ことばと思想(Ⅳ)(書き言葉の問題)		ことばと思想(Ⅳ)(話し言葉の問題)		佐藤 毅	木2	1	－	123
ことばと思想(Ⅳ)(日本語音声表現のトレーニング基礎篇)		ことばと思想(Ⅳ)(日本語音声表現のトレーニング表現篇)		梅津 正樹	土2	1	－	119
ことばと思想(Ⅳ)(生きたコトバづかい・文章編)		ことばと思想(Ⅳ)(生きたコトバづかい・文章編)		下川 浩	金3	1	－	129
ことばと思想(Ⅳ)(反＝コミュニケーション論)		ことばと思想(Ⅳ)(反＝コミュニケーション論2)		谷口 亜沙子	水1	1	－	128
ことばと思想(Ⅳ)(生活文化の発見)		ことばと思想(Ⅳ)(生活文化の記述)		林 英一	木2	1	－	130
ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事)		ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事)		中島 直美	土2	1	－	126
		ことばと思想(Ⅳ)(心理検査法とこころの健康)		田口 雅徳	木2	2	養	127
ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)		ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)		清水 絹代	月3	1	－	125
ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)		ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)		清水 絹代	月2	1	－	125
ことばと思想(Ⅳ)(写本を読む)		ことばと思想(Ⅳ)(碑文を読む)		飯島 一彦	金2	2	言・養	118
ことばと思想(Ⅳ)(ロマンス語研究入門1)		ことばと思想(Ⅳ)(ロマンス語研究入門2)		島津 寛	木1	2	－	124
歴史と文化(Ⅳ)(近代パリの風景と文学1)		歴史と文化(Ⅳ)(近代パリの風景と文学2)		福田 美雪	木4	1	－	141
歴史と文化(Ⅳ)(イタリアの音楽史)		歴史と文化(Ⅳ)(イタリアの音楽曲)		園田 みどり	水3	1	－	139
歴史と文化(Ⅳ)(詩と音楽5)		歴史と文化(Ⅳ)(詩と音楽6)		園田 みどり	木2	1	－	140
歴史と文化(Ⅳ)(アメリカ詩入門)		歴史と文化(Ⅳ)(イギリス詩入門)		遠藤朋之/白鳥正孝	木4/水3	2	英・養	135
		歴史と文化(Ⅳ)(西洋絵画の主題と様式b)		阿部 明日香	水2	1	－	134
歴史と文化(Ⅳ)(日韓比較文化論b)		歴史と文化(Ⅳ)(日韓比較文化論a)		金 熙淑	火3	2	言・養	136
歴史と文化(Ⅳ)(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)				倉田 量介	火3	2	言・養	137
歴史と文化(Ⅳ)(能楽論)		歴史と文化(Ⅳ)(能楽における中世武士の諸像)		瀬尾 菊次	火2	2	言	138
現代社会(Ⅳ)(インターンシップ)				杉山 晴信	木2	2	－	150
現代社会(Ⅳ)(新聞を読む1)		現代社会(Ⅳ)(新聞を読む2)		細野 徳治	水4	1	－	154
現代社会(Ⅳ)(経理入門a)		現代社会(Ⅳ)(経理入門b)		大坪 史治	木3	1	経	145
現代社会(Ⅳ)(英文会計入門a)		現代社会(Ⅳ)(英文会計入門b)		大坪 史治	木4	1	－	146
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門a)		現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門b)		黄 海湘	金3	1	外・養・経	155
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門a)		現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門b)		黄 海湘	金4	1	外・養・経	155
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門a)		現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門b)		久東 義典	火3	1	外・養・経	155
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門a)		現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門b)		杉村 和枝	金3	1	外・養・経	155
現代社会(Ⅳ)(コンピュータアドヴァンスa)		現代社会(Ⅳ)(コンピュータアドヴァンスb)		長 慎也	月4	1	外・養・経	156
現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)		現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)		和泉 順子	金2	1	養	157
現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)		現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)		久東 義典	火5	1	養	158
現代社会(Ⅳ)(生きたコトバづかい・話し合い編)		現代社会(Ⅳ)(生きたコトバづかい・話し合い編)		下川 浩	金4	1	－	149
現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』1)		現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』2)		大井 正博	金2	1	－	143
		現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)		大重光太郎	月3	1	独	144
現代社会(Ⅳ)(教育の現場:教師と語るa)				川村 肇	金3	1	－	147
		現代社会(Ⅳ)(教育の現場:教師と語るb)		川村 肇	金3	2	養	147
現代社会(Ⅳ)(異文化理解教育)				小島 優生	金3	2	養	148
		現代社会(Ⅳ)(韓国社会論)		平田 由紀江	水2	2	言・養	152
現代社会(Ⅳ)(模擬国際裁判)				鈴木 淳一	火2	3	法	151
		現代社会(Ⅳ)(ポストコロニアル研究入門)		平田 由紀江	火3	2	－	153
自然・環境・人間(Ⅳ)(身近な自然観察 春)		自然・環境・人間(Ⅳ)(身近な自然観察 秋)		加藤 僖重	木3	2	養	160
自然・環境・人間(Ⅳ)(身近な自然観察 春)		自然・環境・人間(Ⅳ)(身近な自然観察 秋)		加藤 僖重	木2	2	養	160
自然・環境・人間(Ⅳ)(統計と調査法)				安間 一雄	火3	2	養	159
自然・環境・人間(Ⅳ)(マルチメディア論)				田中 雅英	火4	2	養	164
自然・環境・人間(Ⅳ)(情報検索と加工)				黄 海湘	水3	2	養	163
		自然・環境・人間(Ⅳ)(コンピュータ構造論)		呉 浩東	月2	2	養	163

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
自然・環境・人間 (IV) (スポーツコーチ学a)				依田 珠江	木4	2	養	165
		自然・環境・人間 (IV) (スポーツコーチ学b)		松原 裕	金3	2	養	165
自然・環境・人間 (IV) (リーダーシップ論)				和田 智	金2	2	養	167
自然・環境・人間 (IV) (体育経営スポーツマネジメント)				川北 隼人	月3	2	養	161
		自然・環境・人間 (IV) (からだの仕組み)		依田 珠江	木4	1	－	166

外国語科目

英語科目

外国語学部英語学科・言語文化学科、国際教養学部の学生は、下記の英語科目を履修することはできません。

■クラス指定科目(再履修クラス含む)

対象・コース等	科目名	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
再履修クラス	English 111-a,b Basic Reading Strategies	各担当教員		-	201
再履修クラス(国のみ)	English 121-a,b Basic Composition	各担当教員		-	204
再履修クラス	English 141-a,b Basic Listening Comprehension	各担当教員		-	206
再履修クラス	English 211-a,b Basic Reading Strategies	各担当教員		-	209
再履修クラス(国のみ)	English 221-a,b Basic Composition	各担当教員		-	211
再履修クラス	English 241-a,b Basic Listening Comprehension	各担当教員		-	212
独・仏のみ	English 311-a,b Reading English for Specific Purposes	各担当教員		-	214

■対象者指定科目

対象・コース等	科目名	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
外国人学生・帰国学生	English 110-a,b Introductory Reading Strategies	飯島 優雅	木 2		216
外国人学生・帰国学生	English 211-a,b Basic Reading Strategies	長坂 達彦	水 3		217

■選択科目

科目の種類	科目名	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
Writing	English 121-a,b Basic Composition	松岡 昇	月 3	国・総	218
	English 121-a,b Basic Composition	三谷 裕美	水 3	国・総	219
	English 121-a,b Basic Composition	遠藤 朋之	木 2	国・総	220
	English 121-a,b Basic Composition	高畑 哲男	木 3	国・総	221
	English 121-a,b Basic Composition	石月 正伸	木 4	国・総	222
	English 221-a,b Basic Composition	斎藤 裕紀恵	火 3	国・総	223
Speaking	English 131-a,b Basic Communicative English	W. ヘイ	月 2	-	224
	English 131-a,b Basic Communicative English	M. H. ウィキンズ	月 3	-	225
	English 131-a,b Basic Communicative English	D. R. ギブソン	火 4	-	226
	English 131-a,b Basic Communicative English	J. ハサウェイ	木 3	-	227
	English 131-a,b Basic Communicative English	J. クレイグ	金 3	-	228
	English 131-a,b Basic Communicative English	S. A. フルトン	金 4	-	229
	English 231-a,b Basic Communicative English	J. ハサウェイ	木 2	-	230
Reading	English 211-a,b Basic Reading Strategies	履修希望者は教務課 経済学部係窓口へ		独・仏・法	209
	English 311-a,b Reading English for Specific Purposes	履修希望者は教務課 各学部係窓口へ		独・仏	214
Listening	English 241-a,b Basic Listening Comprehension	履修希望者は教務課 経済学部係窓口へ		独・仏・法	212
e-learning	English 351 Computer-Assisted English Learning	岡田 圭子	月 3	-	231
Basic Grammar	English 121-a,b Basic Composition (Grammar Refresher)	垣下 圭子	火 4	-	236
	English 121-a,b Basic Composition (Grammar Refresher)	長坂 達彦	水 4	-	237
	English 121-a,b Basic Composition (Grammar Refresher)	菊池 武	金 4	-	238

外国語科目

英語以外の外国語科目

対象・コース等	科目名(副題)	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
(基礎コース)	ドイツ語 I a,b (基礎)	各担当教員		独	239
(総合コース)	ドイツ語 I a,b (基礎)	各担当教員		独	240
(総合コース)	ドイツ語 I a,b (会話)	各担当教員		独	241
(基礎コース)	ドイツ語 II a,b (基礎)	各担当教員		独	242
(総合コース)	ドイツ語 II a,b (基礎)	各担当教員		独	243
(総合コース)	ドイツ語 II a,b (会話)	各担当教員		独	244
	ドイツ語 III a(会話)	D.バイアーニタグチ	木 3	独	245
(基礎コース)	フランス語 I a,b (基礎)	各担当教員		仏	246
(総合コース)	フランス語 I a,b (総合J)	各担当教員		仏	247
(総合コース)	フランス語 I a,b (総合F)	各担当教員		仏	248
(基礎コース)	フランス語 II a,b (基礎)	S.ジュンタ	火 3	仏	249
(総合コース)	フランス語 II a,b (総合J)	各担当教員		仏	250
(総合コース)	フランス語 II a,b (総合F)	各担当教員		仏	251
	フランス語 III a,b	S.ジュンタ	火 2	仏	252
(基礎コース)	スペイン語 I a,b (文法)	各担当教員		言(*1)養(*1)	253
(総合コース)	スペイン語 I a,b (文法)	各担当教員		言(*1)養(*1)	254
(総合コース)	スペイン語 I a,b (会話)	各担当教員		言(*1)養(*1)	255
(基礎コース)	スペイン語 II a,b (文法)	各担当教員		言(*1)養(*1)	256
(総合コース)	スペイン語 II a,b (文法)	各担当教員		言(*1)養(*1)	257
(総合コース)	スペイン語 II a,b (会話)	各担当教員		言(*1)養(*1)	258
	スペイン語 III a,b (講読)	北岸 団	木 3	言(*1)養(*1)	259
	スペイン語 III a,b(会話)	C.ガリード	火 3	言(*1)養(*1)	260
(基礎コース)	中国語 I a,b(会話)	各担当教員		言(*2)養(*2)	261
(総合コース)	中国語 I a,b(会話)	各担当教員		言(*2)養(*2)	262
(総合コース)	中国語 I a,b(講読・文法)	各担当教員		言(*2)養(*2)	263
(基礎コース)	中国語 II a,b(会話)	各担当教員		言(*2)養(*2)	264
(総合コース)	中国語 II a,b(会話)	各担当教員		言(*2)養(*2)	265
(総合コース)	中国語 II a,b(講読・文法)	各担当教員		言(*2)養(*2)	266
	中国語 III a,b(会話)	頼 明	月 2	言(*2)養(*2)	267
	中国語 III a,b(講読・文法)	平野 佐和	火 1	言(*2)養(*2)	268
	朝鮮語 I a,b (総合)	金 泰植	月 3	養(*3)	269
	朝鮮語 I a,b (総合)	金 鉉洙	火 4	養(*3)	270
	朝鮮語 I a,b (総合)	呉 吉煥	金 1	養(*3)	271
	朝鮮語 I a,b (総合)	呉 吉煥	金 2	養(*3)	271
	朝鮮語 I a,b (講読・会話)	金 泰植	月 5	養(*3)	272
	朝鮮語 I a,b (講読・会話)	呉 吉煥	水 2	養(*3)	273
	朝鮮語 I a,b (講読・会話)	沈 民珪	金 3	養(*3)	274
	朝鮮語 I a,b (講読・会話)	沈 民珪	金 4	養(*3)	274
	朝鮮語 II a,b (総合)	佐藤 厚	火 4	養(*3)	275
	朝鮮語 II a,b(講読・会話)	佐藤 厚	金 5	養(*3)	276
	イタリア語 I a,b	園田 みどり	水 4	-	277
	イタリア語 I a,b	園田 みどり	木 3	-	277
	イタリア語 I a,b	島津 寛	土 1	-	278
	イタリア語 II a,b	島津 寛	土 2	-	279
	ポルトガル語 I a,b(文法)	牧野 真也	金 3	-	280
	ポルトガル語 II a,b	牧野 真也	金 4	-	281
	ロシア語 I a,b(総合)	齊藤 毅	水 4	-	282
	ロシア語 I a,b(会話)	小西 昌隆	月 4	-	283
	ロシア語 II a,b(総合)	齊藤 毅	水 3	-	284
	ロシア語 II a,b(会話)	小西 昌隆	月 3	-	285
	タイ語 I a,b(会話)	江藤 双恵	火 3	-	286
	タイ語 II a,b(文字の読み書き)	江藤 双恵	火 2	-	287
	アラビア語 I a,b(会話と文化)	師岡カリーマ・エルサムニー	月 3	-	288
	アラビア語 II a,b(読み書きと文法の基礎)	師岡カリーマ・エルサムニー	月 4	-	289
	現代ヘブライ語 I a,b	阿部 望	金 2	-	290
	古典ギリシア語 I a,b	櫻井 悠美	月 3	-	122
	古典ギリシア語 II a,b	古川 堅治	木 3	-	132
	ラテン語 I a,b	小倉 博行	金 3	-	120
	ラテン語 II a,b	小倉 博行	金 2	-	121

全学共通授業科目以外(外国人学生用科目)

対象・コース等	科目名(副題)	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
(外国人・帰国学生)	日本語 I a,b	各担当教員		-	291
(外国人・帰国学生)	日本語 II a,b	桂 千佳子/岩沢 正子	水 4	-	292
(外国人・帰国学生)	日本語 II a,b	生田 守	木 2	-	293
(外国人・帰国学生)	日本語 II a,b	桂 千佳子	木 3	-	294
(外国人・帰国学生)	日本語 II a,b	武田 明子	金 3	-	295
	日本事情 a,b	守田 逸人	木 4	-	142

(春)	全学総合講座(芸術と社会—芸術が社会の中で果たす役割について)	担当者	青山 愛香
講義目標		授業計画	
芸術は古来社会の動きと密接に結びつきながら発展してきました。この講義ではこうした芸術と社会の関わりについて東西の歴史的な流れについて論じると同時に、現在日本で様々なかたちでアートに携わる講師陣たちに、現代日本と芸術との関わりについて話してもらいます。 これまで芸術に深く接した経験がない学生さんに、芸術が過去において日本ならびに西洋でどのように発展して来たのか、また芸術が現代社会においてどのように社会と関わっているのかを知る事で、芸術を身近に感じてもらう事を目標としています。		1 オリエンテーション 総論 青山愛香(本学准教授) <u>4/12</u> 2 アートとデザインの社会的役割 — 相違と本質 西本剛己 (ARTLAB+代表/明星大学准教授) <u>4/19</u> 3 きものの歴史と今 — 復元的研究の試みから — 福島雅子 (文化学園大学文化ファッション研究機構 共同研究員) <u>4/26</u> 4 社会彫刻 — ヨーゼフ・ボイスにおける芸術と社会 — 山本淳 (本学教授) <u>5/10</u> 5 古いものに恋して 上野昌人 (里文出版社編集者) <u>5/17</u> 6 文学と現実 — 想像力の問題を中心に— 渡部重美 (本学教授) <u>5/24</u> 7 ルターと音楽 木村佐千子 (本学准教授) <u>5/31</u>	
講義概要		8 韓国の音楽 — 静と動の世界— 山本華子 (大妻女子大学非常勤講師) <u>6/7</u> 9 アートワールドから現実の社会へ — オルタナティヴとしてのアート実践 — 神野真吾 (千葉大学准教授) <u>6/14</u> 10 持続可能な社会におけるデザインの役割 浅井治彦(プロダクトデザイナー/明星大学教授) <u>6/21</u> 11 ハンセン病療養所における芸術活動 金貴粉 (ハンセン病資料館学芸員) <u>6/28</u> 12 美術館・博物館の仕事紹介と歩き方 浦木賢治 (埼玉県歴史と民俗の博物館) <u>7/5</u> 13 レオナルド・ダ・ヴィンチの女性像と神秘思想 池上英洋 (國学院大学准教授) <u>7/12</u> 14 旧石器時代人はいかに洞窟空間において美術を共有したか 五十嵐ジャンヌ (東京芸術大学非常勤講師) <u>7/19</u> 15 まとめ	
受講生への要望			
はじめのオリエンテーションで履修上の注意ならびに評価の方法もあわせて説明しますので、必ず出席して下さい。			
評価方法			
出席と学期末のレポートの結果で評価します。			
テキスト、参考文献			
各授業でハンドアウトを配布します。			

(春)	全学総合講座（環境学1）（環境基礎学－自然を見つめる）	担当者	環境共生研究所提供講座 秋本 弘章
講義目標		授業計画	
20世紀中葉以降、地球の温暖化、オゾンホール拡大、酸性雨、熱帯林の減少、砂漠化、大気や海洋の汚染など、多方面にわたる地球規模での環境破壊が深刻化した。さらに、都市・人口・食糧問題、南北格差の拡大、民族対立の激化など、政治・経済・社会問題も深刻の度を増しつつある。今ほど、地球環境を保全して人類の平和と安寧を促進し、われわれの子孫に負の財産を遺さないための叡知の結集と努力が求められている時代はない。「環境共生研究所」は、そのような時代の要請に応えるべく、地域環境問題や地球環境問題の解決に向けて調査・研究を進め、社会や大学教育においてその成果を還元することを目的として設立された。本講座は、「環境共生研究所」の設立趣旨にそって提供するものである。 本講座を通じて学生諸君が環境共生社会の基盤となる自然環境と社会のあり方についての基本概念を身につけることを目標とする。		1. 環境とは何か 2. 最近の地質時代の環境変動 3. 海水面変化と地盤運動 4. 平野の形成 5. 地表プロセスと災害 6. 土壌の生成と人為的改変 7. 地球大気の構造 8. 大気とエネルギー循環 9. 気候の時間・空間スケール 10. 気候環境の地域性 11. 植物とエネルギー循環 12. 植物分布と地理的環境 13. 植物と動物 14. 人類と環境（1） 15. 人類と環境（2）	
講義概要			
春学期は、環境問題を考える際の基礎となる「自然環境の成り立ち」および「自然と人間社会のかかわり」について検討する。 本講座は、環境共生研究所秋本弘章研究員がコーディネーターとなり、環境共生研究所客員研究員加藤国際教養学部非常勤講師および松本経済学部非常勤講師（元筑波大学地球科学系教授）ほかが担当する。			
受講生への要望			
環境は、学際的に扱うべきテーマです。この講座を通じて広い視野を獲得するよう望みます。			
評価方法			
定期試験と出席状況を総合的に評価します。 なお、担当教員からレポート等が課された場合は、これも加味します。			
テキスト、参考文献			
各担当教員より指示されます。			

(秋)	全学総合講座（環境学 2）（環境応用学－環境と社会）	担当者	環境共生研究所提供講座 秋本 弘章
講義目標		授業計画	
20 世紀中葉以降、地球の温暖化、オゾンホール拡大、酸性雨、熱帯林の減少、砂漠化、大気や海洋の汚染など、多方面にわたる地球規模での環境破壊が深刻化した。さらに、都市・人口・食糧問題、南北格差の拡大、民族対立の激化など、政治・経済・社会問題も深刻の度を増しつつある。今ほど、地球環境を保全して人類の平和と安寧を促進し、われわれの子孫に負の財産を遺さないための叡知の結集と努力が求められている時代はない。「環境共生研究所」は、そのような時代の要請に応えるべく、地域環境問題や地球環境問題の解決に向けて調査・研究を進め、社会や大学教育においてその成果を還元することを目的として設立された。本講座は、「環境共生研究所」の設立趣旨にそって提供するものである。 本講座を通じて学生諸君が環境共生社会の基盤となる自然環境と社会のあり方についての基本概念を身につけることを目標とする。		1 オリエンテーション ESD とは何か 2 地球・地域環境問題の諸相（1） 人口と食料問題 3 地球・地域環境問題の諸相（2） 熱帯林の破壊 1 4 地球・地域環境問題の諸相（3） 熱帯林の破壊 2 5 地球・地域環境問題の諸相（4） 地球温暖化 6 地球・地域環境問題への対応 環境経済・政策（1） 7 地球・地域環境問題への対応 環境経済・政策（2） 8 地球・地域環境問題への対応 企業と環境 9 地球・地域環境問題への対応 環境と法（1） 10 地球・地域環境問題への対応 環境と法（2） 11 地球・地域環境問題への対応 環境教育 12 地球・地域環境問題への取り組み（1） 13 地球・地域環境問題への取り組み（2） 14 地球・地域環境問題への取り組み（3） 15 地球・地域環境問題への取り組み（4）	
講義概要		秋学期は、地球・地域環境問題の現状とそれに対するさまざまな主体の対応を具体的に検討するとともに、環境共生社会へ向けた具体的な取り組みについて検討する。 本講座は、環境共生研究所秋本弘章研究員をコーディネーターとする、環境共生研究所研究員および何人かの外部講師による連続講義である。	
受講生への要望		環境は、学際的に扱うべきテーマです。この講座を通じて広い視野を獲得するよう望みます。	
評価方法		定期試験と出席状況を総合的に評価します。 なお、担当教員からレポート等が課された場合は、これも加味します。	
テキスト、参考文献		各担当教員より指示されます。	

(春)	全学総合講座（社会を生き抜くセルフブランディングⅠ）	担当者	有吉 秀樹
講義目標		授業計画	
本講座の目的は、さまざまな業界の第一線で活躍する社会人の方々の週替わりの講話を聴く中で、将来求められる社会人像を探り、そのために限られたキャンパスライフをどのように過ごすかを考えることにある。大学生活は高校までの延長ではない。社会への入り口であり、自ら問題を発見する力を養成する場でもある。厳しい就職戦線の様子がマスコミ等で伝えられているが、自らの軸を持ち、目的意識を持って学生生活に臨むか否かは、その後の人生を大きく分けることとなろう。この講座が、大学生活をいかにして送るべきかを考えるきっかけになってくれれば、これに勝る喜びはない。 <u>尚、本講座は春と秋で内容が異なるため、春に受講した学生であっても、秋も登録することが可能である。</u> <u>本講座は一昨年度までの「キャンパスライフと仕事Ⅱ」が発展的に生まれ変わった講座である。「キャンパスライフと仕事Ⅱ」を受講済の学生でも登録は可能である。一部講師が重複しており、全く同じ講話はあり得ないが、類似する部分があることを了承願いたい。</u>		1. ガイダンスと受講上の注意 2～13. 外部講師による講話 14. 内定者による就職活動体験談 15. 確認テスト	
講義概要			
講師には講座趣旨を踏まえ、社会人の目線から将来をにらんでどのような学生生活を送るべきか、その心構えを中心に説いてもらう。学生生活を始めたばかりの1年生を中心的な受講対象として想定しているが、現在の自らの生活に方向性を見失いかけているのであれば、2年生以上の受講も歓迎する。			
受講生への要望			
学外の方を迎えての講義である以上、出席こそが単位取得の最大の要件である。また、講義開始 10 分以降の入退室は一切できないので注意すること。			
評価方法			
評価は出欠と期末の小テスト。3 回欠席した時点で、単位取得は不可能となる。レポートや追試による救済は一切ない。欠席が 2 回以内の者に限り、期末の小テストの採点対象とする。出席カードにおいて不正を働いた者も単位を与えない。			
テキスト、参考文献			
各回の講師によっては適宜プリントを配布することもある。			

(秋)	全学総合講座（社会を生き抜くセルフブランディングⅡ）	担当者	有吉 秀樹
講義目標		授業計画	
本講座の目的は、さまざまな業界の第一線で活躍する社会人の方々の週替わりの講話を聴く中で、将来求められる社会人像を探り、そのために限られたキャンパスライフをどのように過ごすかを考えることにある。大学生活は高校までの延長ではない。社会への入り口であり、自ら問題を発見する力を養成する場でもある。厳しい就職戦線の様子がマスコミ等で伝えられているが、自らの軸を持ち、目的意識を持って学生生活に臨むか否かは、その後の人生を大きく分けることとなろう。この講座が、大学生活をいかにして送るべきかを考えるきっかけになってくれれば、これに勝る喜びはない。 <u>尚、本講座は春と秋で内容が異なるため、春に受講した学生であっても、秋も登録することが可能である。</u> <u>本講座は一昨年度までの「キャンパスライフと仕事Ⅱ」が発展的に生まれ変わった講座である。「キャンパスライフと仕事Ⅱ」を受講済の学生でも登録は可能である。一部講師が重複しており、全く同じ講話はあり得ないが、類似する部分があることを了承願いたい。</u>		1. ガイダンスと受講上の注意 2～12. 外部講師による講話 13. インターンシップ体験者による報告 14. 内定者による就職活動体験談 15. 確認テスト	
講義概要			
講師には講座趣旨を踏まえ、社会人の目線から将来をにらんでどのような学生生活を送るべきか、その心構えを中心に説いてもらう。学生生活を始めたばかりの1年生を中心的な受講対象として想定しているが、現在の自らの生活に方向性を見失いかけているのであれば、2年生以上の受講も歓迎する。			
受講生への要望			
学外の方を迎えての講義である以上、出席こそが単位取得の最大の要件である。また、講義開始 10 分以降の入退室は一切できないので注意すること。			
評価方法			
評価は出欠と期末の小テスト。3 回欠席した時点で、単位取得は不可能となる。レポートや追試による救済は一切ない。欠席が 2 回以内の者に限り、期末の小テストの採点対象とする。出席カードにおいて不正を働いた者も単位を与えない。			
テキスト、参考文献			
各回の講師によっては適宜プリントを配布することもある。			

(秋)	全学総合講座（ジェンダーで眺めてみれば）	担当者	上野 直子
講義目標		授業計画	
わたしたちは、オギャーと生まれて死ぬ日までジェンダーまみれ。望むと望まざるにかかわらず、人を「男女」という性別に二分する社会・文化装置のなかで暮らしています。 この講義では、自分自身と自分が暮らす社会をジェンダーの視点から分析的に眺める態度を見につけてもらうのが狙いです。自分が身を置いているジェンダー装置の姿を見通す、アタマの視力を獲得してください。その視力が、受講生みなさんが、個々人にあった、そして他者の自由を妨げない、人生のフットワークを選びとるのに役立つことを願っています。		1. 導入 ——ジェンダーで眺めてみれば (上野直子・獨協大学教授) <u>ジェンダーで読むニッポンの家庭と職場</u> 2. 家庭と職場(1) —(おとこ／おんな)は(つらい／たのしい)よ——サラリーマンと専業主婦の「豊かな」昭和 (天野和洋・電通プランニングディレクター＋上野直子) 3. 家庭と職場(2)—昭和から西暦ジャパンへ・変わりゆく社会・経済・女と男 (天野和洋・電通プランニングディレクター＋上野直子) 4. 家庭と職場がほころびたとき——法律の現場から (講師未定・弁護士を招聘予定) <u>男性学とは</u> 5-7. 男性学入門(1)―(3) (加藤敦也・武蔵大学非常勤講師) 8. 男子厨房に入り、授乳するなり (講師未定) <u>セクシュアリティを考える</u> 9-12. ジェンダーとセクシュアリティを考える (1)―(4) (中村美亜・東京芸術大学助教) <u>グローバリゼーションと女性</u> 13. 大日本帝国と女たち (嶋田美子・アーティスト) 14. アジア女性のエンパワメント (タニア・ホサイン・早稲田大学講師) 15. グローバル・ウーマン (上野直子・獨協大学教授) *5回-7回の「男性学入門」、9回-12回の「セクシュアリティを考える」の各回のタイトルは、秋学期登録に先立ち、授業支援システム等に掲示する。 *講義内容の大きな変更はありませんが、実施日は講師の都合により変わることがあります。	
講義概要			
講義は四つのセクションにわけられる。 まずはもっとも身近な話題、ニッポンの家庭と職場から見よう。第二次世界大戦後から現在までの流れを提示し、過去のうえにある現在を考える。その上で、男性学の入門、セクシュアリティについての考察と講義を展開する。ジェンダー問題とは、おもに女性の問題と思いがち、ジェンダーとは文化的・社会的性差であって、セックスはジェンダーの土台となるものと思いがち。しかしそうではないのだ、と講義が終わった後には納得がいくだろう。ニッポンの家庭と職場の考察から始まった講義の締めくくりには、グローバル化した世界における女性の問題を考えてみたい。 講義を通して、ジェンダーシステムとその中に生きる自分自身を複数の視点から問い直していただきたい。			
受講生への要望			
・出席は大前提です。理由なく三分の一以上欠席した場合は、単位は認定されません。また出席に値しない出席態度の場合は欠席とみなします。 ・質問を歓迎します。			
評価方法			
各セクションの終わりに、レポートを書いていただきます(2000字以上A4で一枚強)。四回のレポートの総合評価に出席点を加味します。			
テキスト、参考文献			
ハンドアウトを用意します。参考文献については、各講師が紹介します。			

(春)	全学総合講座（多文化社会のメディア・リテラシー）	担当者	岡村 圭子
講義目標		授業計画	
現代社会は多メディア社会と言われている。なおかつ、さまざまな文化が混在する社会（多文化社会）でもある。そこで生きる私たちは、つねに膨大な量の情報に囲まれており、そのなかから自分に必要な情報を取捨選択し、自分なりにその情報を解釈していかなければならない。なおかつ、自分自身もまた情報の発信者であることも忘れてはならない。 私たちがメディアに接するとき、絶えず考えておくべきことは何か？ どのようにメディアを使いこなせばよいのだろうか？ ジャーナリズムにおいては今なにが問題なのか？ なぜ、今メディア・リテラシーについて考えなくてはならないのか？ 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災は、こういった問題を私たちの目の前に突きつけた。 これらは簡単に答えが出る問いではない。しかし、そう問いかける営みこそが、他者とともに生きる社会をみつめ、大学生としての「知」のあり方を考える絶好の機会となる。その機会を提供するのが本講義の大きな目標である。		1.オリエンテーション <u>岡村圭子</u> 2.ウェブ以前、ウェブ以後のロコミ・流言蜚語 「ウェブ時代のスター」から風評被害まで <u>荻上チキ</u> 3.メディア有害論の系譜 これからのネットリテラシー 同上 4.広告からメディアを読み解く（1） ——ブームは『見えない広告』で作られる <u>谷村智康</u> 5. 広告からメディアを読み解く（2） ——メディアを『金儲けのしくみ』として透かしてみる 同上 6.被災地のローカル・メディア（1） <u>石巻日日新聞社</u> 7.被災地のローカル・メディア（2） <u>福島民報社</u> 8. 「報道番組」制作の現場から <u>フジテレビ番組制作部</u> 9. メディア産業における表現の自由自主規制 ——SLAPP 裁判をめぐる <u>鳥賀陽弘道</u> 10. 報道されない「立ち入り禁止ゾーン」を歩く 同上 11.記者クラブとジャーナリズム ——自由報道協会の設立 <u>上杉 隆</u> 12. 原発報道とメディア・リテラシー 同上 13.震災の犠牲者と遺族を報じるということ <u>石井 光太</u> 14.海外の戦争や物乞いや娼婦を描くということ 同上 15.ローカル・メディアと多文化社会 <u>岡村 圭子</u>	
講義概要		本講義では、できるだけ多様な視点・論点からメディア・リテラシーについて考えてみたい。 それぞれまったく異なった経歴を持つ講師たちが、それぞれの立場・観点から、またそれぞれの経験をもとに「多文化社会のメディア・リテラシー」について講義する。履修者は、講師の語る「ことば」をヒントに、現代社会のメディアの姿をとらえ、それを使いこなすにはどうすればよいのかを身近な問題として自ら考えていってほしい。とくに、かれらがどのように現代のメディアを、またその将来を考えているのか、かれらにとっての「メディア・リテラシー」とはなにか、学生になにを伝えようとしているのかについて、しっかりと耳を傾けたい。 2～14 に関しては、講師の都合で順番が入れ替わるか、もしくは別の日程（補講）になることもあるので、授業中のアナウンスおよび掲示に注意すること。	
受講生への要望		① 第 1 回目のオリエンテーションには必ず出席のこと。 ② 講師は皆、激務の合間をぬって足を運んでくださるということを忘れないように。受講マナーを守ること。 ③ 右の必読文献に目を通しておくこと。	
評価方法		出席（50%）と期末試験（50%） 講義中の態度も評価対象になる場合がある	
テキスト、参考文献		必読文献リストにある各講師の著作を、受講前に各自で読んでおくこと。	
		〔必読文献リスト〕 荻上チキ『ウェブ炎上』ちくま新書 荻上チキ『検証 東日本大震災の流言・デマ』（光文社新書） 谷村智康『CM 化するニッポン——なぜテレビが面白くなくなったのか』WAVE 出版 谷村智康『マーケティング・リテラシー』リベルタ出版 石巻日日新聞編『6 枚の壁新聞——石巻日日新聞・東日本大震災後 7 日間の記録』角川 SCC 新書 河北新報編『河北新報のいちばん長い日 震災下の地元紙』河北新報社 笠井信輔『僕はしゃべるためにここへ来た』産経新聞出版 鳥賀陽弘道『朝日ともあろうものが』河出文庫 鳥賀陽弘道『俺たち訴えられました！——SLAPP 裁判との闘い』河出書房新社 自由報道協会編『自由報道協会が追った 3.11』扶桑社 上杉 隆『ジャーナリズム崩壊』幻冬舎 石井光太『地を這う祈り』徳間書店 石井光太『遺体——震災、津波の果てに』新潮社 岡村圭子『ローカル・メディアと都市文化』ミネルヴァ書房	

(秋)	全学総合講座（メディア社会とロック）	担当者	岡村 圭子
講義目標		授業計画	
「ロック」という文化をととして、その歴史的背景のみならず、わたしたちが生きる現代社会、メディア・音楽産業、グローバル化について考えることが本講義の主なねらいである。 かならずしも音楽についての専門的な知識／経験を持っている必要はなく、それぞれの講師の話聴くなかから、自分なりに（自分の問題関心に応じて）話題を展開していったほしい。 たとえば、ロックが生まれた背景や、ロックが日本の音楽（J ポップやグループサウンズ）にどういったかたちで影響してきたのかを知ることによって、異文化受容のメカニズムや多文化共生を考える糸口が見つかるかもしれない。観光、ファッションとロック音楽の関連を知るなかから、文化変容の形態やメディアの影響力や、見ること／見られることとはどういうことか、といった課題が展開できるかもしれない。あるいは、講師の方々のお仕事の内容をじかに聴くことによって、将来の方向性や、目指すべき職業が見つかるかもしれない。いずれにせよ、貴重な経験を自分なりに活かしてほしい。		1. オリエンテーション 2. メディアの発達とロックの進化 1 ——ロック誕生の瞬間から現在まで <u>サエキけんぞう</u> 3. メディアの発達とロックの進化 2 ——ロックの変革者たち <u>同上</u> 4. アニメが飲み込むロック ——世界を席卷するアニメ文化のグローバル性 <u>富田明宏</u> 5. ロックフェスティバル考 ——ロックが生みだす消費の現場 <u>サエキけんぞう</u> 6. テクノ音楽と世界 <u>小暮秀夫</u> 7. グループサウンズ論 ——異形の和製ポップスがもたらしたもの <u>中村俊夫</u> 8. ロックとアイドル文化 <u>福嶋麻衣子</u> 9. ワールドクラブカルチャー論 <u>サラーム海上</u> 10. ロックカルチャーとファッション ——モッズを中心に <u>長澤 均</u> 11. 日本のロック・海外進出史 <u>サエキけんぞう</u> 12. J-POP 論 <u>青木 優</u> 13. ヒップホップ論 <u>高木 完</u> 14. 越境する音楽 <u>北中正和</u> 15. まとめ	
講義概要		初回のオリエンテーションでは、授業の進め方や評価方法についての説明、受講に当たっての注意、参考文献リストの配布など、受講にあたっての重要なインフォメーションがあるので必ず出席のこと。 半期を通して、ゲスト講師のサエキけんぞう氏とともに、ロックについての基礎的知識や日本における大衆音楽とメディアとの関係、音楽表現の背景にある社会的状況についての理解を深めてゆきたい。 第4回目以降は、各ジャンルで活躍する講師を招いてサエキ氏との対談形式ですすめ、若者のファッション、クラブカルチャー、テクノ音楽、GS、アイドル等それぞれのテーマをロックと関連づけてお話しいただく。 講師にお招きする方は、それぞれ音楽業界での業績が多くあり、知識も豊富である。それゆえ、なかなか聴く機会のない貴重な話や、専門的な話も出てくるだろう。ぜひとも、しっかりと予習をしたうえで積極的に参加をしてほしい。	
受講生への要望		自分なりの問題関心を持ち、受講マナーを守って受講すること 初回オリエンテーションには必ず参加すること	
評価方法		出席と期末テスト 授業中の質問・発言なども考慮する	
テキスト、参考文献		サエキけんぞう『ロックとメディア社会』新泉社	
		*講師の順番は前後することもあります	

(春)	全学総合講座（獨協学）	担当者	川村 肇
講義目標		授業計画	
「獨協学」は獨協学園の歴史と現在そして未来を学ぶ講座です。 獨協学園は時代の変遷のなかで、幾多の試練に耐えて120年余の歴史を重ね、総じて教育の大道を歩んできました。 この講座の聴講を通じ、学生の皆さんが自分たちの学ぶ学園の歴史とその社会的地位を把握し、それによって獨協大学で学ぶことの意味や、未来にむかう自己の可能性についての展望を得ることを願っています。		1 学長挨拶とガイダンス（犬井正：学長・川村肇） 2 獨協のはじまり——明治期の学校風景（川村肇） 3 初期の獨逸学協会学校——法律学校から医学進学学校へ（新宮譲治：本学元非常勤講師） 4 大村仁太郎校長の先駆的教育論（新井孝重：本学経済学部教授） 5 戦時期から戦後の獨協中学校——ヒトラーユーゲント来校と戦後のスタート（川村肇） 6 天野貞祐の人と思想（1）——「大学は学問を通じての人間形成の場である」の人間形成とは何をめざすことなのか（雪山伸一：元朝日新聞ボン支局長） 7 天野貞祐の人と思想（2）——『道理の感覚』を読む（渡部重美：本学外国語学部教授） 8 天野貞祐の人と思想（3）——カント哲学と天野貞祐（渡部重美） 9 獨協大学の創設と発展——開学から80年代まで（下川浩：本学外国語学部教授） 10 大学改革の15年——学部・学科増設と全学共通カリキュラム（金井満：本学外国語学部教授・川村肇） 11 松原団地駅前開発と獨協大学——地域の中の大学を考える（石井純司：本学施設事業部長） 12 獨協大学の卒業生と語る（仮）（大曲敏之：本学同窓会長・関口武司：キャリアセンター次長） 13 大学史の中の獨協大学（寺崎昌男：立教学園本部調査役・東京大学名誉教授） 14 獨協大学の未来を考える（犬井正・川村肇） 15 まとめ 上記の日程と内容は、講師の都合で変更することがありますので、あらかじめ了承しておいてください。	
講義概要			
1883（明治16）年に創立された獨逸学協会学校は、ドイツ学の普及を好んだ政府から補助金を受け、初期に存在した専修科(法律学校)から、多数の司法官・行政官が輩出しました。 しかし、帝国大学の官僚養成体制が確立すると、政府の援助は打ち切れ、専修科は廃止され、医学への進学者が多いという特色はあるものの、一中等教育機関としての普通科（獨協中学・高等学校の前身）が残っただけでした。 やがて経営的に行きづまり、明治30年代と第一次世界大戦後には、東京府への経営移管も考えられるほどの困窮をみます。第二次世界大戦中は、ヒトラーユーゲント来校などにみられるドイツを友邦とする国際情勢もあって、勢いを盛り返しましたが、戦争は学園を荒廃させました。 戦後、獨逸学協会学校中学の卒業生天野貞祐が校長に就任、人間の尊重を掲げて学校再建をはかりました。そして1964（昭和39）年、「大学は学問を通じての人間形成の場である」との理念のもとに、獨協大学が建学されたのでした。			
受講生への要望			
ゲスト・ティーチャーの講義の後に、積極的に質問・発言してください。 私語は厳に慎んでください。迷惑な場合には、退席を命じることがあります。			
評価方法			
まとめのレポートに、出席を加味します。出席は6割が必須で、毎回20行程度の感想文の提出を求め、評価します。ここまでの最高B評価とします。さらに最終レポートを提出すれば、最高AA評価とします。なお、授業中の質問や発言は高く評価します。			
テキスト、参考文献			
『目でみる獨協百年』（獨協学園）。 『獨協学園史1881・2000』（獨協学園）。 堅田剛『獨逸学協会と明治法制』（木鐸社）。 新宮譲治『獨逸学協会学校の研究』（校倉書房）。 上記文献は図書館に所蔵されています。			

(春)	全学総合講座（教えるという仕事）	担当者	川村 肇
講義目標		授業計画	
教職課程で学ぶ諸科目の入門として、教職の意義と教職に就く心構えを学ぶとともに、教えるということはどういうことか、子ども（あるいは人間）というものをどう見るのか、学校とは何か、学校という職場にはどういう問題があるのかなど、さまざまな角度から教育に対する見方を鍛えることを目標とします。 特に国連子どもの権利委員会から勧告されている体罰の問題については、その問題を正しく把握することが必要です。 併せて「教えるという仕事」の実態を学ぶことを通じて、働くということの持つ意味を深める機会を提供します。		1 4月6日（川村）ガイダンス テレビ東京制作「星空の中学生とともに」 2 4月13日 松崎運之助（元夜間中学教諭） 「学ぶとは何か——夜間中学校を中心に」 3 4月20日 遠藤芳男（元高校教諭） 「定時制高校の国語——詩の授業と教師の守秘義務」 4 4月27日 岩田彦太郎（中学校教諭） 「教師の仕事——職掌と労働実態」 5 5月11日 岡田祥志（中学校教諭） 「草加の中学校——合唱祭の取り組み」 6 5月18日 吉田隆（小学校教諭） 「草加の小学校——クラスの文化活動」 7 5月25日 宮下与兵衛（高校教諭） 「子どもの学校参加——三者協議会の取り組み」 8 6月1日 （未定） 9 6月8日 嶋村純子（中学校教諭） 「中学生に英語を教える」 10 6月15日 小堀俊夫（中学校教諭） 「中学生に社会科を教える」 11 6月22日 関口武（小学校教諭） 「小学校の生活指導」 12 6月29日 中村悌一（元中学校教諭） 「いじめと不登校」 13 7月6日 中村悌一（元中学校教諭） 「子どもの自治」 14 7月13日（川村） 「教師という職業選択」 15 まとめ	
講義概要			
1. 主として埼玉県教育現場の先生方、全体で10人程度を招いて、学校での様々な取り組みについて講義して戴きます。これを通して、教職の意義及び教員の役割および教員の職務内容を学びます。それぞれ、右の授業計画にあるようなテーマ（仮題）でお話いただく予定です。模擬授業や、ビデオ観賞なども予定しています（ただし、先生方の都合で、順番や内容が変わることがあります。ご了承ください）。 2. 進路選択に資する各種の機会の提供を行います。 3. 諸問題が教育や社会に投げかけている問題を認識し、教職の役割を明確にすることで、今後の学習につなげていく道筋を理解していきます。特に体罰については、その問題点をきちんと理解することを求めます。 また、これを通じて、広く社会の問題にも目を向け、考えていくきっかけを作ってほしいと思っています。			
受講生への要望			
教職課程に登録している学生を優先しますが、履修登録に空きがあれば、教職課程に登録していない学生の参加も歓迎します。 積極的、意欲的に参加してください。			
評価方法			
毎回の授業レポート（学んだこと、20行程度）の提出をもって出席点とし、最終レポート（A4判用紙で3～4枚）と併せて評価します。出席は6割が必須です。			
テキスト、参考文献			
テキストは使用しません。配布プリント類によります。 参考文献は、授業中適宜紹介します			

(春)	全学総合講座（現代世界論）	担当者	佐藤 勘治
講義目標		授業計画	
この講義の目的は、世界が抱える諸問題や謎を各担当教員およびゲストスピーカーが提示する身近で具体的テーマにそって受講生とともに深く考える場とし、後の専門研究へのきっかけとすることである。そのため、一年目の学生を主な履修対象者としている。2年次以降の学生も履修できるが、研究入門の講義であることを了解していただきたい。 現代世界は、受講者や担当教員もその構成員であることを忘れてはならない。現代世界の問題は、ほかでもない、われわれ自身の問題である。したがって、ここでいう現代世界は、日本以外の世界という意味ではない。		1 佐藤勘治：国際教養学部 <u>総論 現代世界の歴史的位置</u> (4/9) 2 押尾和美：国際交流基金 ＋中西家栄子 <u>日本語教育におけるスタンダード</u> (4/16) 3 及川晋平：Jキャンブ理事長 ＋依田珠江 <u>ロンドンパラリンピックを目指して(車椅子バスケット)</u> (4/23) 4 飯島一彦：国際教養学部長 <u>日本で日本を研究すること</u> (4/30) 5 平田由紀江：国際教養学部 <u>新大久保と韓流</u> (5/7) 6 吉村宏和：元東京大学教授 ＋福井尚生 <u>金環食に太陽の恵みをみよう</u> (5/14) 7 安間一雄：国際教養学部 <u>「英語帝国主義」の諸相</u> (5/21) 8 大山顕：フリーライター・写真家 ＋岡村圭子 <u>どこまでが東京？</u> (5/28) 9 古畑康雄：共同通信社 国際局記者 <u>ネット用語で読み解く現代中国</u> (6/4) 10 青砥恭：彩の国子ども若者支援ネットワーク代表理事 <u>子どもの貧困と日本の教育</u> (6/11) 11 窪岡文男：日本テレビ・ディレクター <u>本土復帰40年、基地の島沖縄の怒りと苛立ち</u> (6/18) 12 名波正晴：共同通信社 記者 ＋浦部浩之 <u>ラテンアメリカ世界を歩く</u> (6/25) 13 佐藤勘治： <u>レポート課題について</u> (7/2) 14 松丸壽雄： <u>現代世界と私たち</u> (7/9) 15 まとめ	
講義概要			
言語文化学科所属教員や各界で活躍しているゲストスピーカーにそれぞれの研究分野との関連から現代世界の抱える諸問題に切り込んでもらう。担当者の専門分野は、言語、歴史、社会学、文学、天文、教育学など多様である。とくに、統一のテーマを設定していない。現代世界の全体像というよりも、その一面を論じてもらう。 なお、順番や論題などについて、変更の可能性はある。授業の初めに指示する。			
受講生への要望			
各授業の最後に、必ず質問の時間をとるようにしたい。積極的な発言を期待している。			
評価方法			
毎回、内容理解を確かめる小レポート課題が出される。また最終レポートを提出してもらう。			
テキスト、参考文献			

(春)	全学総合講座 (NPO 論 人を変える・地域を変える・世界を変える)	担当者	高松 和幸
講義目標		授業計画	
講義では、企業 CSR や NPO などの貢献活動に関する、さまざまな取り組みについて、現実の臨場感あふれる模様を紹介することに主眼を置く。問題意識は、次のような視点もある。 解題:「疲弊した地域を取り巻く環境は厳しくなるばかりで、その地域のために、今こそ、企業・行政・市民が共働して、課題解決をしなければならぬ」 企業は、自社の CSR 活動がもっぱら戦略的な行為としてなされるべきではなく、公共的な空間(場)に根ざしたものとして追求される必要がある。企業・行政も市民社会の一員として、地域に責任を持つ時代に入った。		1. ガイダンス 高松和幸 2. テーマ: まちづくりビジネス最前線 市街地経営研究機構 (株)商店街ネットワーク 代表取締役 木下 斉 3. テーマ: コ・モビリティ社会の創成 帝京大学文学部社会学科助教 浦野慶子 4. テーマ: 社会的企業 NPO 法人 とよあしはら 事務局長 山本裕隆 5. テーマ: NPO の位置づけと課題 日本フィランソロピー協会副会長 田中克人 6. テーマ: 環境 NPO とソーシャルビジネス 地球環境パートナーシッププラザ 平田裕之 7. テーマ: 夢を実現するためのおカネ 日本ファンドレイジング協会 常務理事/事務局長 鶴尾 雅隆 8. テーマ: 北の国から ハンズオン 埼玉 副代表 吉田理映子 9. テーマ: 岐路に立つ日本のフィランソロピー 大阪大学大学院国際公共政策研究科/日本学術振興会特別研究員 奥山尚子 10. テーマ: ソーシャル・イノベーション (株)コミュニティ・ディベロップメント・パートナーズ 代表取締役 長本 光 11. テーマ: ふじみの国際文化センターの活動 ふじみの国際交流センター 理事長 石井ナナエ 12. テーマ: 社会的起業紙製飲料容器「カートン」 事務局長森を育む紙製飲料容器普及協議会 世木田大介 13. テーマ: 企業人も地域社会との関わりを求めている NPO 法人 キーパーソン21 理事 谷中修吾 14. テーマ: NPO によるまちづくり 財団法人まちみらい千代田 関 幸子 15. テーマ: 未定 NPO 法人未定	
講義概要			
ドラッカーは『非営利組織の経営』の中で、市民社会を構成するセクターとして NPO は経営学的にも注目される対象であるとして、NPO の運営において、ミッションの重要性を指摘すると共に、マーケティング戦略、人材育成、成果測定といった企業並みのマネジメントの必要性を主張した。 その背景には、もはや旧来の慈善寄付に頼っては財政的に成り立たないという、米国をはじめとする先進国の NPO が直面する危機があったが、NPO が生き残りをかけて事業展開に力を入れるにつれ、あらたなパートナーとして企業に働きかけ、企業と共に地域の問題解決に向けて進む動きが見られるようになった。 企業にとっても CSR を果たすべきことが求められ、その流れの中で、NPO と共にコミュニティ支援活動に乗り出す事例が増えてきた。 もとより NPO はその組織使命の遂行のために企業と協力するのであるが、NPO にとって不足しがちな経営資源(資金・人材など)を企業によって補えることから、企業への依存関係が発生するというリスクを抱えている。 企業への依存が強まると、資本拡大をめざす企業にとっては都合で利用される可能性が増すことになるが、NPO は公共的な使命を遂行するために、NPO にとっての倫理的基盤が損なわれ得ることを覚悟した上で、協働することになる。 かくして、その真偽はいかにあるか。様々な活動を通しての社会との接点を見ることが、これら諸問題に関して、本講義では正面から取り上げて展開する。			
受講生への要望			
- 積極的に質問することと真摯な態度で挑むこと。 15分以上の遅刻は認めない。 - ノートは必ずとること。			
評価方法			
平常点(出席・質問など) 70% レポート 30%		上記の授業計画は講師の都合などにより変更することがあります。	
テキスト、参考文献			
その都度、指示する。			

(秋)	全学総合講座（地域活性化システム論－これからの「まちづくり」のヒントを探る）	担当者	高松 和幸
講義目標		授業計画	
この講義は、地域活性化をキーワードに、地域の活性化とまちづくりなどを制度の面や人的な面、社会諸資源の面から考察するプログラムである。地域活性化システム論では、地域やまちの置かれている状況や潜在力とは何かについて考え、様々な取組事例を紹介するなど、分かりやすく講義するとともに、各都道府県の市町村毎、いずれも地域の創意工夫にあふれた取組みがあり、それが地域特性である。それを支援するという意味では共通しており、それぞれの地域が相対化されることで、支援枠組みを利用した地域活性化が期待されている。 本講義では、こうした取組みについて、講師を招いて開催する。わが国の地域活性化の方向が学べるように工夫している。		1. ガイダンス 高松和幸 2. 地域活性化システム論の課題 小口進一 法学部総合政策学科非常勤講師 3. コミュニティカフェの現状と今後 田中尚輝 公益社団法人長寿社会文化協会 4. やる気を起こせば必ず奇跡は起きる 行政に頼らない村おこし 豊重哲郎 鹿児島県鹿屋市柳谷自治公民館館長 5. 地域活性化の動向 木村俊昭 農林水産省大臣官房政策課 企画官 6. 世界の食料事情と環境の関係 末松広行 林野庁林政部長 7. よみがえる商店街 三橋重昭 NPO 法人まちづくり協会 理事長 8. 市町村合併と心の合併 映画づくりの過程が地域の人々の心をつなぐ 林 弘樹（映画監督） 有限会社 FireWorks 9. 観光と地域活性 綿石隆人（株）JTB 法人東京 本社マーケティング部 部長 10. 持続可能な“手法としての共通ポイント”サービス 斉川 満（株）サイモンズ 代表取締役社長 11. 未定 岩國哲人 前衆議院議員 12. ローカル線は心の栄養剤 鳥塚 亮 いすみ鉄道(株) 代表取締役社長 13. 都市の超高齢者と地方の健康資源を結ぶ 介護旅行システム 篠塚恭一 NPO 法人 日本トラベルヘルパー協会 理事長 14. 新しい公共（まとめ） 館 逸志 内閣府大臣官房審議 15. 未定 内閣府 上記授業計画は講師等の都合により変更することがあります。	
講義概要			
この科目は内閣府の協力を得て実施している講義である。具体的な施策や事例など、例示しながら講義する。 各講義の個別テーマは授業計画（最初の授業時に配布する）のとおりであるが、わが国の地域活性化の最先端の問題を中心に、テーマ設定を行っている。 この結果、地域の中で起きている様々な事例を通して、地域の実情が理解できると共に、地域の課題についての新たな認識と共に、自分が住んでいる地域や将来住むであろう地域の可能性に関して、示唆に富んだ内容が展開される。 この講義を通じて、地域で求められる人材に関する具体的な問題意識を得ることができるであろう。			
受講生への要望			
- 積極的に質問することと真摯な態度で挑むこと。 15分以上の遅刻は認めない。 - ノートは必ずとること。			
評価方法			
平常点（出席・質問など） 70% レポート 30%			
テキスト、参考文献			
その都度、指示する。			

(秋)	全学総合講座（情報社会とルール）	担当者	多賀谷 一照
講義目標		授業計画	
インターネットの普及、スマートフォンなどにより、今後の社会活動が物理的空間から情報空間に移っていく過程において、対面関係を前提としてきた社会ルールがどう変容していくか、新たな情報空間上の社会関係をどう形作っていったらよいかについて、学生諸君に問題意識を持ってもらうことを目標とする。		第1回 総説 第2回 情報空間と物理的空間の違い 第3回 情報公開 第4回 個人情報保護 第5回 ウィキリークス、盗聴 第6回 ー 第8回 通信システムと情報社会 通信システムとその変容 インターネット、プロバイダ、クラウド 電子商取引 サイバー空間のルール 第9回 ー 第10回 情報セキュリティによるルール 公開鍵、量子暗号 電子署名 DRM 第11回 ー 第13回 放送と情報社会 放送と表現の自由 ブロードバンドサービス コンテンツ流通とそのルール 第14回 著作権法 第15回 まとめ	
講義概要			
情報社会、情報空間について、情報公開・個人情報保護などから始まって、インターネットや光ファイバーによるブロードバンドサービスによって、既存の通信・放送にかかるルールがどう変容したか、暗号技術などにより新たなルールをどう作っていくか。それぞれの分野の専門家により、オムニバス方式で講義してもらう。			
受講生への要望			
新聞やホームページなどに載っている最新動向にも注目すること。			
評価方法			
講義全体の中で、3-4回レポート提出を求め、それに基づいて評価する。			
テキスト、参考文献			
各授業でレジメを配布する。			

(春)	全学総合講座（経営者が語る現代企業論 1）	担当者	高安 健一
講義目標		授業計画	
この講義は、企業のトップマネジメント経験者が企業経営の現場をやさしく講義するものである。広範な業種の企業に関する話題が取り上げられる。講義の受講を通じて、学生諸君が「企業とはなにか」を考え、本学で専門知識を深く学ぶ契機となることを期待する。 なお、本科目は全学学生を対象としているので、企業や経営という言葉になじみの薄い外国語学部の学生にもわかるような平易な内容となっている。		第1回 ガイダンス 経営者から学ぶべきこと 第2回 会社の仕組み 第3回 ファッションビジネスとは 第4回 医薬品産業の難しさ・面白さ 第5回 食品産業の新製品開発とマーケティング 第6回 花王の成長戦略 第7回 日本の自動車メーカーの強み 第8回 半導体産業の世界 第9回 物流業界の現状と今後の進路 第10回 日本のバイオテクノロジー産業、昨日今日明日 第11回 保険ビジネスの現状と課題 第12回 総合商社は何をやっているか 第13回 コンビニ業界の成長と今後の課題 第14回 リース業と不動産ビジネスの概要 第15回 業界動向と就職について ※開講日程は前後することがある。第1回ガイダンスで説明するので必ず出席すること。	
講義概要			
講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で、企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う。また社会に出て働くことについて、講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えて下さる。 1年生でも理解できるように平易な説明が行われる。講義と平行して企業について勉強し理解を深めることを期待する。 毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが、講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。 講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である。学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないように。			
受講生への要望			
- 遅刻・途中退出等は厳禁（事情がある場合は除く）。 - 授業の性格上独習はできない。5回以上の欠席は不可評価とする。特に4年生は注意すること。 - ノートを必ずとること。試験に不可欠である。 - 真摯な態度で受講すること。			
評価方法			
出席状況（1/3）と定期試験（2/3）を総合して行う。 <u>追試、レポートはないので注意のこと。</u>			
テキスト、参考文献			
講義の中でハンドアウトが配布される。テキストは特に定めない。企業経営の基本書を並行して読むことが講義の理解を深める。			

(秋)	全学総合講座（経営者が語る現代企業論 2）	担当者	高安 健一
講義目標		授業計画	
経営者が語る現代企業論 1 に続く講義である。講師は春学期と異なる。 この講座は、企業のトップマネジメント経験者が企業経営の現場をやさしく講義するものである。広範な業種の企業に関する話題が取り上げられる。講義の受講を通じて、学生諸君が「企業とはなにか」を考え、本学で専門知識を深く学ぶ契機となることを期待する。 なお、本科目は全学学生を対象としているので、企業や経営という言葉になじみの薄い外国語学部の学生にもわかるような平易な内容となっている。		第 1 回 ガイダンス、会社で働くことについて 第 2 回 世界の 3 強ブリヂストンの強さの秘密 第 3 回 歴史的・文化的視点から見た日米中の経営比較 第 4 回 エコ社会におけるリスクマネジメント 第 5 回 ツーリズムと航空ビジネスの課題 第 6 回 ヤマト運輸躍進の背景 第 7 回 出版業界の最近の動向 第 8 回 鉄鋼業界に今、何が起こっているか 第 9 回 食品業界から見たコンビニ・量販店の動向 第 10 回 エコ時代における電力業界の戦略 第 11 回 NTTでの 40 年、そして今 第 12 回 広告業界の役割と今後の動向 第 13 回 銀行ビジネスの現状と今後 第 14 回 業界動向と就職について 第 15 回 講義のまとめ ※開講日程は前後することがある。第 1 回ガイダンスで説明するので必ず出席すること。	
講義概要			
講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で、企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う。また社会に出て働くことについて、講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えて下さる。 1 年生でも理解できるように平易な説明が行われる。講義と平行して企業について勉強し理解を深めることを期待する。 毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが、講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。 講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である。学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないように。			
受講生への要望			
・遅刻・途中退出等は厳禁（事情がある場合は除く）。 ・授業の性格上独習はできない。5 回以上の欠席は不可評価とする。特に 4 年生は注意すること。 ・ノートを必ずとること。試験に不可欠である。 ・真摯な態度で受講すること。			
評価方法			
出席状況（1/3）と試験（2/3）を総合して行う。 <u>追試、レポートはないので注意のこと。</u>			
テキスト、参考文献			
講義の中でハンドアウトが配布される。テキストは特に定めない。企業経営の基本書を並行して読むことが講義の理解を深める。			

(春)	全学総合講座(働くための基礎知識—知って得する労働問題)	担当者	野村 容康
講義目標		授業計画	
近年の金融危機は実体経済にも波及し、日本経済も低成長を余儀なくされている。このような経済状況およびグローバルゼーションの進展もあり、雇用をめぐる環境は厳しいものとなってきている。 大学生の就職状況も非常に厳しい状況が続いており、今年度においても大きな好転は望めない状況にある。ロス・ジェネレーションといわれる世代の再出現が懸念されている。また、職場における労働環境も特に若年層において厳しいものがある。 本講義においては、労働をめぐる様々な問題について多様な切り口から接近し、私たちの暮らし・生き方と労働がどのように関わっているのかについて考えていくことにする。		以下のスケジュールを予定しているが、論題や講義の順番は変更する場合がある。 1. ガイダンス 2. 働くことの意味—労働観の変遷 3. 働き方の変化—産業構造の変化と雇用 4. 労働法の基礎知識(1) 5. 労働法の基礎知識(2) 6. 労働条件—賃金、労働時間の基礎知識 7. 労使関係論(1) 経営側からみて 8. 労使関係論(2) 労働側からみて 9. 政策制度への取り組み—政府に対する要求 10. 非正規雇用について 11. 社会保障制度—超高齢社会を迎えて 12. 労働安全衛生—メンタルヘルスを含む 13. 国際労働基準—ILO の役割 14. 協同組合の役割—労働金庫、全労災、生協など 15. まとめ	
講義概要			
講義は毎回ゲストスピーカーを招き行うことにする。労働組合関係者だけでなく、経営者団体・国際労働機関(ILO)代表・労働法学者等の多様な一流の講師から「働くための基礎知識」を習得できるようにする。			
受講生への要望			
労働問題に関する新聞記事を読んだり、テレビニュースを見て、現在何が問題になっているかを自分なりに把握しておくこと。私語は厳に慎み、講師の方に失礼のないように真摯な態度で受講すること。			
評価方法			
レポートによる。			
テキスト、参考文献			
各回の講義において紹介する。			

(春)	全学総合講座（ポピュラー文化と社会）	担当者	平田 由紀江
講義目標		授業計画	
受講生にとって身近だと思われる音楽やマンガなどのポピュラー文化をまじめに考えていく講座である。社会を見つめるもうひとつの視点を知り、理解してもらうことが講義目標である。		1 イントロ 2 KPOP とジェンダー① 3 KPOP とジェンダー② 4 トルコにおける音楽と社会① 5 トルコにおける音楽と社会② 6 未定 7 未定 8 マンガと社会① 9 マンガと社会② 10 ロボット① 11 ロボット② 12 アメリカスにおける民衆文化の展開① 13 アメリカスにおける民衆文化の展開② 14 まとめと課題提出① 15 まとめと課題提出②	
講義概要			
原則2回連続で同じ講師による講義を行う。ポピュラー文化から現代社会の様相を考えていく。			
受講生への要望			
初回講義は必ず出席すること			
評価方法			
レポート テスト			
テキスト、参考文献			
適宜指定する。			

(春)	全学総合講座（あなたのキャリアデザインを考える）	担当者	町田 喜義
講義目標		授業計画	
本講座は、2006度から開講されている本学卒業生による毎回完結の連続講義です。例えば、 ① 自分自身の内面を探索する：自己発見 ② 異なった環境で如何に生きるか：適応力 ③ 近未来を考える：職業選択 ④ 人間関係を構築する：個と集団の均衡を図る ⑤ 自己の物差しの構築：理論と実践 ⑥ 大学生活をどの様に過ごすか：今、ここで ⑦ 外国語学習にどう立ち向かうか：継続は力などを学習してほしい。		※昨年度は東日本大震災のため授業日数を短縮（12回）でしたが、今年度は春学期15回となります。 1. キャリアデザイン序章：講義概要説明 2. 人生を輝かせる生き方 3. JAL スッチーの仕事 4. IT産業への誘い 5. ことばの力-人間力の形成 6. ホスピタリティ産業で働く 7. 経験に基づく理屈ほど強いものは無い 8. 和食料理店を経営して 9. TV報道“キャスターの仕事” 10. 学生時代をどう過ごすかで決まる 11. 女性が仕事を続けるということ 12. キャリアデザイン終章	
講義概要			
実業界、学会、法曹界、教育界、官界、芸能界、政界など各分野・社会、地域（外国を含む）で活躍している卒業生が、後輩諸君へ語る熱きメッセージ。 同じキャンパスで過ごした学生生活を共有しながら、先輩達との絆を感じ取ってください。 このシラバスでは2011年度春学期の講義題目を掲載しておきますので（本稿執筆時では未決定部分が多いので）参考になしてください。 なお、来年（2013年度）は担当者の海外出張により開講しません。			
受講生への要望			
・遅刻：開始後15分(11:00)以降の入場は欠席とする。 ・初回から出欠を取る。 ・教室内は脱帽（特に男子学生！） ・(当然だが) 私語厳禁：周囲の迷惑となるので退場して貰います。			
評価方法			
・各講師の課題レポートの中から3題選択して提出する。 ・レポートの提出要件は、10/15回の出席が必須。			
テキスト、参考文献			
・担当者が指示する。			

(春) (秋)	全学総合講座 (健康をスポーツを世界を考える)	担当者	松原 裕
講義目標		授業計画	
健康・スポーツ・世界という言葉がキーワードになりますが、それぞれの言葉を広く捉えられるように、また、今後の学生生活や生き方を各自が考える上でのヒントを各々が発見できるように、知的刺激を与えることが目標です。		第1回授業時、第2回授業時に提示します。 基本的なテーマは次の通りですが、ゲストの日程調整などの都合で前後します。 1 ガイダンス 2 心のバリアフリー 3 誰でも出来る応急処置 (理論) 4 誰でも出来る応急処置 (実技) 5 天職との出逢い 6 ヒッピー文化 7 ユーゴスラビア (祖国解体の過程とサッカーによるアイデンティティー) 8 薬と健康 9 管理栄養士から 10 総合型クラブの可能性① 11 総合型クラブの可能性② 12 テロと戦争 13 パレスチナ 14 骨盤調整 15 大震災	
講義概要			
ゲストを招いて、講義を受ける形式になります。毎回の授業で感じたこと、考えたことを配布した用紙に各自が記入して提出してもらいます。その場での質疑応答も出来ます。 内容は、健康・スポーツ・世界というキーワードに関連して各ゲストがテーマを設定し、ゲストごとに完結したものになります。骨盤調整、応急処置、薬、栄養、バリアフリー、ヒッピー文化、総合型地域スポーツクラブ、戦争とテロ、パレスチナ、ユーゴスラビア、大震災、原子力発電などを切り口として概論を講義します。 救急法の実技、骨盤調整の紹介があります。			
受講生への要望			
顔写真付受講票の提出、三角巾の準備、また、毎回出席し聴くことのできる心身の準備をお願いします。			
評価方法			
毎回記入した用紙、最終レポート、受講態度を総合して評価します。			
テキスト、参考文献			
必要により紹介したり、プリントを配布します。			

(秋)	全学総合講座(童話(メルヒェン)の可能性をめぐって)	担当者	矢羽々 崇
講義目標		授業計画	
皆さんにとって、昔話・メルヒェンとはどのようなものでしょうか？ 子供時代に読み聞かせてもらっただけの過去のものでしょうか？ これらの物語の形式は、その単純さのせいで軽視されたりもしますが、実は文学の根本にあるものです。文学ばかりではなく、テレビドラマや映画などの根底を支えているといっても過言ではありません。そしてそれ以上に、私たちの生活をも（私たちは意識していなくても）規定しているのです。女性であればシンデレラストーリーに自分を重ねてみたり、男性であれば自分の中の「おおかみ」を意識すること(?)もあるでしょう。そんなメルヒェン・民話の可能性をめぐって話を進めていきます。		第1回授業時に提示します。 基本的な予定テーマは次のとおり。講師の日程調整などの都合で前後することがあります。 1 ガイダンス 2 メルヒェンとは何か 3 昔話の法則性 4 昔話のメッセージ 5 昔話を聞く 6 グリム・メルヒェンの舞台 7 グリム以前のドイツヨーロッパのメルヒェン 8 グリム・メルヒェンの成立 9 メルヒェンの国際比較 10 グリム以後のメルヒェン 1 11 グリム以後のメルヒェン 2 12 20世紀のメルヒェン 13 メルヒェンの映像化 1 14 メルヒェンの映像化 2 15 パネル・ディスカッション (学生数名+矢羽々)	
講義概要		この講座が目標とするのは、皆さんに自分たちの中の昔話やメルヒェン、そして文学を意識し、できれば時代を「読む」可能性を見いだしてもらうことです。昔話・メルヒェンの中にある人間の原型的なもの。グリム童話ならその成立期である19世紀という時代の考え方。グリムが盛んに書き換えられた20世紀の様相。さらに今の私たちが生きる21世紀の価値観。こうしたさまざまなベクトルを対比しながら、21世紀初頭に日本で生きている自分たちを相対化できる視点を持ってもらえれば、この講座はその役割を果たすことになります。 講座は基本的に約1時間の講師による講義、残りの時間を講師とコーディネーターとの対話・参加者との質疑応答にあてます。「対話」は学問の土台です。ぜひ積極的に質疑にも参加してください。	
受講生への要望		積極的に参加してくれることを望みます。 私語や遅刻など、他の学生や講師の方々に迷惑をかける行為は厳に慎むように。また、授業中の携帯使用は禁止とし、発見した場合には厳格に対処します。	
評価方法		出席(20%)および学期末定期試験の成績(80%)によって決定します。欠席が4回以上の場合、評価の対象としません。遅刻・無断退出(出入り)も欠席とみなすことがあります。	
テキスト、参考文献		第1回授業で指示します。参考文献はそれぞれの先生からも適宜指示があります。	

(春) (秋)	全学総合講座 (キャンパスライフと仕事)	担当者	山越 徳
講義目標		授業計画	
4年間の学生生活を通して、人間形成をどのように進めるか、何を学ぶか、何をどの程度まで達成できるかなどを確認するための糧となる話を各分野の専門家からしてもらう。それにより2年次以降の目標と将来のライフスタイル、自分の夢を実現するためのキャリアデザインを明確に意識させることにより、生き生きとした学生生活を送れるようにする。		(春) 1.さまざまな仕事(進路)を考える オリエンテーション 2.企業で働く、企業が学生に求めるもの 3.自己理解、自己表現 4.公務員の仕事 5.男女共同参画社会 6.ベンチャー企業を起業する 7.社会の求める人材とは 8.今後の食糧事情における食品企業の役割 9.仕事と適性 10.人間力を高める 11.1年生の今、すべきこと 12.活躍するOB 13.仕事と私事 14.内定者の体験談 15.まとめ (秋) 春季の事業計画と内容は同じであるが順序は必ずしも同じではない。出来れば第1回目にスケジュール表を示す予定である。	
講義概要		上記授業計画は講師の都合により順序やテーマも変更することがある。	
選択するのは「入りたい企業」ではなくて「自分がやりたい仕事」である。「就社」ではなくて「就職」であることを意識させる。自分の選択した生き方によって職業選択も変わることが理解できるようにする。そのため多様な職業の実態を知る機会を提供し必要な知識、技能を理解させる。本講義では様々な業種の現役で活躍中の社会人を迎えて「ありのままの仕事の様子」を語ってもらう。毎回質問の時間を確保し、学生の疑問に応えられるようにする。なお講師の都合により、授業計画の順序が変更される場合があることを留意されたい。			
受講生への要望			
外部の方の話を聞くことを第一とするため、とにかく出席すること。礼儀正しく聴講すること。講義内容の更なる充実を図るためと講師への還元のため、毎回の感想をレポートすること。			
評価方法			
出席、レポート(期末)			
テキスト、参考文献			
必要な資料は授業で配布			

(秋)	全学総合講座（食文化と人間生活「気候と風土と食文化」）	担当者	和田 智
講義目標		授業計画	
「食」の歴史と共に、近年失われつつある「食文化」の意義と認識をすることは意味のある事といえる。その地域に根ざした伝統食とその歴史の変遷は、世界の歴史の影を多く落としており、その国々の食にまつわる拘りがその国の食文化を大きく成長させ、生活その物にも変化と進歩を与えた。また食への欲が世界の流通をも引き起こし、戦争や貿易という結果も生んだといえる。また一方では、食にまつわる副産物として、食を楽しむ為の、酒やお茶、調味料といったものへの拘りと、食を楽しむ為の、容器や食べ方に至る拘りが、陶器やマナーを生んだ。 日本の食、世界の食について食の世界のスペシャリスト達の話から食についての関心を高め、行動に移すことを目標とする。		1 オリエンテーション 「食をめぐる話題」 和田 智 獨協大学教授 2 「食と茶の文化伝導」 磯淵 猛 (株)ティー・イソプチカンパニー代表取締役社長 3 「食事作法の背景にあるもの」 後藤加寿子 料理研究家 武者小路千家長女 4 「新しいライフスタイルとしての農業」 講師交渉中 5 「カナダネイティブから学ぶ食」 田中知恵 本学卒業生 ネイチャーライター 6 「人はズルなしで生きられるか」 服部 文祥 東京新聞出版局・岳人編集部 サバイバル登山家 7 「中国の食文化」 辻 康吾 元国際教養学部言語文化学科教授 8 「パティシエから見るスイーツブーム」 羽鳥武夫 シュルプリーズ パティシエ 9 「ケケタン先生の考える子どもと食」 葛恵子 (有) 葛トータルフードプロデュース クッキングプロデューサー 10 「The 日本食」 柳原尚之 江戸懐石近茶流・柳原料理教室副主宰 11 「食のトレンド」 加藤真悟 (本学卒業生) フードプロデューサー 12 「WFPの活動」 国連機関 WFP 広報官 13 「有機農業と食」 金子美登 埼玉県小川町有機農業実践家 霜里農場代表・小川町町会議員 14 「食を資源とした地域おこし」 金丸弘美 食環境ジャーナリスト 15 「私たちの食はこのままではいけない」 和田 智 獨協大学教授 講師の都合により、順番は変更されます。	
講義概要			
人間は日々折々の食事から、時代や風土に即した多様な文化を紡ぎだしている。食事は世界の各地で邂逅し、現在も変容の過程といえる。食にまつわる歴史、地域とのかかわりと文化として成長し継承されて現在に至っている。「食」の文化を開拓した人類にとって、その地域の旬の食材をどう食べるかは単に栄養を摂取する為だけの問題ではなく、食物の蓄積は富の象徴となり、味覚への拘泥は「食」の美学生み、教養や宗教とあいまって現在では謎に満ちた「タブー」をもつくり、時空を超えた「食」への夢は際限なく広がりを見せ、貴重な食材や調理法への旺盛な探求心はとどまることなく、人々を果てしない冒険へと駆り立てた。「食」はかつては国家や民族間の争いの引き金として、また政治の道具に利用される事も歴史上の事実として観る事が出来る。今日「食」を巡る問題は、国際化と科学技術の進歩と人々の様々な欲望とによって、複雑怪奇な様相を呈している。日々の食事の背景や、夢と欲望、謎と矛盾に満ちた不可思議な世界を検証し、他の動物ではあり得ない食文化とそれにまつわる生活文化を学びその世界的変容に、知識としてだけでなく学び、体験する。			
受講生への要望			
講義支援システムを利用するので利用できるようにしておくこと。質問、アンケート等で携帯電話を利用します。通信料が発生しますのでご理解の上協力願います。			
評価方法			
授業での小レポート、学期末レポート、出席状況等により総合的に評価する。			
テキスト、参考文献			
授業で紹介する。			

(秋)	全学総合講座（自由時間の達人）	担当者	和田 智
講義目標		授業計画	
自由時間の大切さに気づいていない人が多い。 私たちの生涯は70万時間、労働時間は7万時間、自由時間は20万時間。これまでのあなたの目標といえは7万時間のためのものが多かったのではないのでしょうか。自由時間をいかに充実させることができるかについてもっと考えて見ましょう。この授業ではいろいろと考えてきた人たちを紹介します。 「レジャー」の真の意味を知ることにより、個々の学生が現在を充実させ、将来の目標を立てる助けにすることを目標にしています。 春学期の理論編としての「自由時間設計」とこの授業を履修していただくと、より理解しやすく、あなたを行動へと向かわせてくれると思います。		1 オリエンテーション 「あなたの自由時間の現状」 和田 智 獨協大学教授 2 自由時間の達人① 「農業から新しいライフスタイルを求めて」 島野忠夫 楽遊舎代表 3 自由時間の達人② 「学生時代に行ったシルクロード自転車の旅と現在」 佐々木拓司 本学卒業生 4 自由時間の達人③ 「私にとっての世界一周の旅」 下重健児 本学卒業生 5 自由時間の達人④ 「私がなぜ空を飛ぶようになったのか」 多胡光純 本学卒業生 エアーフォトグラファー 6 自由時間の達人⑤ 「生きることの証をもとめて」 服部 文祥 サバイバル登山家 7 自由時間の達人⑥ 「からだの不自由だからできることが増えた」 濱田美穂 NHKサービスセンター 8 自由時間の達人⑦ 「バリアフリースクーバダイビングを推進する」 椎名克巳 株式会社東京ダイバーズ代表取締役 9 自由時間の達人⑧ 「高齢者のためのレジャー」 山崎律子（株）余暇問題研究所代表取締役 10 自由時間の達人⑨ 「好きなことを続けるということ」 山本幸治 プロボウラー 11 自由時間の達人⑩ 「なぜ人は旅に出るのか」 福井 善朗 近畿日本ツーリスト株式会社 12 自由時間の達人⑪ 「学生時代からつながる現在と未来」 田中勝之 本学卒業生 13 自由時間の達人⑫ 「仕事と趣味の考え方」 講師交渉中 14 自由時間の達人⑬ 「能力を高める喜びと自由の獲得」 講師交渉中 15 自由時間を「自由時間をレジャーとするために」 和田 智 獨協大学教授	
講義概要			
第1回目の授業では、私たちの自由時間の現状について把握し、これからの授業を理解するための基礎的な理解をしていただきます。 第2回目の授業から、それぞれの講師がどのような考え方、ライフスタイルを持ち、自由時間について実践しているかについて知っていただきます。 最後の授業では、これまでの講義で聞いてきたお話が「レジャー学」的にどのように理解できるのかを説明していきます。			
受講生への要望			
講義支援システムを利用するので利用できるようにしておくこと。質問、アンケート等で携帯電話を利用します。通信料が発生しますのでご理解の上協力願います。			
評価方法			
授業での小レポート、学期末レポート、出席状況等により総合的に評価する。			
テキスト、参考文献			
授業で紹介する。		講師の都合により、予定が変わることがあります。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (言語学 a) 言語学 a(一般言語学)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
言葉の仕組みと役割を客観的に記述する学問である言語学とはどのような分野なのかを概観する。ここでは言語学の応用的領域を取り上げ、社会における言語の機能を理解すると共に、その背景にある基本的な考え方を学ぶ。主として英語を対象言語とするが、必要に応じて他の言語も扱う。また、言語学の周辺領域(考古学・医学・物理学・電子工学・数学)における言語研究にも言及する。 参考文献 David Crystal, <i>The Cambridge Encyclopedia of Language</i> (Cambridge University Press, 1987; ISBN: 0-521-42443-7) D. クリスタル／風間・長谷川訳『言語学百科事典』(大修館, 1992; ISBN: 4-469-01202-2) 町田 健『言語学が好きになる本』(研究社出版, 1999; ISBN:4-327-37674-4)		1. 話し言葉と書き言葉 ー言葉は約束事:言語学の研究対象, 記号論, ローマ字表記 2. 動物の言語と人間の言語 ーチンパンジーも言葉が話せる?:動物のコミュニケーション 3. 言語と脳 ー失われた言葉を取り戻す:心理言語学と大脳生理学 4. 子供の言葉の発達 ーどのようにして言語を習得するか?:第 1 言語の発達過程 5. 外国語の上達 ーどのようにしたらうまく話せるようになるか?:第 2 言語の習得理論 6. 音と音声 (1) ーカテゴリーができるまで:調音音声学と音韻論 7. 音と音声 (2) ー音声はどのように聞こえるか?:音響音声学と聴覚音声学 8. 統語論 ー「正しい」言葉の記述 vs 言葉の「正しい」記述:構造主義文法, 生成文法, その他の文法 9. 形と意味 ー発話に意味を込める:意味論, 語用論 10. 会話の原則 ー言葉の適切な使い方:談話分析 11. 言語と社会 ー言葉の多様性と普遍性:社会言語学 12. 世界の言語とその系統 ー言語の系統と分類:歴史言語学 13. 言語の進化 ー言語と人類の発達:言語考古学 14. コンピューターと言語 ー近未来の言語研究:人工知能, 機械翻訳, コーパス言語学 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
G. ユール／今井・中島訳『現代言語学 20 章』(大修館, 1987; ISBN: 4-469-21145-1)		定期試験 x 出席率 + 平常授業における課題	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (言語学 b) 言語学 b(一般言語学)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
人間の言語は動物のそれと異りアナログ的要素と共にデジタル的要素がある。メッセージを単位記号(デジタル信号)に置き換えることでコミュニケーションの媒体となり、文学ばかりでなく政治や科学などの社会を構成する要素が確立したのである。この授業では言語の基本的な構造を取り上げ、理論的枠組みを理解すると共に、ハンズオンの学習を通して言語資料の分析練習を行う。対象言語は英語を初め各国語にわたる。教材の事前予習を前提とする。 参考文献 Edward Finegan, <i>Language: Its Structure and Use</i>, 6th ed. (Wadsworth, 2011; ISBN: 978-0495900412) David Crystal, <i>The Cambridge Encyclopedia of Language</i> (Cambridge University Press, 1987; ISBN: 0-521-42443-7)		1. 形態論 (1) 形態素の同定(ハンガリー語, スペイン語) 2. 形態論 (2) 形態素の同定(現代ヘブライ語, マレー・インドネシア語, ペルシア語) 3. 形態論 (3) 形態素の同定(ラテン語, ラコタ語) 4. 音声学・音韻論 (1) 発音記号, 音素・異音(英語) 5. 音声学・音韻論 (2) 音韻の同定(ウィチタ語, 古典ヘブライ語, ラコタ語) 6. 音声学・音韻論 (3) 音素の同定(スペイン語, ヒンディー語, 日本語) 7. 音声学・音韻論 (4) 超分節音素の同定(中国語, アイスランド語・スワヒリ語・アラビア語・英語) 8. 音声学・音韻論 (5) 音韻現象, 生成音韻論(トルコ語, 英語) 9. 統語論 (1) 直接構成素分析, 句構造規則(英語) 10. 統語論 (2) 句構造規則(英語, イタリア語・ギリシア語) 11. 統語論 (3) 構造型成, 語順, 格(英語, 中国語, ドイツ語, クリンゴン語) 12. 意味論 上位概念・下位概念, 同意語・反意語(英語, 日本語, ペルシア語) 13. 語用論 新旧情報, 言語行為, 話題化(英語, 中国語) 14. 書記法(英語, イタリア語, ギリシア語, ヘブライ語) 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Paul R. Frommer & Edward Finegan, <i>Looking at Languages: a Workbook in Elementary Linguistics</i> , 5th ed. (Heinle, 2011; ISBN: 978-0495912316)		定期試験 x 出席率 + 平常授業における課題	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想Ⅰ(日本語教育概説) ことばと思想(Ⅲ)(外国語としての日本語教育)	担当者	石塚 京子
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義概要> 「日本語教育」とは何か、「日本語教師」の仕事とはどのようなものか、といったことを概説します。 この講義は、将来、日本語教師を目指す学生に限定するものではありません。外国語としての日本語、日本語教育の歴史と現状、外国語教授法など、言語や教育に広く興味を持っている学生を対象とした講義内容となります。 なお、日本語教師養成課程を履修する学生にとっては、日本語教授法Ⅰの内容と多少の重なりがありますが、実践的な指導法を学ぶための前段階と位置づけて授業に臨んでください。 <講義の目的> 1. 日本語教育と国語教育の違いを知る。 2. 日本語教育の歴史と現状を知る。 3. さまざまな外国語教授法を概観する。 4. 日本語を外国語として客観的に捉える。 5. 外国語としての日本語の指導法を考える。 6. 教師の役割を考える。		1. 講義の概要説明、日本語教育の一例の紹介 2. 日本語教育とは何か(1) 日本語教育と国語教育の違い 3. 日本語教育とは何か(2) 日本語教育の歴史 4. 外国語教授法の歴史 5. 外国語教授法の紹介(1) 6. 外国語教授法の紹介(2) 7. 異文化接触と日本語教育 8. 言語教育と学習観 9. コースデザインとシラバス 10. 日本語のしくみと指導のポイント(1) 11. 日本語のしくみと指導のポイント(2) 12. 教室活動の活動例 13. 教師の役割 14. 評価 15. 講義のまとめ *進捗状況によって内容が変更になる場合もあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<参考文献> 佐々木康子『ベーシック日本語教育』ひつじ書房、2007 中西家栄子『実践日本語教授法』バベル出版		期末定期試験に出席率を加味して評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (倫理の基本について考える) 倫理学 a(倫理の基本について考える)	担当者	市川達人
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちの社会には「して善いこと」と「して悪いこと」がある。私たちは普段、この二つを良識のレベルで割り切っており、それに対して「なぜ」などと問うことはあまりしない。しかし、この良識が揺らぎだしたり、この良識に対立する良識が出てきたりしたとき、この「なぜ」がでてくる。倫理に対する学問的問いかけが生まれるのである。近代という時代はこの倫理的問いかけを、敬(軽)して遠ざけてきた。しかし、倫理への問いは最近再び脚光を浴びてきている。良識が揺らいでいるのである。 講義では、倫理における「なぜ」を扱いたい。私たちが倫理的な判断を下すとき、そこにいかなる思考のメカニズム、あるいは論理が働いているかを考えるということである。最後に、これをふまえて現代倫理を代表する自由主義と功利主義を批判的に検討したい。		1)哲学と倫理学 2)非倫理の時代か倫理の時代か 3)「倫理」という言葉 4)倫理と道德の違い 5)規範としての倫理(1)……習俗と倫理 6)規範としての倫理(2)……法と倫理 7)価値としての倫理(1)……欲求から善へ 8)価値としての倫理(2)……「事実・価値」問題 9)行為への問い(1)……行為の構造と近代的行為モデル 10)行為への問い(2)……他者からの問いかけ 11)行為への問い(3)……動機主義と結果主義 12)功利主義の倫理(1)……ベンサム 13)功利主義の倫理(2)……功利主義の今日的展開 14)自由主義の倫理(1)……カントとミル 15)自由主義の倫理(2)……リベラリズムの平等論	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わない。参考書は講義で指示。		期末の試験による。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (環境と生命の倫理) 倫理学 b(環境と生命の倫理)	担当者	市川達人
講義目的、講義概要		授業計画	
21 世紀は生命と環境の時代だといわれる。一方では人間を好きなように誕生させ、生きさせ、あるいは殺す技術が生まれてきている。他方で、地球規模での環境汚染、資源の枯渇が懸念され、人類の存続が危ぶまれている。内的自然支配の深まりと外的自然支配の限界ともいべきこの両者を見据えながら、伝統的な生命観や自然観を考え直していくこと、これが講義の課題である。生命倫理学とか環境論理学という新しい学問分野が関心を集めているが、そこでの議論を踏まえて進めていく。		1)「倫理問題」とは？……応用倫理について 2)生命をめぐる状況(1) ……「医療化社会」批判 3)生命をめぐる状況(2) ……所有的身体観と生命の微細化・局在化 4)生命倫理の前線(1) 医療倫理から生命倫理へ 5)生命倫理の前線(2) 中絶、生殖医療の問題 6)生命倫理の前線(3) 安楽死問題 7)生命倫理の前線(4) 臓器移植の問題 8)ケアの倫理……人のケアから自然のケアへ 9)環境倫理の世界(1) 環境保護とはどういうことか 10)環境倫理の世界(2) 生態系価値を中心にする思想 11)環境倫理の世界(3) 自然物の権利を中心とする思想 12)環境倫理の世界(4) 地球レベルでの構造的不正義 13)環境倫理の世界(5) 環境的不正義に関する倫理的言説 14)環境倫理の世界(6) 持続可能性と世代間倫理 15)生命と環境とをつなぐ倫理的課題	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わない。参考書は講義で指示。		期末の試験による。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (社会思想史 1)(市民的社会像の黎明期) 社会思想史 a(市民的社会像の黎明期)	担当者	市川達人
講義目的、講義概要		授業計画	
現代を生きる私たちの政治や経済に関する見方・考え方を支配している近代的社会観の形成を、西欧を舞台に歴史的にたどる。講義は通年で完結する形をとる。前期では、最近リアリティを失ってきたかにみえる「社会」という観念を改めて分析してみることから始め、その「社会」を学問的に対象化する動きがはじまったルネッサンスから宗教改革の時期を取り上げる。キリスト教的世界観との対抗あるいはその変革のなかで、新しい価値観や生き方が模索され形成される時代である。 後期の講義へとつながる問題意識として、「国家というまとまり」と「社会というまとまり」への二重の視点が生まれてくる過程に目を向けたい。		1) 授業の狙いについて 2) 「社会」という思想問題 3) 「市民社会」の原型と近代的再生 4) ルネッサンス思想と古典古代文化 5) マキャベリと『君主論』 6) マキャベリと近代政治理論 7) ユートピアという思想 8) トマス・モアと『ユートピア』 9) 中世の教会改革運動、千年王国説、後期スコラ学派 10) ルターの改革運動と神学 11) ルターの政治思想 12) ルターの聖職思想と勤勉の倫理 13) カルヴィニズムの宗教思想 14) カルヴィニズムと近代的エートス 15) まとめー主権国家と市場社会	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト 『社会思想の歴史』 渋谷一郎 八千代出版 参考書 講義で指示		期末の試験による。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (社会思想史 2)(市民的社会像の確立期) 社会思想史 b(市民的社会像の確立期)	担当者	市川達人
講義目的、講義概要		授業計画	
西欧では 17 世紀から近代市民社会の見取り図を描く作業がはじまる。伝統的な自然法思想を手がかりに、個人が自分の自然権を守るために契約という行為を通して国家を作るという社会契約思想が生みだされる。これと並んで、社会を担う「国民」が経済的主体として自覚され、国家と区別される市民社会という観念が生まれてくる。このあたりの展開をホッブズから初めて 19 世紀のマルクスまでたどってみる。ここでも「国家というまとまり」と「社会というまとまり」が隠れた主題となる。		1) 授業の狙いについて 2) 西欧自然法思想の源泉 3) 自然法思想の近代的転回 4) 社会をめぐる自然と作為(1)……ホッブズの利己心 5) 社会をめぐる自然と作為(2)……ホッブズの国家観 6) 個人を守ること(1)……ロックの所有的個人主義 7) 個人を守ること(2)……ロックの政治的自由主義 8) 文明化という課題……フランス啓蒙思想 (ヴォルテール、ディドロ) 9) 風土と社会……モンテスキューの権力論 10) 個人と社会の一体化(1)……ルソーの歴史認識 11) 個人と社会の一体化(2)……ルソーのデモクラシー 12) 社会は自然に発生する(1)……ヒュームの道徳感情論と自然法批判 13) 社会は自然に発生する(2)……スミスの市場的社會思想 14) 社会的に生きる(1)……社会主義の思想 15) 社会的に生きる(2)……マルクスの思想	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト 『社会思想の歴史』 渋谷一郎 八千代出版 参考書 講義で指示		期末の試験による。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (応用言語学) 言語学 a(応用言語学)	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
応用言語学は言語、言語習得そして言語運用に関する理論を応用し、言語に関わるあらゆる問題の解決策を模索する学問である（言語学の基礎・応用の応用ではなく、応用言語学という分野である）。本講義では、応用言語学にはどのような領域があるか、そしてそれぞれの領域が外国語教育に何を示唆するかを学ぶ。 言語習得、外国語教育、言語と社会、言語研究の 4 領域を中心に進めていく。各領域においてどのような研究がなされ、外国語教育に何を示唆しているかを中心にみていく。 出席を前提とする。 また、課題をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。		第 1 週：概論 第 2～3 週：言語習得 －言語習得 －言語維持 －言語喪失 第 4～6 週： 言語と社会 －バイリンガリズム・マルチリンガリズム （個人・社会） －マイノリティ言語 第 7 週：言語と脳 第 8～12 週：外国語教育 －Second language vs. Foreign language －教室における第 2 言語習得（指導法） －言語政策（公用語化、小学校英語、教育方法など） 第 13～15 週：言語研究	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布資料等有り。		期末レポート&課題(50%)、期末テスト（50 %）	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (第二言語習得) 言語学 b(第二言語習得)	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、第二言語習得がいかにダイナミックなものであるかということを様々な理論をもとに考える。また、この分野における専門用語を日英の両言語で認識し、これらの理論をどのように言語教育に応用していくかを考える。 言語学 a（応用言語学）を履修していることが望ましい。 出席を前提とする。 また、課題をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。		第 1 週：概論 第 2～7 週： SLA 理論・仮説 －普遍文法 －モニターモデル －認知プロセス －インプット・アウトプット・インターアクション仮説他 第 8～13 週：学習者要因 －年齢 －動機・態度(諸理論) －学習ストラテジー・学習スタイル －適正 －不安 －多重知能理論など 第 14・15 週：発表および総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布資料等有り。		期末レポート&課題（50%）、期末テスト（50%）	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (国際語としての英語) ことばと思想 (Ⅲ) (国際語としての英語)	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
約 3 億人といわれる英語母語話者に、公用語として英語を使用する人々及び外国語または「国際語」として英語を使用する人々を加えると 20 億人あまり英語話者がいるという。20 億人全員が同じ英語を話しているのだろうか。日本人にとって英語とは何なのであろうか。 本講義では、「世界英語(World Englishes)」そのものの理解を高めることを目的とする。また、非英語母語話者としてどのような英語を学習し、指導していけばいいかを模索する。 出席を前提とする。 また、課題（リーディングやフィールドワーク）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。		第 1 週：概論 第 2 週：英語の普及 ーディアスポラなど 第 3～4 週：英語の多様化 ーピジンとクレオール ー方言と標準語 第 5～7 週：世界英語—内部圏における多様化 ーアメリカ、オーストラリア、イギリス英語など ーHawaii Creole English ーEbonics ーSpanglish など 第 8～9 週：世界英語—外部圏における多様化 ーインド英語 ーSinglish 第 10～11 週：世界英語—拡大圏における多様化 ーヨーロッパと英語、ロシアと英語 ー中国と英語、韓国と英語 第 12～13 週：日本人にとっての英語とは何か ー日本での英語使用 ー日本の英語教育史 ー現状と動向：政策、教師、カリキュラム、目的など 第 14～15 週 ー発表と総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布資料等有り。		フィールドワークに基づいた期末レポートおよび他課題（50%）、 期末テスト（50%）	

08 年度以前 07 年度以降	ことばと思想 1 (多言語環境と英語) ことばと思想 (Ⅲ) (多言語環境と英語)	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、「多言語使用」の意義、「多言語共生」の可能性、および「言語政策」（教育、サービス含む）の役割について理解を高めることを目的とする。また英語が普遍語になっていくのか考える。 出席を前提とする。 また、課題（リーディングとフィールドワークなど）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。		第 1 週：概論 第 2～4 週：言語権、言語サービス、複言語主義、多言語主義など 第 5～8 週：世界の言語政策と英語の位置づけ ー内部圏：アメリカ、オーストラリアなど ー外部圏：インド、シンガポールなど ー拡大圏：フランス、韓国など 第 9～13 週：日本の中の多言語と英語 ー日本の中の多言語 ー言語政策と教育 ー各地方自治体の言語政策・言語サービス ー言語意識教育など 第 14～15 週：発表と総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布資料等有り。		期末レポート&課題（50%）、期末テスト（50%）	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想1(倫理学a) 倫理学a(倫理学と人間性)	担当者	川口 茂雄
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】 西洋哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、思索されてきたかを、概説する。 教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語表現できる実践力の習得が、目標として設定される。 哲学の学習は「言葉を選ぶ」ことのできる社会人になるための訓練の場なのだ、というようにとらえてもいい。 【講義概要】 哲学史の入門書をもとに授業を進行していく。 古代ギリシアから、近世のデカルト・パスカルなどを経て、近代のニーチェまでをこの学期で見えていく。 教科書はかなりコンパクトに各哲学者の思想をまとめたものだが、その圧縮された内容を発展的にふくらませる補足説明を毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。 【受講生への要望】 他人の言葉を読む・聴くときには、自分の心のなかを静かに沈黙させて、他人の言葉をできるだけ限りに受けとれるようにしてみよう。		1. 導入 (プレゼン担当者の募集・日程調整を含む) 2. プラトン (1)「ソクラテスの死から」 3. プラトン (2) 4. アリストテレス「人間は知ることを欲する」 5. エピクロス派、ストア派 6. デカルト (1)「私は思考する、ゆえに私は在る」 7. デカルト (2) 8. デカルト (3) 9. パスカル「考える葦」 10. ルソー (1)「人づきあいが人間を不幸にする」 11. ルソー (2) 12. ニーチェ (1)「永遠回帰に耐えられるか」 13. ニーチェ (2) 14. ニーチェ (3) 15. まとめ	
テキスト (※各自入手しておくこと)		評価方法	
ドミニク・フォルシェー 『西洋哲学史 パルメニデスからレヴィナスまで』 (白水社・文庫クセジュ)		学期末試験による。 ただし、各授業回で教科書内容への補足プレゼンを担当してくれた学生には、試験点数に約20点を加点する予定。	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想1(倫理学b) 倫理学b(現代倫理学の諸問題)	担当者	川口 茂雄
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】 西洋現代哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、思索されてきたかを、概説する。 教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語表現できる実践力の習得が、目標として設定される。 哲学の学習は「言葉を選ぶ」ことのできる社会人になるための訓練の場なのだ、というようにとらえてもいい。 【講義概要】 この学期では現代の哲学的諸問題について扱っていく。 もちろん古代～近代の哲学者たちの考察が参考にされる。 現代は画像・映像といったイメージが飛びかい、そうしたイメージによる記録／記憶が人々の心を苦しめる時代でもある。これを記憶と歴史の問題として考察していく。 教科書にまとめられている内容を発展的にふくらませる補足説明を毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。 【受講生への要望】 他人の言葉を読む・聴くときには、自分の心のなかを静かに沈黙させて、他人の言葉をできるだけ限りに受けとれるようにしてみよう。		1. 導入 (プレゼン担当者の募集・日程調整を含む) 2. プラトンの記憶論「記憶は足跡か、絵画か」 3. アリストテレスの記憶論 4. ベルクソンの記憶論「イマージュ - 想い出」 5. サルトルの記憶論「幻覚」 6. フッサールの記憶論「想像と記憶を区別する？」 7. 個人的記憶と集合的記憶 8. 〈心性史〉の歴史記述 9. 〈表象史〉の歴史記述 (1) 10. 〈表象史〉の歴史記述 (2) 11. 王の肖像——イマージュの魅惑 12. ナチスのユダヤ人虐殺をめぐる (1) 13. ナチスのユダヤ人虐殺をめぐる (2) 14. 「困難な赦し」 15. まとめ	
テキスト (※各自入手しておくこと)		評価方法	
川口茂雄『表象とアルシーヴの解釈学 —— リクール「記憶、歴史、忘却」の問題系』(京都大学学術出版会)		学期末試験による。 ただし、各授業回で教科書内容への補足プレゼンを担当してくれた学生には、試験点数に約20点を加点する予定。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (心理学)(人間の行動・認知・動機の一般法則) 心理学 a(人間の行動・認知・動機の一般法則)	担当者	杉山 憲司
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、なるべく広範囲で、現代的なテーマを選び、1) 心理学の研究成果、2) 研究方法、3) 日常生活との関わりについて紹介します。 心理学研究者として学生をみていると、1) 自分と仲間の個性・価値を相互に認め合い、効力感（コンピテンシー）を持つ、2) 友人や異質な人との学問知を媒介としたコミュニケーションを高めて欲しいと考えています。 自己を知ること、心理学の研究目標の1つですが、自己を知り／他者を知ること、感情や行動を制御することは、スキル・トレーニングが必要です。 教科書の構成は7章構成で、執筆時点でのトピックスを扱っていて、各章は、「〇〇研究の生活・仕事への展開」の節で結ばれていますが、その後の変化があり、いくつかのテーマは2012年時点の課題に入れ替えます。 この授業の到達目標は、 1. 自己の性格や対人関係について学び、日常使えるようになる。 2. 心理学の視点から、自己の専攻領域（所属する学科の学問）をとらえ直し、学問相互の関わりを説明できる。 3. 卒業後の将来、例えば、27歳の自分を想定し、広い意味での学力、ライフ・ワークバランスを考え、計画が立てられる。 春学期の「心理学a」では、教科書の前半に当たる、認知、行動、モチベーションの3側面から見た、人間に共通な法則を学ぶ予定です。		1. 導入：ヒューマン・サイエンスとしての心理学 2. 感じる／考える（感覚と知覚・認知）：人間の感覚受容器と脳、感覚と知覚の仕組みと特徴 3. 感じる／考える：顔や原因の認知（原因帰属） 4. 感じる／考える：記憶の情報処理モデル、潜在認知 5. 感じる／考える：アフォーダンス、都市のイメージ、ユニバーサル・デザインなど 6. 動く／変わる（行動と行動獲得・変容）：条件づけ、強化随伴性、モデルによる観察学習 7. 動く／変わる：進化と人間行動、利他行動や協力、生物進化と文化のカップリング 8. 動く／変わる：教わることで学ぶことの違い。自律・協同学習、学習環境デザイン 9. 動く／変わる：大学における学びの内容と方法、卒業時に必要な力量（学士力、社会人基礎力とは） 10. 動く／変わる：知識基盤社会と学び、社会的構成主義の学習観 11. もえる／動かす（モチベーション）：動機づけの基礎 12. もえる／動かす：達成動機と対人社会性動機、対人行動、 13. もえる／動かす：欲求不満、葛藤、ストレス、無気力（学習性無力感） 14. もえる／動かす：内発的動機づけ、自己原因性、有能感 15. まとめと課題	
テキスト、参考文献		評価方法	
杉山憲司・青柳肇（編）『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチ』ナカニシヤ出版		リフレクションペーパー（20%）、レポート（30%）、試験（50%）で評価する。出席は前提で、授業を聴かないことには始まらない。レポートは大学でのレポートの書き方を学ぶため。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (心理学)(人間の個性・多様性理解) 心理学 b(人間の個性・多様性理解)	担当者	杉山 憲司
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、なるべく広範囲で、現代的なテーマを選び、1) 心理学の研究成果、2) 研究方法、3) 日常生活との関わりについて紹介します。 心理学研究者として学生をみていると、1) 自分と仲間の個性・価値を相互に認め合い、効力感（コンピテンシー）を持つ、2) 友人や異質な人との学問知を媒介としたコミュニケーションを高めて欲しいと考えています。 自己を知ること、心理学の研究目標の1つですが、自己を知り／他者を知ること、感情や行動を制御することは、スキル・トレーニングが必要です。 教科書の構成は7章構成で、執筆時点でのトピックスを扱っていて、各章は、「〇〇研究の生活・仕事への展開」の節で結ばれていますが、その後の変化があり、いくつかのテーマは2012年時点の課題に入れ替えます。 この授業の到達目標は、 1. 自己の性格や対人関係について学び、日常使えるようになる。 2. 心理学の視点から、自己の専攻領域（所属する学科の学問）をとらえ直し、学問相互の関わりを説明できる。 3. 卒業後の将来、例えば、27歳の自分を想定し、広い意味での学力、ライフ・ワークバランスを考え、計画が立てられる。 秋学期の「心理学b」では、教科書の後半に当たる、パーソナリティ、発達、社会心理学に焦点を当て、人間の多様性、可変性を軸に学ぶ予定です。		1. 秋期の導入：春期のまとめと秋期の導入、秋期授業のガイダンス 2. きわだつ／できる（パーソナリティ）：性格検査から何が言えるか？ なぜそう言えるか？ 3. きわだつ／できる：パーソナリティ理論は多様な人間性のモデル 4. きわだつ／できる：Big Five、標準性格検査 5. きわだつ／できる：知能とは？ 創造性（課題解決）とは？ 対人関係の社会的スキルとは？ 6. 育つ／育てる（発達）：big name の発達理論、生涯発達視点 7. 育つ／育てる：生育初期、アタッチメント、気質、インターナル・ワーキング・モデル 8. 育つ／育てる：青年期のアイデンティティ、発達支援、世代間伝達 9. 育つ／育てる：高齢化社会、人生設計、生き甲斐と有能感 10. かかわる／競う（社会）：自己概念、現実自己と理想的自己、自己制御 11. かかわる／競う：社会心理学的自己、自己開示／自己提示（印象操作）とは？ 12. かかわる／競う：集団圧力、権威者への服従、印象形成 13. かかわる／競う：態度と態度変容。説得的コミュニケーション 14. かかわる／競う：集団と個人、変革期のリーダーシップ 15. まとめ：各人の違いを認め、健康で、幸福なサクセスライフを生きる。今後の課題	
テキスト、参考文献		評価方法	
杉山憲司・青柳肇（編）『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチ』ナカニシヤ出版		リフレクションペーパー（20%）、レポート（30%）、試験（50%）で評価する。出席は前提で、授業を聴かないことには始まらない。レポートは大学でのレポートの書き方を学ぶため。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想Ⅰ（こころの世界） ことばと思想Ⅲ（科学としての心理学とこころの世界）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、まず、現代心理学の成立過程を概観する。その後、性格の形成、ストレス、生きがいと心の健康などのテーマについて、さまざまなデータを示しながら説明していく。 本講義を通して、心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また、心理学の基本的知識を習得し、同時に、社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。		以下のような計画で講義をおこなっていく予定である。 1. はじめに：科学としての心理学 2. 心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生 3. 心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学 4. 心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 5. 心理学のあゆみ④：精神分析理論 6. 性格とは？：自己の性格理解 7. 性格をとらえる枠組み：性格理論 8. 性格の形成：遺伝的要因と双生児研究 9. 性格の形成：環境的要因 10. ストレス①：ストレスと性格 11. ストレス②：ストレス・コーピング 12. ストレス③：ストレスの生理心理学 13. 現代社会とストレス 14. 現代社会とこころの病 15. 生きがいとこころの健康	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。		授業における小レポートと試験により総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (哲学の諸問題 1) 哲学 a(哲学の諸問題 1)	担当者	谷口 郁夫
講義目的、講義概要		授業計画	
「哲学」と聞くと、難解な学問だと思われるかも知れませんが、実は非常に身近な学問です。というのも、私たちが問うのは、「人を愛するというのとはどういうことなのか」、「人間であるとはどういうことなのか」、「自由とは何か」等々という問題だからです。今学期は特にこれらの問題について考えたいと思います。特に、悪の問題に注意したいと考えています。 著名であり、なおかつ比較的易しい文献——哲学上の文献に限定しませんが、読み方は我田引水です——を読みながら、ともに考えるという講義形式をとりますので、受講する場合には自分自身の問題として考える姿勢で臨んでください。 また、学生の積極的な発言を歓迎します。		1. プラトンのイデア論をこの講義の序文として取り上げます。 2. アリストテレスの形而上学を取り上げます。 3. デカルトの『方法序説』を取り上げます。 4. カントの『道徳形而上学原論』を取り上げます。 5. 「愛」に関するイエス＝キリストの教え 6. エーリヒ・フロム『愛すること』を取り上げます 7. リースマン『孤独な群衆』 8. 前回の続き。 9. エーリヒ・フロム『悪について』 10. 前回の続き 11. 前回の続き 12. キルケゴールの『不安の概念』を取り上げます 13. 前回の続き 14. 今学期のまとめ 1 15. 今学期のまとめ 2	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義で使用する資料はインターネットから各自ダウンロードしてください		各学期末に試験を行ないます	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (哲学の諸問題 2) 哲学 b(哲学の諸問題 2)	担当者	谷口 郁夫
講義目的、講義概要		授業計画	
前半は社会契約論として知られる三人の思想家（ホッブス・ロック・ルソー）を取り上げ、近代の人間観を考察します。 後半は「歴史」についての哲学的見方について考えます。海外で、宗教について質問された経験のある人もいると思います。あるいは政治の場でも宗教問題が表面化することもあります。これらからも分かるように、欧米の人々にとっては宗教はとても身近で重要な問題です。そして、歴史観は彼らの神観と密接に結びついています。ユダヤ教を基礎とするイスラエルやイスラムを奉じる国々にとってはさらに重要度を増しますし、民族問題は宗教の問題でもあります。あるいは、ナチズムは「世俗的宗教」であるという見方も可能です。 以上を念頭に、有神論の哲学と無神論の哲学について論じる予定です。 また、学生の積極的な発言を歓迎します。 《注》春学期と継続的に受講する必要はありません		1. 秋学期の講義の序説として、カントの『道徳形而上学原論』を取り上げます。難解ですが、ごく一部を読むだけでも学生生活の記念になるかもしれません。 2. 前回の続き 3. ホッブスとロックの社会契約論 4. ルソーの社会契約論 5. 三者の契約論の相違の源泉について 6. ヘーゲルの『歴史哲学講義』を取り上げます。 7. 前回の続き 8. マルクスの『共産党宣言』を取り上げます。 9. ニーチェの生涯 10. ニーチェの思想——神の死 11. ニーチェの思想——ニヒリズムの問題 12. ニーチェの思想——ニヒリズムの克服 13. リュック・フェリー『神に変わる人間』 14. 前回のまとめ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義で使用する資料はインターネットから各自ダウンロードしてください		各学期末に試験を行ないます	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (生と死の意味の哲学 1) ことばと思想 (Ⅲ) (生と死の意味の哲学 1)	担当者	谷口 郁夫
講義目的、講義概要		授業計画	
生と死の問題は、臓器移植や臓器売買、さらに、末期癌の治療方針など、いっそう複雑な問題になろうとしています。それでもなお、われわれは死の運命を逃れることはできません。 また、いわゆる先進国に住む多くの現代人は、病院で生まれ、病院で死を迎えます。とりわけ、死は弧絶された状況の中で迎えることが多くなってしまっています。このような状況を踏まえた上で、いくつかの視点から、生と死の意味を考えることがこの講義のテーマです。 春学期は、死から生を見るという方法で、生について考えます。学生からの積極的発言を期待しています。		1. 死について考える可能性について考えます。 2. ジャンケレヴィッチ『死』 3. キューブラー・ロスの『死ぬ瞬間』を取り上げます 4. 前回の続き 5. ここまでのテーマは「死の準備」の可能性です 6. パスカール『パンセ』 7. 前回の続き 8. 自殺の問題について、厚生労働省・警察庁による統計を取り上げながら考えます。 9. デイヴィッド・ヒュームの自殺論を取り上げます。 10. ランツバーク『死の経験』 11. ランツバーク『自殺の道徳的問題について』 12. ここまでのテーマは「運命」です 13. パウル・ティリッヒ『生きる勇気』 14. 前回の続き 15. 春学期のまとめ 1 16. 春学期のまとめ 2	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義で使用する資料はインターネットから各自ダウンロードしてください		各学期末に試験を行ないます	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (生と死の意味の哲学 2) ことばと思想 (Ⅲ) (生と死の意味の哲学 2)	担当者	谷口 郁夫
講義目的、講義概要		授業計画	
われわれは意味の世界に生きています。したがって、われわれに与えられた課題は、まずわれわれ自身の世界を広げることです。知識がない物に対して意味を見出すことはできませんから、受講生の皆さんにはいわゆる雑学的な知識をたくさん持っていていただきたいと考えています。さまざまな宗教・文化・時代についての知識を豊かにすることで、さまざまな価値観が見えて来ます。 また、日本は自殺大国です。自殺について、それぞれ考えてもらいたいと思っています。 秋学期は、直接的に生を意味あるものにするとはどういうことなのかについて考えます。学生からの積極的発言を期待しています。		1. 講義テーマに関連した映画をごらんいただく予定です 2. フランクル『夜と霧』——これは名著です 3. 前回の続き 4. フランクル『死と愛』 5. 前回の続き 6. アドラー『人生の意味の心理学』 7. ここまでのテーマは《意味》です 8. アルベール・カミュ『シーシュポスの神話』 9. フロム『自由からの逃走』を使いながら、《時代使命・自己》などの問題について考えます。 10. 前回の続き 11. フロム『正気の社会』を取り上げます 12. ここまでのテーマは《自己実現》です 13. リチャード・ドーキンス『利己的遺伝子』を紹介しながら、改めて『人間とは何か』を問います。 14. スティーヴン・ピンカーの『人間の本性を考える』を取り上げます。 15. 前回の続き。 16. 自殺は現代社会においてきわめて重要な問題です。春学期にも取り上げましたが、現代の状況を考慮しながら、『生の意味』について考えます。 17. 15.まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義で使用する資料はインターネットから各自ダウンロードしてください		各学期末に試験を行ないます	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想Ⅰ(通訳・翻訳論) ことばと思想Ⅲ(通訳・翻訳論)	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
通訳、翻訳についての知識を深めることを目的とします。 学期前半では通訳という職業について理解を深め、また外国語学習に役立つ通訳訓練法を紹介します。 学期後半では翻訳と通訳の発展の歴史、翻訳の規範などを通じて、翻訳・通訳の社会における役割と貢献について学びます。 授業ではビデオや DVD を多く利用しますので、欠席しないようにしてください。		第 1 回 全体ガイダンス、教授用資料の入手方法説明 第 2 回 通訳の実例研究（香港返還記念式典） 第 3 回 会議通訳の実際 第 4 回 司法通訳（外国人の人権を守る） 第 5 回 放送通訳とコミュニティ通訳 第 6 回 ガイド、芸能・スポーツの通訳 第 7 回 通訳訓練法 通訳の原理 第 8 回 学期前半のまとめ 第 9 回 日本における翻訳通訳の歴史（１） 第 10 回 日本における翻訳通訳の歴史（２） 第 11 回 日本における翻訳通訳の歴史（３） 第 12 回 翻訳と通訳の理論（１） 第 13 回 翻訳と通訳の理論（２） 第 14 回 通訳と翻訳の理論（３） 第 15 回 全体のまとめ、期末レポートに関する説明	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義資料は、大学ホームページにアクセスし、教員紹介から授業資料ダウンロードページに飛んでダウンロードしてください。		期末試験により評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (英語圏の社会と思想 a) ことばと思想(Ⅲ)(英語圏の社会と思想 a)	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
アングロ＝サクソンの文化がキリスト教化されていく過程の在り方を述べる。 なお、授業時には、名簿の番号順に着席していただく。		1. ガイダンス (父性神と母性神) 2. ヘレニズムとヘブライズム 3. ローマン＝ブリテン：ケルト人とキリスト教 4. ローマ帝国のキリスト教化の過程：ドナティスト論争 5. イングランドのキリスト教化 6. デーン人とアルフレッド大王 7. カロリング王朝とイングランドのキリスト教 8. グレゴリウス 7 世の教会改革 9. イングランドの教会改革 10. 中世の異端 11. 地獄堕ちへの恐怖 12. 黒死病と農民一揆 13. 教皇権の栄光と下降 14. 中世末期：唯名論論争とイングランド宗教改革前史 15. まとめ 以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は必要とあれば授業中に示す。		出席の少ない者は不合格とする。 更に、出席合格者は試験の結果で評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (英語圏の社会と思想 b) ことばと思想(Ⅲ)(英語圏の社会と思想 b)	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準じる。		1. ルター：我ここに立つ 2. ジュネーブの人カルヴァンとイングランド人 3. イングランドの宗教改革：ヘンリー 8 世 4. エドワード王のプロテスタント化とメアリー女王のカトリック教皇主義復興 5. エリザベス 1 世の宗教改革 6. ピューリタンの反撃と英国国教会の樹立 7. スチュワート王朝の国教会 8. 国王の処刑とピューリタニズム 9. ピルグリム＝ファーザーズ 10. 王政復古から名誉革命以降 11. 啓蒙主義時代 12. 19 世紀以降現代 13. アメリカの場合 (1) 14. アメリカの場合 (2) 15. まとめ 以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期に準じる。	

08 年度以降	ことばと思想 1 (日本語文法形態論)	担当者	松浦 恵津子
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 日本語文法を体系的に把握し、基本的な文法を理解・考察して規則性を見出す力を養う。同時に、日本語教育において、学習文法項目の分析を正しく行うことができる力もつける。 〔講義概要〕 講義資料は、講義支援ポータルサイトに掲示される。その資料に目をとおり問題を考えてから、授業に臨むことが毎回要求される。授業は、問題に対する考えの説明・考察というかたちで進める。 個別の言語事象を全体の体系と関連付けて考察し、規則性を見出していくということを通して、日本語文法に対する知的興味・おもしろさを感じることができると思う。 授業は休まず出てくること。体系の各部分はお互いに関連し合っている体系をなしているため、1つの部分の理解が抜けてしまうと、全体を把握することに支障をきたす。 また、講義資料以外の文献の読解も同時に要求するので、相応の自宅学習時間が必要となる。		1. 文法入門 (文法とは・形態論と統語論・単語と文・文法カテゴリー) 2. 品詞の認定 名詞 (名詞の種類・述語名詞の形) 3. 動詞 1 (動詞の種類) 4. 動詞 2 (活用体系) 5. 形容詞 (形容詞の種類・活用) 6. 副詞 接続詞 感動詞 その他 7. 品詞の転成 品詞のまとめ 8. 格 9. テンス・アスペクト① 10. アスペクト② 11. ヴォイス動詞 12. 可能動詞 述語内部の語順 13. とりたて 14. 敬語 15. 形態論のまとめ②	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援ポータルサイトに掲示される資料を、各自印刷して持ってくること。 参考文献：鈴木重幸『日本語文法・形態論』むぎ書房		①学期末テスト (80～90%) * ②出席 (10%) 3 分の 2 以上の出席が必要 *受講者数によっては、授業への参加度も加味する。(10%)	

08 年度以降	ことばと思想 1 (日本語文法統語論)	担当者	松浦 恵津子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ 春学期の日本語文法形態論を先に履修しておくことが望ましい。		1. 文の組み立て 文の成分どうしの語順 2. ヴォイス① (受身文) 3. ヴォイス② (使役文・使役受身文) 4. その他のヴォイスに関連する構文 5. モダリティ① 6. モダリティ② 7. 終助辞の用法 8. 授受の構文 9. 存在文と所有文 10. 主語につく「は」と「が」① 11. 主語につく「は」と「が」② 12. 重文と複文① (中止形接続・連体修飾節) 13. 複文② (時間節・条件節) 14. 複文③ (名詞節・従属節の従属度) 15. 統語論のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援ポータルサイトに掲示される資料を、各自印刷して持ってくること。 参考文献：高橋太郎『日本語の文法』ひつじ書房		春学期と同じ	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想1(社会思想史1)(東洋古代から近世まで) 社会思想史a(東洋古代から近世まで)	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉え、実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史aでは、古代インド、中国思想を中心に、日本における神道ならびに仏教思想をも含めながら、おおよその区分として十三世紀までを視野に入れることになる。		1. (インド)アーリア人とヴェーダの宗教 2. (インド)ウパニシャッド哲学の思想 3. (インド)ウパニシャッド哲学と原始仏教の思想 4. (インド)原始仏教 5. (インド)原始仏教 6. (インド)仏教とヒンドゥー教の思想 7. (中国)孔子と論語 8. (中国)孔子と論語の思想と墨子の兼愛 9. (中国)老荘思想 10. (中国)儒教と老荘思想 11. (中国)儒教の意味 12. (日本)無常思想 13. (日本)無常思想 14. 中世の東洋思想のまとめ 15. 中世の東洋思想のまとめと質問	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		出席とレポートによる評価	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想1(社会思想史2)(東洋近世から現代まで) 社会思想史b(東洋近世から現代まで)	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉え、実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史bでは、インド、中国、さらには両者に影響を与えた、回教の伝来に伴う思想的変化をも考慮に入れた近現代の思想、そして日本の近現代思想を扱う。		1. (インド)仏教哲学 2. (インド)仏教哲学 3. (インド)仏教哲学 4. (インド)ガンジー非暴力思想と現代 5. (中国)宋学Ⅰ 6. (中国)宋学Ⅱ 7. (中国)宋学Ⅲ 8. (中国)宋学Ⅳ 9. (中国)宋学Ⅴ 10. (日本)本居宣長の思想 11. (日本)本居宣長の思想 12. (日本)京都学派の哲学 13. (日本)京都学派の哲学Ⅱ 14. (日本)京都学派の哲学Ⅲ 15. 東洋思想史の現代的意義と質問	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		出席とレポートによる評価	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 1) (中世の仏教と社会) 歴史学 a (中世の仏教と社会)	担当者	新井 孝重
講義目的、講義概要		授業計画	
◎中世の人々の暮らしの中に、宗教が色濃く影を落とした時代であったといわれている。この講座では、平安末期の源平争乱で焼け落ちた東大寺と、これを再建した勸進聖重源の活動を観ることによって、中世社会に果たした仏教の役割を考えたい。 (1) 東大寺を再建した男 (2) 重源の時代 (3) 信仰と経済		① 炎上する東大寺 ② 誰の力に頼るか ③ 重源の業績 ④ 木材をどこから運ぶか ⑤ 出現した大群衆 ⑥ 雨を突いて伊勢へ ⑦ 重源の記憶 ⑧ 法然と重源 ⑨ 合戦の中の黒田荘 (くろだのしょう) ⑩ 天変地妖 (てんぺんちよう) と飢餓・疫病 (えきらい) ⑪ 源平合戦の余燼 ⑫ 聖の社会事業 ⑬ 新しい経済社会の出現 ⑭ 後生の約束 ⑮ 「荘園」外の経済	
テキスト、参考文献		評価方法	
新井孝重『黒田悪党たちの中世史』(NHK ブックス) (教科書を必ず携えて授業にのぞむこと)		試験成績による	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 2) (中世の「悪党」と民衆) 歴史学 a (中世の「悪党」と民衆)	担当者	新井 孝重
講義目的、講義概要		授業計画	
◎ 中世は一揆の時代であるとも言われている。本講座では伊賀国の黒田荘に展開した中世後期の村の自治生活を、敵対する戦国大名の動きとの関係で観察する。地域自治とは何か、という問題を通じて民主主義の基礎を歴史的に考えたい。 (1) 戦乱の中の伊賀 (2) 自立する村 (3) 戦国のコンミュン		① 伊賀国の南北朝内乱 ② 錯綜する地侍の行動 ③ 大規模な合戦は続けられない ④ 国人領主の出現 ⑤ 自立する村 ⑥ 南都への志向 ⑦ 悪党たち、起請文を提出 ⑧ タテの力とヨコの力 ⑨ 惣国のコンミュン ⑩ 内部の規律と「平和」 ⑪ 織田信長軍、伊賀へ侵攻 ⑫ 崩れ去る惣国・中世の黄昏 ⑬ 兵農分離と石高制 ⑭ 中世民衆の共同体をどうみるか ⑮ 荘園史のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
新井孝重『黒田悪党たちの中世史』(NHK ブックス) (教科書を必ず携えて授業にのぞむこと)		試験成績による	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化Ⅰ（日本文化論） 歴史と文化(Ⅲ)（日本文化論）	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
日本は世間一般がぼんやりと信じているような単一民族国家でもないし単一言語国家でもない。当然そこに見られる「文化」も決して単純で直線的な、いわば教科書記述的な歴史を持っているわけではない。そしてそれは日本に限ったあり方でもない。 文化とは、「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。 「日本」が含む諸地域の持つ文化的特徴を「歴史的複合重層性」ととらえ、周辺諸地域（朝鮮半島・ユーラシア大陸・南島諸地域）との文化交流によって複合し、新たな形態を産み出していく文化のあり方と、ある時代に盛期を迎えた典型的な文化的特徴が積み重なり、時代を超えて重層化するあり方が現在の文化を形作っているという立場から、海外との交流、国内交流、文字表記、振る舞い、季節感、信仰、文芸、美術・建築、芸能、思想、東西・都鄙観などの諸分野を概観し、具体例を示して講義していく。		1 オリエンテーション・導入 2 文化と文明…政治と現実 3 日本文化の歴史的複合重層性…特殊な回帰性 4 日本は閉鎖的な国か？ 5 日本人の振る舞い①…歩き方 6 季節感…「四季」の嘘と作られた感受性 7 文字の輸入…漢字・片仮名・平仮名 8 ものの行き来、人の行き来 9 日本人の振る舞い②…正直・清潔・契約 10 律令の輸入…「天皇」と「国家」 11 「鎖国」…開かれていた国「日本」 12 明治維新の文化史的意味付け…「和魂洋才」 13 「日本」はいつから「日本」か？ 14 「日本人」の暮らしと死生観 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【参考文献】日本史年表と国語便覧（大学受験程度の内容、どこの出版社のものでも可、できれば図版を多く載せるもの、世界史との対照ができるもの）		学期末試験（論述式）の成績による。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (文化人類学 a) 文化人類学 a (未開文化の理解へ)	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
文化人類学は 19 世紀後半、当時の西欧社会によって 'primitive' と表現された (日本では、おおむね「未開」と表現されてきた)、極めて異なった文化をもつ社会の研究として始まった学問である。現在こうした文化は消滅しつつあるが、今までの資料によってこれを追求してゆくことは、文化の多様性を知る上で無駄ではないだろう。春学期は、この学問の誕生までの経緯、対象、視点などを前半で簡単に述べ、後半はこうした文化の事例と、その理解について説明する。 注: 文化人類学の研究対象は上に述べたように「未開社会」、つまりわれわれの視点からすると、「遅れた」あるいは「非科学的」な社会です。またその文化は、現在の世界の画一化のなかでどんどん消滅しつつありますし、消滅してしまったものもたくさんあります。自分がそういうものに興味があるのか、よく考えて取るかどうか決めてください。		1 どんな学問か 2 概説書の紹介 3 文化人類学誕生まで (1) 4 同上 (2) 5 同上 (3) 6 文化人類学の誕生 7 研究対象としての「文化」の概念 8 分析の視点——歴史的視点 9 歴史的視点から現在の視点へ 10 この回以降は文化の事例とその理解について話す、具体的に話に出す事例は、流れのなかで決めてゆく。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		定期試験期間中の試験による。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (文化人類学 b) 文化人類学 b (未開文化の理解へ)	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
a で話したことを基礎に、まず「異文化」(「未開」文化)を明らかにしてゆく文化人類学の方法について述べる。そのあとこうした文化の事例を具体的に示し、それをどのように理解するかを明らかにする。また文化人類学はその理解の過程でわれわれ自身の文化について意識化し、批判を加える努力もしてきた。その点についても話ができればと思う。 注: 強制はできませんが、なるべく春学期の a を受講した人が取ってくれることを望みます。		1 方法としての実地調査 (1) 2 同上 (2) 3 この回以降は文化の事例とその理解、またそれを通して可能になる自文化の意識化について話をする。具体的に話す事例は、今のところ、「生業」数回、「成人式」数回を予定しているが、これに加えていずれも映像 (ビデオ) を見てもらう機会を 3 回ほど用意している。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		定期試験期間中の試験による。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (異文化社会の認識と世界観 b) 歴史と文化 (Ⅲ) (未開人の認識 b)	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
わたしの専門の文化人類学で「異文化」と言えば「未開の文化」を指すことをまずはっきり認識しておいてもらいたい。この文化では、事物についての認識の仕方でも世界観も、われわれ（文明）のそれとは全くちがったものをもっている。こうした「未開」文化の完全な理解などあり得ないが、われわれの認識の仕方を剥ぎ取りながら、その理解に迫ることは可能である。その一端を明らかにし、「異文化」としての「未開文化」の理解に供したい。 注：文化人類学の単位を取ったか、「未開」の文化に興味をもっているかする人が受講するようにしてください。そうしないと、どうしてそんなバカなことを考えたりするんだ、と感じ、それだけでばかばかしく嫌になってしまいかねません。		詳細な内容も回数も明示できないが、「時間」「空間」「色彩」についての認識、「創世神話」「祖先崇拜」「象徴的二元論」に表れる世界観、といったテーマを考えている。このなかから三つないし四つを取り上げて話す予定である。こういう現象を通して「未開」社会の人々の、われわれとは「異なった」認識の仕方を理解できるように、また「世界観」を見ることができるようになりたい。またそうすることによってわれわれの認識の仕方や世界観の特徴を少しは客観化して考えることができるようになるだろう。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		受講者が多ければ（例えば 50 人以上なら）定期試験中の試験によるし、少なければ（例えば 30 人程度なら）レポートにすることもありうる。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化Ⅰ(英語圏の小説 a) 歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の小説 a)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：次の三点を焦点に、world literature を視野におきながら英語圏の小説について考えます。 1. 小説というメディアが、異なる時代、異なる文化のなかでどのように産出され、受容されてきたか。 2. 英語圏拡大の歴史とポストコロニアルの文学地図。(言語についても考察します) 3. 歴史と世界のひろがりのなかで、テキスト同士が、あるいはテキストと現実とがいかに響きあっているか。 講義概要：小説という表現媒体が確立しはじめた17世紀末、18世紀はじめから現代まで、ほぼ時間軸にそって講義を進めますが、必要に応じて時代を行きつ戻りつすることがあります。講義で使用するテキストは、事前に配布しますので、必ずあらかじめ読んでおいてください。 注意事項:TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。		1. 新奇なるもの、小説？ (1) 2. 新奇なるもの、小説？ (2) 3. 英語圏の拡大 (1) 4. English Bestsellers of all time (1) 5. English Bestsellers of all time (2) 6. 英語圏の拡大 (2) 7. 国民文学と政治的無意識 8. 小説の新たな挑戦 (1) 9. 小説の新たな挑戦 (2) 10. 語り返す言葉たちの登場、ポストコロニアルの文学地図(1) 11. ポストコロニアルの文学地図 (2) 12. ポストコロニアルの文学地図 (3) 13. ポストコロニアルの文学地図 (4) 14. テキストの思わぬ旅路 (1) 15. テキストの思わぬ旅路 (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウトを使用します。参考文献については、授業内で紹介します。		出席 30% 定期試験 70%	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化Ⅰ(英語圏の小説 b) 歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の小説 b)	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 アメリカ小説の特徴・概略を知り、「主要な」作家たちの作品にできるだけ直接触れる(小説、短編小説などの抜粋を実際に読んでもらう)ことで学生諸君にアメリカ小説の魅力を発見してもらい、小説を通じてアメリカの文化を考える。 講義概要 まず、アメリカ小説の歴史、概略を解説し、その後、リアリズム小説、モダニズム小説、現代の多文化共生を意識した黒人作家・ユダヤ系作家などの代表的な小説を取り上げ、鑑賞、解説を試みる。配布された作品(抜粋)の理解を深めることに重点を置く。 講義形式が主であるが、希望があれば、学生諸君による作家や作品に関するプレゼン形式も採り入れる予定。 なお、昨年度単位取得者の履修は許可しません。		1：アメリカ小説の概略(歴史・文化・社会) 2：アメリカ小説の創生期 3：アメリカン・ルネッサンス 4：リアリズム小説1(第一世代と第二世代のリアリズム作家たち) 5：リアリズム小説2(Mark Twain と <i>The Adventures of Huckleberry Finn</i>) 6：リアリズム小説3(Naturalism) 7：モダニズム小説1(アメリカ小説のモダニストたち) 8：モダニズム小説2(William Faulkner と "That Evening Sun") 9：モダニズム小説3("That Evening Sun") 10：モダニズム小説4(William Faulkner と <i>The Sound and the Fury</i>) 11：多文化主義小説1(多文化主義とアメリカ小説) 12：多文化主義小説2(黒人作家とユダヤ系作家) 13：多文化主義小説3(Bernard Malamud と "The First Seven Years") 14：多文化主義小説4("The First Seven Years") 15：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：プリントを使用 参考書：随時、授業にて紹介する		定期試験とメールによる作品理解のための複数回のミニレポート。定期試験を重視する。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (日本思想史 1) 歴史と文化(Ⅲ)(日本思想史 a)	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
1. 思想に触れることの意味と、歴史を理解することの意味をつかむ。 2. 古代から中世に至る日本思想史の概略的な流れを理解する。 3. 現代の私たちを奥深く規定している日本の諸思想について考察する。 4. 「日本」と「日本文化」について、様々な角度から客観的に考える。 かなりの分量と数量の文献を読み、学期途中のレポート作成も数回あるので、意欲的に参加されたい。 日本語を母語としない学生は、少なくとも「<u>上級日本語Ⅱ</u>」の単位を取得していること。受講にあたってはサポートの必要が出てくるので、初回の授業で必ず申し出てください。 古文や漢文を資料として用いるなど、かなり難解と思われるので、相当量の準備と復習を必要とすることをあらかじめ承知しておいて下さい。		1 講義の進め方の説明 2 古代から近世までの思想史の概略 3 日本文化の特質について 4 『古事記』の思想 5～6 仏教の思想 7 日本の近世思想の概略／江戸という時代 8～9 儒学の思想 10 朱子学と日本 11 貝原益軒の思想 12 荻生徂徠の思想 13 水戸学の思想 14 武士道について 15 幕末維新期の思想／民衆の思想	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システムを利用して配布するプリント類による／参考文献は、適宜紹介する。		授業レポートシステムを利用して、毎回学んだことを記述してもらい、出席を管理する。その出席と中間レポート提出を 6 割以上クリアすれば、最高で B 評価だが、さらに最終レポートを提出すれば、最高 AA 評価とする。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (教育の歴史 2) 歴史と文化(Ⅲ)(教育の歴史 b)	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 教育の本質を理解するために、自らの教育観を相対化しつつ、さまざまな基本的概念を学び、教育に対する考え方の基礎を養います。 【概要】 1. 教育の思想と歴史の概略を基礎として、子どもの権利条約や教育基本法等を素材にし、人権と子どもの権利、能力の問題、義務教育等の、教育において基本的な概念や考え方を学びます。 2. 教育と学習との関係を、ビデオ、教育の時事問題や教育実践などを教材として、様々な角度から考えていきます。		第 1 回：講義の進め方の説明 第 2 回：学力問題の国際比較（ドイツの事例） 第 3 回：習熟度別学級編成の問題 第 4 回：学力問題の国際比較（フィンランドの事例） 第 5 回：系統学習と問題解決学習について 第 6 回：「学力低下」と学力テストについて 第 7～9 回：戦後の教育の思想と歴史 第 10 回：「能力に応じた」教育を考える 第 11 回：教育における競争と自由の問題を考える 第 12 回：子どもの権利条約の精神 第 13 回：子どもに固有する権利と人権 第 14 回：子どもとはどういう存在か（系統発達と子どもの発見） 第 15 回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ポケット版 子どもの権利ノート』（300 円） 参考文献は、授業中適宜紹介します。授業資料は講義支援システムを利用して配布します。		授業内試験結果に、授業レポートシステムを利用したレポートや感想文を加味します。実施した場合には小テストの点数等も加味します。出席は 6 割以上、授業内試験の受験を必須とします。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以前 07 年度以降	歴史と文化Ⅰ(日韓交流史) 歴史と文化(Ⅲ)(日韓交流史)	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
日本と朝鮮半島の間では、古くからさまざまな面での交流が行われてきており、両地域は政治・経済的にばかりでなく、社会・文化的にも密接な関係にあるといえる。本講座では、古代から近現代に至るまでの両地域間における交流の歴史を概観する。その際、抽象的な議論に終始しないよう、具体的な「出来事」を中心に講義を進めていく予定である。また、その過程における双方への「まなざし」(あるいは相互認識)のあり方やその変化についても焦点を当てていく。		1. ガイダンス 2. 韓国の歴史の流れ 3. 王仁博士と漢文 4. 日本の中の百済文化 5. 高麗時代の社会状況 6. 『三国史記』と『三国遺事』 7. 朝鮮通信史① 8. 朝鮮通信し② 9. 豊臣秀吉と李舜臣 10. 申叔舟と雨森芳洲 11. 安重根と伊藤博文 12. 日韓併合① 13. 日韓併合② 14. 浅川巧と韓国 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布する。 参考文献：授業時に指示する。		最終レポート及び、感想文、小レポートなどを総合的に評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (大衆文化論) 歴史と文化(Ⅲ)(大衆文化論)	担当者	木本 玲一
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、特に20世紀以降のサブカルチャーについて理解を深めることを目指す。複製芸術の発展、それに関連した産業の成長は、文化、社会のありかたを大きく変化させてきた。講義では、主に20世紀のポピュラー音楽と隣接領域を対象に、文化、社会の動態について考察を深めていく。講義の軸は社会学である。		1 イン트로ダクション 2 20 世紀のサブカルチャー1 3 20 世紀のサブカルチャー2 4 20 世紀のサブカルチャー3 5 サブカルチャーとグローバル化 1 6 サブカルチャーとグローバル化 2 7 サブカルチャーとグローバル化 3 8 産業と文化 1 9 産業と文化 2 10 産業と文化 3 11 ヤンキー文化とオタク文化 1 12 ヤンキー文化とオタク文化 2 13 複合メディア社会とサブカルチャー1 14 複合メディア社会とサブカルチャー2 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時指定する。		試験によって評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 1)(イスラーム世界の成立と拡大) 歴史学 a (イスラーム世界の成立と拡大)	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義の目的) 西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、人々が何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。 (講義概要) 7 世紀における預言者ムハンマドの出現から 16 世紀にいたる歴史を概観し、広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。		1 イスラームの基本を説明する。 2 イスラーム誕生以前の西アジア世界について。 3 預言者ムハンマド (マホメット) の出現と時代背景。 4 最初の 4 人のカリフ (正統カリフ) の時代について。 5 ウマイヤ朝の歴史。ヴェルハウゼンの古典理論における「アラブ帝国」の意味。 6 アッバース朝の歴史。「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行の意味。 7 聖典コーラン。預言者の言行録ハディースと解釈。 8 アッバース朝時代から発達したアラビア科学と、中世におけるイスラーム神秘主義。 9 アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現した軍事政権とその展開について。 10 マムルーク朝について。とくにイクター制が西欧の封建制と比較される点。 11 同その 2 12 ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係。レコンキスタ、十字軍、大航海時代など。 13 同その 2 14 イスラーム教徒の生活と社会 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
とくにさだめない。授業で指示する。		毎回出席をとる。期末にレポート。レポートの表紙は授業で配布する。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 2)(イスラーム世界の近代化とその後) 歴史学 b (イスラーム世界の近代化とその後)	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義の目的) イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。 (講義概要) 後期はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係についても、理解が深められるようにしたい。		1 オスマン朝の成立と発展について。「完成されたイスラーム国家」の定義も検討する。 2 欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概述する。 3 西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容。 4 さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・スーフィズムなどの問題について考える。 5 エジプトの近代化とその過程について。考える。 6 トルコの近代化とその過程について。トルコナショナリズムとパン・イスラミズムの理解。 7 近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて考察する。 8 知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会について検討。 9 近・現代のアラブ世界の文化について考える。 10 今世紀のイスラーム世界について考える。 11 現在のアラブ諸国のかかえる問題、東西冷戦終結後における欧米諸国との関係を考える。 12 同その 2 13 旧ソ連におけるイスラーム。 14 イスラーム主義の主張と展開 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
とくにさだめない。授業で指示する。		毎回出席をとる。期末にレポート。レポートの表紙は授業で配布する。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1（東西の文化を結ぶもの） 比較文化論a（東西の文化を結ぶもの）	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
（講義の目的） 西アジア地域、とくにイスラーム勃興以降の時代について、歴史と社会を考察しながら、「西洋」と「東洋」のつながりに目を向けたい 今日の「東洋」という概念は、西洋側の主観が生み出した産物だが、ひとまずそこに気付いていただくことが目的である。 （講義概要） 授業計画に示したように4つのテーマを設定し、それぞれ3回ずつ講義する。そのなかで必要に応じて、テーマの背景となる歴史、宗教、文化への説明を加えてゆく。みなさんには、どれかひとつを選んで知識を深め、レポートにして提出していただく。なお、必要に応じて順序を入れ替えることがある。		1 A；ユダヤ教世界とキリスト教のひろがり。 その1 2 同 その2 3 同 その3 4 B；イスラーム教の広がり。イスラーム世界におけるさまざまな文化の融合のあり方。 その1 5 同 その2 6 同 その3 7 C；キリスト教の歴史とその展開 その1 8 同 その2 9 同 その3 10 D；イスラエルの歴史からみた、ユダヤ教・キリスト教・イスラーム教。その1 11 同 その2 12 同 その3 13 宗教の考え方 神秘主義 14 仏教とヒンズー教 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
〔参考書〕高橋正男『物語イスラエルの歴史——アブラハムから中東戦争まで——』（中公新書）		レポートによる レポートの表紙を授業で配布する。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1（東西文化と近代化） 比較文化論b（東西文化と近代化）	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
（講義の目的） 春学期と同じ。秋学期ではとくに「西洋化」が東洋における近代化であった点、それが生み出すさまざまな問題点を検討していくことが目的である。 （講義概要） 授業計画に示したように4つのテーマを設定し、それぞれ3回ずつ講義する。そのなかでは必要に応じて、テーマの背景となる歴史、宗教、文化への説明を加えてゆく。みなさんには、どれかひとつを選んで知識を深め、レポートにして提出していただく。なお、必要に応じて順序を入れ替えることがある。		1 E；大航海時代と世界の一体化。アジアとヨーロッパの出会い。 その1 2 同 その2 3 同 その3 4 F；アジアにおけるさまざまな近代化。 その1 5 同 その2 6 同 その3 7 G；帝国主義とイスラーム世界。イスラエルにおける中東問題。その1 8 同 その2 9 同 その3 10 H；現在のイスラエル、旧ソ連諸国、旧ユーゴスラビア諸国における民族・宗教意識の関連。 その1 11 同 その2 12 同 その3 13 イスラーム法とその解釈 14 イスラーム主義とそのゆくえ 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
〔参考書〕高橋正男『物語イスラエルの歴史——アブラハムから中東戦争まで——』（中公新書）		レポートによる レポートの表紙を授業で配布する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (スペイン・ラテンアメリカの社会文化) 歴史と文化(Ⅲ) (スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	担当者	兒島 峰
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目標) この講義の目標は、ラテンアメリカの社会と文化の特徴を歴史的な形成過程と地理的状況とともに学び、現在におけるラテンアメリカ文化と社会との関係について理解することにある。 (講義概要) ラテンアメリカとは何か、今日のラテンアメリカの特徴はどのように形成されてきたのか、また、ラテンアメリカと呼ばれる地域の相違について理解を深めることを目標とする。ラテンアメリカの社会と文化について、いくつかのトピックに分けて、地域ごとの特徴を提示しながら説明する。毎回、映像などの具体的な資料を提示し、その資料をもとに授業計画に沿って授業を進める。 (受講生への要望) スペイン語の知識は必ずしも必要としない。ラテンアメリカの社会と文化に対する関心と学ぶ意欲が重要である。		1. オリエンテーション 受講上の注意 2. ラテンアメリカに関する基礎知識 3. ラテンアメリカの全体的特徴 4. ラテンアメリカの社会構造 その1 5. ラテンアメリカの社会構造 その2 6. ラテンアメリカにおける“人種”概念 7. ラテンアメリカにおける男と女 8. ラテンアメリカ各地域における異なる男女観と人種概念 9. 先住民文化 10. 文化的差異 11. ラテンアメリカにおける国家の概念 12. ラテンアメリカにおける国民の概念 13. 国際社会におけるラテンアメリカの位置づけ 14. 今日のラテンアメリカと今後の展望 15. 論述試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献については授業中にその都度指示する。		学期末に行なう筆記試験を中心に評価する。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化Ⅰ（日本事情とコミュニケーション教育） 歴史と文化（Ⅲ）（日本事情とコミュニケーション教育）	担当者	小山 慎治
講義目的、講義概要		授業計画	
日本における時事問題について、異文化理解、多文化共生、および外国人に対する日本語教育に関する話題を中心に授業を展開します。具体的には、外国人の定住化の問題について扱います。特に、いわゆるニューカマーと呼ばれる新来外国人の受け入れの背景を知った上で、定住化する外国人のソーシャルサポートのあり方を通じ、多文化共生の可能性について考えます。 また、授業においては、日本社会での異文化理解、多文化共生に関する諸問題をテーマとした調査活動および発表、グループディスカッションを適宜取り入れる予定です。これらの活動は基本的にグループ単位で行う予定なので、積極的に活動に参加し、クラスを活性化してくれる学生を特に歓迎します。		1 オリエンテーション 2 多文化共生社会とは 3 外国人労働者の受け入れの歴史の変遷と現状① 4 外国人労働者の受け入れの歴史の変遷と現状② 5 外国人労働者の受け入れの歴史の変遷と現状③ 6 外国人労働者の受け入れの歴史の変遷と現状④ 7 留学生受け入れ政策① 8 留学生受け入れ政策② 9 外国人児童① 10 外国人児童② 11 ソーシャル・サポート 12 調査と発表活動① 13 調査と発表活動② 14 日本社会と多文化共生 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：特に指定しない 参考文献： 多文化共生キーワード事典編集委員会（編）『多文化共生キーワード事典（改訂版）』明石書店 2010年		出席(10%)、クラスへの貢献(10%)、クラスでの課題(20%)、および定期試験(60%)による総合評価	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降	歴史と文化 1 (歴史学 1) (文明史研究 a)	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 人間の諸活動の総体としての文明は、世界中に多様な形で存在しました。サミュエル・ハンチントンは、冷戦後の数々の国際紛争を文明の衝突としてとらえたのです。 しかし、本当に世界は文明単位で対立する状況なのでしょうか。こうした文明の概念の有効性を問い、これまでの研究史にふれながら、具体的な事例としてヨーロッパ文明の源流となったギリシア・ローマ文明に焦点を当て、考察を深めることを目的とします。 <講義概要> 古代にみられたそれぞれの文明について、戦争などの対立を契機に、それぞれの文明がどのように影響しあったのかを論じます。特に民主主義発祥の地、ギリシアの経済危機がヨーロッパ全体に影響を及ぼしている現状を踏まえ、今後の民主主義の在り方についても考察します。また、図像資料やビデオ映像も使用し理解を深めます。		1、 はじめに (講義の目的、概要、その他) 2、 クレタ文明 3、 ミケーネ文明 4、 トロイア戦争 5、 ギリシア文明 1 6、 ギリシア文明 2 7、 ペルシア文明 8、 ペルシア戦争 9、 ペロポネソス戦争 10、 マケドニアとアレクサンドロス 11、 ヘレニズム文明 12、 ローマの対内外戦争 13、 ローマ文明 1 14、 ローマ文明 2 15、 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します。		学期末のレポート及び小レポートさらに出席点を加えて総合的に評価します。	

08 年度以降	歴史と文化 1 (歴史学 2) (文明史研究 b)	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 現代社会はヨーロッパにおけるEUの統合や多文化の共存、さらには経済活動のグローバル化とあいまって、これまでの歴史像を大きく変えてきました。本講義ではシュペングラーやトインビーの文明論を概観し、文明の世代交代としての範型として、ヨーロッパ文明について考察します。ギリシア・ローマ時代に体现された古典文明がその後どのように伝播されていったのかを辿ります。 <講義概要> 文明論の一環としてのヨーロッパの歴史をとりあげたいと思います。 エウロペ神話からはじめ、ヨーロッパとは何かを論じます。ヨーロッパ文明が思想的にも物質的にもどのような形で世界の他地域へ伝播され、受容されていったかを検証します。特にアジアやアフリカの視点からもヨーロッパがどのような存在であったかを検討し、平和的共存のためにヨーロッパに求められていることは何かについても考察します。また図像資料やビデオ映像を使用し理解を深めます。		1、 はじめに (講義の目的、概要、その他) 2、 ヨーロッパとは何か 3、 ヨーロッパ文明の源、ギリシア文明 4、 アレクサンドロス大王とヘレニズム文明 5、 ローマ帝国の意味 6、 中世フランク王国 7、 イタリア・ルネサンス 8、 大航海時代 9、 植民地を求めて 10、 植民地の争奪 11、 第一次世界大戦 12、 大戦後のヨーロッパ 13、 ヨーロッパ統合の思想 14、 講義のまとめ (1) 15、 講義のまとめ (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します。		学期末レポートと小レポート、さらに出席点を加えて総合的に評価します。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化Ⅰ（韓国文化各論c） 歴史と文化（Ⅲ）（韓国文化各論c）	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
音楽とは、人間の感性に直結するものであり、それだけ文化の根底に根ざしているものです。本講義では韓国の音楽を講義することにより、韓国文化を理解することを目的とします。音楽といっても幅広いですが、本講義では民謡、伝統音楽といった古典から、トロット（ポップな演歌）、80-90年代のポップス、そして宗教音楽やアニメなどを取り扱います。（残念ながら、少女時代、2NE1、KARAといった、現代の楽曲は扱いません） 講義方法は、それぞれのジャンルの中の代表的な楽曲を取り上げて鑑賞した後、楽曲の構成や時代背景を解説し、理解を深めます。その後、講師と参加者が一緒に歌います。ここがメインです。これにより韓国文化の一端を直接体得できるでしょう。 そのようなわけで、この講義には、①韓国文化に関心があり、②歌を歌うことが好きな人、の参加を歓迎します。韓国語の知識は、あれば良いですが、韓国語を勉強したことがない人でも一緒に歌えるように配慮します。		1. 講義ガイダンス 2. 民謡（1） 3. 民謡（2） 4. 伝統音楽 5. 愛国歌 6. トロット（1） 7. トロット（2） 8. ポップス（1） 9. ポップス（2） 10. ポップス（3） 11. アニメ 12. 宗教音楽 13. 軍歌 14. 朝鮮民主主義人民共和国の音楽 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは無し。プリントを配布して授業を進めます。参考文献は授業で随時紹介します。		毎回の小レポート（30%）、期末試験（70%） ※参加人数によっては歌を試験に課す可能性もあります。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化Ⅰ(ラテンアメリカ研究入門) 歴史と文化(Ⅲ)(ラテンアメリカ研究入門)	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、ラテンアメリカを対象とした地域研究入門の授業である。スペイン語履修者が知らなければならないラテンアメリカに関する基礎知識を修得して、ラテンアメリカの特徴や魅力、抱えている課題についての理解を深めることを目的としている。 高校での地理、世界史などの授業においてラテンアメリカの項目は限定されているが、それでもいくつかの重要項目については教えられている。この授業では、それらの基礎知識を(再)確認するとともに、ラテンアメリカの人々の生活や社会の現状について歴史的背景を含めてより深く知る場としたい。佐藤と浦部で担当する。		佐藤担当 1 導入:「ラテンアメリカ」とは 2 ラテンアメリカの「人種」エスニック集団と言語状況① 3 ラテンアメリカの「人種」エスニック集団と言語状況② 4 ラテンアメリカ史概説 独立まで 5 カリブ海地域の概要 歴史と社会・文化 6 メキシコ・中米地域の概要 歴史と社会・文化 7 現代ラテンアメリカの文化 :文学、音楽、絵画 浦部担当 8 環境と生活1:アンデスの自然環境と食料生産 9 環境と生活2:アマゾンの自然環境と資源利用 10 人と社会1:宗教・価値規範と人間関係 11 人と社会2:家族・大土地所有制と社会格差 12 政治と経済1:政治体制と人権・民主主義 13 政治と経済2:経済政策と貧困・社会公正 佐藤担当 14 米国のラテンアメリカ系住民 15 まとめ 佐藤担当	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献:増田義郎『物語 ラテンアメリカの歴史』(中公新書)		期末テスト、出席・発言など	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (恐怖の日本文学) 文学 a (恐怖の日本文学)	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目的) 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。テーマに応じて日本の古典文学や文学思潮まで幅広く言及する。 (講義概要) 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。春学期は「恐怖の現代文学」と題して、恐怖や苦悩を扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。また、現代人と先人との相違まで考察する。 (受講者への要望) 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しさを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。		第1回 恐怖の現代文学のアウトライン 第2回 ①伝統的手法による恐怖の造形 第3回 ② 同上 第4回 ③ 同上 荒俣宏「帝都物語」 京極夏彦「魍魎の匣」 坂東眞砂子「死国」 他 第5回 ①超自然的事象の題材からの造形 第6回 ② 同上 第7回 ③ 同上 梅原克文「二重螺旋の悪魔」 鈴木光司「リング」「らせん」 瀬名秀明「パラサイトイヴ」 他 第8回 ①心理学的な題材からの造形 第9回 ② 同上 第10回③ 同上 貴志祐介「黒い家」 桐野夏生「OUT」 他 第11回①社会派ミステリーからの造形 第12回② 同上 宮部みゆき「模倣犯」 東野圭吾「容疑者Xの献身」 他 第13回 まとめ (総集編) 第14回 まとめ (総集編) 第15回 まとめ (総集編)	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度、紹介する。		レポート (定期試験)	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (日本文学現代) 文学 b (癒しの日本文学)	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目的) 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。 (講義概要) 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。秋学期は「癒しの現代文学」と題して、癒しややさしさを扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。 (受講者への要望) 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しさを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。		第1回 ガイダンス 第2回 ①人間関係からの癒し 第3回 ② 同上 第4回 ③ 同上 重松清「ビタミンF」 浅田次郎「鉄道員」 恩田陸「夜のピクニック」 佐藤多佳子「一瞬の風になれ」 他 第5回 ①時間からの救い 第6回 ② 同上 第7回 ③ 同上 浅田次郎「地下鉄に乗って」 北村薫「スキップ」「ターン」 佐藤正午「Y」 他 第8回 ①笑いの持つ救い 第9回 ② 同上 第10回①美しい生き方 第11回② 同上 第12回①原作を映像で見る 第13回② 同上 第14回 まとめ (総集編) 第15回 まとめ (総集編)	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度、紹介する。		レポート (定期試験)	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化1 (歴史学 2) (アメリカのエスニック・ヒストリー) 歴史学 b (アメリカのエスニック・ヒストリー)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の前半ではユダヤ人たちがアメリカに渡る以前のヨーロッパでの「負け犬」時代を学ぶ。特にユダヤ人差別の発生メカニズムについて解明する。 後半では「負け犬」だったユダヤ人たちが僅か 60 年程の間に強力なパワーエリート集団へと変身できた秘密を探る。 ※この欄は春学期です。		1. 中世英国のユダヤ人金融 2. 西洋キリスト教世界初の一国規模のユダヤ人追放が行われた原因を探る —1290 年のイングランド— 3. 隠れユダヤ教徒の足跡、1290～1656 4. 千年王国思想とユダヤ人再入国 5. 17～18 世紀英国の外国貿易とユダヤ人 6. 英国人地主貴族社会への同化現象 7. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生のメカニズム 8. 英国ファシスト勢力との対決とナチス政権からの亡命ユダヤ人の受け入れ 9. ユダヤ・ロビーとオバマ政権 10. 検証、最強のユダヤ・ロビー AIPAC 11. 同床異夢の同盟、キリスト教右派とユダヤ・ロビー 12. ユダヤマネーの仕組 13. 歴代政権とユダヤ人社会 1933～71 14. 歴代政権とユダヤ人社会 1972～2010 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『アメリカはなぜイスラエルを偏愛するのか』佐藤唯行 (2009 年 新潮文庫 438 円) 『英国ユダヤ人』佐藤唯行 (1995 年 講談社選書 1600 円)		評価は筆記試験によって決定する。出席はとりません。試験は自筆ノート、テキストの持ち込み可。 5 択 20 問の Quiz 形式	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化1 (歴史学 1) (アメリカのエスニック・ヒストリー) 歴史学 a (アメリカのエスニック・ヒストリー)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期では世界で最も典型的な多人種・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。 各人種・民族集団間相互のあつれきを生み出したメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。 こうしたアメリカ社会の努力は「外国人たちとの共生」の道を模索せねばならぬ我々日本人にとっても有益な示唆を与えるはずである。 下記二冊のテキストにそってアメリカの人種関係史について学ぶ。 ※この欄は秋学期です。		1. 先住民インディアン 2. 越境するヒスパニック 3. 今を生きる黒人 4. 歴史の中の黒人 5. 等身大のユダヤ人 6. 反ユダヤ主義とユダヤ系ギャングスター 7. アジア系—日系・中国系・韓国系— 8. ホワイト・エスニック—アイルランド系・イタリア系— 9. 異人種・異教徒間カップル 10. 大都市移民ゲッターのエスニック・コンフリクト 11. 自動車王ヘンリー・フォードの反ユダヤ・キャンペーン 12. 甦る儀式殺人告発、20 世紀アメリカで復活した中世ヨーロッパ起源の反ユダヤ主義 13. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 14. アメリカ南部における反ユダヤ主義、レオ・フランク事件 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行 (2000 年 集英社新書 680 円) 『映画で学ぶエスニックアメリカ』佐藤唯行 (2008 年 NTT 選書 1600 円)		春学期と同じ。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化Ⅰ(都市と建築Ⅰ) 歴史と文化(Ⅲ)(都市と建築Ⅰ)	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
木の文化に対して石の文化とも言われるように、西洋では我国の木造建築とは異なる石造建築の文化が広く発達してきた。本講義は、建築の歴史を通して西洋の文化の一面を知ることが目的とする。 西洋の建築の歴史は、過去の文化として記録されているのみでなく、現に存在する数多くの建築遺産を通して直接見ることもできる。本講義では、古代、中世および近世の西洋の建築の変遷を、それぞれの建築の意味を考えながら辿っていく。 なお、スクリーンに図面資料などを写しながら講義を進める必要から、受講生の定員を150名とする。		1. 講義概要の説明 2. 古代エジプトの建築1 3. 古代エジプトの建築2 4. 古代オリエントの建築1 5. 古代オリエントの建築2 6. エーゲ海建築 7. 中間のまとめ 8. 古代ギリシャの建築1 9. 古代ギリシャの建築2 10. 古代ギリシャの建築3 11. 古代ローマの建築1 12. 古代ローマの建築2 13. 古代ローマの建築3 14. 初期キリスト教建築 15. まとめ 以上の授業計画には多少の変更もありうる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は必要に応じて講義の中で紹介する。		試験の結果によって評価する。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化Ⅰ(都市と建築Ⅱ) 歴史と文化(Ⅲ)(都市と建築Ⅱ)	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
木の文化に対して石の文化とも言われるように、西洋では我国の木造建築とは異なる石造建築の文化が広く発達してきた。本講義は、建築の歴史を通して西洋の文化の一面を知ることが目的とする。 西洋の建築の歴史は、過去の文化として記録されているのみでなく、現に存在する数多くの建築遺産を通して直接見ることもできる。本講義では、古代、中世および近世の西洋の建築の変遷を、それぞれの建築の意味を考えながら辿っていく。 なお、スクリーンに図面資料などを写しながら講義を進める必要から、受講生の定員を150名とする。		1. 講義概要の説明 2. ビザンチン建築 3. イスラム建築 4. プレ・ロマネスク建築 5. ロマネスク建築1 6. ロマネスク建築2 7. ロマネスク建築3 8. 中間のまとめ 9. ゴシック建築1 10. ゴシック建築2 11. ゴシック建築3 12. ゴシック建築4 13. ルネサンス建築1 14. ルネサンス建築2 15. まとめ 以上の授業計画には多少の変更もありうる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は必要に応じて講義の中で紹介する。		試験の結果によって評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (中国史 a) 歴史学 a (中国近代史概説-清朝国家の黄昏)	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目標] この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。 〔講義概要〕 19 世紀前半、中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000 年間、王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。 清朝国家は体制存続のために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して、当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思います。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。 〔受講生への要望〕 教科書や講義中に配布した史料プリントを熟読すること。		1 講義の概要 2 清朝体制下の社会変動 3 アヘン戦争と冊封・朝貢体制の動揺 4 太平天国 5 体制の反撃 6 洋務運動 7 中体西用の諸相 8 開港場の社会と経済 9 周辺地域宗主権の喪失 1 10 周辺地域宗主権の喪失 2 11 琉球問題と台湾出兵 12 朝鮮をめぐる日中対立 1 13 朝鮮をめぐる日中対立 2 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』（中公文庫 S 22-19）中央公論新社，2008 年。		出席状況（20%）と期末定期試験の結果（80%）による。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (中国史 b) 歴史学 b (中国近代史概説-近代国家創成の試み)	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 この講義では、現代の中国と東アジアの国際関係をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。 〔講義概要〕 日清戦争の敗北によって清朝体制の存続は危機的状況に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々、さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し、また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどりながら、中華民国初期の近代国家建設の試みとその挫折を検証します。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。 〔受講生への要望〕 教科書や講義中に配布した史料プリントを熟読すること		1 講義の概要 2 日清戦争 3 台湾の割譲と台湾住民の抵抗 4 変法改革 5 戊戌の政変 6 キリスト教布教と仇教運動 7 義和団の蜂起 1 8 義和団の蜂起 2 9 纏足問題と天足運動 10 革命派の台頭 11 光緒新政と地方自治の試み 12 王朝体制の崩壊と中華民国の成立 13 第二革命と袁世凱政権の成立 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』（中公文庫 S 22-19）中央公論新社，2008 年。		出席状況（20%）と期末定期試験の結果（80%）による。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化Ⅰ(スペイン研究入門) 歴史と文化(Ⅲ)(スペイン研究入門)	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰでは、主にスペインの言語・地理・文化・歴史に関する講義を行う。特にスペイン語を学ぶものにとっては最低限知っておかなければならない基礎的知識の獲得を第一の目的とする。 講義は、スペインの歴史、地理、社会、言語事情の基礎を講義する。簡単な課題を与える場合がある。		1. 世界のスペイン語 2. イベリア半島の地理・言語状況 3. カタルーニャの言語文化 1 4. カタルーニャの言語文化 2 5. バスク、ガリシアの言語文化 6. アンダルシアの言語文化 7. イスラム・スペイン 8. 1492 9. フラメンコ・闘牛 10. スペイン黄金世紀 11. 18、19世紀のスペイン 12. 18、19世紀のスペイン 13. スペイン内戦とフランコ体制 14. スペインの民主化とヨーロッパ統合 15. 春学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		出席状況、定期試験によって評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化Ⅰ(民俗学) 歴史と文化(Ⅲ)(民俗学)	担当者	林 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちの生活はいきなり始まったものではなく、先祖から受け継がれてきたものである。その受け継がれてきた心意や価値観を解明するのが民俗学である。だからといって過去の問題として研究するものではない。現在にどのようにつながり、現在の我々の「存在」をどのようにして捉えることができるのかという目的のもとで研究が行われている。 本講義では民俗学の誕生のいきさつから始め、具体的にいくつかの問題を取り出し、これまでの研究成果を学び、自分たちの生活世界がどのようなものであったか、そしてそれが現在にどのように受け継がれているのかということを理解してもらいたいと思っている。		1 ガイダンス 2 民俗学の研究対象（具体的に） 3 国学から民俗学へ（民俗学の成立） 4 民俗学の研究と方法 5 日本の祭り 1（祭りの映像記録を見る） 6 日本の祭り 2 7 異界の問題 1（妖怪・幽霊とは何か） 8 異界の問題 2（日本の幽霊観） 9 異界の問題 3（妖怪と神の関係） 10 昔話にみる「日本」 11 年中行事 1（とくに正月をめぐって） 12 年中行事 2（とくに盆をめぐって） 13 人生儀礼（人の一生における様々な儀礼） 14 日本人の死生観 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時にプリント配布		試験による。ただし、4 回以上の欠席は評価の対象としない。また出席表配布後の入室は遅刻として扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とする。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化Ⅰ(地域文化) 歴史と文化(Ⅲ)(地域文化)	担当者	林 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
現在、特に都会では隣にどのような人が住んでいるのかわからない状況にある。しかし少なくとも江戸時代以降には、地縁的共同体が形成され、それにより個々の生活が支えられていた。その共同体を単位として受け継がれてきた。 阪神淡路大震災において、地縁的共同体が相互の助け合いに大きく役立ったという報道がなされている。また東日本大震災では「地域」移転の問題が大きく報じられている。 現在では都市化やネットの普及で、近隣との縁が薄くなった現実があり、従来の「地域」が崩壊しているといえる。その中での阪神淡路大震災での「地域」の役割は興味深いものがあるだけではなく、東日本大震災での「地域」移転による生活の変化、文化の変化を他人事のように捉えることはできない。 本講義では従来の「地域」がどのようなものであり、どのように機能してきたか、そして現在ではどのように機能しているか、祭りや実際の「地域」構造を例示しつつ説明するものである。本講義により、「地域」とは何か、また崩壊したといわれる地縁性をどのようにすればよいのか、「地域」の再生か、再生せずに別の在り方があるのか考えるきっかけになればと思う。人は一人では生きていけないのである。		1 ガイダンス 2 地名の成り立ちと地域（地域差の問題） 3 地域形成と生活構造 4 白川郷の「結」（ビデオと解説） 5 地域認識の問題（地名と地域の関係） 6 地域文化としての祭り 7 地域の重層的構成 8 内的他者とその機能 9 伝統的祭りの方向性 1（過疎地域の問題、具体例を通して） 10 伝統的祭りの方向性 2（都市地域の問題、具体例を通して） 11 文化圏としての地域文化（ビデオと解説） 12 地域文化とフォークロリズムの問題 13 地域文化と新興の祭り（伝統的「地域」を離れた祭り。ビデオと解説） 14 地域とボーダレス社会（現在にとって地域とは何か、シャッター商店街、子どもへの目の問題も含めて）、 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時にプリント配布		試験による。ただし、4 回以上の欠席は評価の対象としない。また出席表配布後の入室は遅刻として扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とする。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (日本文学古典) 文学 a (日本文学—奈良時代の文学を読む)	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテキストを取り扱うことは不可能なので、春学期は奈良時代の文学テキストについて講義する。 講義概要 奈良時代の文学テキストの代表的なものは、古事記・万葉集・風土記である。この中で、興味が持てそうなストーリーを持った、古事記・風土記に載せられている神話伝説を取り扱う。具体的には、古事記のヤマタノヲロチ神話を題材として、上代と現代の人々の自然観の違いについて話をしていきたい。それに際して、同一のテーマを扱った現代の作品として、宮崎駿の「もののけ姫」や「水爆大怪獣ゴジラ」(時間があれば…)についても扱うことを予定している。		1 神話とは何か 2 ヤマタノヲロチ神話を読む① 3 ヤマタノヲロチ神話を読む② 4 ヤマタノヲロチ神話を読む③ 5 ヤマタノヲロチ神話を読む④ 6 日本人遙かな旅を見る① 7 日本人遙かな旅を見る② 8 宮崎駿「もののけ姫」を見る① 9 宮崎駿「もののけ姫」を見る② 10 宮崎駿「もののけ姫」を見る③ 11 宮崎駿「もののけ姫」を見る④ 12 宮崎駿「もののけ姫」を見る⑤ 13 「水爆大怪獣ゴジラ」を見る① 14 「水爆大怪獣ゴジラ」を見る② 15 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト なし 参考文献 授業時に指示する		試験(持ち込み不可)・レポート・出席の総合点によって決める。	

08 年度以降 07 年度以降	歴史と文化 1 (平安時代の文学を読む) 文学 b (日本文学—平安時代の文学を読む)	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテキストを取り扱うことは不可能なので、秋学期は平安時代の文学テキストについて講義する。 講義概要 平安時代の文学テキストは数多く残されているが、この講義では「異郷訪問譚」というキーワードのもとに、『伊勢物語』『源氏物語』を取り扱う。また、同じ「異郷訪問譚」の構造を持つ現代のファンタジーである「千と千尋の物語」を取り扱うことによって、上代・中古と現代の人々との間の運命観の違いについて話をしていきたい。		1 異郷訪問譚とは何か① 2 異郷訪問端とは何か② 3 伊勢物語を読む① 3 伊勢物語を読む② 4 源氏物語を読む① 6 源氏物語を読む② 7 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る① 8 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る② 9 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る③ 10 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る④ 11 源氏物語を読む③ 12 源氏物語を読む④ 13 源氏物語を読む⑤ 14 源氏物語を読む⑥ 15 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト なし 参考文献 授業時に指示する		試験(持ち込み不可)・レポート・出席の総合点によって決める。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化Ⅰ（文化史入門） 歴史と文化（Ⅲ）（文化史入門）	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> グローバル化した現代社会にあって、私たちは自分の帰属意識や自己認識に揺らぎを感じ、改めて自分のアイデンティティの確立の必要性を意識します。そのとき、自分が育ち、身に付けた文化が大きな役割を果たします。文化は、狭義にはさまざまな文化遺産や文化事象そのものを意味しますが、広義にはそれら文化遺産や文化事象を包括しつつ、歴史的に形成されてきた生活や思考の様式を意味し、そこに体现された社会や集団の個性や特質をも表わす概念です。本講義では、どちらも歴史的総体として考えねばならないとの問題関心から、個別文化事象も生活・思考様式もいかなる具体的な歴史社会と密接に結びついているかを古代ギリシア・ローマ世界を例にとりあげ、自己の帰属意識や自己認識にとっていかに文化理解が不可欠であるかを明らかにすることを目的にしています。 <講義概要> 本講義では、古代地中海世界で体现された技術文化、造形芸術、文学・演劇などの個々の文化事象（狭義の文化）とそれらを生み出した社会との関係を示した後、宗教と祭祀、世界観、性愛、競争的人間類型などの生活や思考様式（広義の文化）がどのように歴史的に作り上げられていったかを見ます。		1 はじめに（講義の目的、概要、その他） 2 技術文化（その1）：動力とエネルギー源 奴隷労働は生産的であったか？ 3 技術文化（その2）：水の供給・処理と農業・牧畜 水道橋にかけるローマ人の執念 4 運送手段（その1）：船と海上輸送 古代の戦艦「三段櫓船」の脅威 5 運送手段（その2）：陸上輸送 古代の「一般道」と「高速道路」 6 造形芸術：建築と彫刻 アルカイック・スマイルの謎 7 文学の世界：叙事詩と演劇 ギリシア文化の普遍性 8 宗教と祭祀：神々と人間 ギリシア人は「神話」を信じていたか？ 9 性愛の諸相（男と女）（その1）：同性愛 10 性愛の諸相（男と女）（その2）：異性愛 11 競技的（アゴン）人間類型：理想的人間とは？ 12 クリエンテラ・パトロネジ関係 13 民主政の中の人間関係（1） 14 民主政の中の人間関係（2） 15 まとめ（総括と展望）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わず、プリントを配布します。また、初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。		学期末のレポートと数回の小レポート・報告の成績に、出席点を加味して総合的に評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 1) (ヨーロッパ史 1) 歴史学 a (ヨーロッパ史 1)	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義においては、これまで高校や大学で学んできた世界史の固定化された枠組を取っ払い、実際のヨーロッパの歴史を見据えていくことを目標にし、そのことによって独自の世界史認識あるいは世界観を組み立てる基礎を習得してもらう。 具体的にはヨーロッパの歴史の中から重要なテーマを選び、詳細に論じ、学生諸君に新たな歴史像を構築していく基盤を与えていく。教科書的なヨーロッパの歴史ではない独自の見解を述べていくので、参考書はその都度紹介する。 春学期は「ヨーロッパ時代のユダヤの歴史 (1)」と題し、ユダヤからみた中世から近代にかけてのヨーロッパ史の本質を理解していく 講義を聞いて考えることが重要であるので、しっかり講義を聞いてほしい。		春学期 「ヨーロッパ時代のユダヤの歴史 (1)」 1) ユダヤにとっての「ヨーロッパ時代」とは何か 2) 「ヨーロッパ時代」以前のこと 3) ローマ帝国によるガリア征服とユダヤ 4) フランク帝国の成立とユダヤ 5) 神聖ローマ帝国によるユダヤの位置づけ 6) 十字軍とユダヤ虐殺 7) ユダヤ差別の新たな論理 8) イギリス、フランスからのユダヤの追放 9) 神聖ローマ帝国諸都市からの追放 10) 「ゲットー」の成立とその意味 11) 宗教改革とユダヤの位置 12) 三十年戦争と「宮廷ユダヤ」 13) 「東方ユダヤ」の成立と発展 14) 啓蒙主義の中のユダヤ 15) まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中の紹介		試験もしくはレポート	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 2) (ヨーロッパ史 2) 歴史学 b (ヨーロッパ史 2)	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義においては、これまで高校や大学で学んできた世界史の固定化された枠組を取っ払い、実際のヨーロッパの歴史を見据えていくことを目標にし、そのことによって独自の世界史認識あるいは世界観を組み立てる基礎を習得してもらう。 具体的にはヨーロッパの歴史の中から重要なテーマを選び、詳細に論じ、学生諸君に新たな歴史像を構築していく基盤を与えていく。教科書的なヨーロッパの歴史ではない独自の見解を述べていくので、参考書はその都度紹介する。 秋学期は「ヨーロッパ時代のユダヤの歴史 (2)」と題し、近代のユダヤの「解放」から人種的反ユダヤ主義、ナチによるホロコーストまでを扱う。 春秋を単独に聞いてもよいように組み立てる。 講義を聞いて考えることが重要であるので、しっかり講義を聞いてほしい。		秋学期 「ヨーロッパ時代のユダヤの歴史 (2)」 1) はじめに 2) ユダヤの「解放」とは何か 3) フランス革命、ナポレオンとユダヤ 4) ナショナリズムの高揚とユダヤ 5) 各国の法的「解放」の展開 6) 人種論と「反セム主義」の台頭 7) 「反セム主義」の論者と運動 8) シオニズム運動の成立と展開 9) シェーネラーとルエーガー 10) 「ヒトラーのウィーン」 11) 第一次世界大戦とナチ党の成立 12) ヒトラーの政権獲得と反ユダヤ政策 13) オーストリア「合邦」と反ユダヤ政策の展開 14) 「ユダヤ問題の最終的解決」への道 15) 「ヨーロッパ時代」の終焉	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中の紹介		試験もしくはレポート	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化Ⅰ（英語圏の文学） 歴史と文化Ⅲ（英語圏の文学文化）	担当者	松山 響子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 文学というと通常みなさんはどのようなイメージを持 っているのでしょうか。「古臭くて、長くて、面白くない」 のような言葉が頭に思い浮かぶのではないでしょ うか。しかし言語を学んでいく上で文学をかじらずして当 該言語の文化を語ることはできません。なぜなら文学は文 化の中で中核をなす要素だからです。文学はその言語を使用 する人間の考え方、知識、宗教的・歴史的背景を、最も 洗練された形で記録している媒体なのです。同時に、文学 史の中で言及される作品は時間という最も厳しい読者が 選別をしているベストセラーリストです。この講義では、 そのベストセラーリストの一端に触れて、「英語圏」の人々 がどのようなものを文学と見なしているのか、少しでも理 解していただけたらと思います。		第 1 週：オリエンテーション 第 2 週：古英語から中世へ 第 3 週：ルネッサンスが花ひらく 第 4 週：演劇時代の到来 第 5 週：そしてシェイクスピアの登場 第 6 週：時代は清教徒革命に向かう 第 7 週：清教徒革命の後 第 8 週：18 世紀の散文、詩、そして劇 第 9 週：小説時代の到来 第 10 週：ロマン主義の光と影 第 11 週：ヴィクトリア朝の詩と散文 第 12 週：ヴィクトリア朝の小説 第 13 週：20 世紀の詩と劇 第 14 週：20 世紀の小説 第 15 週：20 世紀の小説関連映像	
概要 ひとくちに「英語圏」といっても、イギリス、アメリカ 合衆国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、シ ンガポール、インドなど数多くあります。そして文化の中 核をなす「文学」を取り上げるとなると、当然だが秋学期 の授業だけでは足りません。したがって、この授業では最 も歴史が長く、さまざまな英語圏の文学に影響を与えた 「イギリス文学」を中心に、他の地域の文学も合わせて取 り上げていきます。		授業によっては、スケジュールどおり進まないこともある かもしれませんので、この点を承知しておいてください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト 川崎寿彦著『イギリス文学史入門』（研究社、1986 年）		評価方法 期末定期試験(60%)、課題レポート(20%)、出席(20%) (2/3 以上の出席がないと単位を認定しません。)	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 1) (「15 年戦争」をどうとらえるか) 歴史学 a (「15 年戦争」をどうとらえるか)	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
1945 年に終わった戦争は普通には太平洋戦争と呼ばれ、相手はアメリカだったととらえられがちであるが、これを見直す必要がある。対米開戦前に泥沼の日中戦争が続いており、さかのぼれば 1931 年の満州事変にいきつく。足かけ 15 年の戦争で、日本が一番長く戦った国は中国である。 中高でのこの戦争の学習では、原爆や空襲などの被害を重点に学ぶことが多いようだが、被害面だけでなく、戦争全体の中での加害面にもしっかり目を向けたい。見るのがつらいところもあるかもしれないが、ビデオをかなり使う。そして、当時の教育や社会の状況、経済との関わりなども含めて、戦争の全体像を考えたい。中国や韓国をはじめアジア諸国との関わりがますます強まる中、この戦争はどのようなものだったかの事実をしっかり知っておきたい。なお、なるべく秋学期とあわせて受講して欲しい。		1 1945 年に終わった戦争の相手・呼称をめぐって 2 満州事変から日中戦争へ 3 日中戦争と対米英戦争 4 真珠湾からか、コタバルからか 5 被害の問題①—空襲は何を示すか 6 被害の問題②—原爆投下をどうとらえるか 7 加害の問題①—731 部隊とは何か 8 加害の問題②—南京事件をどうとらえるか 9 加害の問題③—三光作戦をめぐって 10 兵士と民衆①—日本軍隊の特徴をみる 11 兵士と民衆②—教育でどう兵士が育てられたか 12 戦時下の社会—天皇制と国家神道・戦争への動員 13 戦争と経済の関わりを考える① 14 戦争と経済の関わりを考える② 15 まとめとして—この戦争の原因をどうとらえるか	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、事前出題による論述形式で試験を実施する。出席カードによる出席点をいくらか加味する。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 2) (戦後史の中の「15 年戦争」) 歴史学 b (戦後史の中の「15 年戦争」)	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
なぜ沖縄には、たくさんの米軍基地があるのか…。それはどうつくられ、どう維持されてきたのか。戦後のアメリカとの関わりをふまえて日本と沖縄の歩み学ばなければ、今日の沖縄の問題をとらえることはできない。1945 年 8 月 15 日に敗戦を迎えた戦争 (アジア太平洋戦争・15 年戦争) は、戦後 60 年を越えた今日でもさまざまな課題を残す。占領以来のアメリカとの関係が、講和や賠償問題等をととしての今日の日本の在り方、また日本人の戦争認識にも大きな影響を与えてきた事実を目を向けたい。 中国や韓国をはじめとするアジアの国々は、この 2、30 年間で大きく変わってきた。民衆の声がそれぞれの国を動かすようになり、かつては不可能だった民衆同士の交流が大きく進んできた。戦後補償や戦争の認識をめぐる論議が今もおこることを、やっとそういう論議ができるようになったと捉える必要がある。そうしたことをきちんと論議ができる知識をもつ若者でいて欲しい。 2011 年の 3・11 を経て、原発がどのように導入されてきたかを知ることの不可欠になった。取り上げていきたい。 なお、なるべく春学期とあわせて受講して欲しい。		1 本土決戦と日本の戦争の終わり方 2 沖縄戦が私たちに投げかけたこと 3 日本国憲法はどう生まれたか 4 東京裁判をめぐって 5 サンフランシスコ講和のもった問題 6 ビキニ被曝と原発の導入をめぐって その 1 7 ビキニ被曝と原発の導入をめぐって その 2 8 日本の国内での補償をめぐって 9 日本のアジアへの補償をめぐって 10 日韓条約はなぜ 1965 年に結ばれたか 11 日中国交回復を考える 12 沖縄の復帰が「日本」に問いかけていること 13 アジアの民衆からの戦後補償要求 14 「731 部隊展」の取り組みが意味したこと 15 戦後 50 年の国会決議をめぐって	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で紹介する。		定期試験の時間の中で、事前出題による論述形式で試験を実施する。出席カードによる出席点をいくらか加味する。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化Ⅰ(移民・交易に見る文化変容) 歴史と文化(Ⅲ)(移民・交易に見る文化変容)	担当者	水口 章
講義目的、講義概要		授業計画	
人間は古くから移住や交易を通し、物や情報を交換し、文化を形成してきた。本講義の目的は、歴史的な交易と文化圏のあり方を確認しながら国際移動について理解を深めることである。特に、アメリカ、フランス、ドイツの事例を取り上げ、多文化共生について考察する。 その上で、国際移民と国民国家の経済発展のかかわり合いについて考察できる能力を養うことを到達目標とする。 講義の進め方としては、授業を3つに区分し、各区分の終了時に理解度を確保するためのグループ討議を行う。その討議を踏まえての課題レポートは必ず提出すること。		1 ガイダンス 2 交易と交流 3 地中海交易 4 インド洋交易と歴史 5 小まとめ：異文化間交易と文化圏 6 移民過程とエスニック・マイノリティ 7 1945 年以前の移民 8 高度成長期の移民 9 世界経済再編期と移民 10 小まとめ：労働力としての移民と経済発展 11 国民国家における移民が抱える諸問題 12 事例1：アメリカの移民 13 事例2：フランスの移民 14 事例3：ドイツの移民 15 まとめ：グローバル化される国際社会における国民国家	
テキスト、参考文献		評価方法	
<参考文献> S・カスズ／M・J・ミラー『国際移民の時代』名古屋大学出版会 ウィリアム・バーンスタイン『華麗なる交易』日本経済新聞出版社		学習態度 10%、課題レポート 90% (小まとめレポート 15% ×2 回、まとめレポート 60%×1 回) で評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化Ⅰ(グローバル化と情報・通信の文化史) 歴史と文化(Ⅲ)(グローバル化と情報・通信の文化史)	担当者	水口 章
講義目的、講義概要		授業計画	
情報通信の発達、交通の発達と合わせて、社会変化に重要な役割を果たしてきた。歴史的には、狼煙にはじまり、駅制、飛脚、郵便馬車、電信、電話、そしてインターネットなどの手段が挙げられる。 そこで、古代からの通信技術の発達史を振り返り、人類がどのような工夫をして情報を伝達してきたかについて学ぶ。 また、情報を取り扱うメディアについて概観することで、現代の経済活動や国民生活と情報がどのように関係しているのかについて、理解を深めることを目的とする。 到達目標は、グローバル化社会において情報をより活用できる能力を養成することである。 講義の進め方としては、授業を3つに区分し、各区分の終了時に理解度を確保するためのグループ討議を行う。その討議を踏まえての課題レポートは必ず提出すること。		1 ガイダンス 2 情報伝送方法 3 古代王国と駅制 4 帝国の通信ネットワーク 5 小まとめ：情報通信と社会空間の変化 6 新聞の創業 7 通信社の誕生 8 ラジオ・テレビ時代 9 グローバルメディア誕生 10 小まとめ：メディアと社会 11 情報とコミュニケーション 12 情報資料の収集と分析 13 情報とビジネス 14 情報と国家戦略 15 まとめ：グローバル化と情報の活用	
テキスト、参考文献		評価方法	
<参考文献> 星名定雄『情報と通信の文化史』法政大学出版局 柏倉康夫『情報化社会研究』放送大学大学院教材		学習態度 10%、課題レポート 90% (小まとめレポート 15% ×2 回、まとめレポート 60%×1 回) で評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化Ⅰ(アラブ文化・芸術 a) 歴史と文化(Ⅲ)(アラブ文化・芸術 a)	担当者	師岡 カリーマ エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
アラブと聞いて、多くの人はまず何を思い浮かべるでしょうか？テレビのニュースで見る戦場やテロの報道、戒律が厳しいと言われるイスラーム教や女性の抑圧、そしてトンネルの先が見えないパレスチナ問題など、「怖い」「暗い」「分かりにくい」といったネガティブなイメージが強いのではないのでしょうか。 しかし、テレビで報道されるアラブ像は、アラブ世界のほんの小さな一面でしかなく、しかも中には歪曲されたイメージも少なからず紛れ込んでいます。そういったイメージの蓄積によって作り上げられるステレオタイプを打破しようというのがこの講座の目的です。 アラブの芸術、芸能、文学、そして生活文化を通してアラブ人の心と表現世界に親しみ、皆さん独自のアラブ像を形成してもらいたいと思います。 アラブの芸術といえば、世界一有名なファンタジー、そして SF の原点とも言われる「千夜一夜物語」がまず浮びますが、同時にアラブの文化は詩人の文化であり、また非常に洗練された音楽芸術を育んできました。近年ではノーベル文学賞に輝いたナギーブ・マハフーズやカンヌ映画祭で表彰された映画監督ヨーセフ・シャヒーンなど、国際的な評価を得ている芸術家も少なくありません。この講座ではまず誤解の多いイスラームの解説から始まり、宗教が今も深く根付いている生活文化を知ると同時に、音楽、映画、演劇、文学作品を味わいながら、楽しく真剣にアラブ人の社会やメンタリティーを探っていきます。 ディスカッションには積極的に参加し、反対意見を恐れずにどんどん自己主張してください。		1. イン트로ダクション：アラブ人とは？ 2. 「イスラム」と「イスラーム」 3. ムスリムにとって「クルアーン」とは 4. アラブ人の生活文化 1) 食生活と祭 5. アラブ人の生活文化 2) 家族・女性 6. アラブ音楽入門Ⅰ 7. アラブ音楽入門Ⅱ 8. パレスチナ問題と芸術 1) 演劇 「アライブ・フロム・パレスチナ」鑑賞 9. 演劇鑑賞レポート提出・ディスカッション 10. パレスチナ問題と芸術 2) 記録映画 11. パレスチナ問題と芸術 3) 小説 作家ガッサーン・カナファアーニの世界 中編「太陽の男たち」「ハイファに戻って」 読後レポート提出・ディスカッション 12. パレスチナ問題と芸術 4) 詩人 「パレスチナの声」マハムード・ダルウィーシュ 13. パレスチナ問題と芸術 5) 映画 14. イスラーム報道・アラブ報道を考える 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。参考文献：『恋するアラブ人』『イスラームから考える』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）『アジア読本・アラブ』（大塚和夫編・河出書房新書）など。		出席回数、レポート、平常点（ディスカッション参加や発言の頻度）	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化Ⅰ(アラブ文化・芸術 b) 歴史と文化(Ⅲ)(アラブ文化・芸術 b)	担当者	師岡 カリーマ エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
アラブと聞いて、多くの人はまず何を思い浮かべるでしょうか？テレビのニュースで見る戦場やテロの報道、戒律が厳しいと言われるイスラーム教や女性の抑圧、そしてトンネルの先が見えないパレスチナ問題など、「怖い」「暗い」「分かりにくい」といったネガティブなイメージが強いのではないのでしょうか。 しかし、テレビで報道されるアラブ像は、アラブ世界のほんの小さな一面でしかなく、しかも中には歪曲されたイメージも少なからず紛れ込んでいます。そういったイメージの蓄積によって作り上げられるステレオタイプを打破しようというのがこの講座の目的です。 アラブの芸術、芸能、文学、そして生活文化を通してアラブ人の心と表現世界に親しみ、皆さん独自のアラブ像を形成してもらいたいと思います。 アラブの芸術といえば、世界一有名なファンタジー、そして SF の原点とも言われる「千夜一夜物語」がまず浮びますが、同時にアラブの文化は詩人の文化であり、また非常に洗練された音楽芸術を育んできました。近年ではノーベル文学賞に輝いたナギーブ・マハフーズやカンヌ映画祭で表彰された映画監督ヨーセフ・シャヒーンなど、国際的な評価を得ている芸術家も少なくありません。この講座ではまず誤解の多いイスラームの解説から始まり、宗教が今も深く根付いている生活文化を知ると同時に、音楽、映画、演劇、文学作品を味わいながら、楽しく真剣にアラブ人の社会やメンタリティーを探っていきます。 ディスカッションには積極的に参加し、反対意見を恐れずにどんどん自己主張してください。		1. レバノン映画「キャラメル」とアラブ女性 2. 映画鑑賞レポート提出・ディスカッション 3. 「アラブ革命の春」を考える 4. アラブ文化は詩の文化（１）：詩人変人今昔 5. アラブ文化は詩の文化（２）：中世ヒップホップ 6. アラブ文化は詩の文化（３）：現代のアイドル 7. アラビアンナイトは逆輸入？「千夜一夜物語」 8. ハリウッド映画になったアラブ旅行文学 9. アラブの芸能 界 1) 歌謡曲 10. アラブの芸能界 2) テレビ 11. ノーベル賞作家ナギーブ・マハフーズの世界 12. 小説「バイナルカスライン」レポート提出 13. 続き（ディスカッション） 14. ヨルダン映画 「キャプテン・アブーラーイド」 15. 映画鑑賞ディスカッション・まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。参考文献：『恋するアラブ人』『イスラームから考える』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）『アジア読本・アラブ』（大塚和夫編・河出書房新書）など。		出席回数、レポート、平常点（ディスカッション参加や発言の頻度）	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1(異文化間コミュニケーションb) 歴史と文化(Ⅲ)(異人種共生の試練＜アメリカ編＞)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、アメリカにおける異文化間の闘争とハワイの多民族社会の形成について紹介する。 複数の民族を有する国の理想は異なる文化を認める社会の創造であろう。多民族社会アメリカでは、人種、民族間で生じる摩擦によって、ときに多大な犠牲が払われてきたのである。 10 週目までは、黒人による差別撤廃運動の過程を紹介する。公民権運動から半世紀以上が過ぎたが、どれだけ人種間の理解は進展を見たのだろうか。 そのあとの講義では、多民族共存のひとつのモデルともいわれるハワイ社会を取り上げる。日本人移民のハワイにおける体験を検証し、異民族共存の困難さを考えてみたい。		1. ガイダンス 2. モザイク国家アメリカ 3. ロス暴動に見る共生の現実 4. 奴隷制下の人種共存 5. 奴隷解放？現実とは？ 6. 自由と平等への戦いのはじまり 7. 公民権運動の共生理念 8. 非暴力不服従 ガンジーとキング 9. 急進派ブラック・パワーとは 10. モハメッド・アリ 11. 多民族混合社会ハワイ 12. ハワイの経験ー多民族の取り込みー 13. 日本人移民の背景 14. 排斥事件 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献:『アメリカ黒人の歴史』本田創造 岩波新書 『キング牧師とマルコム X』上坂昇 講談社現代新書		学期末試験 レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化Ⅰ(英語圏の文化) 歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の文化)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
年間、60 数万人もの移民を受け入れているアメリカ。白人々口の割合は減る一方で、今世紀の半ばには 5 割を切るという。 国家の黎明期、アメリカはイギリス文化を模したワスプ(WASP<White Anglo-Saxon Protestant>) 社会を創造した。19 世紀末、工業化に伴い膨大な数の移民を受け入れたアメリカは多民族国家へと急速に変化していったが、ワスプ文化は依然として社会の根幹をなしていた。 冷戦下のベトナム戦争は既存の文化に対抗するカウンターカルチャーを生み、それまでのアメリカ的価値観に大きな揺らぎをもたらした。 近年、よく聞かれる多文化主義にいたるアメリカ文化の変遷を、社会の変化を捉えながらたどり、この国の文化の特徴を明らかにする。		1. ガイダンス 2. 国家建設とワスプ主義 3. 工業化と新移民の流入 4. 多民族社会の問題 5. 異文化と差別 6. メルティングポット論 7. ビートニックス 8. 冷戦とベトナム戦争 9. カウンターカルチャー 10. カウンターカルチャー 11. 映像 12. 文化多元論 13. アファーマティブアクション 14. 多文化主義 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：授業で紹介する		学期末試験 レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化Ⅰ(英語圏事情) 歴史と文化(Ⅲ)(英語圏事情)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
グローバル化の理想は、世界の共生である。しかし、現状は欧米、とくに経済と軍事の強大な力をもつアメリカの影響に圧倒されている。他方、世界はアメリカがつくるポップカルチャーの魅力の虜となっている。硬軟両方のアメリカのパワーを認識し、世界のあるべき姿を考える。 イスラム世界に対する軍事力の行使は、「力」を信望するアメリカの姿をわたしたちに再認識させた。アメリカはその歴史において自国の要求を受け入れない国に対し、ときに容赦なく武力を用いてきたのである。 反面、大衆文化という柔らかなイメージで世界に向け「アメリカ的なもの」を発信しつつ、それは「文化帝国主義」との非難を誘起するほどに、人びとの生活様式を単一化させている。 アメリカのハードとソフトの両面パワーを明らかにし、グローバル化がすすむ世界に与える影響を考える。		1. ガイダンス 2. 銃社会アメリカ 3. // 4. 911 5. アメリカと戦争 6. ベトナム戦争 7. 湾岸戦争 8. イラク戦争 9. // 10. もう一つの 911 11. 映像 12. ソフト・パワー 13. アメリカンポップカルチャーの力 14. // 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：授業で紹介する		学期末試験 レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (ブラジル研究) 現代社会 (Ⅲ) (ブラジル研究)	担当者	E. ウラノ
講義目的、講義概要		授業計画	
ブラジルは、2014 年にワールドカップ、2016 年にはオリンピック開催を迎えており、世界で注目されている新興国の一つである。 この授業では、「未来の大国」ブラジルがもつ可能性を、社会・経済・政治面から解説する。例えば、最近の経済成長をどのようなファクターが支えているのか。これから持続可能な成長を成し遂げるためには、どのような改革や政策が必要なのか。これらの課題について、特に 1960 年代以降の歴史的経緯に言及しながら、ブラジルのグローバルプレーヤーとしての可能性について解説し、講義をすすめる。 近年目立つ出来事として、BRICs や G20 などを通じた多極的外交、経済成長、格差の是正による新中間層の形成、ブラジル企業の多国籍化、油田開発などがあげられる。こうした変貌はどのような基盤により実現されているのだろうか。また、日本とブラジルは、今後、経済・文化・外交面でどのように関係を強化していけるのか。 講義の目的は、受講生が積極的にこれらの内容について考え、ブラジルというテーマについて独自の視点を開発することにある。		1. イントロダクション：世界のなかのブラジル 2. 政治経済：「失われた 80 年代」 3. 政治経済：90 年代、インフレーション、経済安定化 4. 政治経済：2000 年代、経済成長への道 5. 格差社会の是正に向けて: Bolsa Família 6. 格差社会の是正に向けて: 新中間層 7. 映像から見たブラジル 8. 映像から見たブラジル 9. 持続可能な成長への課題: 教育・インフラ整備 10. 持続可能な成長への課題: 世界情勢 11. 産業開発：農業、油田開発、代替エネルギー 12. ブラジル企業の多国籍化と世界経済 13. BRICs、南南関係：多極的外交の展開 14. 新たな路線: ブラジルの Third Way? 15. まとめ：「未来の大国」から「現在の大国」？ ※トピックごとに可能な限り映像資料もまじえて授業を進める予定である。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストとして特定の書籍を用いることはないが、必要に応じてレジュメ、資料を配付する。参考書籍としては、『現代ブラジル事典』（新評論、2005 年）を挙げておく。		基本的には学期末の筆記試験による評価を予定しているが、出席や授業内ペーパー、レポート等を加味した評価とする可能性もある。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (地理学 1)(自然環境と文化) 地理学 a(自然環境と文化)	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。		1 オリエンテーション 2 自然と人間とのかかわり 3 環境の諸要素 (1) 地球の特質 4 環境の諸要素 (2) 地形環境 5 環境の諸要素 (3) 気候環境 6 環境の諸要素 (4) 植生と土壌 生態系 7 熱帯地域 (1) —自然的特質と伝統的農業 8 熱帯地域 (2) —アジアの稲作 9 熱帯地域 (3) —熱帯の開発と問題 (1) 10 熱帯地域 (4) —熱帯の開発と問題 (2) 11 砂漠地域 (1) —自然的特質と伝統的生業 12 砂漠地域 (2) —イスラムの世界 13 砂漠地域 (3) —石油資源と近代化 14 砂漠地域 (4) —アラブとイスラエル 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
山本正三 (他) 著『自然環境と文化』原書房 参考文献は授業中に示す		定期試験および出席状況	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (地理学 2)(自然環境と文化) 地理学 b(自然環境と文化)	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。		1 温帯地域 (1) 自然的特質 2 温帯地域 (2) 地中海森林地域 3 温帯地域 (3) 温帯混交林地帯 (ヨーロッパ) 4 温帯地域 (4) 温帯混交林地帯 (アジア) 5 温帯地域 (5) 北米の温帯地域 (1) 6 温帯地域 (6) 北米の温帯地域 (2) 7 温帯地域 (7) そのほかの温帯地域 (3) 8 冷帯地域 9 冷帯地域・寒帯地域 10 山地地域 11 世界の環境問題 (1) 人口 12 世界の環境問題 (2) 食料 13 世界の環境問題 (3) 酸性雨と公害問題 14 世界の環境問題 (4) 地球の温暖化 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
山本正三 (他) 著『自然環境と文化』原書房 参考文献は授業中に示す		定期試験および出席状況	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (地誌学 1) (ヨーロッパ地域論) 現代社会 (Ⅲ) (ヨーロッパ地域論)	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、統合が進展するヨーロッパにおける各地域の現状を把握することを目的とする。まず、ヨーロッパ地誌や EU の制度や歴史に関する基礎的な知識を習得する。そのうえで、特に EU の共通農業政策と、地域政策 (構造政策) に焦点を当て、統合がヨーロッパの地域に与える影響や、EU と各地域との関係について考察していく。 * 注意 本講義は、ドイツ語学科の専門講義科目と、全学共通カリキュラムの全学総合科目との合併科目です。そのため、ドイツ語による資料を利用する場合もあります。		1. 導入 2. EU と地域 3. EU の制度 4. EU の機能 5. EU の政策 6. EU の形成・発展過程(1) 7. EU の形成・発展過程(2) 8. EU の形成・発展過程(3) 9. EU の東方拡大(1) 10. EU の東方拡大(2) 11. EU の農業政策(1) 12. EU の農業政策(2) 13. EU の構造政策(1) 14. EU の構造政策(2) 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
地図帳を毎回持参すること テキストは指定しない		レポートもしくは試験により評価	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (地誌学 2) (ドイツ地域論) 現代社会 (Ⅲ) (ドイツ地域論)	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、ドイツの地域や都市の構造とその変容を把握することを目的とする。特に、ドイツ再統一、ヨーロッパ統合の深化と拡大、地方分権型国家、という三つの側面に光を当てて具体的な事例をもとに明らかにしていく。 * 注意 本講義は、ドイツ語学科の専門講義科目と、全学共通カリキュラムの全学総合科目との合併科目です。そのため、ドイツ語による資料を利用する場合もあります。		1. 導入：ドイツの地域・都市 2. ドイツ再統一 (1)：ベルリンの地政学 3. ドイツ再統一 (2)：社会主義的都市の構造 4. ドイツ再統一 (3)：東ドイツの地方都市 5. ドイツ再統一 (4)：冷戦後の旧東ドイツ都市 6. ドイツ再統一 (5)：プレントラウアー・ベルク 7. ドイツ再統一 (6)：ポツダム広場 8. ヨーロッパ統合 (1)：EU とドイツ 9. ヨーロッパ統合 (2)：統合と地域間格差 10. ヨーロッパ統合 (3)：EU の構造政策、都市政策 11. ヨーロッパ統合 (4)：ユーロリージョン 12. 地方分権 (1)：多極分散型国家 13. 地方分権 (2)：空間整備政策 14. 地方分権 (3)：都市計画 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
地図帳を毎回持参すること テキストは指定しない		レポートもしくは試験により評価	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (教育法 1) 現代社会 (Ⅲ) (教育法 a)	担当者	市川 須美子
講義目的、講義概要		授業計画	
教育法は、教育の場で生じるさまざまな問題を、法的視点から、つまり、権利・義務関係の視点から整理して、教育問題の分析・解決を提起してゆく法分野です。例えば、いじめを素材にする場合、いじめをなくす方法の考察、あるいは、いじめの構造分析をするのではなく、いじめ裁判の分析を通じて、学校・教師のいじめに対応する最低限の法的義務を明らかにするというアプローチです。現在、学校でも、家庭でも、子どもに対する人権侵害が多発しています。教師の体罰で子どもが心身に重大な被害を受ける事例もあとを絶たないし、統計的には減少しているとされているいじめも、むしろ、学校では常態化しており、いじめ裁判は増加しています。この講義では、学校での子どもの人権侵害についての具体的な裁判事例を、体罰、いじめ、生活指導、校則、学校教育措置、教育情報に分類して、法的に分析し、教育法の考え方と現時点での理論的到達点を入門的に解説します。		1 学校における子どもの人権侵害——問題化の経緯と分類 2 学校事故裁判と学校教育裁判 3 体罰裁判とその特徴——体罰裁判の判例動向 4 体罰裁判の新しい展開 5 生活指導とその法的限界 6 いじめと裁判——中野富士見中事件といわき小川中事件 7 いじめ自殺と予見可能性—— 8 いじめ調査・報告義務訴訟 9 丸刈り校則裁判 10 修徳高校パーマ校則裁判 11 都立高校原級留置き訴訟 12 信教の自由と学校教育——エホバの証人退学事件 13 内申書・指導要録開示訴訟 14 教育情報公開訴訟—学力テスト結果公開請求事件 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しませんが、講義時に教育関係の小六法を携行してください。		試験	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (教育法 2) 現代社会 (Ⅲ) (教育法 b)	担当者	市川 須美子
講義目的、講義概要		授業計画	
教育法の現代的問題状況の把握(教育法 a)を前提に、教育法のより体系的な理解のために、自主性擁護的教育裁判を通じての教育法学形成と教育と国家との基本的な関係のあり方を検討します。次に、教育法の基礎概念である教育人権、子どもの学習権、親の教育権、教師の教育の自由、住民の教育権を、教育裁判を素材に解説します。最後に、2006 年教育基本法改正とその後の教育法状況を分析します。		1 戦後教育改革と憲法・教育基本法法制 2 逆コースの教育改革 3 教科書裁判 (1) 4 教科書裁判 (2) 5 最高裁学テ判決 6 障害児の学習権——特殊学級入級処分取消訴訟 7 子どもの市民的自由——内申書裁判 8 親の教育権——日曜日訴訟 9 親の教育権——七尾養護学校事件 10 教師の教育の自由——伝習館高校事件 11 教師の教育の自由と日の丸・君が代最高裁判決 12 新任教師と分限処分 13 住民の教育権——教育委員会制度と教育 14 教育基本法改正と教育法制 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しませんが、講義時に教育関係の小六法を携行してください		試験	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (国際法 1) (国際社会と私たち) 国際法 a (国際社会と私たち)	担当者	一之瀬 高博
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。 〔講義概要〕 国際社会における法の規律のしかたとその特徴を、国際法上の主たる行為主体である国家を中心とした観点から学ぶ。具体的には、規範、国家、責任、外交関係、海洋法、集団安全保障などをとりあげる。		1 講義の概要 2 国際法の形成と発展 3 国際法の存在形態 4 条約のしくみ 5 慣習法およびその他の規範 6 国際法における国家 7 国家承認と政府承認 8 国家責任の成立要件 9 国家責任の追及 10 外交関係法 11 外交特権免除 12 国家領域としての海洋 13 国際公域としての海洋 14 国連の集団安全保障 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト： 横田洋三編『国際社会と法』有斐閣 2010 年		期末試験の成績を重視し、出席・小テスト・レポートも評価の対象にする。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (国際法 2) (国際紛争を考える) 国際法 b (国際紛争を考える)	担当者	一之瀬 高博
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。 〔講義概要〕 国際社会のさまざまな分野にどのようなかたちで国際法が発展しつつあるのかを概観するとともに、そこに生じる紛争の裁判でどのように解決が図られるかについて考察する。		1 講義の概要 2 平和的紛争解決と仲裁裁判 3 国際司法裁判所 4 国際機構・国際連合 5 国際機構の構造 6 国籍・外国人 7 難民・国際犯罪 8 国連による人権保障 9 人権条約 10 経済活動と国際法 11 WTO 体制 12 国際環境保全の諸原則 13 環境条約 14 国際法の将来 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト： 横田洋三編『国際社会と法』有斐閣 2010 年		期末試験の成績を重視し、出席・小テスト・レポートも評価の対象にする。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (国際関係の構造と展開) 現代社会(Ⅲ)(国際関係の構造と展開)	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の目的は、国際関係の構造と展開を検討することによって、国際関係に関する知識を身につけるとともに、現在の国際情勢への認識と理解を深めることにあります。 講義の内容としては、はじめに、現在の国際情勢に関する分析・解説を行い、そのような状況が如何にしてみたらされたかを、現代の国際関係を紐解くことによって解明していきます。		第 1 回 はじめに（講義内容などについて） 第 2 回 アメリカ時代の終焉 第 3 回 多元化する国際問題 第 4 回 多極化する国際社会 第 5 回 冷戦後の世界 第 6 回 冷戦の終結 第 7 回 中間のまとめ 第 8 回 中間テスト 第 9 回 冷戦の開始と二極化する世界 第 10 回 朝鮮戦争の勃発と国際社会 第 11 回 ヨーロッパにおける冷戦 第 12 回 中東における冷戦 第 13 回 ベトナム戦争の勃発と二極対立 第 14 回 南アジアと冷戦 第 15 回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特定のテキストは使用しません。参考文献を適宜紹介します。		中間テストおよび学期末試験の成績に基づいて評価します。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (近現代の国際関係史) 現代社会(Ⅲ)(近現代の国際関係史)	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の目的は、国際関係の構造と展開を検討することによって、国際関係に関する知識を身につけるとともに、現在の国際情勢への認識と理解を深めることにあります。 講義の内容としては、主権国家の理念がヨーロッパで出現した 16 世紀から第二次世界大戦終結までの期間において発生した代表的な出来事や問題を時系列に沿って分析・解説することによって、現在の国際情勢に内包される諸問題の根幹を解明していきます。		第 1 回 はじめに（講義内容などについて） 第 2 回 主権国家理念の出現とヨーロッパの勢力拡大 第 3 回 各国における革命とウィーン体制の確立 第 4 回 パクス・ブリタニカとその時代 第 5 回 帝国主義の台頭 第 6 回 帝国主義と新たな同盟関係の成立 第 7 回 中間のまとめ 第 8 回 中間テスト 第 9 回 第一次世界大戦をめぐる国際政治の展開 第 10 回 第一次世界大戦後の国際社会 第 11 回 平和と安定の回復 第 12 回 第二次世界大戦をめぐる国際政治の展開 第 13 回 第二次世界大戦の勃発と経過 第 14 回 戦争の終結とその後の世界 第 15 回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献： 有賀貞 『国際関係史 16 世紀から 1945 年まで』（東京大学出版会、2010 年）		中間テストおよび学期末試験の成績に基づいて評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (地域メディア論) 比較文化論 b (地域メディア論)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
Think Globally, Act locally というフレーズを一度は耳にしたことがあるだろう。そこに示されているように、多文化共生やグローバル化、さらには環境問題や福祉の問題を考えるうえで、「地域」もしくは「ローカル」は重要なキーワードのひとつである。それを頭に置いたうえで、本講義を受講してほしい。 本講義で扱う地域メディアは、ある特定のエリアにおける情報を伝える媒体、すなわち『Tokyo Walker』や『散歩の達人』などの地域情報誌や、各地域・地方で発行されているミニコミ誌、クーポン付きのフリーペーパーなどの紙媒体、さらに FM、CATV、ウェブサイトも含む。さらに、各地のエスニック・コミュニティで発行されているエスニック・メディアもここでは地域メディアとしてとりあげたい。それらの地域メディアが、多文化が共生する社会においてどのような役割を果たしてきた／いる／いくのか、また将来的に、どういった機能がそのメディアに要求されているのかについて、受講者とともに考えてゆきたい。 学期のさいごは、身近な地域メディアについてのレポート、もしくは受講者自身が制作した地域メディアを提出・発表してもらおう。		1. イントロダクション 2. グローバル化とローカルコミュニティ 3. 地域・地方文化の復権とメディア 4. 各地の地域メディア (1) 5. 各地の地域メディア (2) 6. 各地の地域メディア (3) 7. メディアによる地域文化の創造 (1) 8. メディアによる地域文化の創造 (2) 9. 多文化共生と地域メディア (1) 10. 多文化共生と地域メディア (2) 11. 多文化共生と地域メディア (3) 12. 受講者による発表 (1) 13. 受講者による発表 (2) 14. 受講者による発表 (3) 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
岡村圭子『ローカル・メディアと都市文化』ミネルヴァ書房		出席とメディア作成・発表（履修者多数の場合、定期テストを行う）	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (社会学 a) 社会学 a(他者と自己)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も他者であり、家族や親しい友人も、ある意味では他者である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、多少なりともそういった他者と社会的関係を持たなくては、私たちは生活できない。社会は、他者とともに生きる世界である。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では、「他者 other(s)」が重要なキー概念のひとつとなっている。さらに言えば、他者について考えることは、「自己(わたし)」について考えることでもある。とくに本講義では、社会学がこれまで関心を寄せてきた諸概念をとりあげ、それを現代的な文脈で考えてみたい。 本講義のねらいは、「社会学」という学問が、どういった経緯で成立したか、また社会学的視点、社会学的な考察とは、どういったものか、さらに社会集団の類型やアイデンティティ形成のメカニズムについて学び、それをとおして社会における自己と他者についての関係を考えることである。		1. イントロダクション—社会学的な視座とは 2. 社会学の歴史 (1) —A. コント、H. スпенサー 3. 社会学の歴史 (2) —E. デュルケム 4. 社会学の歴史 (3) —M. ウェーバー 5. 社会の類型 (1) —コミュニティとアソシエーション 6. 社会の類型 (2) —ゲマインシャフトとゲゼルシャフト 7. 社会の類型 (3) —第一次集団 8. Identity 形成と社会 (1) —鏡に映った自己 9. Identity 形成と社会 (2) —重要な他者 10. Identity 形成と社会 (3) —マージナル・マン 11. Identity 形成と社会 (4) — 未定 12. 補完的アイデンティティについて (1) 13. 補完的アイデンティティについて (2) 14. 補完的アイデンティティについて (3) 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
G. ジンメル『社会学の根本問題 (個人と社会)』世界思想社 E. デュルケム『自殺論』中央公論社 M. ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 G.H. ミード『社会的自我』恒星社厚生閣		出席とレポート (履修者多数の場合、期末試験を行う)	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (社会学 b) 社会学 b(現代社会の諸問題)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
わたしたちは、つねに安穏とした平和な社会だけに生きているわけではない。他者と共に生きる社会は、大小問わずさまざまな問題を抱えている。そういった問題を社会学では、どのように研究してきたのだろうか。まず本講義の前半では、何人かの社会学者の研究業績を紹介しながら、近代社会が抱える問題について講義する。つづく後半では、できるだけ身近な例を挙げて、ある事象が「社会問題化する」とはどういうことか、そして社会学が射程におく現代的課題にはどういったものがあるかを考えてみたい。 本講義のねらいは、異なった社会的・文化的背景をもつひとびとが、ともに生き、ともに暮らす社会において、なにが問題とみなされるのか、なにが必要とされているのかを社会学的視点から考え、「都市」「移民」「地域」に注目しつつ、現代のグローバル化・国際化のもとで日本社会が直面する課題とはなにか、そこからどのようなネットワークがあらたに生まれるかについて学ぶことである。		1. イントロダクション 2. 社会的性格と「自由からの逃走」—E. フロム 3. 同調様式の 3 類型—D. リースマン 4. 都市化と移民—W.I. トマスと F.W. ズナニエツキ 5. 同心円地帯説—E. パーージェス 6. シカゴ学派と都市問題—R. パーク 7. 「社会」問題と社会学的視座 (1) 8. 「社会」問題と社会学的視座 (2) 9. 「社会」問題と社会学的視座 (3) 10. 予言の自己成就—R.K. マーティン 11. 誇示的消費—T. ヴェブレン 12. 認知的不協和の理論—L. フェスティンガー 13. 文化的再生産—P. ブルデュー 14. コンフルエント・ラブ—A. ギデンズ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
E. フロム『自由からの逃走』東京創元社 D. リースマン『孤独な群衆』みすず書房 W.I. トマス、F. ズナニエツキ『生活史の社会学』御茶の水書房 A. ギデンズ『親密性の変容』而立書房 ほか		出席とレポート (履修者多数の場合、期末試験を行う)	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (民法 1) 現代社会Ⅲ (民法 a)	担当者	小川 佳子
講義目的、講義概要		授業計画	
法とは何か。私たちは、あらゆる法に囲まれ、法と密接なかかわりを持ちながら生きているが、そもそも法とは何か、何のためにあるのか。さらに、裁判とは何か。これらについて解説した後、民法についての講義を行う。後半では、今日的な民事事件について説明を行う。なお、講義を通し、との折々の法制度や民法にかかわるニュースについても解説を行う予定である。		1 法とは何か 2 法と裁判 3 生活関係と法 4 民法とはどのような法律か (1) 5 民法とはどのような法律か (2) 6 民法とはどのような法律か (3) 7 民事事件：金銭消費貸借 (1) 8 民事事件：金銭消費貸借 (2) 9 民事事件：建物賃貸借 (1) 10 民事事件：建物賃貸借 (2) 11 民事事件：不動産明渡 (1) 12 民事事件：不動産明渡 (2) 13 民事事件：損害賠償 (1) 14 民事事件：損害賠償 (2) 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
最新版の六法		原則として期末試験で評価する。ただし特段の事情のある場合はその他の方法で評価を行うことがある。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (民法 2) 現代社会Ⅲ (民法 b)	担当者	小川 佳子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に続き、民法についての解説を行う。秋学期では民事紛争の解決はどのように行われるのかについてまず解説し、その後、前期で触れられなかった類型の民事事件につき解説する。		1 民事紛争と民法 2 民事紛争の解決方法：裁判 (1) 3 民事紛争の解決方法：裁判 (2) 4 民事紛争の解決方法：裁判以外の方法 (1) 5 民事紛争の解決方法：裁判以外の方法 (2) 6 民事事件：離婚 7 民事事件：親子 8 民事事件：相続 9 民事事件：時効 10 民事事件：債権回収 11 民事事件：医療訴訟 12 民事事件：交通事故 13 民事事件：その他 (1) 14 民事事件：その他 (2) 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		原則として期末試験で評価する。ただし特段の事情のある場合はその他の方法で評価を行うことがある。	

08 年度以降 07 年度以降	現代社会 1 (家庭と職場のジェンダー) 女性学 a (家庭と職場のジェンダー)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ジェンダーとは、「女はこう」「男はこう」という括り方のことです。私たちの行動を、ときにはあからさまに、ときには気づかないうちに方向づけるもので、自分らしさをつくるものでもあれば、生き方の幅を狭めてしまうものでもあります。この講義では、日常的な場面（家庭や職場など）でジェンダーが実際にどんな作用をしているのかを考察します。考察の中心は現代日本ですが、海外の国々と比較することもあります。 なお、秋学期には「現代社会 1（ジェンダーとメディア表象）」が開講される他、今年度から全学総合講座でもジェンダー関連科目が開設されます。もちろん単独でも履修できますが、複数履修して関心を深めるのもお奨めです。 講義概要 毎回ひとつのトピックを解説します。授業内容を受けてコメントを書いてもらうことがあります（不定期）。コメントは次の回の授業のはじめに一部紹介します。 講義の内容上、性的表現や性暴力表現や映像が含まれることがあります。ご了承ください。		1. イントロダクション 2. 家庭の中のジェンダー役割 3. 子育ては「孤育て」？ 4. 男にとっての子育て 5. 夫婦間の暴力（DV） 6. 恋人間の暴力（デート DV） 7. 職場の中のジェンダー役割 8. セクシュアル・ハラスメント 9. 男女機会均等法はだれのため？ 10. セクシュアリティを再考する 11. パートナーシップ 12. 避妊と中絶 13. 出産 14. まとめ 15. まとめ ＊トピックは変更することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業でプリントを配布		学期末試験で評価します。優れたコメントカードの提出があった場合は、これを加点要素とします。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (日本国憲法) 日本国憲法(憲法と私たち)	担当者	加藤 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目標> 憲法の入門講義を行う。「教師」にとって不可欠な人権センスを磨くため、講義の多くを人権に関する判例分析にあてる。 問題意識を持って講義に参加されたい。 <講義概要> 憲法概念からはじめ、憲法 26 条までを講義範囲とする。人権侵犯事件（憲法の判例）をもとに、日本の人権状況を勉強する。 最初の講義で「予定表」を配布する。 <受講生への要望> 『六法』は、必ず毎回もってくること。		1. オリエンテーション 2. 六法の使い方／憲法概念 3. 人権総論 4. 憲法制定略史 5. 法の下での平等 6. 精神的自由権／信教の自由 7. 精神的自由権／政教分離 8. 精神的自由権／学問の自由 9. 精神的自由権／表現の自由（1） 10. 精神的自由権／表現の自由（2） 11. 人身の自由 12. 社会権／生存権（1） 13. 社会権／生存権（2） 14. 社会権／教育権 15. 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
加藤一彦『改訂版 教職教養憲法 15 話』（北樹出版） 笹川ほか編『憲法判例特選』（敬文堂） 学生用六法（出版社は問わない）		定期試験による。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (日本国憲法) 日本国憲法(憲法と私たち)	担当者	加藤 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目標> 憲法の入門講義を行う。「教師」にとって不可欠な人権センスを磨くため、講義の多くを人権に関する判例分析にあてる。 問題意識を持って講義に参加されたい。 <講義概要> 憲法概念からはじめ、憲法 26 条までを講義範囲とする。人権侵犯事件（憲法の判例）をもとに、日本の人権状況を勉強する。 最初の講義で「予定表」を配布する。 <受講生への要望> 『六法』は、必ず毎回もってくること。		1. オリエンテーション 2. 六法の使い方／憲法概念 3. 人権総論 4. 憲法制定略史 5. 法の下での平等 6. 精神的自由権／信教の自由 7. 精神的自由権／政教分離 8. 精神的自由権／学問の自由 9. 精神的自由権／表現の自由（1） 10. 精神的自由権／表現の自由（2） 11. 人身の自由 12. 社会権／生存権（1） 13. 社会権／生存権（2） 14. 社会権／教育権 15. 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
加藤一彦『改訂版 教職教養憲法 15 話』（北樹出版） 笹川ほか編『憲法判例特選』（敬文堂） 学生用六法（出版社は問わない）		定期試験による。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (地理学 1)(世界の自然環境と文化) 地理学 a(世界の自然環境と文化)	担当者	北崎 幸之助
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、地中海森林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある、意欲的な学生を希望する。		1. オリエンテーション—地理学とは 2. 環境の諸要素 (1) 気候環境 3. 環境の諸要素 (2) 緯度帯別降水量・蒸発量・気温 4. 環境の諸要素 (3) 地形・植生 5. 熱帯地域 (1) 熱帯林と伝統的生活様式 6. 熱帯地域 (2) 熱帯林の開発と環境問題 7. 熱帯地域 (3) 熱帯林の保全 8. 沙漠地域 (1) 自然的・文化的特色と伝統的経済活動 9. 沙漠地域 (2) 石油資源と近代化、沙漠の開発 10. 地中海森林地域の特性 11. 地中海地域の生活様式—西欧文化の原点 12. 地球環境問題に対する視点 (1) 13. 地球環境問題に対する視点 (2) 14. まとめ (1) 15. まとめ (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
山本正三他著 (2004)『自然環境と文化—世界の地理的展望 改訂版』原書房		期末定期試験の結果 (90%) に、出席状況 (10%) 等を加味して、総合的に評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (地理学 2)(世界の自然環境と文化) 地理学 b(世界の自然環境と文化)	担当者	北崎 幸之助
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。秋学期の講義は、まず地形環境を概観し、温帯草原地域、温帯混合林地域、亜寒帯森林地域、山地地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。そして最後に、深刻化する地球環境問題を取り上げ、今後の人間生活と自然環境との共生方法について理解を深める。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある、意欲的な学生を希望する。		1. 環境の諸要素—地形環境 2. 温帯草原地域の自然特性 3. 温帯草原地域の開発と環境問題 4. 温帯混合林地域 (1) 高密度都市化地域の特性 5. 温帯混合林地域 (2) 産業革命と都市域の拡大 6. 亜寒帯森林地域 (1) タイガの中の生活 7. 亜寒帯森林地域 (2) タイガの開発と保全 8. 山地地域 (1) 山地の自然環境と高度帯の利用 9. 山地地域 (2) 山地資源の開発と観光化 10. 地球環境問題 (1) 生態系と人間活動 11. 地球環境問題 (2) 自然環境の破壊 12. 地球環境問題 (3) 環境問題解決にむけた取り組み 13. 地球環境問題 (4) 私たちにできること 14. まとめ (1) 15. まとめ (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
山本正三他著 (2004)『自然環境と文化—世界の地理的展望 改訂版』原書房		期末定期試験の結果 (90%) に、出席状況 (10%) 等を加味して、総合的に評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (社会科学概論 1) 現代社会(Ⅲ) (社会科学概論 a)	担当者	木村 くに子
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちが生きている社会を成り立たせているさまざまな仕組みや、ときには社会に生じる問題への対処の仕方を考察する学問には、法学、政治学、経済学、社会学などがあり、それらは社会科学と総称されています。私たちが社会科学を学ぶ目的は、現在の社会の仕組みを不変の完結したものとするのではなく、人間にとってより良いものとなり得る可能性を追求することにあります。そのことは、自分と社会との関係を考えることに通じます。 今年度は、近年、社会諸科学において、その重要性を無視できなくなった「ジェンダー」について学びます。「ジェンダー」とは見慣れないことばだと思える人もいるでしょうが、すでに多様な生活世界に関わる日本の政策課題の中に「ジェンダー視点」を取り入れる努力がなされ、それはさらに強化されることが望まれています。 春学期においては、日常の身近な事象との関連を通じて「ジェンダー」とはどのようなものかについて基礎知識を学びます。「男とは」「女とは」、という問題をあらためて考えることを通じて、ひとつの違った社会の姿が見えるようになってもらえればと思います。		1. ガイダンス 2. 「性別」とは何か 「性別」の曖昧さ 3. ジェンダーとは何か ジェンダー概念の形成 4. つくられる「男らしさ」「女らしさ」 5. 性の多様性 (1): 「同性愛」と「異性愛」 6. 性の多様性 (2): 「性的マイノリティ」とは 7. トランス・セクシュアル、トランスジェンダー 8. インター・セックス 9. 「性同一性障害」問題 10. 「性的マイノリティ」の権利・運動 11. 家庭生活の中のジェンダー: 性別役割分業・主婦の誕生 12. 学校教育の中のジェンダー: 隠れたカリキュラム 13. メディアの中のジェンダー: ジェンダー・ステレオタイプ 14. 恋愛とジェンダー: 「恋愛」の歴史、意味 15. 総復習・まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は特に指定しません。適宜、プリントを配付します。授業中に、必要に応じて参考文献を指示します。		不定期に小レポートを書いてもらいます。小レポートの点・出席状況・試験の点を総合して評価します。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (社会科学概論 2) 現代社会(Ⅲ) (社会科学概論 b)	担当者	木村 くに子
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちが生きている社会を成り立たせているさまざまな仕組みや、ときには社会に生じる問題への対処の仕方を考察する学問には、法学、政治学、経済学、社会学などがあり、それらは社会科学と総称されています。私たちが社会科学を学ぶ目的は、現在の社会の仕組みを不変の完結したものとするのではなく、人間にとってより良いものとなり得る可能性を追求することにあります。そのことは、自分と社会との関係を考えることに通じます。 今年度は、近年、社会諸科学において、その重要性を無視できなくなった「ジェンダー」について学びます。「ジェンダー」とは見慣れないことばだと思える人もいるでしょうが、すでに多様な生活世界に関わる日本の政策課題の中に「ジェンダー視点」を取り入れる努力が行われ、それはさらに一層強化されることが望まれています。 秋学期においては、政策や、法、制度とジェンダーとの関わりを中心に学びます。ジェンダー視点は「公」と「私」という区別の仕方や「権力」のとらえ方において社会科学に発想の転換を迫りました。そのような点に着目して、社会の現状や新しい社会問題を考察しましょう。		1. ガイダンス 2. ジェンダー平等への国際的な取り組み: 女性差別撤廃条約 3. 暴力とジェンダーをめぐる国際的な取り組み 4. 日本における性犯罪と法の現在 5. ドメスティック・バイオレンス 6. セクシュアル・ハラスメント 7. 性の商品化: 人身売買、売買春、ポルノグラフィ 8. 人工妊娠中絶をめぐる政策/法 9. 人工生殖技術の現在: 技術の高度化と広がり 10. 人工生殖技術の利用によって生じる問題 11. 労働をめぐるジェンダー問題(1)雇用における男女格差 12. 労働をめぐるジェンダー問題(2)非正規雇用と女性労働 13. 家族法の中の性差別: 夫婦別姓問題 14. ケアとジェンダー: 子どもの世話、老親介護は誰がする? 15. まとめ: ジェンダー平等な社会の未来図	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は特に指定しません。適宜、プリントを配付します。授業中に、必要に応じて参考文献を指示します。		不定期に小レポートを書いてもらいます。小レポートの点・出席状況・試験の点を総合して評価します。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1(経済学 1) (はじめての経済学) 経済学 a (はじめての経済学)	担当者	黒木 亮
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 本講義の目的は、経済学の基本的な考え方を紹介することにある。具体的な経済問題や日本経済の事例にも触れながら、複雑な経済現象を理解し、整理するための見方、すなわち経済学の基本を習得してもらいたい。 講義の概要 テキストに沿って下記のテーマに関する講義を行う予定である。 I. ミクロ経済学の基本 II. ゲーム理論の考え方 III. マクロ経済学の基本 IV. 日本の経済をマクロの視点でとらえる (なお以上のテーマとその順番は、下記のテキスト上巻の第IV・V・II・IIIに対応している)。		I. 1. ガイダンス——経済学とはどのような学問か 2. 民営化・規制緩和の経済学的根拠 3. 市場メカニズムを解剖する 4. 市場はこうして失敗する II. 5. ゲーム理論のエッセンス 6. 囚人のジレンマ 7. コミットメントとは何か 8. 出店戦略分析 III. 9. GDP を中心にマクロ経済を考える 10. 需要と供給で考える 11. マクロ経済のコントロール——財政金融政策の役割 IV. 12. 日本経済の構造変化——石油ショックと変動相場制 13. 日本経済のグローバル化——プラザ合意前後 14. バブルの形成と崩壊後の日本経済 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊藤元重『はじめての経済学 (上)』日本経済新聞社.		レポート・期末試験のいずれか、ないし両方。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1(経済学 2) (はじめての経済学) 経済学 b (はじめての経済学)	担当者	黒木 亮
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 本講義の目的は、春季に習得した経済学の基本を、現実理解に即してマスターしてもらうことにある。財政や金融、企業や産業、ビジネスや労働、国際経済や為替の動き等々、具体的な事例や経済問題を通して、経済学の考え方にさらに磨きをかけてもらいたい。 講義の概要 テキストに沿って下記のテーマに関する講義を行う予定である。 I. 公共部門の経済学 II. 金融システムを理解する III. 国際経済を見る目を養う (なお以上のテーマとその順番は、下記のテキスト下巻の第VI・VII・IX章に対応している)。		I. 1. ガイダンス——経済学とはどのような学問か 2. 公共部門の三つの機能 3. 財政支出と累進課税 4. 自然独占と公共財 5. 景気対策と日本の財政状況 6. プライマリーバランス——財政の未来を考える II. 7. 貨幣のもつ様々な機能 8. マネーストックと金融政策 9. 信用乗数と資産市場の全体像 10. バブルの形成と崩壊が生じるメカニズム III. 11. 国際収支表の基本 12. 為替相場の仕組みとその動向 13. 企業の戦略および収益と為替の関係 14. 比較優位——国際的な自由貿易の恩恵 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊藤元重『はじめての経済学 (下)』日本経済新聞社.		レポート・期末試験のいずれか、ないし両方。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (日本国憲法) 日本国憲法(憲法と私たち)	担当者	古関 彰一
講義目的、講義概要		授業計画	
日本国憲法の概要を講義します。春学期の授業で日本国憲法全般を講義することは不可能ですので、基本的と考えられる点を、人権を中心に講義することになります。		1 開講にあたって (近代憲法とは何か) 2 基本的人権の歴史 3 基本的人権適用の限界 (公共の福祉、外国人) 4 日本国憲法の制定過程 5 平和主義と憲法 9 条 6 平等権の概念・学説・判例 7 選挙権の法的性格と選挙定数 8 信教の自由と政教分離原則 9 表現の自由の意義と検閲 10 報道の自由と知る権利 11 生存権の法的性格・学説・判例 12 立法権の性格と国政調査権 13 行政権の範囲と地方自治 14 司法権の独立と違憲法令審査権 15 閉講にあたって (まとめ、論述の仕方)	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは、芦部信喜『憲法』第五版 (岩波書店、2011 年)。小六法 (出版社は問いません)		春学期最後の試験期間中に一回、論述式の試験を行い、その結果に基づいて評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1(グローバリゼーションを巡って) 現代文化論 a(グローバリゼーションを巡って)	担当者	柴崎 信三
講義目的、講義概要		授業計画	
文明史はグローバリゼーションの歴史の集積でもある。米国はこの百年ほどの間、政治、経済、文化などで圧倒的な覇権を世界に及ぼしてきた。しかし 21 世紀にはいつ、9/11 事件からリーマンショックなどの金融危機を通して、米国文化の支配の陰りが窺える。 言語、宗教、生活習慣、社会システム、人々の価値観など「文化」がかかわる領域は幅広い。20 世紀の社会はそれぞれの国や地域の固有性に根ざしながら、民主主義という統治の仕組みから市場経済システムのありかたや大量消費の文化など、米国というモデルの強い影響力の下で統合されてきたとみることができる。 21 世紀の今日、米国の文化的な覇権の揺らぎを中国やインドなどアジアの新興国の台頭、EU が向き合う壁と日本というパートナーの混迷を参照しながら、グローバリズムと文化のかかわりを考える。歴史の浅い超大国が覇権国家として 20 世紀の世界にもたらしてきた文化的な影響力とその限界、国家や民族、地域の文化が持つ固有性と、それを飲み込む普遍性を通してグローバリゼーションの意味を学びたい。		1 はじめに 2 文明のかたち 3 「帝国」と覇権 4 フランクリン型人間像 5 トクヴィルが見た米国 6 WASP と移民国家 7 ロックフェラーと石油の世紀 8 大量生産・大量消費の文化 9 冷戦と「豊かな時代」 10 「信頼」と社会 11 「大きな政府」から「小さな政府」へ 12 米国標準とソフトパワー 13 アメリカンシステムと金融危機 14 主役なき世界へー文化の覇権の行方 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各回、資料を配布する。渡辺靖『文化と外交』(岩波新書)を参考文献とする。		定期試験の成績に加えて、通常の授業で課するレポートの実績を勘案して評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1(日本の表象と世界) 現代文化論 b(日本の表象と世界)	担当者	柴崎 信三
講義目的、講義概要		授業計画	
「日本」とは何だろう。われわれの生きている場は、それぞれの言語や風土、民族や宗教、伝統と文化の下に置かれている。現代社会はこうした固有の環境がグローバリズムという大きなうねりと衝突し、あるいは融合して変化しながら、新たな文化のかたちとなった。 中国文明の強い影響と極東の島国という地理的な条件の下で、日本は古来独特の文化を育んできた。外来の知識や技術の積極的な受け入れとその固有の風土への融合による、ハイブリッド(混合)型の文化がその特徴といわれる。明治維新以降の日本は近代化を進めた結果、アジアの先頭を切って西欧列強へ仲間入りした。近隣諸国の植民地化と敗戦という負の遺産を超えて、戦後に果たした復興と経済大国への道には、そうした日本の文化的な特質が少なからず寄与している。 近代の日本というモデルを通して、文芸や美術などの表象から社会システムや技術のありかたなど、その「文化」のさまざまな現れ方を探り、グローバリズムと伝統や固有の価値とのかかわりを考える。グローバル化の波に異文化がどのように向き合ってきたかを問うとともに、普遍的な価値と固有の価値のダイナミックな交渉とその葛藤のプロセスをそこで学んでゆきたい。		1 はじめに 2 脱亜入欧とジャポニズム 3 日本型システムの起源 4 天皇制という仕組み 5 敗戦と占領 6 1955 年体制と戦後日本 7 MADE IN JAPAN 8 高度成長と中流社会 9 ブランドと消費社会 10 日本礼賛と日本たたき 11 COOL JAPAN 12 表象としての日本 13 <日本>という価値 14 グローバリズムと文化 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各回、資料を配布する。夏目漱石『三四郎』(岩波文庫)、ロナルド・ドーア『働くということ』(中公新書)を参考文献とする。		定期試験の成績に加えて、通常の授業で課するレポートの実績を勘案して評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1(歴史の中のメディア) 現代社会(Ⅲ)(歴史の中のメディア)	担当者	柴崎 信三
講義目的、講義概要		授業計画	
グーテンベルクの活字印刷の発明から電信、映像、電波など情報技術の進化に伴い、メディアが社会を動かす大きな役割を担うようになった。人の思考や行動、国家や社会の姿も大きく変えるメディアと情報の流れを歴史のなかに探りながら、社会と人間のありようを考える。活字印刷の発明で大量の情報が同時に広く人々に行き渡るようになり、欧州社会を中心にコミュニケーションの場は飛躍的に拡大した。新聞や雑誌という活字メディアの勃興は民主主義社会の発展を促した。 19 世紀後半から 20 世紀にかけて、電信などの通信技術の開発と写真や映画、ラジオやテレビといった映像と音声による情報伝達が広がると、人々を取り巻く情報環境は一変した。さらにインターネットが切り開いた 21 世紀の空間は、グローバルなネットワークと伝達のスピードや個人の自在な情報のやりとりを可能にし、社会の価値観や規範まで揺るがせている。この授業ではこうしたメディアの変遷をたどりながら、個人と国家や社会との関係や、民主主義と市場経済というシステムとのかかわりに情報が果たしてきた役割とこれからのメディアの姿を見つめたい。		1 はじめに 2 グーテンベルクの革命 3 ピュリツァーと＜新聞戦争＞ 4 ロイターの軌跡 5 視覚の二〇世紀 6 メディアとプロパガンダ 7 戦争・国益・メディア 8 グローバリゼーションと情報 9 メディア複合体 10 テレビとネット 11 「素材は王なり」 12 民主主義とメディアモデルの揺らぎ 13 情報の価値とフリーミアム 14 メディアのなかの人間 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各回、資料を配布する。ジョアンナ・ヌーマン『情報革命という神話』（柏書房）を参考文献とする。		定期試験の成績に、通常の授業なかで課すりポートの実績を勘案して評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1(メディアと現代社会) 現代社会(Ⅲ)(メディアと現代社会)	担当者	柴崎 信三
講義目的、講義概要		授業計画	
個人が世界に自在に情報をやりとりするインターネットの登場と、その技術を応用したサービスの広がりが既存メディアの存立基盤を揺るがしている。ここではこれまでマスメディアが依拠してきた社会モデルと、新たなメディアの急成長がもたらす問題を通して、民主主義と市場社会における「公共性」の行方を考えたい。 マスメディアは個人と民主主義や市場を支えるシステムを結んで情報を伝達し、社会が共有する「公共財」を生み出してきた。世論や政策の形成、市場における消費や文化的な価値の創造に大きな影響力をもたらすこの機能が、立法や司法、行政の三権になぞられて「第 4 の権力」と呼ばれてきたゆえである。 民主主義の下での国民の要求を代行するという立場で既存メディアが情報を独占してきたのは、「公益性」の追求という使命がそこに認められてきたからだ。その足場の揺らぎの背景には、電子メディアという新たな競争者の台頭と巨大資本を背景にして収益性と権力性を高める旧メディアの倫理的な空洞化がある。報道を巡る「表現の自由」と個人の「プライバシー」の権利の対立、「知る権利」というメディア報道の法的基盤の揺らぎなど、具体的な争点を通して新旧メディアを考える。		1 はじめに 2 ジャーナリズムの誕生 3 調査報道とキャンペーン 4 「表現の自由」と社会 5 誤報と虚報はなぜ生まれるのか 6 「世論」とメディア 7 情報操作はなぜ行われるのか 8 公共性とメディアの倫理 9 テレビ放送と通信の融合 10 外交と情報摩擦 11 メディアの再編と市場 12 情報漏洩－ウィキリークス問題 13 メディアと文化 14 ネット社会と「公共圏」の行方 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各回、資料を配布する。佐藤卓巳『メディア社会』（岩波新書）を参考文献とする。		定期試験の成績に、通常の授業のなかで課すりポートの実績を勘案して評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	現代社会Ⅰ（NGO論） 現代社会Ⅲ（NGO論）	担当者	清水 俊弘
講義目的、講義概要		授業計画	
紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発（貧困）問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。この講座では非政府組織、NGOの活動に着目し、具体例を元に、問題の捉え方、関わり方に関する多様な視点を養うことを目標とする。 この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタン、パレスチナなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な人権侵害、自然破壊などについて考える。また、復興、開発期における政府開発援助（ODA）の諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。 また、こうした紛争地等で活動するNGOが、力を合わせることで、世界を動かす力を発揮する事例として、対人地雷全面禁止条約の成立過程（オタワプロセス）やクラスター爆弾禁止条約の成立過程における市民社会の役割についても詳しく説明する （受講生への要望） 世界各地で起きている諸問題について、自分なりの視点で考えてみたいと思う人に受講していただきたい		①NGO論オリエンテーション ②～③「対テロ戦争」と市民社会Ⅰ／アフガニスタンの現状とNGOの活動 ④～⑤「対テロ戦争」と市民社会Ⅱ／イラクの現状とNGOの活動 ⑥パレスチナ問題とNGOの取り組み ⑦東アジアの平和と市民交流 ⑧NGOによる復興・開発協力の事例（カンボジア） ⑨ミレニアム開発目標（MDGs）とラオスにおける森林保全 ⑩アフリカにおけるHIV/AIDSの現状とNGOの取り組み ⑪政府開発援助とNGO ⑫～⑬非人道兵器の禁止と市民社会Ⅰ 対人地雷の廃絶キャンペーンに学ぶNGOのネットワーク ⑭非人道兵器の禁止と市民社会Ⅱ クラスター爆弾禁止条約の成立過程に学ぶ市民社会の役割 ⑮NGOの組織運営と資金	
テキスト、参考文献		評価方法	
日本国際ボランティアセンター著『NGOの選択』めこん 2005年 地雷廃絶日本キャンペーン編『地雷と人間』岩波ブックレット2003年 清水俊弘著『クラスター爆弾なんてもういらない』合同出版2008年		レポート提出。平常授業の課題など。	

08年度以降 07年度以前	現代社会Ⅰ(コトバと社会) 現代社会(Ⅲ)(コトバと社会・言語文化概論)	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
異なる言語を話す民族は、違ったものの見方・考え方をし、違った行動のしかた・生活のしかたをします。 文化とは、ある集団に共通のものの見かた・考えかた、行動のしかた・生活のしかた、およびそれらを表すものであり、言語は、その集団に共通の行動のしかた方の一種であるとともに、この共通性をささえるものでもありますから、言語・文化と民族・社会は相互依存の関係にあります。 言語と文化の相互関係と、それらをにう民族と社会との関連について考えることがこの講義の目的です。 遠い昔、人類の発祥地とされるアフリカから人類が拡散するにつれて人種の違いが生まれ、食べ物とすみかを求めて移動するうちにさまざまな民族に分かれ、言語も異なってきました。 コロンブスのアメリカ大陸「発見」以来、奴隷の売買と植民地の争奪戦などのように、民族どうしの関わりかたが根本的に異なり、文化の摩擦・言語の衝突が起きるようになりました。 多くの文化・言語が滅ぼされましたし、今も失われつつあります。こうした伝統的文化を保存し、方言をも含めて言語の死滅を防ぐために、世界平和をどのようにして確立すればよいのかをさぐっていきます。		1. 人と人が出会えば、伝え合いをしないわけにはいかない。伝え合いとはどういうものか？ 2. 動物の伝え合い 3. コトバによる伝え合いとよらない伝え合い 4. 伝え合いの手段・産物である言語とは？ 5. 世界にはどのような言語があるのか？ 6. 民族の形成 7. 文化の形成・変化 8. 民族と宗教 9. 民族と国家 10. 少数民族問題と民族・地域紛争 11. 少数民族問題と民族・地域紛争(続き) 12. はたらきかけ合いと伝え合いの原則とは？ 13. ウソとコトバの魔術 14. 話し合いによる平和で豊かな世界の建設 15. まとめ 毎回パワーポイントを使い、話しの要点を示し、それをあらかじめWEB上に公開しておきますが、ビデオを織りまぜ、資料を配布するときもあるので、出席していないと、講義の内容全体を把握することはできません。	
テキスト、参考文献		評価方法	
下川 浩著『どうしてそんなにダメされる？』(えむ出版企画・国際語学社)		毎回の授業レポートと最後にまとめのレポートを提出してもらい、それにもとづき評価します。(参考のために最後のレポートに自己評価を書いてもらいます。)	

08年度以降 07年度以前	現代社会Ⅰ(コトバと社会) 現代社会(Ⅲ)(コトバと社会・言語文化概論)	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
異なる言語を話す民族は、違ったものの見方・考え方をし、違った行動のしかた・生活のしかたをします。 文化とは、ある集団に共通のものの見かた・考えかた、行動のしかた・生活のしかた、およびそれらを表すものであり、言語は、その集団に共通の行動のしかた方の一種であるとともに、この共通性をささえるものでもありますから、言語・文化と民族・社会は相互依存の関係にあります。 言語と文化の相互関係と、それらをにう民族と社会との関連について考えることがこの講義の目的です。 遠い昔、人類の発祥地とされるアフリカから人類が拡散するにつれて人種の違いが生まれ、食べ物とすみかを求めて移動するうちにさまざまな民族に分かれ、言語も異なってきました。 コロンブスのアメリカ大陸「発見」以来、奴隷の売買と植民地の争奪戦などのように、民族どうしの関わりかたが根本的に異なり、文化の摩擦・言語の衝突が起きるようになりました。 多くの文化・言語が滅ぼされましたし、今も失われつつあります。こうした伝統的文化を保存し、方言をも含めて言語の死滅を防ぐために、世界平和をどのようにして確立すればよいのかをさぐっていきます。		1. 人と人が出会えば、伝え合いをしないわけにはいかない。伝え合いとはどういうものか？ 2. 動物の伝え合い 3. コトバによる伝え合いとよらない伝え合い 4. 伝え合いの手段・産物である言語とは？ 5. 世界にはどのような言語があるのか？ 6. 民族の形成 7. 文化の形成・変化 8. 民族と宗教 9. 民族と国家 10. 少数民族問題と民族・地域紛争 11. 少数民族問題と民族・地域紛争 12. はたらきかけ合いと伝え合いの原則とは？ 13. ウソとコトバの魔術 14. 話し合いによる平和で豊かな世界の建設 15. まとめ 毎回パワーポイントを使い、話しの要点を示し、それをあらかじめWEB上に公開しておきますが、ビデオを織りまぜ、資料を配布するときもあるので、出席していないと、講義の内容全体を把握することはできません。	
テキスト、参考文献		評価方法	
下川 浩著『どうしてそんなにダメされる？』(えむ出版企画・国際語学社)		毎回の授業レポートと最後にまとめのレポートを提出してもらい、それにもとづき評価します。(参考のために最後のレポートに自己評価を書いてもらいます。)	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (政治システムの構成要素) 政治学 a(政治システムの構成要素)	担当者	鈴木 宏尚
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 政治という現象および政治システムの構成要素について理解を深める。 講義の概要 本講義では、まず政治とは何か、政治学とはどのような学問か、について概説する。そしてその上で、政治システムはどのような要素から構成されているのか、を政党や官僚などのアクター、政治と社会、経済との関係等の側面から検討していきたい。また、一国内の政治システムだけでなく、国境を越えた政治現象についても取り上げる。 理論的・概念的な説明が中心となるが、できるだけ具体例に触れることによって、理解を助けたい。		(予定) 1. イントロダクション 2. 政治の世界 (1) 政治とは何か 3. 政治の世界 (2) 政治の多様性 4. 政治学のアイデンティティ 5. 「政治システム」と政治体制 6. リーダーとリーダーシップ 7. 政党 8. 官僚制 9. 利益団体 10. マスメディアと政治 11. 政治と経済 12. 国際政治 13. グローバル化と政治 14. 講義のまとめ (1) 15. 講義のまとめ (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。 毎回レジュメを配布する。 参考文献は適宜紹介する。		出席およびコメントカード 20% 期末試験 80%	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (現代の民主主義) 政治学 b(現代の民主主義)	担当者	鈴木 宏尚
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 「民主主義」と民主主義体制における政治について理解を深める。 講義の概要 現在、民主主義、特に自由民主主義のイデオロギーと政治制度はグローバル・スタンダードとなっていると言つてよい。しかしながら、民主主義はいくつかある政治体制の一つのタイプに過ぎないとも言える。また、日本を含めた先進国では、民主主義が行き詰まっているような印象を受ける。 そこで本講義では、民主主義、権威主義、全体主義など、政治体制の諸類型、経済発展と民主化、民主主義と国際政治、政党制、政治過程などのトピックを取り上げながら、政治体制と民主主義についての理解を深めたい。		(予定) 1. イントロダクション 2. 民主主義の展開 3. 政治体制とは何か 4. 非民主主義的政治体制 5. 自由民主主義体制 (1) 6. 自由民主主義体制 (2) 7. 民主化 (1) 8. 民主化 (2) 9. 民主主義と国際政治 10. 政党政治と政党システム 11. 選挙制度と政治参加 12. 政治過程 13. 民主主義の危機と課題 14. 講義のまとめ (1) 15. 講義のまとめ (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。 毎回レジュメを配布する。 参考文献は適宜紹介する。		出席およびコメントカード 20% 期末試験 80%	

08 年度以降	現代社会 1（基礎から学ぶマネジメント）	担当者	高松 和幸
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：マネジメントの基礎概念を理解することとする。概念レベルとしての企業や経営、管理と組織、経営効率性や事業等について、日常生活の中の事例を交えて明らかにする。そこから、マネジメント視点はどのようなものかを考えてみたい。 講義概要：現代社会 1（基礎から学ぶマネジメント）は、マネジメントで明らかにしようとしている基本的な課題について解説する。企業はヒト・モノ・カネ・情報が大切だという。これらがマネジメント要素だからである。それを組み合わせる仕組みが組織や株式会社などの制度である。ものづくりの仕組みとしてのシステム、ヒトを動かす仕組みとしての人的資源管理など、カネの動きを統制する財務、社会における企業の新しい役割（CSR）などの視点から学習の一助としたい。		1. オリエンテーション・・本講義の全体像を紹介する。 2. マネジメントとは何か 3. 株式会社の仕組みと組織 4. コーポレート・ガバナンス 5. 企業集団とグループ経営 6. ものづくりと生産システム 7. 企業の組織 8. 組織における人間行動 9. モチベーション 10. 賃金制度 11. 人的資源としての雇用管理 12. 企業の資金調達 13. グローバル経営 14. 良き「企業市民」としての企業 15. マネジメントのフロンティア・・この領域でこれまでに蓄積された知見は非営利組織をはじめ、より広い組織にも適用され、有用な分析用具として活用されている。その動向に注目して説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜、プリント配布 参考文献 拙著『経営組織論の展開』創成社など		出席・レポート重視（授業中、クイズ等も行う）	

08 年度以降	現代社会 1（基礎から学ぶマネジメント）	担当者	高松 和幸
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		春学期に同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (韓国社会各論 b) 現代社会 (Ⅲ) (韓国社会各論 b)	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
世界で最も貧しい国の一つであった韓国が、40 年ばかりで工業国に変貌し、経済的に成功した。一方、韓国経済の成功は韓国社会に大きな社会変化をもたらしている。この講義は、この 40 年間にわたる韓国の発展過程において社会はどのように変貌したのか、経済成長と社会変容を担ったのは何か、ということを明らかにすることを目的とする。 まず経済発展以前の韓国社会の構造を家族、血縁関係を中心に検討する。韓国の経済発展と開発戦略がどのようにもたらされてきたのかを考察する。また経済成長による韓国社会の変化を人口移動、教育の変化、中間層の形成などを中心に検討する。社会発展過程において「財閥」と呼ばれる巨大なビジネス・グループがなぜ、いかに形成されたのかを探る。		1. 韓国の歴史、政治 (1) 2. 韓国の歴史、政治 (2) 3. 家族の構造 4. 社会の人間関係ネットワーク 5. 経済成長の社会学的考察 6. 経済成長をどう表すか 7. 二重構造モデル (ルイス・モデル) 8. 経済発展と後発性利益 9. 韓国の経済成長 (1) 10. 韓国の経済成長 (2) 11. 工業化パターンー日本モデル 12. 輸出志向工業化と輸入代替工業化 13. 韓国の財閥 14. 日・韓経済関係 15. 総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
服部民夫 (2005)『開発の経済社会学ー韓国の経済発展と社会変容ー』文真堂		出席状況と試験によって評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (ジェンダーとメディア表象) 女性学 b(ジェンダーとメディア表象)	担当者	西山 千恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
テレビや新聞、ラジオ、雑誌、インターネットなど私たちは毎日メディアを通じて膨大な情報に接し、そこから女性、男性についての知識を得て、男女のイメージ、固定観念を作り上げています。「自分はメディアに左右されていない」と思っている、私たちはメディアの影響から完全には自由になれません。 この授業ではそもそも「性別」「性役割」とは何かについて、ジェンダー概念を中心に考えていくと共に、それがメディアでどのように描かれているか、また自分自身はどのように受け止めているか、批評的な態度で考える視点、力を養うことを目的とします。講義を進める上で、映像資料を使用することが多くあります。 授業内容を受けてコメントカードを書いてもらうことがあります。（不定期）。コメントは次の回の授業のはじめに一部紹介し、それを受けてさらに考察を深めます。 なお、トピックは変更されることがあります。また講義の内容上、一部性的表現や性暴力表現などが含まれることがあります、ご了承のうえ、履修して下さい		1. オリエンテーション 2. ジェンダーとは何か 3. ジェンダーの周辺概念 4. 「女らしさ・男らしさ」 5. 性の多様性 6. 「セクシュアル・マイノリティ」の主張・運動 7. メディアとセクシュアリティ 8. ジェンダー視点のメディア・リテラシー 9. 広告におけるジェンダー 10. メディアと性差 11. 映画とジェンダー 12. 映画における「セクシュアル・マイノリティ」 13. 美術表現におけるジェンダー 14. メディアとジェンダーの平等 15. まとめ・質疑応答	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。特定のテキストは用いません。参考文献は授業中に提示します。		学期末試験で評価します。優れたコメントカードの提出があった場合は、これを加点要素とします。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (中東の社会空間) 現代社会 (Ⅲ) (中東の社会空間)	担当者	水口 章
講義目的、講義概要		授業計画	
歴史的な時空の圧縮が進む中、2011 年には中東地域で「アラブの春」と呼ばれる政治変化が起きたように、人々の意識・行動の変化と社会変動が連環しつつ動いている状況が見て取れる。 本講義ではこの社会変動について、経済面ではイノベーション能力、国際競争力の観点から、社会面では慣習、制度、法律、教育などの観点から分析する。 それにより、現在の中東の社会空間の特性を知ることを目指す。 到達目標は、中東の社会空間で起きている変化と世界空間の変化の関連性について分析できる能力を養成することである。 講義の進め方としては、授業を 3 つに区分し、各区分の終了時に理解度を確認するためのグループ討議を行う。その討議を踏まえての課題レポートは必ず提出すること。		1 ガイダンス 2 人間行動と空間の特性 3 「アラブの春」 1 (チュニジア、エジプト) 4 「アラブの春」 2 (リビア、シリア、イエメン) 5 小まとめ： 中東の社会変動 6 家族 7 制度と慣習 8 イスラム法の支配 9 教育、ジェンダー問題 10 小まとめ： 中東の社会空間にある檻 11 中東諸国と国際競争力 12 エネルギー産業と中東社会 13 労働問題に見る中東社会 14 世界経済の低迷と中東社会 15 まとめ：中東と世界空間における潮流	
テキスト、参考文献		評価方法	
<テキスト> 水口章『中東を理解する—社会空間論敵アプローチ』日本評論社		学習態度 10%、課題レポート 90% (小まとめレポート 15% ×2 回、まとめレポート 60% ×1 回) で評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (中東政治と市民社会) 現代社会 (Ⅲ) (中東政治と市民社会)	担当者	水口 章
講義目的、講義概要		授業計画	
冷戦終焉後 23 年を経た現在、国際社会は歴史的な転換期にある。その中で、民族・宗教間の対立、文化的摩擦、経済格差を要因とする市民の抗議運動が世界各地で見られている。 特に、アイデンティティや社会的不安が市民の社会運動とどのように関係するのか、また、市民運動を構成する組織や人々の意識連帯が国境を越えてどのように結ばれているのかについて考察する。その事例として、国際紛争における国際介入を取り上げる。 このように、本講義では今日の国際社会における市民の社会運動を取り上げ、近未来の市民社会のあり方をイメージできるようになることを目的とする。 また、到達目標は、国際的变化を読み解き、市民として政治・社会参加をするための基礎能力を養成することである。 講義の進め方としては、授業を 3 つに区分し、各区分の終了時に理解度を確認するためのグループ討議を行う。その討議を踏まえての課題レポートは必ず提出すること。		1 ガイダンス 2 ソーシャルネットワークと社会運動 3 社会運動に関する理論 4 市民と社会運動 5 小まとめ： 市民の政治参加 6 中東和平とパレスチナ人 7 アフガニスタン問題の広がり 8 湾岸戦争と経済封鎖 9 リビア問題と保護する責任 10 小まとめ： 国際介入と「正義」 11 国際テロと文明の衝突 12 社会秩序と法の統治 13 マイノリティ問題と民主主義 14 市場と公平 15 まとめ：近未来の市民社会のあり方	
テキスト、参考文献		評価方法	
<テキスト> 水口章『中東を理解する—社会空間論敵アプローチ』日本評論社		学習態度 10%、課題レポート 90% (小まとめレポート 15% ×2 回、まとめレポート 60% ×1 回) で評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1(経済学 1)(ミクロの視点で考える) 経済学 a (ミクロの視点で考える)	担当者	米山 昌幸
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。 この講義の目的は、初めて経済学を学ぶ学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい経済学に興味をもってもらうこと、そして分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この 2 つです。経済学の基礎学力をつけることが、遠回りのようでじつは経済学的思考のセンスを磨くことにつながるのです。そのためには公務員試験問題のトレーニングも有益でしょう。 この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としています。経済学を学ぶ初心者としては経済学部 of 学生も他学部 of 学生も同じです。新聞記事や経済データを提示して、経済学的な考え方になれてもらうようにしたいと考えています。 経済学の分野は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。<u>春学期は、家計・企業・政府といった個々の経済主体の決定について考察しその相互作用を研究する、ミクロ経済学の分野を中心に講義します。</u>ビジネスの事例もできるだけ取り上げたいと思います。		1. ガイダンス：経済学とわたしたち 2. 分業の利益 3. 分業の利益：まとめ 4. 需要と供給 5. 価格メカニズム 6. 需要と供給：価格メカニズム：まとめ 7. 市場の効率性 8. 市場の効率性：まとめ 9. 市場の効率性：まとめ(続き) 10. 市場の失敗 11. 市場の失敗：まとめ 12. 市場の限界 13. 市場の限界：まとめ 14. 労働市場 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは次のものを予定しています。 中谷武・中村保編『1 からの経済学』碩学社、2010 年。 テキストと参考文献については第 1 回目の授業で提示します。		基本的には定期試験の得点(100 点満点)を評価基準(第 1 回目の授業で説明する)に照らして評価する。ただし、出席点や練習問題の得点もサービス点として加算する予定。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1(経済学 2)(マクロの視点で考える) 経済学 b (マクロの視点で考える)	担当者	米山 昌幸
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。 この講義の目的は、初めて経済学を学ぶ学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい経済学に興味をもってもらうこと、そして分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この 2 つです。経済学の基礎学力をつけることが、遠回りのようでじつは経済学的思考のセンスを磨くことにつながるのです。そのためには公務員試験問題のトレーニングも有益でしょう。 この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としています。経済学を学ぶ初心者としては経済学部 of 学生も他学部 of 学生も同じです。新聞記事や経済データを提示して、経済学的な考え方になれてもらうようにしたいと考えています。 <u>秋学期は、GDP、経済成長率、物価指数といった経済全体を捉える変数の決定を考察し、労働市場・生産物市場・資本市場の相互作用について研究する、マクロ経済学の分野を中心に講義します。</u>景気指標、金融・財政政策、財政赤字、経済成長などのニュース、トピックもできるだけ取り上げたいと思います。		1. GDP とは何か 2. GDP とは何か：まとめ 3. GDP とは何か：まとめ(続き) 4. 物価を考慮する方法 5. 何が GDP を決めるのか 6. 消費需要と投資需要 7. 所得・支出分析 8. 所得・支出分析(続き) 9. 貨幣と金融 10. 貨幣と金融(続き) 11. 金融市場、貨幣と日本銀行 12. 政府の役割 13. 外国貿易と為替レート 14. 経済成長と国民生活 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは次のものを予定しています。 中谷武・中村保編『1 からの経済学』碩学社、2010 年。 テキストと参考文献については第 1 回目の授業で提示します。		基本的には定期試験の得点(100 点満点)を評価基準(第 1 回目の授業で説明する)に照らして評価する。ただし、出席点や練習問題の得点もサービス点として加算する予定。	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (歴史における科学技術 1: 古代から近代までの科学技術) 化学 a (歴史における科学技術 1: 古代から近代までの科学技術)	担当者	内田 正夫
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちは科学技術に取り囲まれた現代社会に生きている。物の生産や消費はもちろん、科学技術は人々の考え方や倫理観にまで大きな影響を与えており、日常生活から将来の政策決定にいたるまで、科学技術に関わる知識や判断力は専門家だけでなく私たちすべてに求められる。そのために最も基本的な、科学技術とはなにかということについて、歴史から学び、考察する学問分野が科学史・技術史である。 春学期は技術と科学の起源、西欧の中世、ルネサンスから近代社会の形成との中で近代的な技術と近代科学が生み出されていく過程を概観し、社会における生産技術の発展とそれが人々の自然世界に対する近代的な認識を形づくった道筋を考察する。私たちが幼時から目にし耳にして育つ豊かな物的生産技術や原子の世界、宇宙の見方など、それらが現代とはまったく違うものであった時代から、私たちはどのようにして近代的な物の見方を獲得してきたのか。その起源を考察することを通して現代の科学や技術の持つ意味を照らしだしてみよう。対象とする事例には物質の探求と生産（化学と化学工業）に関する事項を多く取りあげる。春学期のみまたは秋学期のみを受講できるが、できれば通年の受講を推奨したい。授業は講義形式でおこなう。		1. 講義の概要 科学史・技術史について 2. 社会と技術と科学の起源 (1) 3. 社会と技術と科学の起源 (2) 4. 古代、中世の技術と自然哲学 (1) 5. 古代、中世の技術と自然哲学 (2) 6. ルネサンスの科学と技術 (1) 7. ルネサンスの科学と技術 (2) 8. ルネサンスの科学と技術 (3) 9. 近代的自然像の形成 (1) 10. 近代的自然像の形成 (2) 11. 近代的自然像の形成 (3) 12. 近代的自然像の形成 (4) 13. 近代的自然像の形成 (5) 14. 近代的自然像の形成 (6) 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト なし 必要に応じてプリントを配布する		定期試験 (60%) 授業で指示する提出物 (30%) 出席 (10%)	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (歴史における科学技術 2: 近現代における科学技術) 化学 b (歴史における科学技術 2: 近現代における科学技術)	担当者	内田 正夫
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちは科学技術に取り囲まれた現代社会に生きている。物の生産や消費はもちろん、科学技術は人々の考え方や倫理観にまで大きな影響を与えており、日常生活から将来の政策決定にいたるまで、科学技術に関わる知識や判断力は専門家だけでなく私たちすべてに求められる。そのために最も基本的な、科学技術とはなにかということについて、歴史から学び、考察する学問分野が科学史・技術史である。 秋学期は科学技術が社会の生産力にとって大きな役割を占めるようになる産業革命以後、現代の科学技術の諸問題までを考察する。大量生産・大量消費の社会はどのようにして出現してきたのか。それを可能にした技術、科学はどのように発展したのか。それをになった技術者、科学者はどのようにして社会に出現し、研究を推進したのか。また社会は工業化と科学・技術の発展浸透をどのように受けとめたのか。人々の自然世界の見方はどう変わったのか。環境、生命、防災、軍事など科学技術の関わる現代のさまざまな問題を私たちはどのように考えたらよいのか。これらを考察の対象とする。対象とする事例には物質の探求と生産（化学と化学工業）に関する事項を多く取りあげる。春学期のみまたは秋学期のみを受講できるが、できれば通年の受講を推奨したい。授業は講義形式でおこなう。		1. 講義の概要 近現代の科学技術と社会の歴史 2. 科学技術の展開と産業社会 (1) 3. 科学技術の展開と産業社会 (2) 4. 科学技術の展開と産業社会 (3) 5. 現代科学への転換点 (1) 6. 現代科学への転換点 (2) 7. 現代科学への転換点 (3) 8. 日本の近代化と科学技術 (1) 9. 日本の近代化と科学技術 (2) 10. 日本の近代化と科学技術 (3) 11. 現代科学技術の諸問題 (1) 12. 現代科学技術の諸問題 (2) 13. 現代科学技術の諸問題 (3) 14. 現代科学技術の諸問題 (4) 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト なし 必要に応じてプリントを配布する		定期試験 (60%) 授業で指示する提出物 (30%) 出席 (10%)	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (自然観察 a) 生物学 a(植物の特性と自然の仕組み)	担当者	加藤 僖重
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 - 生物学の基礎は材料となる種（種類）の認識である。種の認識は時代、民族によって大きく異なる。その違いを知り、植物(種)の多様性を知ること目標とする。 履修資格 - 植物名に関心があること。 - 普通の植物 100 種を認識できること。		1 登録に先立っての試験 2 実験室の使用法 3 5 月の花 1 4 植物の基礎 分類学 1 5 5 月の花 2 6 植物の基礎 分類学 2 7 6 月の花 1 8 植物の基礎 分類学 3 9 6 月の花 2 10 植物の基礎 分類学 4 11 植物の基礎 分類学 5 12 7 月の花 1 13 7 月の花 2 14 7 月の花 3 15 まとめ 第一回目の講義で 詳細な説明と基礎テスト を行なうので、必ず出席すること（欠席者の登録お断り）。	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。		毎回出欠を確認。4 回以上の欠席者は不可とする。提出数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果、その他を総合して評価する。	

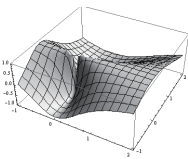
08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (自然観察 b) 生物学 b(植物の分布)	担当者	加藤 僖重
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目標 - 日本の地域によって異なる植物相を理解し、日本の自然環境の特質を知ること目標とする。 講義の目的 - 地域によって生物型が定まっている。その共通点と相違点を知ること目標とする。 履修資格 - 植物に興味があり、地理が好きであること。 - 普通の植物 100 種を認識できること。		1 登録に先立っての試験 2 植物の基礎 形態学 1 3 10 月の花 1 4 植物の基礎 形態学 2 5 10 月の花 2 6 植物の基礎 形態学 3 7 11 月の花 1 8 植物の基礎 形態学 4 9 11 月の花 2 10 植物の基礎 形態学 5 11 植物の基礎 形態学 6 12 12 月の花 1 13 12 月の花 2 14 12 月の花 3 15 まとめ 第一回目の講義で 詳細な説明と基礎テスト を行なうので、必ず出席すること（欠席者の登録お断り）。	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。		毎回出欠を確認。4 回以上の欠席者は不可とする。提出数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果、その他を総合して評価する。	

08年度以降 07年度以降	自然・環境・人間 1（地球環境の変化とその要因） 自然・環境・人間（III）（地球環境の変化とその要因）	担当者	鈴木 滋
講義目的、講義概要		授業計画	
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 我々の環境は目まぐるしく変化している。その状況を地球規模で、タイムリーに的確に理解するためには、地球環境を自然科学的側面から捉えることが必要である。 この講義では、地球環境の変化とその要因として、地球誕生後の地球環境の変遷とその自然のおよび人為的要因について検討する。また、地球環境問題に対する地球環境の位置づけや地球規模の問題として環境と資源がどのような因果関係にあるのか考察する。		1 オリエンテーション：授業概要等の説明 2 地球環境とは何か？ 今、何が起っているのか？ 3 地球環境の歴史（I） 4 地球環境の歴史（II） 5 地球環境の構造等：地球という惑星について 6 地球環境と地球システム（I）：物質圏の相互関係 7 地球環境と地球システム（II）：炭素循環など 8 地球環境と資源（I）：資源の特性 9 地球環境と資源（II）：エネルギー 10 地球環境と材料：地球材料学（ジオマテリアル・サイエンス）とは 11 地球環境と科学技術：科学技術は地球環境に何をもたらしたか？ 12 環境：地球環境と広域・地域環境との比較 13 環境と共生：人間活動・物質循環との関係 14 地球環境問題概論 15 まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 参考文献：講義内容によって、適時指示する。		基本的には定期試験による。	

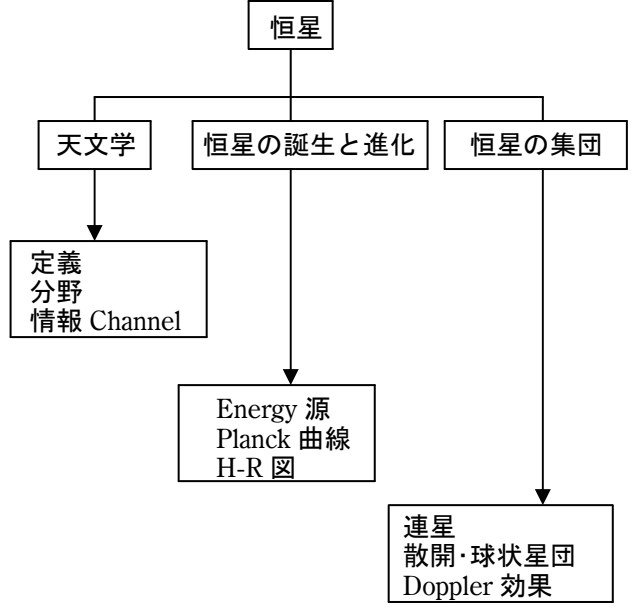
08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間 1（地球環境問題と環境保全） 自然・環境・人間（III）（地球環境問題と環境保全）	担当者	鈴木 滋
講義目的、講義概要		授業計画	
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 地球環境問題は国際的な文化・経済・社会等に大きな影響を与えている。この問題を理解し、把握することは、グローバルなものを見方を養うと共に、地球環境の保全に欠かせないと思われる。 この講義では、地球環境問題と環境保全として、地球環境問題各論を中心に、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨などの地球環境に生じる具体的現象、その原因と影響ならびに対策について環境論および資源論を交えて検討する。		1 オリエンテーション：授業概要等の説明 2 地球環境問題各論（I）：地球温暖化（a） 3 地球環境問題各論（I）：地球温暖化（b） 4 地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊（a） 5 地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊（b） 6 地球環境問題各論（II）：酸性雨 7 地球環境問題各論（II）：海洋汚染 8 地球環境問題各論（II）：有害廃棄物の越境移動 9 地球環境問題各論（III）：砂漠化 10 地球環境問題各論（III）：森林減少 11 地球環境問題各論（III）：野生生物（種）の減少 12 地球環境問題各論（III）：開発途上国の環境（公害）問題など 13 地球環境の保全（I）：環境と開発 14 地球環境の保全（II）：文化・経済・社会等との関係 15 まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 参考文献：講義内容によって、適時指示する。		基本的には定期試験による。	

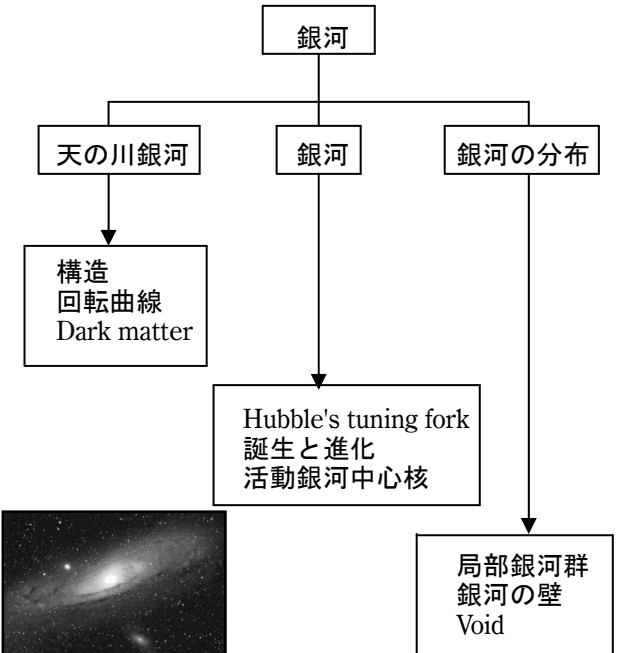
08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (科学史 a) 物理学 a (相対論の世界)	担当者	野澤 聡
講義目的、講義概要		授業計画	
現在の私たちの生活は、科学と切り離すことができません。科学は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、新しい治療薬や画期的な通信手段を開発する基礎となって私たちの人生や生活を豊かにしてくれます。その一方で、科学が戦争や環境破壊に使われると、私たちの健康や生存に大きな脅威をもたらす可能性があります。このような科学はどこからきてどこに向かおうとしているのでしょうか。 この講義では、科学の歴史を大まかに見ることによって、私たちが社会の中で科学を生かす方法を考えるとともに、受講生が一般市民に科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることを目指しています。 春学期は、古代から17世紀の科学革命を経て「科学者 (scientist)」という言葉が登場した19世紀初めまでに、科学的なものの見方や考え方がどのように移り変わってきたのかについて、代表的な人物や事例に焦点を当てて概観します。		1. ガイダンス、科学とはなにか？ 2. 科学的な考え方のはじまり (古代) 3. 古代世界の宇宙観 4. 地中海世界からアラビア世界へ 5. アラビア世界からヨーロッパ世界へ 6. コペルニクスと地動説 7. 魔術と科学 8. 機械論的自然観と科学 9. ニュートンと科学革命 10. 科学アカデミーの誕生 11. 女性と科学 12. 産業革命と科学 13. フランス革命と科学 14. 「科学者 (scientist)」の登場 15. なぜヨーロッパで近代科学が誕生したのか？	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。 参考文献：橋本毅彦『〈科学の発想〉をたずねて 自然科学から現代科学まで』左右社・放送大学叢書，2010 年		出席 30 % 中間レポート (文章の要約・1 回) 30 % 期末試験 40 %	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (科学史 b) 物理学 b (量子論の世界)	担当者	野澤 聡
講義目的、講義概要		授業計画	
現在の私たちの生活は、科学と切り離すことができません。科学は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、新しい治療薬や画期的な通信手段を開発する基礎となって私たちの人生や生活を豊かにしてくれます。その一方で、科学が戦争や環境破壊に使われると、私たちの健康や生存に大きな脅威をもたらす可能性があります。このような科学はどこからきてどこに向かおうとしているのでしょうか。 この講義では、科学の歴史を大まかに見ることによって、私たちが社会の中で科学を生かす方法を考えるとともに、受講生が一般市民に科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることを目指しています。 秋学期は、「科学者 (scientist)」という言葉が登場した19世紀の初めから現代までを扱い、科学が社会の中で大きな力を獲得していく様子について、具体的な事例に焦点を当てて概観します。		1. ガイダンス、「科学者 (scientist)」とはだれか？ 2. 蒸気機関と熱力学の誕生 3. 科学の制度化と専門職業化 4. 科学の産業化 5. 公害の発生と科学 6. 進化論と社会 7. 帝国主義と科学 8. 研究所の誕生と展開 9. 科学と国家 10. 現代科学の登場と自然観の転換 11. 科学と戦争 12. ビッグ・サイエンスの誕生 13. 地球環境問題と科学 14. 科学技術政策の展開 15. 科学はどこに向かうのか？	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。 参考文献：橋本毅彦『〈科学の発想〉をたずねて 自然科学から現代科学まで』左右社・放送大学叢書，2010 年		出席 30 % 中間レポート (文章の要約・1 回) 30 % 期末試験 40 %	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (数学 a) 数学 a (微分学)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
0 数学は、現象を客観的に解析する際に威力を発揮します。『数学 a』では、現象の変化を解析する際に登場する「微分学」を学びます。微分学は現象の変化のうち、特に山頂・丘・窪み・谷底等を扱うことを得意とします。身の回りの複雑な環境を反映して、多変数微分まで勉強します。 0 身近な現象を関数に対応させて解析し、この関数の変化の様子から、対応する身近な現象の知られざる部分の変化の様子を逆に探ります。 0 講義・演習を通して、微分学の知識を実際の現象解析に使えるようになればと思います。 0 主体的に多くの問題を解き、微分学を身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。 0 第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。		微分学 関数・逆関数 $y = f^{-1}(x)$ 極限 $\lim_{x \rightarrow a} f(x)$ 微分 $\frac{\partial z}{\partial x}, \frac{\partial z}{\partial y}$ 有理関数・無理関数 指数関数・対数関数 三角関数・逆三角関数   極限值 Achilles と亀 $0.9 = 1$ 常微分・偏微分 極値 最小二乗法	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
0 (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『数学読本④、⑤』松坂 和夫著・岩波書店)		0 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう 評価用紙(演習・宿題・Quiz)の中身 です。	

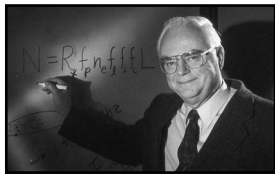
08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (数学 b) 数学 b (積分学)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
0 『数学 b』は上記『数学 a』の知識を前提に、現象の奥底に潜む法則のモデル作りに便利な道具「積分学(積分・微分方程式)」を学びます。 0 応用として、身近な現象の数学モデルに登場する変数の発展を辿り、着目する現象の具体的な行動・未来予測等に挑戦します。数学モデルを作る際、現象のどの点に着眼するか一苦労です。 0 講義・演習を通して、積分学(積分・微分方程式)の知識を実際の現象解析に使えるようになれば Second opinion の構築に役立つと思います。 0 主体的に多くの問題を解き、積分学(積分・微分方程式)を身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。 0 第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。		積分学 積分 $\int f(x)dx$ 微分方程式 $f(x, y, y', y'', \dots, y^{(n)}) = 0$ 不定積分 初期条件 部分積分法   変数分離形(人口問題) 1 階線形(美術品の贋作) 2 階線形(ロケットの飛行)	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
0 (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『微分方程式で数学モデルを作ろう』垣田 高夫、大町 比佐栄 訳・日本評論社)		0 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう 評価用紙(演習・宿題・Quiz)の中身 です。	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (恒星天文学) 地球科学 a (恒星天文学)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
☀ 地球を広大な宇宙に浮かぶ天体の一つと捉え『自然・環境・人間 1』では、天文学を学びます。「天文」とは「天」から届く「文」のこと、「天文学」は宇宙から届く手紙を解読する「学」問です。 ☀ 春学期は「恒星」についての天文学です。天文屋は地球上での自然法則が、太陽を始めとする恒星の世界をも司っていること、逆に宇宙を支配する自然法則が地球にも及んでいて地球が宇宙の一員であることを知りました。 ☀ 主体的に勉強して得た知識をもとに自らの頭で先を考え、地球が宇宙に浮かぶ天体の一つ、自然の一員であることを実感して下さい。 ☀ 数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。 ☀ 第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。			
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
☀ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『天文学への招待』岡村 定矩 編集・朝倉書店)		☀ 主に、 試験 (授業・配布プリント・宿題) と毎時間提出の 評価用紙 (宿題・発言) です。	

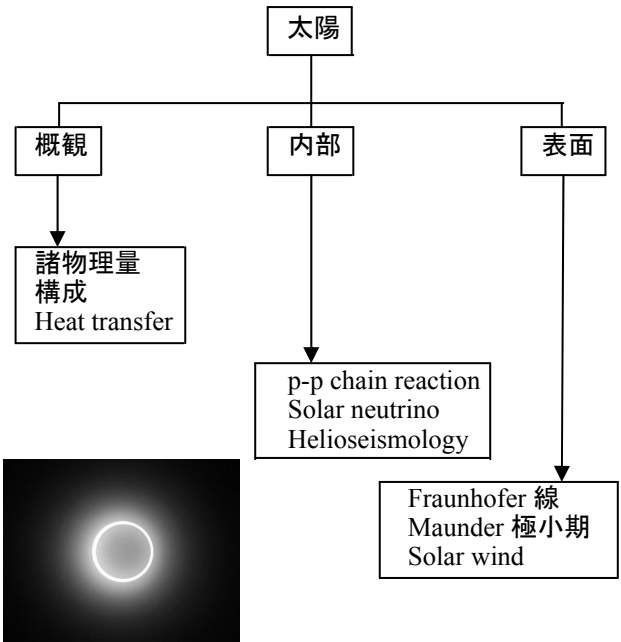
08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (銀河天文学) 地球科学 b (銀河天文学)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
★ 秋学期には、上記春学期の知識を前提に、一千億もの恒星が重力的に集まる、より大きな集団「銀河」についての天文学を学びます。 ★ 天文屋は恒星までを対象に発見した自然法則を用いて天の川銀河・銀河にまで考察を広げ、自然法則を更に大きな自然に適うよう統一し、普遍化する大きな夢の実現に努めています。 ★ 現在までに得られた知識をもとに自らの頭で未知の世界を探り、自然の一員であることの自覚の上に、独自の世界を未来に向かって開いて下さい。「天」からの「文」には経験したことの無い大きな夢が認められているかもしれません。 ★ 数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。 ★ 第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。			
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
★ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『天文学への招待』岡村 定矩 編集・朝倉書店)		★ 主に、 試験 (授業・配布プリント・宿題) と毎時間提出の 評価用紙 (宿題・発言) です。	

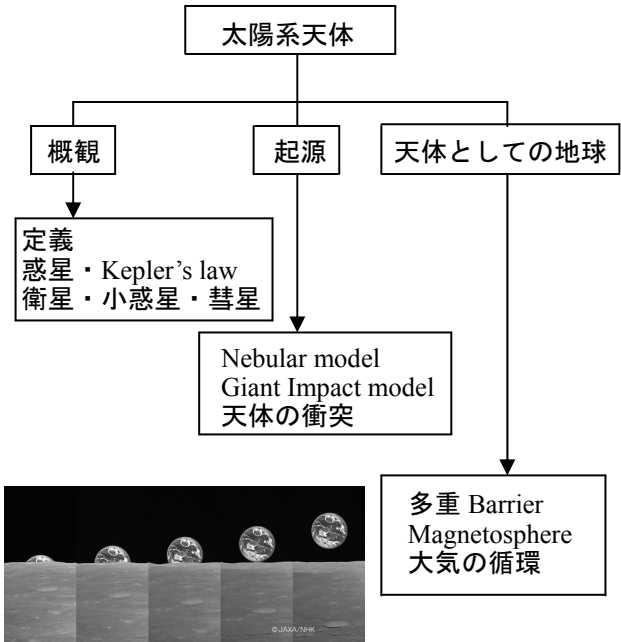
08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (宇宙論 a) 自然・環境・人間 (Ⅲ) (宇宙論 a)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
☆ 『宇宙論 a』では Einstein の「特殊相対性理論」を学びます。自らの座標系をしっかりとらせ、“特殊”に付けられた条件に留意する必要があります。 ☆ Einstein は当時、研究者の間で議論されていた光の伝播に関して強い関心を抱きました。また Einstein が、時間・空間に対する考え方をそれまでの絶対から相対に変えたことに依り、物理的世界観は本質的な変質を遂げました。 ☆ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭でユニークな先を考え、必要とあらば思い切った発想の転換 (Paradigm Shift) を試みることも時には大切なことだと思います。 ☆ 数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。 ☆ 第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。		特殊相対性理論 (1905 年) <pre> graph TD A[特殊相対性理論 1905 年] --> B[光] A --> C[時空] A --> D[特殊相対論] B --> E[光速 Michelson-Morley の実験 Fitzgerald-Lorentz 収縮] C --> F[絶対・相対時空 Newton のバケツ Mach 原理] D --> G[特殊相対性原理 光速不変の原理 時間の遅れ・長さの縮み・質量はエネルギー] E --> G F --> G </pre> 	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
☆ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『相対性理論がみるみるわかる本』佐藤 勝彦 監修・PHP 研究所)		☆ 主に、 試験 (授業・配布プリント・宿題) と毎時間提出の 評価用紙 (宿題・発言) です。	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (宇宙論 b) 自然・環境・人間 (Ⅲ) (宇宙論 b)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
㊦ 『宇宙論 b』は上記『宇宙論 a』の知識を前提に Einstein の「一般相対性理論」を学びます。 ㊦ “一般”化する事により構築された「一般相対性理論」はその後の観測で検証され、重力をより深く理解することになりました。そこで応用として、重力が纏わる現象を最新の成果・話題 (Dark energy など) も交えながら学びます。 ㊦ 発想の転換に因る独自の考えは、用心深く実践する必要があります。(相対性)理論構築への道程の話を通して、自分の考えの構築に取り組んだ後、責任を持って実践する工夫が不可欠なことに思い至って欲しいと思います。 ㊦ 数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。 ㊦ 第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。		一般相対性理論 (1916 年) <pre> graph TD A[一般相対性理論 1916 年] --> B[一般相対論] A --> C[検証] A --> D[重力現象] B --> E[一般相対性原理 等価原理 幾何学と重力] C --> F[重力に依る光の赤方偏移 重力は光の進路を曲げる 水星の近日点移動] D --> G[宇宙モデル Black holes 重力波] E --> F F --> G </pre> 	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
㊦ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『相対性理論がみるみるわかる本』佐藤 勝彦 監修・PHP 研究所)		㊦ 主に、 試験 (授業・配布プリント・宿題) と毎時間提出の 評価用紙 (宿題・発言) です。	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (地球外文明論 a) 自然・環境・人間 (Ⅲ) (地球外文明論 a)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
ㇿ『地球外文明論 a』では、現在の地球文明を基点に「地球外文明の進化」を学びます。 ㇿ我々人類は、宇宙進化を司る“宇宙方程式”の現 時間・空間に対する一つの解として存在します。この解の時間・空間発展を辿れば、文明の進化を考察出来る筈です。ただ、宇宙方程式の完成には、自然の探求方法を「自然科学」から「自然学」へと複雑化する必要があります。 ㇿ人類が今行う進化への営為が、この時間・空間発展に沿ったものかどうかを、主体的に勉強して得た知識をもとに模索し、「進化への自由で大きな夢」を各自が描くきっかけにしてください。 ㇿ数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。 ㇿ第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。		地球外文明の進化 <pre> graph TD A[地球外文明の進化] --> B[I 型文明] A --> C[II 型文明] A --> D[III 型文明] B --> E[地球 Drake 方程式 宇宙への夢] C --> F[Dyson 球 恒星間飛行計画 時間・燃料の問題] D --> G[Kardashev 球 CTA-102 騒動 銀河クラブ] </pre> 	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
ㇿ(テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『地球外文明の思想史』横尾 広光 著・恒星社厚生閣)		ㇿ主に、試験(授業・配布プリント・宿題)と毎時間提出の評価用紙(宿題・発言)です。	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (地球外文明論 b) 自然・環境・人間 (Ⅲ) (地球外文明論 b)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
♂『地球外文明論 b』では、『地球外文明論 a』の知識を前提に「地球外文明の探査」を学びます。 ♂多数世界論の立場から地球外文明の存在を信じ、我々を探査に駆り立てる原理を基に、地球外文明の探査哲学を確立し、また探査計画を立てるに当たって共通する自然の本質を考えます。 ♂地球外文明の探査・発見(への努力)は、我々人類の存在意義・進化の方向に指針を与えてくれると思います。主体的に勉強して得た知識をもとに自然学への更なる広がりを模索し、「ETI への夢」を自由に大きく膨らませながら、“Are we alone?”の問い掛けを続けて下さい。 ♂数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。 ♂第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。		地球外文明の探査 <pre> graph TD A[地球外文明の探査] --> B[存在] A --> C[探査哲学] A --> D[探査計画] B --> E[多数世界論 唯一世界論 P. Lowell と火星] C --> F[平凡性の原理 人間原理 最小作用の原理] D --> G[Ozma 計画→SETI 計画 Kepler mission UFO をめぐって] </pre> 	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
♂(テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『広い宇宙に地球人しか見当たらない 50 の理由』S. Webb 著・松浦俊輔 訳・青土社)		♂主に、試験(授業・配布プリント・宿題)と毎時間提出の評価用紙(宿題・発言)です。	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (天文学 a) 自然・環境・人間 (Ⅲ) (太陽系天文学 a)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
❖ 我々は太陽系惑星の一つ地球に住んでいます。諸環境のお蔭で地球上では他の惑星とは異なり、生物が誕生 (?)・進化し人類まで奇跡的に辿り着きました。「太陽系」の起源を知れば奇跡の訳が見えてくるかも知れません。 ❖ 『(太陽系) 天文学 a』(太陽)では、天体としての地球を取り巻く環境を考察するに当たり、地球にとって掛け替えの無い恒星 The Sun を天文学の立場から学びます。What is the Sun? ❖ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・実行して下さい。 ❖ 数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。 ❖ 第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。			
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
❖ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『教養のための天文学講義』米山 忠興 著・丸善)		❖ 主に、 試験 (授業・配布プリント・宿題) と毎時間提出の 評価用紙 (宿題・発言) です。	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (天文学 b) 自然・環境・人間 (Ⅲ) (太陽系天文学 b)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
❖ 『(太陽系) 天文学 b』(太陽系天体)では、『(太陽系) 天文学 a』(太陽)の知識を前提に The Solar system = The Sun's family (除・太陽)を地球環境に関わりを持たせて天文学の立場から学びます。 ❖ 地球が宇宙を司る自然法則に支配されていることは他の太陽系天体と同じです。我々の存在を可能にしている他の太陽系天体からの違いは何でしょう?地球が The Goldilocks planet と呼ばれる理由がここにあります。 ❖ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・実行して下さい。 ❖ 数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。 ❖ 第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。			
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
❖ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『教養のための天文学講義』米山 忠興 著・丸善)		❖ 主に、 試験 (授業・配布プリント・宿題) と毎時間提出の 評価用紙 (宿題・発言) です。	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (私の自由時間設計) スポーツ・レクリエーション学 a(自由時間とクオリティオブ ライフを考えよう)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
平和で、豊かな生活が可能な日本では、生涯生活時間の 2 割から 3 割の自由時間を享受することができます。労働時間は、1 割です。あなたは 1 割の時間の価値観にとらわれすぎていませんか。自由時間を「レジャー」(生きがい)とするために、自由時間についてもっとよく考えて見ましょう。そうすれば、あなたは一人十色の魅力的な個性豊かな生き方に気づくはずです。あなたが、遊びの範疇でおこなってきたことが、大きな価値を持ち始めるでしょう。何も持っていない人は、この授業をきっかけに始められるでしょう。 この授業では、あなたの自由時間を学問的に意義付けし、その価値に目覚めていただくことを目標にします。また、旅行業など余暇関連産業の仕事をめざす学生には必須の知識となるでしょう。 秋学期には、実践編として全学総合講座で「自由時間の達人」たちにその方々の実践、考え方をお話していただきますので、ぜひこの授業と「自由時間の達人」を継続して履修してほしいと思います。 積極的に講義支援システムほか、インターネットを利用しますので、ブラウザを操作する、メールを送る、ワープロで文書が作成できる等の知識が必要です。わからなければ授業時間外で教えますから気軽に質問に来てください。		- オリエンテーション - 自由時間とは - 生活時間の構成 - 自由時間の推移と現状 - 自由時間「三つの意味」その 1 - 自由時間「三つの意味」その 2 - 少子化とライフスタイル - 古典的解釈から知るレジャー 「スコレー」とは - 余暇享受能力を開発していますか - ビデオ「森と老人」に見る余暇享受能力 - クオリティオブライフ 「環境と健康」 - ライブアンケートから知る獨協生の価値観とライフスタイル - まとめ 授業で携帯電話をライブアンケート等に必要に応じて利用しますので、参加は任意ですが、大講義室での授業をより活性化するために必要ですので、ぜひご協力をお願いします。(パケット通信料がかかります)	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システムに授業資料をアップロードします。		出席状況、学期末試験の結果、その他授業時に書いた作文も考慮します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (写本を読む) ことばと思想 (IV) (写本を読む)	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
日本には、いわゆる古典文献以外にも、近代になっても多量に残された生活に関わる文書等、筆墨で記された文献（版本を含む）が無数に存在している。それらは貴重な文化遺産なのだが、それらを読み解くものがいなければただの紙屑でしかない。この授業はそれらを読み解くために必要な基本的技能（連綿体・変体仮名・書類上の日本漢文を読み解く力）を、実際に手を動かし、写本類を読むことで養う。 具体的には、変体仮名を読む訓練を徹底的にした後、近世に記された文芸（物語・和歌類）・地方文書・実用書（版本）等の各ジャンルから様々な様態を示すもののうち、典型的な例を影印で示して読解の指導と作業を行う。 さらに、基礎力を養った後に架蔵の写本類から比較的分量の少ないものを影印で与えて翻刻を課する。余裕のあるものには毛筆での書写も課する。 <u>全体としては手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。課題が多いので心して参加せられたい。</u> なお、参加するものは筆ペン（実際に毛筆を使用しているもの）を用意すること。		1 オリエンテーション・導入 2 概説（日本の筆写・筆記の歴史、変体仮名） 3 変体仮名演習① 4 変体仮名演習② 5 変体仮名演習③ 6 変体仮名演習④ 7 和歌を読む① 8 和歌を読む② 9 和歌を詠む③ 10 和歌を読む④ 11 物語を読む① 12 物語を読む② 13 文書を読む① 14 文書を読む② 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト…プリントして配布 参考文献（必携）… 『字典かな』 定価:本体 380 円(税別) ISBN4-305-00000-8		数回の提出物、および学期末試験の成績による。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (碑文を読む) ことばと思想 (IV) (碑文を読む)	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
現代の日常生活の周辺にも気づかぬまま存在している石碑類（道標・墓誌・歌碑・句碑・記念碑・供養碑等）を読み解くために必要な基本的技能（連綿体・変体仮名・日本漢文・梵字等の読解力）を養い、解釈と理解の道筋を示して身近に存在する文化的歴史的遺産に対する意識を高めるのが目的の、実践的な授業である。 具体的には各分野の碑文のうち、典型的な例を写真などで示して（写真のデジタル処理に関してある程度の知識がある方が望ましい）読解の基本的指導と作業を行って基礎力を養った後に、<u>学生各自が碑文の採集と解釈を行い、教室で報告することを課する。</u> 変体仮名の初歩等から教えることはしないので、日本特殊研究Ⅲ（写本を読む）をすでに履修したもの、もしくは変体仮名を読めることが履修の最低条件である。その上で漢文・梵字などを読まなくてはならないので、勉強しなくてはならないことは山ほどある。 <u>全体としては足を動かし、手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。課題が多いので心して参加せられたい。</u>		1 オリエンテーション・導入 2 概説（石碑の種類・刻まれた文字達） 3 日本漢文体の読解、梵字の読解 4 道標・講中碑を読む 5 墓碑銘・供養碑を読む 6 記念碑・文学碑を読む 7 学生諸君の報告と検討① 8 学生諸君の報告と検討② 9 学生諸君の報告と検討③ 10 学生諸君の報告と検討④ 11 学生諸君の報告と検討⑤ 12 学生諸君の報告と検討⑥ 13 学生諸君の報告と検討⑦ 14 学生諸君の報告と検討⑧ 15 学生諸君の報告と検討⑨	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト・参考文献…プリントして配布		各自が調査した碑文の採集・調査報告書を発表、検討した上で手直しして提出してもらう。その内容による。	

08 年度以前 07 年度以降	ことばと思想 2 (日本語音声表現のトレーニング基礎篇) ことばと思想(IV)(日本語音声表現のトレーニング基礎篇)	担当者	梅津 正樹
講義目的、講義概要		授業計画	
日本語の音声表現によるコミュニケーション能力を高めるための基礎を学ぶ。 日本語（国語）教育では「読む」「書く」「聞く」「話す」を柱としている。その中でも、今日の複雑な社会環境で社会人に必須とされるのは、コミュニケーション力「話して伝える力」である。その基本となる「ことば」は口語言語（話し言葉）であって、書記言語（書き言葉）ではない。近年「正しい話し方」などと言う指導があるが、そうしたマニュアルは在り得ない。話し手・聞き手、それぞれ個性があり価値観が異なる。「ことば」に対する認識も異なるのである。正しいと言われる言葉で整然と話しても、正しく伝わるとは限らないのである。 本講義では言葉の「力と空しさ」を体験しながら、理論ではなく、実践からコミュニケーションの方法論を考える。		1 オリエンテーション「日本人とことば」 2 自然な発音・発声「発声トレーニング」 3 自然な発音・発声「発音トレーニング」 4 自然な発音・発声「鼻濁音・無声化・アクセント」 5 実践「自己紹介」 6 実践「自己紹介」 7 実践「自己紹介」 8 実践「話して伝える基本・説明するⅠ」 9 実践「話して伝える基本・説明するⅡ」 10 実践「テーマに即したスピーチ」 11 実践「テーマに即したスピーチ」 12 実践「テーマに即したスピーチ」 13 敬語の基本「用法と実践」 14 敬語の基本「用法と実践」 15 気をつけたい表現とことば	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時プリント配布		毎回の出席・課題の実践	

08 年度以前 07 年度以降	ことばと思想 2 (日本語音声表現のトレーニング表現篇) ことばと思想(IV)(日本語音声表現のトレーニング表現篇)	担当者	梅津 正樹
講義目的、講義概要		授業計画	
日本語の音声表現によるコミュニケーション能力を高めるための基礎を学ぶ。 日本語（国語）教育では「読む」「書く」「聞く」「話す」を柱としている。その中でも、今日の複雑な社会環境で社会人に必須とされるのは、コミュニケーション力「話して伝える力」である。その基本となる「ことば」は口語言語（話し言葉）であって、書記言語（書き言葉）ではない。近年「正しい話し方」などと言う指導があるが、そうしたマニュアルは在り得ない。話し手・聞き手、それぞれ個性があり価値観が異なる。「ことば」に対する認識も異なるのである。正しいと言われる言葉で整然と話しても、正しく伝わるとは限らないのである。 本講義では言葉の「力と空しさ」を体験しながら、理論ではなく、実践からコミュニケーションの方法論を考える。秋季は文章を「読んで伝える」ことも加える。		1 オリエンテーション「ことばと人間」 2 自然な発音・発声トレーニング 3 実践「話して伝える・聴いて理解する」 4 実践「話して伝える・適切な言葉を選ぶ」 5 実践「テーマに即した話をする」 6 実践「テーマに即した話をする」 7 話すと読む「読んで伝える」 8 実践「文意どおりの音声表現」 9 実践「短文を読んで伝える」 10 実践「テーマに即した話をする」 11 実践「テーマに即した話をする」 12 実践「テーマに即した話をする」 13 敬語表現「基本と応用」 14 敬語表現「用法と実践」 15 気をつけたい表現	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時プリント配布		毎回の出席・課題の実践	

08年度以降 05～07年度	ことばと思想 2 (ラテン語 Ia) ラテン語 I a	担当者	小倉 博行
講義目的、講義概要		授業計画	
ラテン語とは今から 2,000 年以上も前にイタリアのローマを中心に用いられていた言語です。ローマの支配圏が拡大するに伴い、このラテン語も西ヨーロッパの全域に広まりました。現在のイタリア語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語などロマンス諸語と呼ばれる言語は、ラテン語が人々によって用いられる間に少しずつ変化し、成立したもののなのです。したがって、ヨーロッパの社会・歴史・言語のどの分野であれ、深い理解を得ようとするにはラテン語（そしてギリシア語）の知識が不可欠です。本講座ではラテン語の読解力を身につけるべく、その初級文法を学びます。 教科書を使って、毎回文法事項を説明します。皆さんは課ごとに付されている練習問題を解き、それを提出します。次回までにこちらがそれを添削し、返却および解説を行います。		I. 文字と発音、アクセント II. 規則動詞の現在形 III. 第一・第二変化名詞 IV. 第一・第二変化形容詞 V. 第一・第二変化名詞および形容詞 ---その 2 --- VI. 未完了過去形 VII. 未来形 VIII. 不定詞 IX. 第三変化名詞および形容詞 X. 第三変化名詞および形容詞 ---その 2 --- XI. 過去完了形 XII. 未来完了形 XIII. 規則動詞の受動態 XIV. 復習受動態の未完了過去形および未来形 (1) XV. 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ラテン語初歩』改訂版 田中利光著 岩波書店		毎回、添削を 20 点満点で評価し、平均して 6 割 (12 点) を合格の最低ラインとします。	

08年度以降 05～07年度	ことばと思想 2 (ラテン語 Ib) ラテン語 I b	担当者	小倉 博行
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じです。ただし、秋学期から受講するという場合は、春学期で学ぶ内容を終えている必要がありますし、後期から参加しても授業についていけるかどうか、こちらで判定する機会を設けることもあります。		I. 受動態の未完了過去形および未来形 (2) II. 動詞の過去形 III. 過去形の受動態 IV. 過去完了形および未来完了形の受動態 V. 第四および第五変化名詞 VI. デポネンティア VII. 代名詞 VIII. 疑問代名詞 IX. 不定代名詞 X. 非人称動詞および分詞 XI. 比較級 XII. 動名詞 XIII. 動形容詞 XIV. 動名詞の変わりに用いられる動形容詞 XV. 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じです。		春学期と同じです。	

08年度以降 05～07年度	ことばと思想 2 (ラテン語 IIa) ラテン語 IIa	担当者	小倉 博行
講義目的、講義概要		授業計画	
ラテン語の原典を講読し、読解力の向上を目指します。従って、この授業を受講するには、ラテン語の初級文法を学び終えていることが前提です。 ラテン語の文法を学んだ人は「とにかく予習が大変だった」あるいは「課題をこなすのに一苦労だった」と言います。そこで、せっかく「完走」しても、「あれをまたやるのは…」と、続けることを断念してしまう人も少なからずいます。この授業はそうした心配には及びません。詳しい註や解説をあらかじめ用意することで、予習の段階でのいわば「不必要な試行錯誤」を回避できるよう工夫してあります。つまり、なるべく負担は少なく、なおかつ原文で読まなければ味わうことのできない醍醐味を知ってもらおうという、欲張りな授業です。文法を学んだだけで終わらせてしまうのは、辛いところしか知らずにやめてしまうのに等しいといえるでしょう。初級をクリアしたということは、古代世界を深く知る、それも特権的な資格を得たということです。そうした自負を持って、ためらうことなくこの授業に参加してもらいたいと思います。		左記のような方針なので、輪読の形式をとることになります。この2年間カエサルの『ガリア戦記』の第1巻を読んできました。今年度は同書の第1巻の冒頭（第1章）を読んだ後、第2巻（紀元前57年、ガリア北東部への遠征）を読もうと思っています。 I 教材プリント配布、ガイダンス。 II 第1巻第1章 III 第2巻第1章 IV 第2巻第2章 V 第2巻第3章 VI 第2巻第4章 VII 第2巻第5章 VIII 第2巻第6章 IX 第2巻第7章 X 第2巻第8章 XI 第2巻第9章 XII 第2巻第10章 XIII 第2巻第11章 XIV 第2巻第12章	
テキスト、参考文献		評価方法	
原典はプリントを配布します。また、辞書は『羅和辞典』（研究社）を用意して下さい。また、ラテン語 I で使った教科書を参考書とします。		平常点で評価します。毎回の予習と、授業への意欲的な参加を望みます。	

08年度以降 05～07年度	ことばと思想 2 (ラテン語 IIb) ラテン語 IIb	担当者	小倉 博行
講義目的、講義概要		授業計画	
上記の通りです。		春学期に引き続きカエサルの『ガリア戦記』を輪読します。 I 第2巻第13章 II 第2巻第14章 III 第2巻第15章 IV 第2巻第16章 V 第2巻第17章 VI 第2巻第18章 VII 第2巻第19章 VIII 第2巻第20章 IX 第2巻第21章 X 第2巻第22章 XI 第2巻第23章 XII 第2巻第24章 XIII 第2巻第25章 XIV 第2巻第26章	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記の通りです。		上記の通りです。	

08年度以降 07年度以降	ことばと思想2(古典ギリシア語I a) 古典ギリシア語I a	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 春・秋一年間の授業を通して、基礎的な古典ギリシア語を着実に読み、書き、理解することができるようになることを第一の目標とします。そのためには、テキストの練習問題を確実にこなして、一つ一つステップアップしていく手法をとっていきます。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの歴史や文化、さらには現代ギリシアの社会や文化にも触れていきたいと思います。 <講義概要> 授業は毎回各単元1～2つずつ学習するペースで進みますが、途中10分間ほどの中休みを入れ、古代や現代のギリシアの情勢を映像などを交えて紹介しながら、アト・ホームな雰囲気で行いたいと考えています。なお、各回の授業は予習と復習をきちんとすることを前提に進めていくことになるので、出席は必ず毎回するように心がけて下さい。希少で貴重な古典ギリシア語を知的遺産として自分のものにしてみませんか。		1 字母・発音・音韻などの分類 (この時点で、古典ギリシア語で自分の名前が書ける) 2 音節・アクセント・句読点 (この時点で、古典ギリシア語の単語が読める) 3 動詞の変化・直説法能動相現在 (この時点で、単文が理解できる) 4 名詞の第一変化 (この時点で、名詞の規則変化が理解できる) 5 動詞の変化・直説法能動相未来 (この時点で、未来形の文章が読める) 6 動詞の変化・直説法能動相未完了過去 (この時点で、動詞の三時制がマスターできる) 7 名詞の第二変化 8 形容詞の変化(第一・第二変化) 9 前置詞 10 動詞の変化・直説法能動相アオリスト 11 動詞の変化・現在完了と過去完了 12 指示代名詞と強意代名詞(新約聖書が読める) 13 直説法能動相本時称の人称語尾 14 直説法能動相副時称の人称語尾 15 春学期まとめ * ()内は到達度チェックの際の目安です。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<テキスト>田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門改訂版』(岩波全書、1648円) <参考文献>なし。時々、プリントを配布します。		出席による練習問題の解答を繰り返して行ない、テストや試験はしません(つまり、平常点評価)。	

08年度以降 07年度以降	ことばと思想2(古典ギリシア語I b) 古典ギリシア語I b	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 同上 <講義概要> 同上		1 ε ι μ ι 動詞と φ η μ ι 動詞 (この時点で、動詞の人称変化の基本形が理解できる) 2 疑問代名詞と不定代名詞(この時点で、アクセントの有無で意味が変わることが理解できる) 3 動詞の変化・直説法中動相の各時制(1) (この時点で、中動相独特の用法が理解できる) 4 動詞の変化・中動相の各時制(2) (この時点で、微妙な文章表現が理解できる) 5 人称代名詞(この時点で、人称代名詞を使わずに、その代用表現が多用されることが理解できる) 6 再帰代名詞、相互代名詞、所有代名詞(この時点で、文章上のつながりが理解しやすくなる) 7 第二アオリストの用法(不規則変化が理解できる) 8 動詞の変化・直説法受動相 9 名詞の第三変化(1) 10 名詞の第三変化(2) 11 能相欠如動詞と約音動詞 12 形容詞の第三変化 13 不定法(1) 14 不定法(2) 15 秋学期まとめ(古典ギリシア語習得の意義)	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想Ⅱ(書き言葉の問題) ことばと思想(Ⅳ)(書き言葉の問題)	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目的) メールはその簡便性から一般化されてきた。その簡便性ゆえに日本語の持つ叙情性や心配りが失われつつある。本講義では、暗号のようなメールのやり取りから抜け出して、心を打つ手紙をトレーニングして、心を打つ文章を徹底的に考える。 (講義概要) 手紙文の定型。先人の書簡の分析、鑑賞。手紙を重要なアイテムとした小説の鑑賞。美しいメール作法。 (受講生への要望) 連続する授業ですので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補っておいてください。		第1回 ガイダンス 第2回 手紙文の約束① 第3回 手紙文の約束② 第3回 手紙文の約束③ 拝啓—時候の挨拶—本文—敬具—(追伸)まで。 第4回 時候の挨拶と季節感① 第5回 時候の挨拶と季節感② 第6回 著名人の手紙鑑賞、解説① 第7回 著名人の手紙鑑賞、解説② 第8回 手紙を題材にした小説の鑑賞① 第9回 手紙を題材にした小説の鑑賞② 第10回 メール作成の問題点① 第11回 メール作成の問題点② 第12回 添削指導① 第13回 添削指導② 第14回 添削指導③ 第15回 まとめ(総集編)	
テキスト、参考文献		評価方法	
		添削指導歴。レポート。	

08年度以降 07年度以前	ことばと思想Ⅱ(話し言葉の問題) ことばと思想(Ⅳ)(話し言葉の問題)	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目的) 現代の話し言葉は、ギャル語、若者言葉、おやじ言葉などに代表されるように、それぞれの世代で区分されコミュニケーションの断絶を生んでいる。世代を越えて理解しあえる話し言葉を学びながら、そこに込められた日本人の知恵と繊細さを学び、心に届くことばの本質を考える。 (講義概要) 流行語と世相の相関関係を見ながら、現代の世代間ギャップを埋める話し言葉を模索する。学生生活でのことばの問題だけでなく、就職試験の面接に代表されるような世代間のコミュニケーションに役立つ自己表現としての話し言葉について考える。 (受講者への要望) 連続する授業ですので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補っておいてください。		第1回 ガイダンス 第2回 流行語の変遷(流行語大賞の分析)① 第3回 流行語の変遷(流行語大賞の分析)② 第4回 流行語の変遷(流行語大賞の分析)③ 第5回 若者言葉の問題(世代語についての考察)① 第6回 若者言葉の問題(世代語についての考察)② 第7回 若者言葉の問題(世代語についての考察)③ 第8回 放送コードの問題① 第9回 放送コードの問題② 第10回 心を開かせる挨拶と立ち居振る舞い 第12回 3分間スピーチの実践① 第13回 3分間スピーチの実践② 第14回 3分間スピーチの実践③ 第15回 まとめ(総集編)	
テキスト、参考文献		評価方法	
		添削指導歴。レポート	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (ロマンス語研究入門 1) ことばと思想 (IV) (ロマンス語研究入門 1)	担当者	島津 寛
講義目的、講義概要		授業計画	
(対象となる受講者) 仏語、西語、葡語、伊語（以下「主要ロマンス語」と呼びます）のいずれか一つ以上について一年以上学んだ方（以下既習の言語を「専攻ロマンス語」と呼びます）を対象とします。 (目的) 専攻ロマンス語の知識を最大限活用しながら非専攻ロマンス語を同時並行して効率よく学ぶことで、非専攻ロマンス語に関する幅広い知識を身につけると共に、専攻ロマンス語についても、その特徴を非専攻ロマンス語との比較によりあぶりだし、当該言語に関するより深い知識・理解を得ることを目標とします。 (概要) 前期は主要ロマンス語文法を伝統的な文法項目毎に並行整理し、主要ロマンス語比較文法表（ノート）の作成を目指します。同時にテキストの読解練習および音読のための発音練習を積み重ねることで、テキスト分析のための基礎力を要請し、後期の授業に備えます。 授業は受講者の専攻ロマンス語歴を考慮して班をつくり発表形式で進めます。		1) ガイダンス 2) 発音 3) 発音 4) 名詞、形容詞、冠詞、前置詞＋定冠詞縮約形 5) 所有形容詞、指示形容詞、人称代名詞 6) 不定詞形、現在形(1) 7) 現在形(2) 8) 過去形(1) 9) 過去形(2) 10) 過去形(3) 11) 再帰代名詞、代名(再帰)動詞 12) 分詞形、完了形、進行形、受動形 13) 未来形、条件法(過去未来形) 14) 接続法(1) 15) 接続法(2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書はガイダンスの際に案内します。		平常点（発表を含む）、課題提出、定期試験をもとに総合的に判断します。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (ロマンス語研究入門 2) ことばと思想 (IV) (ロマンス語研究入門 2)	担当者	島津 寛
講義目的、講義概要		授業計画	
(概要) コナン・ドイル『バスカヴィル家の犬』の主要ロマンス語版を並行して精読しながら、各テキストの対応部分を主に文法的な観点から比較検討し、観察結果、問題点を発表、レポートに仕上げます。		1) テキスト分析 2) テキスト分析 3) テキスト分析 4) テキスト分析 5) テキスト分析 6) テキスト分析 7) テキスト分析 8) テキスト分析 9) テキスト分析 10) テキスト分析 11) テキスト分析 12) テキスト分析 13) テキスト分析 14) テキスト分析 15) テキスト分析	
テキスト、参考文献		評価方法	
		平常点（発表を含む）、課題提出、レポートをもとに総合的に判断します。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (プレゼンテーション実習) ことばと思想(IV)(プレゼンテーション実習)	担当者	清水 絹代
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目標) 自身の考えを明確にし、他者に分かりやすく説明する様々な方法の習得を目指します。 (講義概要) 毎回の講義で、履修者たちはチームに別れ、与えられたテーマを元にディスカッションを行い、そこで得られた結論をパワーポイントにまとめて発表します。発表後には、質疑・応答の時間も作ります。ディスカッションやプレゼンテーションを行うプロセスの中から、自身が考えていることを他者に言語を用いて的確に伝える能力を磨きます。 (受講生への要望) 毎回、主体的に参加する学生の履修を希望します。		第 1 回目：イントロダクション 第 2 回目～4 回目：発表テーマ「大学で勉強する目的」 第 5 回目～7 回目：発表テーマ「幸せ」の定義 第 8 回目～11 回目：発表テーマ「感性と理性」 第 12～15 回目：総まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時にお知らせします		出欠席 (30%)、参加態度 (30%)、提出物 (40%)	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (プレゼンテーション実習) ことばと思想(IV)(プレゼンテーション実習)	担当者	清水 絹代
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目標) 自身の考えを明確にし、他者に分かりやすく説明する様々な方法の習得を目指します。 (講義概要) 毎回の講義で、履修者たちはチームに別れ、与えられたテーマを元にディスカッションを行い、そこで得られた結論をパワーポイントにまとめて発表します。発表後には、質疑・応答の時間も作ります。ディスカッションやプレゼンテーションを行うプロセスの中から、自身が考えていることを他者に言語を用いて的確に伝える能力を磨きます。 (受講生への要望) 毎回、主体的に参加する学生の履修を希望します。		第 1 回目：イントロダクション 第 2 回目～4 回目：発表テーマ「大学で勉強する目的」 第 5 回目～7 回目：発表テーマ「幸せ」の定義 第 8 回目～11 回目：発表テーマ「感性と理性」 第 12～15 回目：総まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時にお知らせします		出欠席 (30%)、参加態度 (30%)、提出物 (40%)	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (生きたコトバづかい・文章編) ことばと思想 (IV) (生きたコトバづかい・文章編)	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この 4 番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの 4 原則」としたいと思っています。 この授業では、生きたコトバづかいの 4 原則にのっとった文章の書きかたができるようになるように、実習にもとづく勉強します。		1. 生きたコトバづかいとは？ 2. 文章実習 3. 以下 1 4 週まで同様 1 5. まとめ・教科書の事項索引提出 実習ですから「書きなれノート」を書いてもらいたいのですが、単位さえとればいいという者には、毎回話題となるビデオを見せ。それについて考え、書いた文章を添削・修正し、返却します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
下川 浩著『どうしてそんなにダメされる？ウソとコトバの魔術』（えむ出版企画・国際語学社） 同『コトバの力・伝え合いの力』（同）		「書きなれノート」を提出してもらうとともに、左記教科書の「事項索引」を作成してもらい、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (生きたコトバづかい・文章編) ことばと思想 (IV) (生きたコトバづかい・文章編)	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この 4 番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの 4 原則」としたいと思っています。 この授業では、生きたコトバづかいの 4 原則にのっとった文章の書きかたができるようになるように、実習にもとづく勉強します。		1. 生きたコトバづかいとは？ 2. 文章実習 3. 以下 1 4 週まで同様 1 5. まとめ・教科書の事項索引提出 実習ですから「書きなれノート」を書いてもらいたいのですが、単位さえとればいいという者には、毎回話題となるビデオを見せ。それについて考え、書いた文章を添削・修正し、返却します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
下川 浩著『どうしてそんなにダメされる？ウソとコトバの魔術』（えむ出版企画・国際語学社） 同『コトバの力・伝え合いの力』（同）		「書きなれノート」を提出してもらうとともに、左記教科書の「事項索引」を作成してもらい、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (心理検査法と自己理解) ことばと思想 (IV) (心理検査法とこころの健康)	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらう。これらの学習を通して、心理学の基本的知見を習得してほしい。また、心理検査の結果を分析して自己理解を深めてもらうことも本講義の目的である。心理検査やグループワークを実践した後には、結果をレポートにまとめてもらう。関連するビデオを視聴し、レポートを書いてもらうこともありうる。 ※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費(2000 円程度)を負担してもらう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用紙を配布する。初回の授業にて履修制限や検査用紙代納入方法について説明するので欠席しないこと。		授業計画は以下のとおりである。 1. 心理検査とは？ 2. 心理検査の種類と理論 3. 質問紙による性格検査① 4. 質問紙による性格検査② 5. ストレス・コーピング 6. 絵からみる家族像 7. 知能検査 8. 感情指数 9. 職業興味 10. グループ・ワークによる自己理解① 11. グループ・ワークによる自己理解② 12. グループ・ワークによる自己理解③ 13. グループ・ワークによる自己理解④ 14. グループ・ワークによる自己理解⑤ 15. 心理検査による自己理解のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各種の心理検査用紙はこちらで用意する。ただし、履修者には、これら心理検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらう。申請書と引き換えに検査用紙を配布する予定である。		各回の授業レポートと最終のレポートにより総合的に評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (反=コミュニケーション論) ことばと思想(IV)(反=コミュニケーション論)	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
たとえば外国語の学習において真っ先に「コミュニケーション能力」の強化がうたわれ、実践的で「使える」語学力が重視されるという風潮の中で、我々はコミュニケーションといえば、効率よく、なめらかで、軋みのないものこそが理想であるかのようなイメージを抱きがちです。 この授業では、逆に「通じないこと」「なかなか通じないこと」の大切さについて考えます。 中心となる題材は言語作品ですが、映像作品や造形芸術も扱います。ジャンルをこえて、さまざまなものが根底でつながってゆくさまを感じとってください。 講義の大まかな流れはあらかじめ想定してありますが、受講者の感想や疑問などから、授業が思わぬ方向へと巡回してゆくことこそがスリリングです。今年度も積極的な参加と多くの報告を期待しています。		1. イントロダクション： 2. 小島信夫『吃音教室』 3. 千野栄一『沈黙の通訳』 4. イヨネスコ『禿の女歌手』 5. 穂村弘『世界音痴』 6. 萩原朔太郎『のをあある とをあある やわあ』 7. 内田百閒『山東京伝』 8. シュヴァンクマイエル『対話の可能性』『闇・光・闇』 9. ヴァーツラフ・ハヴェル『言葉についての言葉』 10. 中井久夫『徴候・記憶・外傷』 11. ロベール・ブレッソン『シネマトグラフ覚書』 12. ユクスキュル『生物から見た世界』 13. 西脇順三郎『旅人かへらず』 14. ベンヤミン『1900 年頃のベルリンの幼年時代』 15. ヨシフ・ブロツキイ『私人』 この順のとおり授業をおこなうわけではありませんが、とりあえず題材として以上のものをあげておきます。ここにない作品も登場します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料はプリントで配布します。		毎回のコメントペーパーと期末レポート（4000 字以上）。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (反=コミュニケーション論 2) ことばと思想(IV)(反=コミュニケーション論 2)	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
中心となるテーマは春学期と同じなので、継続受講が望ましいです。秋学期には、より多くの外国の作品を取り上げる予定です。 芸術作品を前にしたとき「この作品のメッセージは何か」と考えるのとは異なる受容のしかたを手に入れることがこの授業の目的のひとつです。 文学や詩にかぎらず、あらゆる表現活動に関心のある方を歓迎します。		1. イントロダクション——河原温 2. マルセル・デュシャン『デュシャンとの対話』 3. ナボコフ『ヨーロッパ文学講義』 4. レーモン・ルーセル『アフリカの印象』 5. 畠山直哉『話す写真』 6. ダニエル・アラス『なにも見えない』 7. フレデリック・ワイズマン 8. メルヴィル『書写人バートルビー』 9. カフカ『断食芸人』 10. ゴーゴリ『外套』 11. ホーソン『ウェイクフィールド』 12. ホフマンスタール『チャンドス卿の手紙』 13. トーベ・ヤンソン『フェア・プレイ』 14. ジル・ドゥルーズ『千のプラトー』 15. 吉田健一『文学が文学でなくなる時』	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料はプリントで配布します。		毎回のコメントペーパーと期末レポート（4000 字以上）。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (英語通訳) (英語通訳の仕事) ことばと思想 (IV) (英語通訳の仕事)	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は、通訳者になりたいと考えている、もしくは、通訳という行為に関心がある人に、仕事の現状と訓練方法を伝えることを目的としています。 通訳者の実際の仕事内容を紹介するとともに、通訳に何が求められているかを考えながら、市場の現状やキャリアパスなどを探っていきます。通訳者の方などをお招きし、現場の話を聞く機会もあります。また、どんな勉強をすれば通訳の力がつくのかというヒントも提供します。 参加者の英語のレベルが様々で人数も多いため、集中的な訓練はできませんが、基本的な訓練方法を紹介し、授業内での演習を行います。なお、演習については主に日本語で行います。 初回の授業で詳しい説明をしますので、必ず出席してください。 *ゲストスピーカーの都合により、授業の内容は前後する可能性があります。		01 通訳・通訳者とは？ 02 通訳者のキャリアパス 03 通訳者に求められるスキルとは？ 04 ゲストスピーカー 05 通訳訓練方法 (1)・シャドウイング 06 通訳訓練方法 (2)・リプロダクション 07 通訳訓練方法 (3)・サイトトランスレーション 08 通訳訓練方法 (4)・クイックレスポンスなど 09 ゲストスピーカー 10 通訳の実践 (1)・逐次通訳 11 通訳の実践 (2)・ウィスパリング通訳 12 通訳の実践 (3)・同時通訳 13 インターネットの活用方法 14 まとめ 15 確認テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時プリントなどを配布する。		授業内で実施する確認テスト 100%	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (英語通訳) (英語通訳の仕事) ことばと思想 2 (英語通訳) (英語通訳の仕事)	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は、通訳者になりたいと考えている、もしくは、通訳という行為に関心がある人に、仕事の現状と訓練方法を伝えることを目的としています。 通訳者の実際の仕事内容を紹介するとともに、通訳に何が求められているかを考えながら、市場の現状やキャリアパスなどを探っていきます。通訳者の方などをお招きし、現場の話を聞く機会もあります。また、どんな勉強をすれば通訳の力がつくのかというヒントも提供します。 参加者の英語のレベルが様々で人数も多いため、集中的な訓練はできませんが、基本的な訓練方法を紹介し、授業内での演習を行います。なお、演習については主に日本語で行います。 初回の授業で詳しい説明をしますので、必ず出席してください。 *ゲストスピーカーの都合により、授業の内容は前後する可能性があります。 (春学期と同内容です。)		01 通訳・通訳者とは？ 02 通訳者のキャリアパス 03 通訳者に求められるスキルとは？ 04 ゲストスピーカー 05 通訳訓練方法 (1)・シャドウイング 06 通訳訓練方法 (2)・リプロダクション 07 通訳訓練方法 (3)・サイトトランスレーション 08 通訳訓練方法 (4)・クイックレスポンスなど 09 ゲストスピーカー 10 通訳の実践 (1)・逐次通訳 11 通訳の実践 (2)・ウィスパリング通訳 12 通訳の実践 (3)・同時通訳 13 インターネットの活用方法 14 まとめ 15 確認テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時プリントなどを配布する。		授業内で実施する確認テスト 100%	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (生活文化の発見) ことばと思想 (IV) (生活文化の発見)	担当者	林 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
生活することは、社会の中で生きるということであり、社会は文化を形成する。つまり生活は文化の中で営まれ、文化の影響のもとで人間は成長し、人生を送るということになる。 本講義では、「生活文化」に視点をあて、我々の生活が元はどのようなものであり、どのような文化のもとで暮らしていたのか、そしてそれがどのように変化して現在に至っているのかという点を理解しようとするものである。また現代に通じる心意的問題も扱う。将来の生活を見据える上で大きな助けとなるだろう。		1 ガイダンス 2 「生活」とは何か（概説、生活を見つめる眼差し） 3 地域差の問題 1（地域差とは何か） 4 地域差の問題 2（地域差が生まれる要因は何か） 5 生活様式を捉える 1（家を中心に） 6 生活様式を捉える 2（社会システムを中心に） 7 生活様式を捉える 3（社会システムの機能を中心に） 8 生活様式を捉える 4（社会システムの機能を中心に） 9 生活様式の変化 1（明治維新による生活変化） 10 生活様式の変化 2（生活改善運動による生活変化） 11 生活様式の変化 3（第二次世界大戦・高度経済成長による生活変化） 12 生活様式の変化 4（IT 革命、現代の様相） 13 ジェンダーの問題（生活文化として読み解く） 14 異形への眼差し（生活文化の心意的問題） 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時にプリント配布		試験を行う。但し、欠席 4 回以上の者は評価の対象とはしない。出席表配布後の入室は遅刻とし、遅刻 2 回で欠席 1 回とする。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (生活文化の記述) ことばと思想 (IV) (生活文化の記述)	担当者	林 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
古来さまざまな記録が残されてきているが、「当たり前」の生活を記録したものはあまりない。それがみられるようになるのは江戸時代後期からである。 生活を記録したものとしては、旅行記や日記という個人的なものがあり、また主に自治体が編纂する民俗誌というものがある。これらがどのような理由で記述され、またそれにどのような意味があるのか、さらに民俗誌には文書化されたものと映像化されたものがある。また伝統文化の保存という行政的問題がある。記録や保存とは何かその意味と問題点について考えていきたいと思っている。		1 ガイダンス 2 生活を記述すること 1（「嫁」の立場、行事覚え） 3 生活を記述すること 2（日記をつけることの意味） 4 生活文化の記録（客体としての記録） 5 安政地震についての記録 6 民俗誌（各地の報告書や『市史』から） 7 民俗誌に記録されたもの 1（神奈川県綾瀬市の報告書を読む） 8 民俗誌に記録されたもの 2（『長野県史』を読む） 9 民俗誌の意味と問題点 10 映像記録を見る 1（ビデオと解説） 11 映像記録を見る 2（ビデオと解説） 12 映像記録を見る 3（ビデオと解説） 13 映像記録の問題点 14 民俗文化財の保護の意味と問題点 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜指示		試験を行う。但し、欠席 4 回以上の者は評価の対象とはしない。出席表配布後の入室は遅刻とし、遅刻 2 回で欠席 1 回とする。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (論文を書く) ことばと思想 (IV) (論文を書く)	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 大学において要求される学生の能力とは、自分で調べて、自分の言葉で考え、それをまとめて、その内容を相手に正しく発信するというものである。その発信した結果として残されるものが「論文」ということになる。したがって、「論文を書く」という作業は、ただ論文の形式を覚えて、それに従って書けばいいというものではなく、上記の作業の総合にある。そこで、この講義では、「ディベート」を行うことを通して、その内容を最終的に「論文」として発信してもらうことを目的とする。		1 「論文」と「社会人基礎力」 2 ディベート① (ディベートの説明、論題の説明) 3 ディベート② (課題文をまとめる、リサーチ) 4 ディベート③ (ツールミンモデル) 5 ディベート④ (リサーチカードの集約) 6 ディベート⑤ (リンクマップの作成) 7 ディベート⑥ (立論の作成) 8 ディベート⑥ (反駁シートの作成、フローシートの作成) 9 ディベート⑦ (試合) 10 論文① (論文の構成) 11 論文② (序論の書き方) 11 論文③ (本論の書き方) 12 論文④ (注、引用の方法) 13 論文⑤ (結論の書き方) 14 論文の指導 15 まとめ	
講義概要 ディベートの題材としては、「企業は社会貢献活動に取り組むべきである」という論題を設定する。これに関して、「企業」「社会貢献活動」の概念を明確にしつつ、自らの意見をまとめてもらうこととする。また、授業の進捗度にも依るが、出来れば学生同士によるディベートの試合も行いたいと考えている。最後に、その内容を基に、「論文」をまとめてもらうこととする。			
なお、例年、4 年生の受講が多いが、1・2 年生を対象とした内容である。1・2 年生が受講することが望ましい。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト 特になし 参考文献 授業時に指示する		課題の取り組み状況・レポートによって決める。 課題が中心となるので、なるべく欠席しないようにすること。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (口頭発表を行う) ことばと思想 (IV) (口頭発表を行う)	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 この授業では、自分の意見を相手に伝えるためには、どのような技術が必要かを考えながら、話す能力の向上を目指す。話す能力は、ただ講義を聴いていただけでは向上しない。したがって、前に出たりしてもらって、実際に発表をしてもらいながら授業を行っていく予定である。		1 はじめに 2 プレゼンテーションの目的。 3 プレゼンテーションの三要素 4 目的の設定と聴衆分析 5 内容の構成① 6 内容の構成② 7 視覚資料の作成 8 ボディーランゲージ① (声—滑舌) 9 ボディーランゲージ② (声—朗読 1) 10 ボディーランゲージ③ (声—朗読 2) 11 ボディーランゲージ④ (アイコンタクト) 12 ボディーランゲージ⑤ (ビジュアルハンド) 13 発表① 14 発表② 15 まとめ	
講義概要 「話す」ことには、さまざまな場面が想定されるが、特に人前で自分の意見を述べるプレゼンテーションについて練習する。この練習を通して、人前に出て自らの意見をわかりやすく述べることができる能力の育成を行う。 具体的には、プレゼンテーションの技術について考えながら、発声練習、朗読、ボディーランゲージ、資料作成などの技術を考えていきたい。最後に、その成果を踏まえたかたちで各人に発表をしてもらう予定である。			
なお、例年、4 年生の受講が多いが、1～3 年生を対象とした内容である。1～3 年生が受講することが望ましい。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト 特になし 参考文献 授業時に指示する		課題の取り組み状況・レポートによって決める。 課題が中心となるので、なるべく欠席しないようにすること。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (古典ギリシア語 II a) 古典ギリシア語 II a	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 本講座は、一年間の授業を通して、古典ギリシア語の初級リーダー、中級前半リーダーの理解が、辞書を片手に、ともかくも可能になることを主目的とします。そのためには、辞書の引き方から文章中に使われている単語の意味の確定、文章理解を、一語一語また一文一文と、こまめに根気よく掘り下げていくことから始めたいと思います。その上で内容説明や解説を丁寧にゆっくり、かつ、じっくり取り組むよう心がけます。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの歴史や文化、さらには現代ギリシアの社会や文化に触れることにしたいと考えます。 <講義概要> 毎回、楽しい読み物（「イソップ物語」「人さまざま」など）のごくやさしく、短い文章をもとに、ノートの作り方、辞書による単語の引き方、文章理解のための文法知識（中・受動相、分詞の用法など）、裏話やエピソード、関連する映像などさまざまな工夫をこらして授業を進めていきます。後半、慣れてきたら、古典作品の原典の一部の読解や大理石碑文の解読にも挑戦してみましょう。出席は毎回心がけて下さい。受講者は初級文法を修了していることが望ましいけれど、必ずしもそれにこだわりません。		1 はじめに （辞書の引き方、ノートの作り方の指導） 2 『イソップ物語』の機知と教訓 （アイソーポスの知恵） にわとりと泥棒（その1） 3 にわとりと泥棒（その2） 4 にわとりと泥棒（その3） 5 亀とそのねぐら（その1） 6 亀とそのねぐら（その2） 7 亀とそのねぐら（その3） 8 狼の叫び（その1） 9 狼の叫び（その2） 10 狼の叫び（その3） 11 クセノフォン『ソクラテスの思い出』より 12 ホメロス『イリアス』『オデュッセイア』より 13 ギリシア大理石碑文より（その1：墓碑銘） 14 ギリシア大理石碑文より（その2：民会決議） 15 春学期まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せず、プリントを配布します。辞書等の参考文献は初回の授業で紹介します。		毎回の出席によるさまざまな受け答えを通して理解度のチェックを行ないます（平常点評価）。	

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (古典ギリシア語 II b) 古典ギリシア語 II b	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 同上 <講義概要> 同上		1 『人さまざま』の人間類型の面白さ （テオフラストスの鋭い人間観察） おべっか使い（その1） 2 おべっか使い（その2） 3 おべっか使い（その3） 4 不平たらたら（その1） 5 不平たらたら（その2） 6 不平たらたら（その3） 7 信用できない人（その1） 8 信用できない人（その2） 9 信用できない人（その3） 10 ヘロドトス『歴史』より 11 プラトン『ソクラテスの弁明』より 12 プラトン『饗宴』より（その1） 13 プラトン『饗宴』より（その2） 14 アリストテレス『政治学』より 15 秋学期まとめ （古典ギリシア語習得の意義）	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

08 年度以降	歴史と文化 2 (Japanese Legends, Tales and Myths as Expressed in the Arts: 1)	担当者	A. ゴーリンジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
This course is designed to acquaint students with various aspects of Japanese culture through the study of traditional legends, tales and myths. Each focus story or topic will be introduced through associated imagery and/or artworks and will include a lecture, readings and related discussions. For the study of one select topic in particular, the class will make an excursion to a corresponding exhibition or performance. Course Objectives: - To learn and discuss a broad variety of traditional Japanese legends, tales and myths - To learn and discuss the socio-cultural context from which these legends/tales/myths emerged and in which they were maintained - To learn and discuss the expression of these legends/tales/myths in the context of performance (noh, <i>jōruri</i>, kabuki), ritual (<i>kagura</i>), and art (painting, prints, sculpture) - To learn and discuss how this selection of legends/tales/myths reflect the history, traditions, mores, world-view and character of the Japanese people - To carry out basic, original fieldwork: Students will observe and collect a selected legend/tale/myth in the context of a performance, ritual, or work of art – to be summarized and analyzed for class presentation		Including a general introduction, classes 1 through 12 will comprise the following topics. Classes 13 through 15 will center on students' independent research presentations. - Animal/Creature Tales, Symbolism and Superstitions - Dragon, Tiger, Carp, Ox, Monkey, Fox, Kappa (painting, prints) - Demons and Tricksters - Oni no Nenbutsu: Demon Reciting Buddhist Prayers (Otsu-e folk painting) - Amanojaku (sculpture) - Vengeful Spirits and Ghosts <i>Dōjōji</i> (noh, noh masks, painting) - Tenjin: Sugawara no Michizane (painting) - Oiwa: <i>Yotsuya Kaidan</i> (kabuki, prints) - Heroes and Heroines - Benkei (prints) - Tokiwa Gozen (prints) 授業はすべて英語で行います。TOEIC 700、TOEFL(IBT) 71、英検準一級程度以上の英語力を前提としています。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		Final evaluations will be based on attendance (15%), participation in classroom discussions (15%), the completion of in-class and homework assignments (30%), and achievement on a presentation (40%).	

08 年度以降	歴史と文化 2 (Japanese Legends, Tales and Myths as Expressed in the Arts: 2)	担当者	A. ゴーリンジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
This course is designed to acquaint students with various aspects of Japanese culture through the study of traditional legends, tales and myths. Each focus story or topic will be introduced through associated imagery and/or artworks and will include a lecture, readings and related discussions. For the study of one select topic in particular, the class will make an excursion to a corresponding exhibition or performance. Course Objectives: - To learn and discuss a broad variety of traditional Japanese legends, tales and myths - To learn and discuss the socio-cultural context from which these legends/tales/myths emerged and in which they were maintained - To learn and discuss the expression of these legends/tales/myths in the context of performance (noh, <i>jōruri</i>, kabuki), ritual (<i>kagura</i>), and art (painting, prints, sculpture) - To learn and discuss how this selection of legends/tales/myths reflect the history, traditions, mores, world-view and character of the Japanese people - To carry out basic, original fieldwork: Students will observe and collect a selected legend/tale/myth in the context of a performance, ritual, or work of art – to be summarized and analyzed for class presentation		Including a general introduction, classes 1 through 12 will comprise the following topics. Classes 13 through 15 will center on students' independent research presentations. - Benevolent Spirits and Gods - Amaterasu Ōmikami: The Sun Goddess (<i>kagura</i>) - Shōki: Demon Queller and Protector of Boys (painting, prints, sculpture) - Hell and Salvation - Enma Dai-ō: Judge of the Dead and Ruler of Hell (painting, sculpture) - Datsue-ba: The Old Hag who Strips off Clothes (painting, sculpture) - Jizō Bosatsu: Defender and Savior of the Condemned (painting, sculpture) - Tormented, Suffering Souls <i>Kagekiyo</i> (noh, noh masks) <i>Fujito</i> (noh, noh masks) <i>Tamakazura</i> (noh, noh masks) 授業はすべて英語で行います。TOEIC 700、TOEFL(IBT) 71、英検準一級程度以上の英語力を前提としています。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		Final evaluations will be based on attendance (15%), participation in classroom discussions (15%), the completion of in-class and homework assignments (30%), and achievement on a presentation (40%).	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化 2(西洋絵画の主題と様式 2) 歴史と文化(IV)(西洋絵画の主題と様式 b)	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】 ルネサンスから印象派までの西洋絵画史を概観し、作家や作品の特徴、様式、時代背景について理解を深めることを目標とします。 また西洋絵画に繰り返し現われる主題について学び、絵画を見る上で必要な基礎知識を身につけます。 【講義概要】 毎回一人の画家を中心に上げ、画像や映像を用いて代表的な作品について解説していきます。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。 【受講生への要望】 学期に少なくとも一度は美術館に行ってください。学期末のレポートは美術館で実際に見た作品をもとに書いてもらいます。毎回の出席を評価の前提としますので、出席できない人は登録しないでください。		1. イントロダクション 2. ボッティチェリ 3. ダヴィンチ 4. カラヴァッジョ 5. リュベンス 6. ヴェラスケス 7. レンブラント 8. フェルメール 9. シャルダン 10. ダヴィッド 11. アングルと 12. ドラクロワ 13. マネ 14. 印象派 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。		コメントペーパー（毎回提出してもらいます。） 学期末レポート	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2 (アメリカ詩入門) 歴史と文化 (IV) (アメリカ詩入門)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 「アメリカ詩史」をたどる。 山登りをしようすると、いくつかルートがある。もちろん、各々のルートによって見える眺望は異なる。同じことは歴史にも言える。歴史とは作られるものだ。移民の国であるアメリカ合州国の詩の歴史も、元々住んでいた人のものからはじめるか、それとも移民のものから始めるか、それで大きな眺望の違いが見られるだろう。 この授業では、後者の立場からはじめた「アメリカ詩史」をたどる。 講義概要 「アメリカ詩史」をどこからはじめるか、これは大問題だ。「アメリカ文学史」などでは Anne Bradstreet からはじまることになっているが、この授業では、Native American (いわゆる、インディアン) の口承詩からはじめる。そして、着地点は、昨年来日し、谷川俊太郎と朗読会をして、その健在ぶりを見せた Gary Snyder だ。 さて、Native American の詩と、Snyder の詩、そのあいだになにがあったのか、それが重要だ。なぜ Snyder と Native American の詩がつながるのか。そのあいだに、どのような詩が書き継がれてきたのか、それを考察する。		1: introduction 2: Native American Poems. 3: Walt Whitman, "Poets to Come!," "I Hear America Singing" など。 4: Emily Dickinson, "Because I could not Stop for Death" "I Taste a Liqueur Never Brewed" など 5: Robert Frost, "Stopping by Woods on a Snowy Evening" 6~8: Ezra Pound の初期の Imagism の短詩など。 9~10: William Carlos Williams の詩 11~12: Wallace Stevens の詩 13~14: T. S. Eliot の詩 14~ 15: H.D. の短詩、Gary Snyder の詩、そして全体のまとめ。 授業へは予習をして、頭をカラにしておくこと。受講生にはときおり、質問をする。7, 80 人の前でも、はっきりと自分の考えを、恥ずかしがらずに言えるようにすること。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		レポートおよび出席。ときに、こちらから質問をし、そこで答えてくれた学生には、ボーナスあり。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2 (イギリス詩入門) 歴史と文化 (IV) (イギリス詩入門)	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 ワーズワス (W. Wordsworth 1770-1850) の『水仙』などの易しい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やや古い英詩についても鑑賞し得る能力を身に付けることを目的とする。扱う題材は全てイギリス詩である。 講義概要 初めは導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。次いで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。そして最後にグレイ、ミルトン、シェークスピアの代表的な詩について管見する。なるべく video などの視聴覚教材を利用する。 参考文献 新井明著 『英詩鑑賞入門』 研究社 1987		1. 詩形について 2. <マザーグース> I 3. <マザーグース> II (video 鑑賞) 4. <現代英詩アラカルト> I T.S. Eliot (1888-1965) (video 鑑賞、字幕なし、以下同じ) 5. <同> II T. Hughes (1892-1985) など (video 鑑賞) 6. Alfred Tennyson (1809-92), Robert Browning (1812-89) 7. <ロマン派の曙> W. Blake (1757-1827), video 鑑賞 8. <ロマン派の詩> I ワーズワス、video 鑑賞 9. <ロマン派の詩> II S.T. Coleridge (1772-1834) と G.G. Byron (1788-1824) (video 鑑賞) 10. <ロマン派の詩> III P. B. Shelley (1792-1822) と J. Keats (1795-1821) 11. <ロマン派の詩> 総括 解説と video 鑑賞 12. Thomas Gray (1716-1771), "Elegy Written in a Country Churchyard" (1751) を読む。 Video 鑑賞 13. John Milton (1608-74) Paradise Lost (1667) のさわり、ソネット 23. Video 鑑賞 14. William Shakespeare (1564-1616), 詩の紹介と解説 DVD, video 鑑賞 15. 総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：薬師川虹一他編『マザーグースと美しい英詩』北星堂 1987 (プリント)		テストを課す。 数回の video は、時に字幕なしなので、100% の理解は求めないが、リスニング・テストとして努力具合を見、平常点とする。	

08 年度以降 07 年度以降	歴史と文化 2 (日韓比較文化論 b) 歴史と文化 (IV) (日韓比較文化論 b)	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑 (김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座では、韓国と日本の「教育」にテーマを絞って文化比較を行い、その共通点と相違点について理解を深めるとともに、「異文化比較」の具体的な方法を模索し、それを身につけていくことを目的とする。主に「教育政策」、「教育と文化」、「高等教育のあり方」、「教育と人間関係」、「生涯教育と社会」、「教育とジェンダー」などのテーマで日韓両国 (両地域) の比較を行っていく予定である。身近なテーマであるため、履修者には積極的な授業参加が期待される。		1. 講義の概要 2. 書堂と寺子屋 3. 三国時代の教育と文化 4. 高麗時代の教育と文化① 5. 高麗時代の教育と文化② 6. 朝鮮時代の教育と文化① 7. 朝鮮時代の教育と文化② 8. 植民地支配の教育政策 9. 植民地支配の国語教育 10. 日韓生涯教育と社会 11. 日韓ジェンダー教育 12. 日韓女性の教育 13. 韓国における日本語教育の歴史 14. 日本における韓国語教育の歴史 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布する。 参考書：授業時に紹介する。		積極的な授業参加を評価する。 課題レポート：講義内容から一つのテーマを選び、レポートを提出する。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2 (日韓比較文化論 a) 歴史と文化 (IV) (日韓比較文化論 a)	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑 (김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
私達は、異文化を語る際、無意識のうちに、自分の属している社会や文化を念頭において同質性と異質性を語っている。しかしながら、とりわけ韓国の文化を語る際、表面的な同質性にとらわれがちになってしまい、「文化比較」がきちんと行われない場合が多い。本講座ではこのような点をふまえて、日韓の文化比較を行う際の基本的な事項を学んでいく。具体的には、家族、村落、祭儀、信仰、食文化などに関する日韓比較の理解を目標とし、授業の最後に各自で身近なテーマを決めて「日韓文化比較」を行うことを課題とする。積極的に取り組むことを期待したい。 ●参加型授業による人数制限をする。(50 名まで) ◎注意：テーマごとにグループ分けし話し合う場を設け発表する形式を取る。極力 1 回目の授業から出席すること。		1. 日韓比較文化概説 ガイダンス 2. 韓日の建国神話 3. 韓日の国土構造 4. 韓日の村落 5. 韓日の歳時風俗① 6. 韓日の歳時風俗② 7. 韓日の祭祀風習 8. 韓日の民俗信仰 9. 韓日の家族 10. 韓日の食文化① 11. 韓日の食文化② 12. 韓日の住生活 13. 韓日の服飾 14. 韓日の福祉レジーム 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。 参考文献：講義においてその都度紹介する。		授業への積極的な参加。自分のテーマを決め、「日韓文化比較」を行い、レポート提出による評価。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化2(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化) 歴史と文化(IV)(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	担当者	倉田 量介
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、スペインとその旧植民地という位置づけにあるラテンアメリカ諸国の音楽実践を扱います。欧米や日本のポップスと比較することにより、背景となる社会や時代の諸相を検討します。 この地域の音楽はダンスと不可分に様式化されてきたことから、身体技法についても言及します。クレオールをはじめ、文化混淆の概念がキーワードとなるため、前半の授業では、キューバの音楽を歴史的に概観し、成分といわれる音楽的要素をひとつひとつ考察します。音楽研究一般の可能性を吟味しつつ、各自の関心に応じた題目を選んでもらい、レポート提出の手引きをします。後半の授業では、指定のテキストに準拠し、スペイン語圏、非スペイン語圏の音楽環境を広く眺望します。楽器の実物に触れる機会も設ける予定ですが、議論の基盤は文化人類学に置きます。単なる名曲紹介や知識の丸暗記にとどまらない思索の場を目指します。視聴覚資料を多用することで、スペイン語履修者以外の受講にも配慮します。		1. イントロダクション: VTR を鑑賞しながら 2. 文化混淆の実態: キューバの音楽を事例として 3. スペイン由来の音楽的要素: 弦楽器の系譜を主に 4. アフリカ由来の音楽的要素: 打楽器の系譜を主に 5. 先住民由来の音楽的要素: フォルクローレを主に 6. クラブカルチャーとの相関性: ラップからレゲトンへ 7. 民族音楽学およびポピュラー音楽研究の手法と展開 8. 対抗文化から主流へ: 「黒人」、「若者」、「農民」、「女性」... 9. ジャマイカで生まれ育ったスタイル: スカ, レゲエ, ダブ... 10. 北米の移民(ラティノー, チカーノ, テハーノ)音楽: サルサ... 11. 南米大陸の音楽地図: ペルー, ボリビア, アルゼンチン... 12. 音楽大国ブラジル: サンバ, ボサノヴァ, セルタネージャ... 13. カリブ海地域の英語圏やフランス語圏: カリブソ, コンパ... 14. 日本の大衆演劇や欧米志向の J ポップと「ラテン音楽」 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布し、参考書を紹介するが、各専門家の寄稿による論集をテキストに指定する。石橋純編『中南米の音楽』(東京堂出版, 2010, ISBN: 978-4490206678)		評価方法: 平常授業におけるコメントなどの実績(30%)と期末レポート(70%)。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2 (能楽論) 歴史と文化 (IV) (能楽論)	担当者	瀬尾 菊次
講義目的、講義概要		授業計画	
古典芸能「能楽」は日本の舞台芸術として室町時代誕生し、その後各時代に受け継がれ、現代では世界遺産に指定され、日本・世界各地で上演されています。この能楽の全体像を、現役能楽師の視点から、実演・ビデオ観賞を取り入れ平易に説明していきます。 講義の理解度を深めるため、能楽堂での鑑賞（チケット代自己負担・2500 円前後）をし、レポートを課題とします。		① 能楽の紹介 ② 能楽の概説 ③ 能楽の流れ ④ 能の各役 ⑤ 能舞台について I ⑥ 能舞台について II（能の見方の実演） ⑦ 能の演目 I ⑧ 能の演目 II（実演） ⑨ 現在能と夢幻能 ⑩ 現在能「土蜘蛛」作品解説 ⑪ 現在能「土蜘蛛」ビデオ観賞 ⑫ 伊勢物語と能 ⑬ 夢幻能「井筒」の作品解説 ⑭ 夢幻能「井筒」のビデオ観賞 ⑮ まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
関連資料のコピー配布		講義まとめのレポート (40%)・能楽鑑賞レポート (40%)・平常講義関連事項レポート (不定期・20%)	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2 (能楽における中世武士の諸像) 歴史と文化 (IV) (能楽における中世武士の諸像)	担当者	瀬尾 菊次
講義目的、講義概要		授業計画	
平安時代の末期に生き悲劇のヒーローとして語り継がれた「源義経」。その生涯は芸能にも多く作品化されています。室町時代に誕生した「能」ではどのように描いているか、一作品を題材として、併せて世界文化遺産「能楽」についても、解説しながら説明していきます。 能楽の理解度を深めるため春期からの通年受講を希望します。 また能楽堂での鑑賞（チケット代自己負担・2500 円前後）を通して能楽の実験体験を課題とします。		① 古典芸能について（能・歌舞伎・文楽） ② 能楽の解説 ③ 源義経の生涯 I（その時代背景） ④ 源義経の生涯 II（その一生） ⑤ 能が描く義経像 ⑥ 能「舟弁慶」の作品解説 ⑦ 能「舟弁慶」の作品解説 ⑧ 能の演技の構造「実演」 ⑨ 能「舟弁慶」のビデオ観賞 ⑩ 歌舞伎「舟弁慶」の作品解説 ⑪ 歌舞伎「舟弁慶」のビデオ観賞 ⑫ 平家物語と能 I ⑬ 平家物語と能 II ⑭ 源義経の生涯 III（その死） ⑮ まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
関連資料のコピー配布		講義まとめのレポート (40%)・能楽鑑賞レポート (40%)・平常講義関連事項レポート (不定期・20%)	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化2(イタリアの音楽史) 歴史と文化(IV)(イタリアの音楽史)	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
イタリアの音楽史を概観する。なお、オペラについては後期にまとめて扱うので、原則として除外する。		1 ガイダンスと導入 2 古代ギリシアの音楽と西洋音楽 3 グレゴリオ聖歌 4 グレゴリオ聖歌成立後の西洋音楽の発展 5 「イタリア音楽」の誕生 6 メディチ家の芸術後援活動 7 宗教改革と音楽 8 ヴァイオリンの誕生と器楽の発展 9 ヴィヴァルディのヴァイオリン協奏曲：《四季》を中心に 10 ヴィヴァルディとヴェネツィア 11 ペルゴレージの音楽 12 パガニーニと超絶技巧 13 ヴェルディとイタリア国家統一運動 14 プッチーニとオリエンタリズム 15 プッチーニ後のイタリア音楽：レスピーギを中心に	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献として： 藤沢道郎『物語 イタリアの歴史』（中公新書 1045）		授業内に複数回行う小テスト（持ち込み不可）による。小テストの時期は授業中に指示する。	

08年度以降 07年度以前	歴史と文化2(イタリアの声楽曲) 歴史と文化(IV)(イタリアの声楽曲)	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
イタリアの声楽曲の歴史をオペラに焦点を絞って概観する。		1 オペラ誕生に先立つ劇音楽の系譜 2 オペラ誕生の経緯 3 フィレンツェにおける初期の試み 4 バロック・オペラの台本 5 バロック・オペラの音楽的特徴：カストラートの魅力 6 オペラ・セリアとオペラ・ブッフア 7 バロック・オペラと劇場 8 ロッシーニの世界 9 ベッリーニ 10 ドニゼッティ 11 ヴェルディ 12 イタリア・オペラの国際化（1） 13 イタリア・オペラの国際化（2） 14 プッチーニ 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		授業内に複数回行う小テスト（持ち込み不可）による。小テストの時期は授業中に指示する。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2 (詩と音楽 5) 歴史と文化 (IV) (詩と音楽 5)	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
ジュゼッペ・ヴェルディ (1813～1901) は、19 世紀のイタリア音楽界を代表する作曲家で、数々の名作オペラを残した。本講義では、その中でもシェイクスピアの同名の戯曲に基づき、独特の輝きを放つ初期の傑作《マクベス》を採り上げる。授業期間の前半では、まず《マクベス》を注意深く鑑賞し、話の筋と聞きどころを学ぶ。また、オペラ台本と、シェイクスピアによる原作との違いも確認する。授業期間の後半では、ヴェルディがシェイクスピアの原作から何を理解し、オペラとしてどのように表現しようとしたのかを、先行するドイツやフランスの楽曲も視野に入れながら検討する。 なお、本講義は「詩と音楽5」であるので、授業開始までに「詩と音楽1」「詩と音楽2」「詩と音楽3」「詩と音楽4」の単位を取得した学生も履修できる。		1 ガイダンスと導入 2 《マクベス》第 1 幕の聞きどころ (1) 3 《マクベス》第 1 幕の聞きどころ (2) 4 《マクベス》第 2 幕の聞きどころ 5 《マクベス》第 3 幕の聞きどころ 6 《マクベス》第 4 幕の聞きどころ (1) 7 《マクベス》第 4 幕の聞きどころ (2) 8 オペラ台本と原作 9 19 世紀における「異界」と音楽 10 ベルリオーズの《幻想交響曲》 11 ウェーバーのオペラ《魔弾の射手》 12 モーツァルトのオペラ《ドン・ジョヴァンニ》 13 演出家としてのヴェルディ 14 まとめ 15 予備日	
テキスト、参考文献		評価方法	
原作であるシェイクスピアの『マクベス』は、日本語訳が書店で容易に入手できるので、必ず購入すること。小田島訳 (白水社)あるいは河合訳 (角川文庫) を推奨するが、手持ちの他の翻訳でも構わない。オペラ台本については、プリントを配布する。		終幕まで鑑賞したところで、オペラ台本と原作との違いを論じるレポートを課す (50 点)。その他、毎回授業終了時に提出してもらう「まとめ」(各 5 点) を集計して評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2 (詩と音楽 6) 歴史と文化 2 (詩と音楽 6)	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
ジュゼッペ・ヴェルディ (1813～1901) は、19 世紀のイタリア音楽界を代表する作曲家で、数々の名作オペラを残した。本講義では、その中で最も上演回数が多いのではないかとされる《トラヴィアータ》を採り上げる。授業期間の前半では、まず《トラヴィアータ》を注意深く鑑賞し、話の筋と聞きどころを学ぶ。続いて、原作であるデュマ・フィスの小説版と戯曲版の『椿姫』を比較したうえで、ピアヴェの執筆したオペラ台本との異同の有無を確認する。《トラヴィアータ》においては、19 世紀前半のイタリア・オペラに典型的な作曲方法が明確に認められる一方で、種々の実験的かつ革新的な試みもみられる。授業期間の後半では、これらを明らかにする。 なお、本講義は「詩と音楽6」であるので、授業開始までに「詩と音楽1」「詩と音楽2」「詩と音楽3」「詩と音楽4」「詩と音楽5」の単位を取得した学生も履修できる。		1 ガイダンスと導入 2 《トラヴィアータ》第 1 幕の聞きどころ (1) 3 《トラヴィアータ》第 1 幕の聞きどころ (2) 4 《トラヴィアータ》第 2 幕の聞きどころ (1) 5 《トラヴィアータ》第 2 幕の聞きどころ (2) 6 《トラヴィアータ》第 3 幕の聞きどころ 7 オペラ台本と原作 8 19 世紀前半のイタリア・オペラの作曲方法 9 《トラヴィアータ》における「伝統」(1) 10 《トラヴィアータ》における「伝統」(2) 11 《トラヴィアータ》における「革新」(1) 12 《トラヴィアータ》における「革新」(2) 13 《トラヴィアータ》における「革新」(3) 14 まとめ 15 予備日	
テキスト、参考文献		評価方法	
デュマ・フィスの小説『椿姫』は、日本語訳が書店で容易に入手できるので、必ず購入すること。(推奨する翻訳は、授業開始時に指示する。) 戯曲版『椿姫』およびピアヴェによるオペラ台本については、プリントを配布する。		終幕まで鑑賞したところで、オペラ台本と原作との違いを論じるレポートを課す (50 点)。その他、毎回授業終了時に提出してもらう「まとめ」(各 5 点) を集計して評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2 (近代パリの風景と文学 1) 歴史と文化 (IV) (近代パリの風景と文学 1)	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
近代フランス文学において、首都パリの表象はもっとも重要なテーマのひとつと言えます。本講義では、おもに18～20世紀のパリを描いたテキスト（翻訳あり）の抜粋を通して、パリ特有の都市文化を理解することを目指します。 人と物がたえず流れ込むパリは、ヨーロッパ文化の交差点としてつねに抗いがたい魅力をたたえ、特権的な都市となりました。多くの作家が路上観察者となり、さまざまな角度からパリ風俗をスケッチしたのも、ざわめき、活動する街並みが、大都市へと変貌する渦中にあったからです。 春学期は、「パリの群衆」をテーマに、メルシエやバルザック、ネルヴァル、ボードレール、ゾラなど、あらゆる階層の人々を描いた作家のテキストを読みます。当時の風俗を表した図版や写真もあわせて紹介します。 毎回授業の終わりに短いコメントペーパーを提出してもらい、それを出席点とみなします。		1. フランス革命前夜のパリ 2. 広場の群衆 3. 祝祭日 4. 馬車と通行人 5. さまざまな職業 I (パリの物売り) 6. さまざまな職業 II (職人たち) 7. さまざまな職業 III (召使と女中) 8. 夜のパリ (遊歩者) 9. 夜のパリ (犯罪と警察) 10. カフェとレストラン 11. 銃撃戦とバリケード 12. ドーミエの版画 13. ナダールの写真 14. 万国博覧会 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：『パリー都市の記憶を探る』（石井洋二郎、ちくま新書、1997）。その他の文献は授業中に紹介します。資料は随時プリントで配布します。		出席点（毎回のコメントペーパー）と、学期末のレポートあるいは試験。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2 (近代パリの風景と文学 2) 歴史と文化 (IV) (近代パリの風景と文学 2)	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
あらゆる欲望と歓楽が渦まき首都パリは、19 世紀前半のオスマンの改造計画により、一気に近代化が進みました。 秋学期では、パリの「建築」をテーマに、ひとつひとつのモニュメントに刻まれた歴史の記憶を、その場所を描いた小説やルポルタージュを手がかりにひもときます。寺院、美術館、駅、エッフェル塔、そのどれもが「近代都市パリ」の形成に欠かせない建築空間でした。華やかなイメージの建造物が、じつは集合的な記憶の象徴でもあることを、図版とテキストを通して考えます。 バルザックの『ゴリオ爺さん』、ユゴーの『レ・ミゼラブル』、ボードレールの『パリの憂愁』、ゾラの『獣人』などにも言及します。都市文化だけでなくフランス文学への入口として、パリの風景は豊かな刺激をくれるでしょう。 毎回授業の終わりに短いコメントペーパーを提出してもらい、それを出席点とみなします。		1. オスマンのパリ改造計画 (I) 2. オスマンのパリ改造計画 (II) 3. シテ島 4. サクレ・クール寺院 5. パンテオン 6. ペール・ラシェーズ墓地 7. カタコンブ 8. コンコルド広場 9. ルーブル美術館 10. オペラ・ガルニエ 11. シヤトレ劇場 12. サン・ラザール駅 13. オルセー駅 14. エッフェル塔 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：『パリー都市の記憶を探る』（石井洋二郎、ちくま新書、1997）。その他の文献は授業中に紹介します。資料は随時プリントで配布します。		出席点（毎回のコメントペーパー）と、学期末のレポートあるいは試験。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2 (日本事情 1) 日本事情 a	担当者	守田 逸人
講義目的、講義概要		授業計画	
以下の点に留意しながら、原始～中世の日本の歴史を概観する。 ◎ 日本という世界のなかの一つの国家や、社会・文化がどのように形成されていったのか、とくに東アジア近隣諸国との関係に注目し、国家とは何か、また地域とは何かを考える。 ◎ 生産の基盤となった「土地」に対する国家や人々の営みに注目し、土地政策を基軸に行われた社会編成の推移を検証する。 ◎ その他、近年の日本の歴史学界のなかで、前近代史のどのような点が注目されているのか、講義の中で適宜触れていきたい。 ◎ 希望者を募り、鎌倉など、前近代の日本の社会構造や文化のあり方を残す現地の巡見を行う。 ※前・後期ともに、現代の価値観から過去を評価するのではなく、当時の価値観を復元しながら、歴史を認識することを心がける。		1 なぜ、歴史学は必要なのか？ 2 原始社会論 東アジアの自然環境と日本列島の形成 稲作のはじまりと富の蓄積 3 邪馬台国からヤマト政権へ 邪馬台国はどこにあったのか？ 古墳文化 4 倭国と東アジア 4・5 世紀の「倭」の存立基盤 5 倭国から「日本」へ 「日本」とは何か？ 日本の古代国家とは？ 6 律令国家の展開と土地政策 「天皇」の位置 7 遣唐使は何をもたらしたか？ 付論古代文化の特徴 8 摂関政治と王朝文化 地方政治の変容と中世への胎動 荘園制の展開 9 院政の展開と内乱 日本の中世国家とは？ 「大開墾時代」と荘園制 なぜ荘園はたてられたのか？ 日宋貿易と平氏政権 10 鎌倉幕府論 鎌倉幕府の形成 中世の封建制とは？ 荘園地頭制の歴史的意義 荘園制下の人々の生活と空間構造 11 鎌倉幕府の歴史的位置 日元貿易と元寇 12 鎌倉幕府の滅亡 南北朝の動乱は何をもたらしたか？ 13 室町幕府論 幕府権力と地域社会・一揆 室町幕府の歴史的位置 14 室町幕府の対外交渉 日明勘合貿易 倭寇とはなにか？ 15 総括：古代・中世の日本列島と地域社会	
テキスト、参考文献		評価方法	
『日本の時代史』（吉川弘文館、2002 年～）全 30 巻のうち、1～11 巻。守田逸人『日本中世社会成立史論』（校倉書房、2010）など。その他、講義中に適宜指摘する。		テストおよび出席状況による。	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2 (日本事情 2) 日本事情 b	担当者	守田 逸人
講義目的、講義概要		授業計画	
以下の点に留意しながら、近世～現代（第 2 次世界大戦まで）の日本の歴史を概観する。 ◎ 16 世紀以降の日本が諸外国に対してどう向き合っていたのか、国内のあり方にも注意しながら明らかにし、近代以降のあり方との連続面と断絶面を検証する。 ◎ 20 世紀は多くの映像資料も残されている。それらを利用する。 ◎ また、明治時代以来の日本の歴史学界の軌跡についても講義の中で簡単に触れていきたい。 ※時間の余裕があれば、希望者を募り、博物館展示などの見学会も行いたい。		1 世界システムとは何か？ 16 世紀における世界秩序の展開と日本 「倭寇状況」の展開 2 なぜ戦国大名はあらわれたのか？ 戦国時代の人々の暮らし 豊臣政権と朝鮮侵略 3 江戸幕府の形成と東アジア 徳川政権の諸政策 鎖国と対中国・朝鮮政策 4 17 世紀半ば～18 世紀の政治と社会 開発技術の進展と新田開発 元禄文化と人々の暮らし 5 18 世紀の幕政改革と社会の変容 近世文化の特徴 6 18 世紀末の対外危機と「鎖国」 天保の改革 7 幕末の動乱 ペリー来航・不平等条約とその後の影響 尊皇攘夷運動から大政奉還へ 徳川政権はなぜ崩壊したのか？ 8 明治新政府の樹立と国政 明治政府は何を目指したのか？ 9 明治期の社会と思想 自由民権運動の意義 民衆運動とは？ ドイツ学協会の設立 明治時代の人々の暮らし 10 議会の開設と条約改正 議会はなぜ必要だったのか？ 条約改正をめぐる日本の苦悩 11 日清・日露戦争と韓国併合 帝国主義とは？ 12 映像にみる 20 世紀前半の世界と日本 13 大正デモクラシーと第 1 次世界大戦 ワシントン体制 14 第 2 次世界大戦 日中戦争は誰が支持したのか？ 第 2 次世界大戦は世界に何を残したか？ 戦時下の人々 15 総括：日本列島の過去と未来をめぐって	
テキスト、参考文献		評価方法	
『日本の時代史』（吉川弘文館、2002 年～）全 30 巻のうち、12～26 巻。大日方純夫『はじめて学ぶ日本近代史 上・下』（大月書店、2002・3 年）など。その他、講義中に適宜指摘する。		テストおよび出席状況による。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2(ヨーロッパ 地域研究「EU とフランス」 1) 現代社会(IV)(ヨーロッパ地域研究『EU とフランス』 1)	担当者	大井 正博
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目標 EUは現実のものであり、その政治面・経済面での力も大きいとわかっているものの、もうひとつ現実のEUの姿が見えてこない。そこでEUの細かな実態については下記の参考文献にゆずるとして、授業においてはドイツとならびEUのリーダーであるフランスを中心においた上で、いろいろな側面からEUの理解につとめようと思う。 講義概要 講義は問題点を掘り下げる形で行うので、参考書などを読んで一定の基礎知識を養っていないと、やや難解に思われるかも知れない。		1 EU の歴史 欧州共同体創設への道 2 EU の歴史 欧州共同体 15 カ国の実現 3 EU の拡大と深化 4 EU の各種機構 5 フランス農業と共通農業政策 6 共通農業政策の仕組み 7 共通農業政策の問題点 8 共通農業政策の改革とフランス 9 欧州通貨制度とフランス 10 単一通貨ユーロ導入までの動き 11 安定成長協定とはなにか 12 ユーロ危機とはなにか 13 欧州憲法条約とリスボン条約 14 特定多数決とはなにか 15 EU の国際平和への貢献	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献： 日経文庫 1079 藤井良広著「EU の知識」第 15 版		期末定期試験	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2(ヨーロッパ 地域研究「EU とフランス」 2) 現代社会(IV)(ヨーロッパ地域研究『EU とフランス』 2)	担当者	大井 正博
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目標 EUは現実のものであり、その政治面・経済面での力も大きいとわかっているものの、もうひとつ現実のEUの姿が見えてこない。そこでEUの細かな実態については下記の参考文献にゆずるとして、授業においてはドイツとならびEUのリーダーであるフランスを中心においた上で、いろいろな側面からEUの理解につとめようと思う。 講義概要 講義は問題点を掘り下げる形で行うので、参考書などを読んで一定の基礎知識を養っていないと、やや難解に思われるかも知れない。		1 フランスの政治と EU(民主主義の赤字) 2 フランスの政治と EU(主権擁護派と統合推進派) 3 フランスの政治と EU(リーダーシップ) 4 フランス経済と EU(門戸開放と統合市場) 5 フランス経済と EU(世界経済への一体化) 6 フランス経済と EU(移民労働者) 7 フランス経済と EU(国内産業の保護) 8 フランス経済と EU(産業の空洞化と失業問題) 9 フランスの ODA 政策と EU 10 域内自由移動とフランス 11 フランスの政党と EU 12 EU の安全保障とフランス 13 フランスとドイツの協力と対立 14 農業大国フランスの悩み 15 EU の将来とフランス	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献： 日経文庫 1079 藤井良広著「EU の知識」第 15 版		期末定期試験	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』) 現代社会Ⅳ(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語圏の国としては、一般にドイツ、オーストリア、スイスが挙げられます。その他にリヒテンシュタイン、ベルギーの一部、ルクセンブルクも入れることもできるでしょう。この授業では、これらの国と地域について、主として政治、経済、社会、およびそれらの歴史という切り口からのアプローチに限定して進めていきます。(そのため文学や言語、文化、芸術という切り口からのアプローチはこの授業では対象外とします。) この授業では、最初に私の方からドイツ語圏の主な 3 つの国について概要のレクチャーを行います。それに続き、テーマごとに参加者による発表を行ってもらいます。各自がそれぞれの関心に基づいてテーマを絞り、それを調べて発表することにより、ドイツ語圏に関する知見を深めることを目標にしています。その際、基本的にテーマごとにグループを作り、グループごとに調査・発表を行ってもらいます。グループ分けは、参加者の関心をもとに、政治、経済、社会、歴史に大別します。その上で、グループのメンバーの話し合いで、テーマを絞り込んでもらいます。グループごとのテーマ研究の際には、講師の方から情報や文献などを紹介しアドバイスをします。またテーマやグループ分けの状況によっては、一人での発表も可能です。 期末には、発表を基にしたレポートを提出してもらいます。		第 1 回 オリエンテーション、ドイツ語圏の基本情報 第 2 回 ドイツ (1) 第 3 回 ドイツ (2) 第 4 回 オーストリア 第 5 回 スイス、その他の地域 第 6 回 グループごとの討論 第 7 回～ グループ発表 第 13 回 第 14 回 全体討論 第 15 回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
さしあたり、浜本・柳原『最新ドイツ事情を知るための 50 章』明石書店、2009 年。広瀬編『ウィーン・オーストリアを知るための 50 章』明石書店、2011 年。		授業出席、テーマ発表、レポート提出の総合評価	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (経理入門 1) 現代社会 (IV) (経理入門 a)	担当者	大坪 史治
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、簿記の初学者を対象に、簿記の基本原則を習得することを目的としている。簿記は、日々の取引を記録し、集計し、最終的に成果と実態を集約する技術である。 簿記を学習することで、実社会に出た時に役立つビジネス感覚と実践的基礎力を養うことができ、会社の規模や業種、職種に関わらず必要不可欠な技術・知識とされている。 受講生には、将来役に立つ技術・知識であることを意識しながら講義を受講してもらいたい。 春学期では、簿記の一連の流れと計算原理の習得を目指す。講義では、わかりやすい説明を心がけ、反復練習と解説をつうじて理解の定着を図る。		①講義概要 ②簿記の意義と役立ち ③取引と勘定科目 ④仕訳と転記 (1) ⑤仕訳と転記 (2) ⑥帳簿記入 (仕訳帳) ⑦帳簿記入 (総勘定元帳) ⑧試算表の作成 (1) ⑨試算表の作成 (2) ⑩6 桁精算表 ⑪決算手続 (1) ⑫決算手続 (2) ⑬商品売買取引 ⑭演習問題	
テキスト、参考文献		評価方法	
湯田雅夫、渋谷武夫編著『ベーシック簿記教室』中央経済社、2010 年		出席状況 (30%) と試験 (70%) により総合的に評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (経理入門 2) 現代社会 (IV) (経理入門 b)	担当者	大坪 史治
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、簿記の初学者を対象に、簿記の基本原則を習得することを目的としている。簿記は、日々の取引を記録し、集計し、最終的に成果と実態を集約する技術である。 簿記を学習することで、実社会に出た時に役立つビジネス感覚と実践的基礎力を養うことができ、会社の規模や業種、職種に関わらず必要不可欠な技術・知識とされている。 受講生には、将来役に立つ技術・知識であることを意識しながら講義を受講してもらいたい。 秋学期では、様々なケースの取引を処理することをつうじて、記録・計算技術をより一層磨くことを目標とする。また、貸借対照表および損益計算書についての深い理解を到達目標にする。		①講義概要 ②復習 ③売掛金と買掛金 ④債権・債務取引 ⑤手形取引 (1) ⑥手形取引 (2) ⑦有価証券取引 ⑧固定資産取引 ⑨純資産、税金 ⑩収益と費用の見越し・繰延べ ⑪決算と財務諸表 (1) ⑫決算と財務諸表 (2) ⑬伝票会計 ⑭帳簿組織 ⑮演習問題	
テキスト、参考文献		評価方法	
湯田雅夫、渋谷武夫編著『ベーシック簿記教室』中央経済社、2010 年		出席状況 (30%) と試験 (70%) により総合的に評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (英文会計入門 1) 現代社会 (IV) (英文会計入門 a)	担当者	大坪 史治
講義目的、講義概要		授業計画	
国際化が進む現代企業を鑑みれば、英文で作成された財務諸表を読み解き、企業の財政状態および経営成績等を分析できることは、大きなスキルとなる。その前提として、単に言語ができるだけではなく、簿記会計の知識を習得する必要がある。したがって本講義は、言語（英語）を駆使して簿記会計の原理原則を習得することが第一の狙いとなる。 なお、本講義は、ある程度簿記の基本的知識を有することが望ましい。		①オリエンテーション ②会計と簿記の基礎 (Basic of Accounting and bookkeeping) ③勘定科目 (Accounts) ④仕訳 (Journal entries) ⑤各種取引と仕訳 1 (Transactions and Journal Entries) ⑥各種取引と仕訳 2 (Transactions and Journal Entries) ⑦各種取引と仕訳 3 (Transactions and Journal Entries) ⑧各種取引と仕訳 4 (Transactions and Journal Entries) ⑨仕訳帳と元帳 (Journals and Ledgers) ⑩元帳 (Ledgers) ⑪試算表 (Trial Balance) ⑫精算表 (Worksheet) ⑬貸借対照表 (Balance sheet) ⑭損益計算書 (Income statement) ⑮帳簿組織 (Multiple journal system)	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		出席状況 (20%) と試験 (80%) により総合的に評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (英文会計入門 2) 現代社会 (IV) (英文会計入門 b)	担当者	大坪 史治
講義目的、講義概要		授業計画	
国際化が進む現代企業を鑑みれば、英文で作成された財務諸表を読み解き、企業の財政状態および経営成績等を分析できることは、大きなスキルとなる。その前提として、単に言語ができるだけではなく、簿記会計の知識を習得する必要がある。したがって本講義は、言語（英語）を駆使して簿記会計の原理原則を習得することが第一の狙いとなる。 なお、本講義は、春学期履修者で、ある程度の簿記の基礎知識を有することが望ましい。		①オリエンテーション ②復習 1 ③復習 2 ④決算修正仕訳 1 (Adjusting Entries) ⑤決算修正仕訳 2 (Adjusting Entries) ⑥減価償却費の計算 (Depreciation) ⑦修正後残高試算表 (Adjusted Trial Balance) ⑧売上原価の計算 (Cost of Goods Sold) ⑨棚卸資産の評価 (Evaluation of Inventory) ⑩決算手続 (Closing books process and discloser) ⑪財務諸表 (Financial Statements) ⑫財務諸表 (Financial Statements) ⑬会計原則 1 (Accounting concepts) ⑭会計原則 2 (Accounting concepts) ⑮内部統制 (Internal control)	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		出席状況 (20%) と試験 (80%) により総合的に評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (教育の現場：教師と語る a) 現代社会 (IV) (教育の現場：教師と語る a)	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
1. 目的：教育の実際の姿を、実践記録を読みあい、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかみます。そのなかで、特に生活指導についての理解を深めます。 2. 概要：教室での講義・討論と、埼玉県教師の研究会（懇親会を含む）への参加とで構成します。そのため、右記の研究会に必ず参加して下さい（参加費は 1500 円、宿泊の場合には 9000 円程度）。研究会に終日参加できない場合には、この授業を受講しても、単位を認定することはできません。 3. 研究会で 7 コマ相当の実践的学修をするため、教室での講義は 8 回程度とします。2 回目以降の日程は相談の上、決定するため、初回の授業には必ず参加して下さい。参加できなかった場合には、研究室（720）を訪れてください。 4. 教職課程に登録している必要はありません。 5. 履修登録の上限を 30 名とします。 6. 春または秋学期だけを履修してもいいですが、できるだけ春と秋の両方を受講して下さい。		1 講義の進め方等の説明／参加者自己紹介 2～3 生活指導とは何か（テキスト使用） 4～7 実践記録を読む 8 研究会参加のまとめ 研究会は、6 月 9 日、10 日（土・日）、またはその前後の土日、場所は浦和の予定です。	
テキスト、参考文献		評価方法	
高橋陽一他編『生活指導論』（武蔵野美術大学出版局、1900 円）		研究会と講義への出席と最終レポートによります。研究会に終日参加しない場合には、不可とします。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (教育の現場：教師と語る b) 現代社会 (IV) (教育の現場：教師と語る b)	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
1. 目的：教育の実際の姿を、実践記録を読みあい、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかみます。そのなかで、特に生活指導についての理解を深めます。 2. 概要：教室での講義・討論と、埼玉県教師の研究会合宿（懇親会を含む）への参加とで構成します。そのため、右記の研究会合宿に必ず参加して下さい（参加費は 9000 円程度）。研究会合宿に参加できない場合には、この授業を受講しても、単位を認定することはできません。 3. 研究会合宿で 7 コマ相当の実践的学修をするため、教室での講義は 8 回程度とします。2 回目以降の日程は相談の上、決定するため、初回の授業には必ず参加して下さい。参加できなかった場合には、研究室（720）を訪れてください。 4. 教職課程に登録している必要はありません。 5. 履修登録の上限を 30 名とします。 6. 春または秋学期だけを履修してもいいですが、できるだけ春と秋の両方を受講して下さい。		1 講義の進め方等の説明／参加者自己紹介 2～7 実践記録を読む 8 研究会合宿参加のまとめ 研究会は、12 月 1 日、2 日（土・日）、またはその前後の土日、場所は埼玉県西部にある森林公園近くのホテルの予定です。	
テキスト、参考文献		評価方法	
高橋陽一他編『生活指導論』（武蔵野美術大学出版局、1900 円）		研究会と講義への出席と最終レポートによります。研究会に終日参加しない場合には、不可とします。	

08年度以降 07年度以前	現代社会2(異文化理解教育) 現代社会(IV)(異文化理解教育)	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
●講義目的 異文化(間)教育の理論と実践を学ぶことで、多文化社会における人間形成や学校教育制度に関する基礎的な知識を身につけ、最終的には現在の学校が抱える課題について自身の考えを持つことを目標とする。 ●講義概要 2.～4.では、異文化理解教育や、日本の置かれている状況等を概観する、いわば理論編である。グローバリゼーションや、異文化など身近な用語から理解をしていく。 6.～11.は、日本の教育制度が抱える課題であるニューカマー(NC)、オールドカマー(OC)それぞれの教育課題を探究する。この2つは、同様に外国籍の子どもを対象とする点では一見類似しているが、それぞれの状況が大きく異なる。2つの教育問題は、結果として学校や教育に対する日本政府の考え方を顕在化させる。 13.～15.は、上記のような教育や学校に対する考え方を他の国の政策との比較で考えていく。 少人数で、ディスカッションを多く用いながら授業を進めたいと考えている。		1. 授業に関するガイダンス 2. 国際化と教育 3. 異文化理解の教育 4. 日本の異文化間教育とその視点 5. まとめ 6. オールドカマーの子どもたち① 7. オールドカマーの子どもたち② 8. オールドカマーの子どもたち③ 10. ニューカマーの子どもたち① 11. ニューカマーの子どもたち② 12. まとめ 13. 多文化教育の国際比較① 14. 多文化教育の国際比較② 15. 多文化教育の国際比較③・まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：特になし 参考文献：授業中に適宜指示する		①授業への参加、発言などの貢献、②レポートシステムの提出、内容、③学期末レポートなどを総合的に評価する。 ※評価方法等は1回目の授業で説明する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (生きたコトバづかい・話し合い編) 現代社会 (IV) (生きたコトバづかい・話し合い編)	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしただって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、現代社会のさまざまな問題をテーマにしたビデオを見て、役割分担をしたうえで、それに関する話し合いをしながら、生きたコトバづかいの４原則が身につくように勉強をします。		１．生きたコトバづかいとは？ ２．話し合い実習 ３．以下１４週まで同様 １５．まとめ・教科書の事項索引提出 毎回現代の諸問題についてのビデオを見て、討論をしてもらいます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
下川 浩著『どうしてそんなにダメされる？ウソとコトバの魔術』（えむ出版企画・国際語学社） 同『コトバの力・伝え合いの力』（同）		時事問題についての話し合いと役割分担に参加し、左記教科書の「事項索引」を作成・提出し、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (生きたコトバづかい・話し合い編) 現代社会 (IV) (生きたコトバづかい・話し合い編)	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしただって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、現代社会のさまざまな問題をテーマにしたビデオを見て、役割分担をしたうえで、それに関する話し合いをしながら、生きたコトバづかいの４原則が身につくように勉強をします。		１．生きたコトバづかいとは？ ２．話し合い実習 ３．以下１４週まで同様 １５．まとめ・教科書の事項索引提出 毎回現代の諸問題についてのビデオを見て、討論をもらいます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
下川 浩著『どうしてそんなにダメされる？ウソとコトバの魔術』（えむ出版企画・国際語学社） 同『コトバの力・伝え合いの力』（同）		時事問題についての話し合いと役割分担に参加し、左記教科書の「事項索引」を作成・提出し、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。	

08年度以降 07年度以前	現代社会2(インターンシップ) 現代社会(IV)(インターンシップ)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座は、主として春学期に開講する講義と夏休みに実施するインターンシップ実習を通して、自分自身を正確に理解し、進路を真剣に考え、適職を発見する機会を得ることを目的とします。あわせて、コミュニケーション能力や対人関係のスキル、職場でのマナー、時事に関する感性など、社会人に求められる資質も涵養します。 インターンシップを単に「プレ就活」ととらえる傾向がありますが、本講座の真のねらいは、断じて小手先の就活対策やノウハウを学ぶことではありません。履修者の皆さんが、狭義のキャリア(=職業)をどのように獲得し、広義のキャリア(=人生)をどのように設計していくかを、色々な角度から模索する場になることを目指します。 本講座の内容は、<u>事前指導(春学期の授業)</u>、<u>夏休みに実施する約2週間のインターンシップ実習</u>、および<u>実習後の報告会</u>から構成されています。事前指導の内容はさらに、オリエンテーション(第1・2回)、自己理解・自己分析(第3～5回)、実習に臨むにあたっての準備(第6回以降)の3段階に分かれています。(下欄に続く)		<u>第1・2回 オリエンテーション</u>： 本講座の目的、授業内容、進め方などについて詳しく説明します。また、インターンシップと就職活動(就活)との関係、実習先の探し方、R-CAP などについて、キャリアセンターと教務課のスタッフから説明していただきます。 <u>第3回 自分の価値観の明確化</u>： 自分が大事にしている価値観を明確にし、それを実現できる将来の進路が何であるかを考えます。 <u>第4回 キャリア・アンカーの把握</u>： 所謂キャリア・アンカーの概念を用いて、職業選択に対する自分の「こだわり」に焦点をあて、適職を考えます。 <u>第5回 R-CAP の講評・分析</u>： Web 上で受験した R-CAP の結果について講評と分析を行い、自分の適職や自分に向いた職場環境を確認します。 <u>第6・7回 グループディスカッションの練習</u>： グループディスカッションを行い、コミュニケーションやリーダーシップの能力を鍛え、特に「聞く・伝える・まとめる」スキルの向上を目指します。(下欄に続く)	
テキスト、参考文献		評価方法	

	(上欄の続き)	担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
以下、履修希望者に注意していただきたいことを何点か列挙します。 1. 4月4日(水)14:00~15:00にE-102教室で開催されるインターンシップガイダンスに必ず出席し、その後に履修登録会場にて各自オンライン登録して下さい。履修者の定員は150名です。 2. R-CAP(Recruit Career Assessment Program)実施費用(3,000円)が必要です。履修決定者は自動発行機にて納付書を購入し、第2回目の授業に必ず持参して下さい。 3. インターンシップの実習先は、履修者自身が見つけることを原則とします。 4. インターンシップ実習に参加しなかった場合、所定の研修プログラムを修了しなかった場合、報告会に出席しなかった場合は、たとえ授業(事前指導)に出席したとしても単位は認定されません。 以上		<u>第8・9回 時事問題研究</u>： 新聞を教材として、グループ単位で時事問題や業界最新事情に関するプレゼンテーションとディスカッションを行い、時事に対する感性を涵養します。 <u>第10回 人事担当者によるパネルディスカッション</u>： パネルディスカッションの形で、インターンシップ受入れ先である企業や官公庁の人事担当者から、インターンシップの意義、メリット、心構えなどについて話していただきます。 <u>第11回 インターンシップ経験者による体験談</u>： パネルディスカッションの形で、インターンシップ経験者である先輩から貴重な体験談を話していただきます。 <u>第12・13回 外部講師によるマナー講座</u>： インターンシップに参加するにあたって必要とされるマナーを身につけます。 <u>第14回 直前指導</u>： インターンシップへの参加に先立ち、キャリアセンターと教務課のスタッフから、重要事項(インターンシップ保険、実習後の提出書類等)について説明していただきます。 <u>第15回 報告会(9月または10月開催予定)</u>： 各自のインターンシップ実習について報告書を書き、グループ内発表および全体発表を行います。 ※授業内容と日程は都合により変更する場合があります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
「業界地図」の最新版(いずれの出版社のものでも可)を各自用意して下さい。その他の必要な資料は、原則として、プリントを配布します。		授業への出席、実習先からの勤務評定、実習日誌、発表レポート(報告会)などを総合的に判断して、評価を決定します。	

08年度以降 07年度以前	現代社会2(模擬国際裁判) 現代社会(IV)(模擬国際裁判)	担当者	鈴木 淳一
講義目的、講義概要		授業計画	
模擬国際裁判とは、ある架空の国際事件を想定して、学生が原告・被告・裁判官の三グループに分かれ、自主的に調査・研究を行い、現実の国際裁判さながらに法的主張を競い合う法学教育です。本講義を受講するにあたっては国際法の知識を有することを必ずしも前提とはしません。また、グループ作業が中心となるので、共同で勉強することが苦痛でない人に適した講義です。 受講希望者が30名を超える場合、以下のいずれかについて解答する記述式のテストを行い、履修者を決定します。履修を希望する学生は、必ず第1回目の講義に出席してください。 ・ 国際法の法源 ・ 国際紛争の平和的解決 なお、履修にあたっては、法学部が優先となります。 第1回目の講義で、国際法のテストにより選抜します(法学部生を優先します)。		1 コースガイダンス——模擬国際裁判とは何か？ 2 課題文と訴状の発表 3～4 国際裁判の手続を学ぶ 5～6 申述書提出（原告側） 7～8 答弁書提出（被告側） 9～10 国際法上の論点を学ぶ 11～13 口頭弁論 14 判決 15 自己評価と反省 本講義で過去に扱った事例としては、核兵器使用の合法性に関する事件、ミロシェビッチ事件（旧ユーゴスラビア国際刑事裁判所）、イスラエルの分離壁、宇宙空間への兵器配備、竹島問題、ミサイル防衛問題、チェルノブイリ原子力発電所事故などがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『国際条約集 2012年版』有斐閣 その他、適宜、参考文献を紹介します。		書面及び発表や模擬裁判への参加態度に基づいて評価します（試験は行いませんが、継続して出席して下さい）。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	現代社会2(韓国社会論) 現代社会(IV)(韓国社会論)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、変化の著しい韓国社会をジェンダーの視点で読み解いていく。 とりわけ講義の前半では韓国社会の「家族」をめぐるさまざまな変化に焦点を当てて論じ、後半には、徴兵制度や、日本と韓国の間の歴史問題などに焦点を当てていく。		1 イントロダクション・講義紹介 2 ジェンダーとは 3 韓国社会の女と男① - 家父長制のはなし (1) 4 韓国社会の女と男② - 家父長制のはなし (2) 5 韓国社会の女と男③ - マネージメントママとは 6 ジェンダーと制度① - 法と制度の変遷 7 ジェンダーと制度② - 少子高齢化社会・韓国 8 変わりゆく「家族」① - シングル女性をめぐる 9 変わりゆく「家族」② - ひとり親世帯の現状 10 変わりゆく「家族」③ - 「多文化」家族について 11 軍隊とジェンダー① - 徴兵制について 12 軍隊とジェンダー② - 「軍事化された社会」とは 13 歴史とジェンダー① 14 歴史とジェンダー② 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜紹介していく。		出席、期末テスト	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	現代社会2(ポストコロニアル研究入門) 現代社会(IV)(ポストコロニアル研究入門)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
植民地主義の歴史と、現在における、政治、社会、文化などに残存する植民地主義の影響を認識することからはじめ、「自己」と「他者」、「西欧」と「それ以外」、「植民地支配」と「被支配者」の境界に立って、現代世界を捉え直していくことを試みる。 講義中盤からは、ポストコロニアル文学作品などを取り上げ、討論形式で講義を進めていく。		1 イントロダクション・講義紹介 2 帝国主義のものがたり① 3 帝国主義のものがたり② 4 ポストコロニアリズムとはなにか① 5 ポストコロニアリズムとはなにか② 6～14 討論 - 文学作品・映画から考える 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜紹介していく。		出席、期末レポート、期末テスト	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (新聞を読む 1) 現代社会 (IV) (新聞を読む 1)	担当者	細野 徳治
講義目的、講義概要		授業計画	
若者の「新聞離れ」が進んでいるといわれて久しい。新聞を読まない理由として「つまらない」「分かりにくい」という声をよく聞く。なぜだろうか。その大きな原因は、ニュースを理解するうえで必要な背景的知識が不足しているからではないか。 そこでこの授業では、その時々国内外の重要ニュースを伝える新聞記事を教材に取り上げ、そのニュースの意味を深く掘り下げるとともに、そのニュースの背景を詳しく解説する。「新聞に関する基礎知識」についても学習する。 ニュースのキーワードを読み解き、新聞を読みこなす術を習得することを授業の目標とする。受講生には、旺盛な好奇心をもって国内外のニュースに多大の関心を払い、新聞を読む習慣を身につけてもらいたい。		国内外の重要ニュースをできる限りリアルタイムで取り上げる。1 授業で 1 ニュースを原則とするが、どんなニュースが飛び込んで来るか予測不能のため、実際にどのような授業内容となるかは未知数だ。過去の授業で取り上げた項目を参考にしてほしい。 2011 年春学期には、米同時多発テロの首謀者ビンラディン殺害、福島原発事故で 1 号機のメルトダウン判明、事故収束に向けた工程表修正、ハーグ条約加盟方針を閣議了解、菅首相の退陣表明と内閣不信任案否決、活発化する「菅降ろし」と短命内閣が続く理由、ドイツ・メルケル政権の脱原発決定、イタリアの国民投票で反原発派が圧勝、自然エネルギーの将来、平泉と小笠原諸島が世界遺産に登録、タイ総選挙で女性首相誕生へ、などを取り上げた。	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材として取り上げる新聞記事のコピーなど、プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。		日ごろの受講態度、テスト（記事についての感想文）などに基づく平常成績と期末試験の成績を総合的に評価する。	

08 年度以前 07 年度以降	現代社会 2 (新聞を読む 2) 現代社会 (IV) (新聞を読む 2)	担当者	細野 徳治
講義目的、講義概要		授業計画	
若者の「新聞離れ」が進んでいるといわれて久しい。新聞を読まない理由として「つまらない」「分かりにくい」という声をよく聞く。なぜだろうか。その大きな原因は、ニュースを理解するうえで必要な背景的知識が不足しているからではないか。 そこでこの授業では、その時々国内外の重要ニュースを伝える新聞記事を教材に取り上げ、そのニュースの意味を深く掘り下げるとともに、ニュースの背景を詳しく解説する。「新聞に関する基礎知識」についても学習する。 ニュースのキーワードを読み解き、新聞を読みこなす術を習得することを授業の目標とする。受講生には、旺盛な好奇心をもって国内外のニュースに多大の関心を払い、新聞を読む習慣を身につけてもらいたい。		国内外の重要ニュースをできる限りリアルタイムで取り上げる。1 授業で 1 ニュースを原則とするが、どんなニュースが飛び込んで来るか予測不能のため、実際にどのような授業内容となるかは未知数だ。過去の授業で取り上げた項目を参考にしてほしい。 2011 年秋学期には、大統領復帰が確実となったプーチン氏とロシア、ノーベル平和賞を女性 3 人が異例の共同受賞、格差社会反対で世界同時多発デモ、衆議院や外務省・在外公館などにサイバー攻撃、南スーダン PKO に自衛隊派遣、野田首相が TPP 交渉参加へ向けて関係国と協議に入る方針を表明、死刑について考える、米務長官が 50 年ぶりにミャンマー訪問、COP17 が温暖効果ガス削減の新しい枠組みで合意、などを取り上げた。	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材として取り上げる新聞記事のコピーなど、プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。		日ごろの受講態度、テスト（記事についての感想文）などに基づく平常成績と期末試験の成績を総合的に評価する。	

08年度以降 07年度以前	現代社会 2(コンピュータ入門 a) 現代社会(IV)(コンピュータ入門 a)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は、大学でのレポート作成や、ゼミでのプレゼンテーションにおいて必要となる、情報検索、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの実際的な利用方法を、実習を通して身につけることと、コンピュータの基本的な知識を身につけることを目的とする。 コンピュータの単なるスキルではなく、社会に出てから必要となるコンピュータおよびネットワークの基礎的な知識および技能を身につけることが目的である。 また、データベースとよばれる、大規模なデータ管理の際に使用されるデータの作成についても取り扱う。 レポート提出は、講義支援システムを利用する。 なお、各テーマが取り扱われる順序や、時間配分については、担当教員によって異なることがある。		1. 講義概要 2. 情報収集方法と実際 3. コンピュータの基礎とアプリケーション 4. インターネットの基礎と利用 5. ワードプロセッサの有効利用 6. ワードプロセッサでレポートを書く 7. 表計算ソフトの有効利用 8. 表計算ソフトでデータ分析する 9. 表計算ソフトの関数を活用する 10. プレゼンテーションソフトの有効利用 11. プレゼンテーションソフトで調査内容発表 12. データベースの作成 13. データベース処理 14. 外部データベースの利用 15. ソフトの統合と課題	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：立田ルミ他『大学で必要な情報基礎』日経BP社 立田ルミ他『最新情報モラル』、日経BP社		出席-20%、レポート-40%、試験-40%。	

08年度以降 07年度以前	現代社会 2(コンピュータ入門 b) 現代社会(IV)(コンピュータ入門 b)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
コンピュータを用いて作業を行う際には、ワープロや表計算のような市販のアプリケーションを使用するだけではなく、コンピュータプログラムを作成し、既存のソフトを使うだけでは出来ないことを行うことができる。 コンピュータプログラムを作成する際には、プログラム言語の文法を覚えることに加えて、どのような手順（アルゴリズム）でコンピュータにより問題を解くのかを考え、それをプログラムとして表現することが重要である。 この講義では、JavaScript、Java、C 言語、Visual Basic といったコンピュータ言語のひとつを使用して、プログラム作成の基礎を学ぶ。使用する言語は、担当教員ごとに異なるが、各種言語を用いたプログラム法を学び、基礎的な問題解決の手順をプログラムで表現できるようになることを目指す。		1. 講義の進め方について 2. 使用言語の特徴とプログラムの作成方法 3. 簡単な処理 4. 場合分け(1) 5. 場合分け(2) 6. 繰り返す(1) 7. 繰り返す(2) 8. ファイルの処理 9. 簡単なアルゴリズム 10. 関数を用いるアルゴリズム 11. 複数の関数の利用 12. インタラクティブなプログラム 13. 画像の処理 14. 画像の入れ替え 15. アニメーション作成 担当教員が指定した問題を、数回の講義に分けて作成する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員指定の教科書または印刷物		出席-20%、レポート-40%、試験-40%。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (コンピュータアドヴァンス 1) 現代社会Ⅳ (コンピュータアドヴァンス a)	担当者	長 慎也
講義目的、講義概要		授業計画	
プログラミングを学習し、コンピュータに対する理解を深めることが本講義の目的である。 GUI 部品を使ったアプリケーションや、リアルタイムに画面が変化するアニメーション・ゲームなど、身近なアプリケーションを題材とし、普段利用しているコンピュータの動作原理を学ぶ。 また、プログラムを効率的に開発するための手法として近年広く利用されているオブジェクト指向プログラムの仕組みを学び、簡潔で保守性の高いプログラムを作るための技法を学ぶ。 プログラムによる作品制作課題を2回行う。作品の評価の主な基準は、独創性（いかに他の人と違うプログラムを作れるか）である。受講者同士で作品の相互評価も行い、他の受講者との意見交換も重要視する。		1. ガイダンス（プログラミングとは） 2. GUI 部品の活用(1) 3. GUI 部品の活用(2) 4. グラフィックス 5. アニメーション 6. 制御構造（繰り返し、分岐、関数など） 7. 中間作品製作 8. 中間作品相互評価 9. オブジェクト指向プログラミング(1) 10. オブジェクト指向プログラミング(2) 11. オブジェクト指向プログラミング(3) 12. 最終作品製作（企画） 13. 最終作品製作（実装） 14. 最終作品相互評価 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストなし（毎回、資料を配布する）		出席、レポート、作品プログラムによる	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (コンピュータアドヴァンス 2) 現代社会Ⅳ (コンピュータアドヴァンス b)	担当者	長 慎也
講義目的、講義概要		授業計画	
プログラミングを学習し、コンピュータに対する理解を深めることが本講義の目的である。 身近に利用されている Web アプリケーション（地図、SNS、動画、ショッピングサイトなど）の仕組みを、Web アプリケーションを実際に作成する体験を通して学ぶ。また、Web アプリケーションの安全性・危険性やユーザの認証、情報の暗号化などを学び、情報社会に生きるうえでの必要な知識を身につける。 プログラムによる作品制作課題を設ける。作品の評価の主な基準は、独創性（いかに他の人と違うプログラムを作れるか）である。受講者同士で作品の相互評価も行い、他の受講者との意見交換も重要視する。		1. Web アプリケーションとは 2. HTML による Web ページの構築 3. プログラムによる Web ページの操作(1) 4. プログラムによる Web ページの操作(2) 5. データベースの利用(1) 6. データベースの利用(2) 7. Web API を利用したアプリケーション製作(1) 8. Web API を利用したアプリケーション製作(2) 9. Web アプリケーションの安全性 10. ユーザの認証 11. 作品製作(企画) 12. 作品製作(実装 1) 13. 作品製作(実装 2) 14. 相互評価 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストなし（毎回、資料を配布する）		出席、レポート、作品プログラムによる	

08年度以降 07年度以前	現代社会2(ホームページ作成) 現代社会Ⅳ(ホームページ作成)	担当者	和泉 順子
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、現代社会における情報発信手段の一つとなる WWW 上のホームページ作成に必要な基本的な知識の習得と実習を目的とする。ホームページ作成の基礎となる HTML の形式とデザイン定義のためのスタイルシートを学ぶだけでなく、マルチメディアコンテンツや Dynamic HTML を用いたホームページ作成を目指す。 ホームページ作成に際し、大まかに 以下の知識や技能を学ぶ。 1) ホームページの仕組み 2) ホームページの作成 (HTML 文書作成) 3) ホームページのデザイン設計 4) マルチメディアコンテンツの取り扱い 5) WWW での情報発信と情報倫理 また、ホームページ作成に必要な知識と技能を修得するだけでなく、WWW やインターネットの仕組みの概要を理解し、不用意な情報発信によるトラブルを避けるための知識や知的所有権（著作権）等についても学習する。		1. コースの説明、インターネットの仕組み 2. WWW とホームページ 3. ホームページ作成の基本 4. ページ構成、編集方法 5. ホームページのデザイン 6. 画像、背景、色の作成 7. テキスト処理、フォント、リンク 8. テーブル、ページのレイアウト 9. スタイルシートの基本 10. HTML と CSS の実践 11. Dynamic HTML 12. マルチメディアコンテンツの取り扱い 13. 情報発信と情報倫理 14. 知的所有権 15. 学期末テストと講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で適宜紹介します。		出席、作品（ホームページ）、および学期末テストによる総合評価	

08年度以降 07年度以前	現代社会2(ホームページ作成) 現代社会Ⅳ(ホームページ作成)	担当者	和泉 順子
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、現代社会における情報発信手段の一つとなる WWW 上のホームページ作成に必要な基本的な知識の習得と実習を目的とする。ホームページ作成の基礎となる HTML の形式とデザイン定義のためのスタイルシートを学ぶだけでなく、マルチメディアコンテンツや Dynamic HTML を用いたホームページ作成を目指す。 ホームページ作成に際し、大まかに 以下の知識や技能を学ぶ。 1) ホームページの仕組み 2) ホームページの作成 (HTML 文書作成) 3) ホームページのデザイン設計 4) マルチメディアコンテンツの取り扱い 5) WWW での情報発信と情報倫理 また、ホームページ作成に必要な知識と技能を修得するだけでなく、WWW やインターネットの仕組みの概要を理解し、不用意な情報発信によるトラブルを避けるための知識や知的所有権（著作権）等についても学習する。		1. コースの説明、インターネットの仕組み 2. WWW とホームページ 3. ホームページ作成の基本 4. ページ構成、編集方法 5. ホームページのデザイン 6. 画像、背景、色の作成 7. テキスト処理、フォント、リンク 8. テーブル、ページのレイアウト 9. スタイルシートの基本 10. HTML と CSS の実践 11. Dynamic HTML 12. マルチメディアコンテンツの取り扱い 13. 情報発信と情報倫理 14. 知的所有権 15. 学期末テストと講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で適宜紹介します。		出席、作品（ホームページ）、および学期末テストによる総合評価	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (ホームページ作成) 現代社会 (IV) (ホームページ作成)	担当者	久東 義典
講義目的、講義概要		授業計画	
PC 上で閲覧するホームページの基礎を学習する授業である。ホームページは、HTML 形式のテキストファイル (Windows に同梱されているプログラム[メモ帳]で内容を確認できるファイル) で書かれている。この HTML 形式の規則の骨組を学習して PC による情報発信する仕組みの理解を高めることを目的にする。 本校サイト内からホームページを発信できる環境が整備されているので、これを利用して Web ページをアップロードする知識やインターネットを利用した情報発信に必要な知識や倫理を学習する。より実践的な情報発信を目指すためにブログ開設・運用まで学習する。 他方、PC 上のドキュメントと呼ばれる電子文書も様変わりしてきた。ワープロ文書のような動きのない文書ではなく、また、説明者主体によるプレゼンテーション資料文書でもなく、リンク機能を中心とした読者主体の電子文書としてホームページ文書が見直され、拡張されている。エクセルと同じくらい (エンド・ユーザー・コンピューティング) の仕事に役立つ道具としてホームページ文書を作りこむ方法を学習する。この分野は、Perl や PHP といったさらに高度なレベルのプログラミングの授業へ発展できる知識が得られる。		1. ホームページの作成 2. ホームページの運用・管理 3. ホームページの仕組みと公開 4. ブログの開設と運用 5. ホームページ公開とブログ公開の違い 6. HTML の基本 7. CSS の基本 8. HTML と CSS の実践 9. Dynamic HTML サンプル 10. Java Script 入門 11. Dynamic HTML 入門 12. 音楽や動画再生の基礎知識 13. マルチメディア・ドキュメントの利用 14. 音楽や動画再生のドキュメントの作成 15. これからのインターネット利用と倫理 (ネチケット)	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で適宜紹介する。		出席、レポート、小テスト、作品、学期末テストによる総合評価	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (ホームページ作成) 現代社会 (IV) (ホームページ作成)	担当者	久東 義典
講義目的、講義概要		授業計画	
PC 上で閲覧するホームページの基礎を学習する授業である。ホームページは、HTML 形式のテキストファイル (Windows に同梱されているプログラム[メモ帳]で内容を確認できるファイル) で書かれている。この HTML 形式の規則の骨組を学習して PC による情報発信する仕組みの理解を高めることを目的にする。 本校サイト内からホームページを発信できる環境が整備されているので、これを利用して Web ページをアップロードする知識やインターネットを利用した情報発信に必要な知識や倫理を学習する。より実践的な情報発信を目指すためにブログ開設・運用まで学習する。 他方、PC 上のドキュメントと呼ばれる電子文書も様変わりしてきた。ワープロ文書のような動きのない文書ではなく、また、説明者主体によるプレゼンテーション資料文書でもなく、リンク機能を中心とした読者主体の電子文書としてホームページ文書が見直され、拡張されている。エクセルと同じくらい (エンド・ユーザー・コンピューティング) の仕事に役立つ道具としてホームページ文書を作りこむ方法を学習する。この分野は、Perl や PHP といったさらに高度なレベルのプログラミングの授業へ発展できる知識が得られる。		1. ホームページの作成 2. ホームページの運用・管理 3. ホームページの仕組みと公開 4. ブログの開設と運用 5. ホームページ公開とブログ公開の違い 6. HTML の基本 7. CSS の基本 8. HTML と CSS の実践 9. Dynamic HTML サンプル 10. Java Script 入門 11. Dynamic HTML 入門 12. 音楽や動画再生の基礎知識 13. マルチメディア・ドキュメントの利用 14. 音楽や動画再生のドキュメントの作成 15. これからのインターネット利用と倫理 (ネチケット)	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で適宜紹介する。		出席、レポート、小テスト、作品、学期末テストによる総合評価	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2 (統計と調査法) 自然・環境・人間 (IV) (統計と調査法)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の目的 基礎的な統計手法の学習とその背景にあるデータの性質の理解を通して科学的なものの考え方を身につける。 授業概要 ・1 世帯当たりの平均年間所得は約 600 万円→実感と違うのはなぜ？ ・この店の料理とあの店の料理はどっちがおいしい？→違いがあるとは？ ・「どっきょ」まで入力したら次に最も来やすい文字は何？→確率が高いとは？ 私達は常にこのようなデータに囲まれており、それを巧みに利用しながら生活している。「大まかな感覚」は大切な知恵ではあるが、より客観的で厳密な判断ができればさらに賢い生活をすることができる。この授業では日常的なデータを素材として、その性質を記述し、現象の本質を推測できるように、科学的な分析方法を使うことを学ぶ。基礎的な統計手法を学ぶことで身の回りの世界を客観的に理解することを目標とする。		(1) 英語学習実態調査 → アンケートの取りかた (2) お国自慢クイズ → テスト問題作成 2-3. (1) データを集めてみよう → 統計量の種類 (量的変量・質的変量): 比例変量, 間隔変量, 順位変量, 名義変量 (2) データの傾向を見よう → 度数分布, 相対度数, 度数分布表 (3) データをグラフ化しよう → 量的変数のグラフ表現, 質的変数のグラフ表現 4. データの特徴を数値で表そう その 1 → 代表値 (平均値, 中央値, 最頻値), 値の広がり, 能力テストと到達度テスト 5. データの特徴を数値で表そう その 2 → 正規分布, 散布度 (標準偏差), 歪度, 尖度, 標準得点, 偏差値 6. データを採点しよう (これまでのまとめ) → 表計算ソフトによる採点・集計 7. テストを見直す → 信頼性係数, 項目分析, ロジスティック回帰分析 8. 偶然か, 特殊能力か? → 記述統計と推測統計, 仮説 (帰無仮説, 対立仮説) 9. 学習時間と成績には関係があるか? → 相関散布図, 相関係数, 回帰直線, 欠損値の推定, 相関検定 10. あさがお観察日記 → 対応がない場合の t 検定, 分散分析 11. ダイエット観察日記 → 対応がある場合の t 検定, プリテスト・ポストテスト, 時系列分析 12. 出身地と種類の好みに関係はあるか? → クロス集計, カイ二乗検定 13. 駅前出店計画 → 判別分析 14. おいしい料理のための食材分量 → 重回帰分析 15. 隠れた傾向を探り出す → 主成分分析, 因子分析	
テキスト、参考文献		評価方法	
山口和範『よくわかる統計解析の基本と仕組み: 統計データ分析入門』(秀和システム, 2004) ISBN 4-7980-0913-X		(定期試験 (80%) + 平常授業におけるまとめ (20%)) x 出席率	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2 (観察と実験生物学 a) 自然・環境・人間 (IV) (身近な自然観察 春)	担当者	加藤 僖重
講義目的、講義概要		授業計画	
登録するに先立っての注意事項 - 講義の性質上、受講生は年間を通じて履修することが望ましい。 - 一クラスの受講者を抽選に受かった 48 名に限定する。抽選に受かった学生は実習費 (¥2,000-) を収めること。 - 詳細は 1 回目の講義で説明する。 講義の目的 - 身近な自然を知ること目標とする。 履修資格 - 身近な植物 100 種以上認識できること。		1 はじめに 講義内容の説明 2 実験室内における心得・実験器具の説明 3 キャンパスウォッチング 1 種の識別 4 身近な植物の観察 1 花の構造 ① 5 顕微鏡使用法 1 顕微鏡の構造 ② 6 顕微鏡使用法 2 ミクロメーターの使用 7 身近な植物の観察 2 花の構造 8 キャンパスウォッチング 2 五感を働かす 9 身近な植物の観察 3 果実の構造 ① 10 身近な植物の観察 4 果実の形態 ② 11 身近な植物の観察 5 葉の形態 ① 12 身近な植物の観察 6 葉の構造 ② 13 身近な植物の観察 7 根の構造① 14. 身近な植物の観察 8 根の構造② 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、プリント配布		毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2 (観察と実験生物学 b) 自然・環境・人間 (IV) (身近な自然観察 秋)	担当者	加藤 僖重
講義目的、講義概要		授業計画	
登録するに先立っての注意事項 - 講義の性質上、受講生は春学期に連続して履修することが望ましい。 - 一クラスの受講者を抽選に受かった 48 名に限定する。抽選に受かった学生は実習費 (¥2,000-) を収めること。 - 詳細は 1 回目の講義で説明する。 講義の目的 - 身近な自然を知ること目標とする。 履修資格 身近な植物 100 種以上認識できること。		1 はじめに：講義の内容を説明 2 身近な植物の観察 1 3 キャンパスウォッチング 1：種の同定 4 蛋白質の分析 5 生産構造図の作成 6 種の多様性の観察：ブナ科果実の観察 7 身近な植物の観察 2 8 光合成の色素の分析：クロマトグラフィー 9 身近な植物の観察 3 10 キャンパスウォッチング：五感を働かす 11 形質と系統：類縁関係を知る 12 身近な植物の観察 4 13 身近な植物の観察 5 14 身近な植物の観察 6 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回 プリント配布		毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。	

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間2(体育経営スポーツマネジメント) 自然・環境・人間(IV)(体育経営スポーツマネジメント)	担当者	川北 準人
講義目的、講義概要		授業計画	
〔目的〕マネジメントは成果によって定義されるといわれている。スポーツ・マネジメントを定義するためには、「成果を得るためには何が必要か」を追求しなければならない。諸外国からの輸入文化として広がったスポーツの発展・普及における過程を理解し、現代社会におけるスポーツの可能性を模索する。そして“今何が求められているか”を問う。身近なスポーツ活動からトップ・プロの動向など幅広く題材として扱い、スポーツの普及とは如何にあるべきかを考える。 〔講義概要〕1980年から1990年は、メディアの発達、各種企業のグローバル化によってスポーツ・マーケティングの時代といわれている。このようにスポーツは、社会情勢の影響を受けながら人々の期待に応じてきた。そこで、我が国における体育とスポーツの関わりを歴史的背景から理解し、その発展過程から現代社会における体育・スポーツの問題を考えていく。特に組織論観点からマネジメントを捉え、我が国における現状のみならず、諸外国の事例なども扱ってスポーツ・マネジメントの理解を深めていく。 〔受講生への要望〕適宜資料を配布するので、ファイル等を用意することが望ましい。		〔授業計画〕 1.オリエンテーション 2.スポーツ・マネジメントの概要 3.我が国におけるスポーツ・体育の歴史的背景 4.スポーツ・マネジメントの研究動向 5.我が国におけるスポーツ組織の組織論的分析 6.マーケティングとイノベーション 7.諸外国のスポーツ・マネジメント(NCAAを事例に)① 8.諸外国のスポーツ・マネジメント(NCAAを事例に)② 9.マーケティングとイノベーション 10.学生スポーツのマネジメント① 11.学生スポーツのマネジメント② 12.プロスポーツのマネジメント 13.我が国における健康教育のマネジメント 14.これからのスポーツ・マネジメント 15.総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜資料を配布する。		〔評価方法〕出席状況、授業態度、そして期末試験の結果を総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降	自然・環境・人間 2 (コンピュータと言語)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。		1. 講義の概要と目標、情報科学とは 2. データ表現、基数変換、論理演算 3. コンピュータの構成要素 4. ソフトウェアの役割、体系と種類 5. オペレーティングシステム (OS) 6. プログラム言語 7. データ構造—リスト、スタック、キュー、2 分木 8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9. コンピュータによる言語情報処理技術 (1) 10. コンピュータによる言語情報処理技術 (2) 11. 機械翻訳システムの演習 12. 情報検索と質問応答システム 13. インターネット上の多言語処理技術 14. 授業のまとめ 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間2(情報検索と加工) 自然・環境・人間(IV)(情報検索と加工)	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】情報爆発といわれている現代社会において、情報検索の技術を駆使して、いかに必要な情報を素早く、的確に見つける能力は不可欠である。本講義は情報検索の仕組みを解説し、実習を通して情報検索の能力を身に付けることを目的とする。 【概要】情報検索システムの基本的な理論と方法について、講義形式とパソコンを使った実習を織り交ぜて行う。 情報検索の歴史、情報検索のための情報収集、情報整理、そして、情報抽出の順番で講義を行う。		1. 授業ガイダンス 2. 情報検索の基本 (1) : パソコンの世界 3. 情報検索の基本 (2) : 情報の表現 4. 情報検索の基本 (3) : データベース 5. 情報検索の種類 6. 情報検索システムの構成と役割 7. 情報の収集 8. 情報の整理 (1) 9. 情報の整理 (2) 10. 情報の抽出 (1) 11. 情報の抽出 (2) 12. 情報検索の評価 13. 情報検索システムの例 : 図書検索 14. 情報検索システムの例 : ネット検索 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト : 必要に応じて配布する 参考文献 : 原田, 江草, 小山, 澤井共著『情報検索演習』新・図書館学シリーズ 6, 2007 (樹村房)		出席 (20%), レポート (20%) 及び筆記試験 (60%) により総合的に評価する。	

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間2 (コンピュータ構造論) 自然・環境・人間(IV) (コンピュータ構造論)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができます。 本講義では、(1) 情報に関する基本的な概念、(2) コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、(3) 情報システムに関する基礎的な素養、(4) 情報社会に関する基礎的な理解などの修得を目標とします。 本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施します。		1. 授業のガイダンス 2. ファイル編成とデータベース 3. データベース管理システム (DBMS) 4. SQL 言語 5. コンピュータ・ネットワーク 6. インターネットの仕組み 7. インターネットサービス 8. セキュリティ、暗号システム、電子認証 9. コンピュータのハードウェア構造 10. 情報検索 11. 情報システムを支える技術 12. ソフトウェア開発手順 13. 総合演習 14. 授業のまとめ 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の講義で指示します。 毎回の講義で必要な教材は配布します。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間2(マルチメディア論) 自然・環境・人間(IV)(マルチメディア論)	担当者	田中 雅英
講義目的、講義概要		授業計画	
動画・音声など、今やインターネットの世界ではもう常識的になってきている。しかしそれは、ブログなどでただ単に指定通りに貼り付けるだけであり、その原理をマスターしている人は少ない。これらを自分の力で処理・コントロールできるようになることを目指し、より表現力が豊かなものにできるようにしたい。 いろいろと手法はあるが、ここではもう標準となっているともいえるソフトのフラッシュを使い、それによってまず基本の処理ができるようになることを目指す。 もちろん、これはソフトの使いこなしだけを目指すのではなく、あくまでもそれは導入としてであり、今後より一層の深化にもつなげられるものとした。		1. ガイダンス 2. イラストの作成① 3. イラストの作成② 4. イラストの作品制作 5. アニメーションの基礎。モーショントゥイーン 6. シンボルの制作、保存。レイヤーの利用 7. 作品の制作① 8. トゥイーンアニメーション 9. シェイプトゥイーン 10. 写真の利用 11. サウンドの貼り付け 12. 作品の制作② 13. 作品の制作③ 14. 作品の制作④ 15. 作品の制作予備日	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜指示・配布する。		いくつかの作品を制作してもらい、それによって評価する。出席は重視し、欠席回数が多いと不可とする。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2 (スポーツコーチ学 a) 自然・環境・人間 (IV) (スポーツコーチ学 a)	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 スポーツのパフォーマンスは人間の身体の幾つもの機能が複雑に働いて現出しています。スポーツ選手の競技力向上には身体機構、運動中の身体各部の機能や適応について理解し、各種トレーニングの計画・実践、また動作解析やゲーム分析などのパフォーマンスのチェックが欠かせません。そこで本講義では、スポーツに関わる身体の基本的な機能を学び、実際にスポーツパフォーマンスの向上に必要な様々な測定を経験し、各自のスポーツへの関わり方がその新たな知識を生かして工夫されることを目指します。 〔講義概要〕 基本的な身体機能および運動中の反応について概説します。実際にスポーツ中の生理データを測定し（受講生同士、グループに分かれて）、試合の映像を持ち寄って分析を行い、その成果を発表します。またビデオなどを利用してスポーツ科学の現状についても紹介する予定です。		1. ガイダンス 2. 身体の基本的な機能 3. 動きをコントロールする 4. 筋が力を発揮する仕組み 5. 運動と循環 6. フィジカルテストの基礎 7. フィジカルテスト作成・実践（グループワーク） 8. 動作分析の基礎 9. 動作分析①（測定・グループワーク） 10. 動作分析②（解析・グループワーク） 11. ゲーム分析の基礎編 12. ゲーム分析①（試合の分析・グループワーク） 13. ゲーム分析②（試合の分析・グループワーク） 14. 成果発表① 15. 成果発表② * 講義の内容の順番は変わる可能性があります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『イラスト運動生理学』 朝山正己 他編 東京共学社		出席、授業態度、グループ発表およびレポートの内容で総合的に判断します。	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2 (スポーツコーチ学 b) 自然・環境・人間 (IV) (スポーツコーチ学 b)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
スポーツコーチ学のなかで特にコーチング方法について、実践・実習をすることを目的とする。 金曜日 3 時限に使用できる学内の施設を利用して、コーチングの実践・実習を行う。		第 1 回授業時、第 2 回授業時に提示します。 基本的なスポーツは次の通りですが、受講生の人数等で変更があります。 1 ガイダンス 2 スポーツコーチ学の概念と写真付受講票作成 3 硬式テニスコーチング① 4 硬式テニスコーチング② 5 硬式テニスコーチング③ 6 ソフトボールコーチング① 7 ソフトボールコーチング② 8 ソフトボールコーチング③ 9 スキーコーチング① 10 スキーコーチング② 11 スキーコーチング③ 12 トレーニングルーム利用法① 13 トレーニングルーム利用法② 14 トレーニングルーム利用法③ 15 コーチング方法の分類	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要により紹介し、プリントを配布する。		毎回の参加とコーチング方法の理解、最終レポートを総合して評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2 (からだの仕組み) 自然・環境・人間 (IV) (からだの仕組み)	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 普段何気なく生活していますが、私たちのからだは様々な環境・状況の変化に対して適応反応を示しています。たとえば、暑いと汗をかいたり、運動中に心臓がドキドキしたりといった反応があげられます。今、メディアなどでも盛んに健康に関する情報が提供されていますが、まずはもっと身近な私たち自身のからだの中のことを知って、快適な生活について考えるきっかけを提供することが本講義の目的です。 〔講義概要〕 講義内容はからだの仕組みや機能について概説し、実際に実験・測定を行い理解の促進を図ります。また、健康やそれにかかわる環境などについてのテレビ、映画、新聞などから各自が興味をもった「からだ」に関する情報を受講生同士（グループにわかれて）で発表・討論することで、共有する形式も取り入れます。毎回授業のテーマに沿ったレポートの提出により知識の定着を図ります。		1. ガイダンスー生きている仕組みを考える 2. 感覚ー第 6 感 3. 実験①（全身の感覚を調べてみよう） 4. 摂食調節ーお腹が空く、脳が空く 5. グループワーク（『食』に関する発表準備） 6. グループ発表① 7. 循環ー心臓がバクバクするのはどんなとき？ 8. 実験②（血圧・心拍数を測ってみよう） 9. 睡眠・生物時計ー眠くなるのはなぜ？ 10. 体温調節ー汗は最強 11. グループワーク（テーマ決定・準備） 12. グループワーク（発表準備） 13. からだの情報交換会！（グループ発表①） 14. からだの情報交換会！（グループ発表②） 15. まとめ *講義、実験の順番は変わる可能性があります	
テキスト、参考文献		評価方法	
『やさしい生理学』 彼末一之・能勢 博 編 南江堂		出席、授業態度、グループ発表およびレポートの内容で総合的に判断します。	

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間2(リーダーシップ論) 教自然・環境・人間(IV)(リーダーシップ論)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
問題解決活動を実践し、その中から集団と個の関わりを考えてもらいます。問題解決活動は学生が互いに指導役割を交代しながら行うことで、指導経験の機会を得ることも目的としています。 グループ単位で企画作成と発表を行う過程でリーダーシップ理論を参考にしながら自己と他者の特性と役割を理解していくことを目標とします。 授業の最初には集団の形成に必要ないくつかの方法を実践します。次の段階ではリーダーシップ発現の機会としてのイニシアティブゲームを実施し、リーダーシップを取る人の特性について考えます。その人の性格と経験等の特性をサンプルとして扱いいくつかのリーダーシップ理論と対照します。次の段階では、イベント企画を題材として企画と実践に向けた取り組みの中で個々の学生が自分の役割を果たすトレーニングを実施します。 いくつかのグループによって提案された企画は投票によって1位を決定し、1位を取ったグループによってそのイベントが実施され、評価を含めたまとめを行います。 グループでの話し合いと実践が多いので出席が重視されます。		1 オリエンテーション 2 集団形成：アイスブレイキング 3 グループワークによる問題解決活動と発表 4 イニシアティブゲームによる問題解決活動1 5 イニシアティブゲームによる問題解決活動2 6 グループ内での課題についての討論と発表 7 リーダーシップ理論1 8 イベント企画作成の手順 9 イベント企画コンテストに向けてのグループ討論 10 イベント企画案の作成 11 イベント企画プレゼンテーション第1回 12 イベント企画プレゼンテーション第2回 13 イベントの実施 14 イベントの評価とまとめ 15 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて資料を配布します。		出席、授業への取り組み姿勢、小レポート、期末レポート 企画コンテスト1位のグループは成績に反映します	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

07 年度以前	ことばと思想(Ⅲ)(日本語の談話と日本語教育)	担当者	武田 明子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 談話分析についての基本的な知識と方法の習得を目的とする。談話分析は、全盛期の後半以降、文学、文化人類学、社会学、心理学などの分野とも関連して発展してきた言語の学である。本講義では、日本語教育の中上級の学習項目を談話論に求めるという目標のもとで、談話とは何か、どのような理論があり、どのような具体的分析が可能なのかを学習していく。		1 ガイダンスー全体の進め方 2 談話分析概論(1) 3 談話分析概論(2) 4 意図表現と解釈(1) 5 意図表現と解釈(2) 6 文脈情報と意味 7 会話の構造 8 会話のストラテジー 9 テキストと情報 10 言語機能と文法 11 言語と文化 12 相互行為の理論(1) 13 相互行為の分析(2) 14 相互行為と社会分析 15 まとめ	
講義概要 講義では下記のテキストおよび適宜用意するプリント資料を使用する。テキストにそって講義を進めていくので、下準備をしてくる。また学生各自にも課題が課せられる。ガイダンスの時にどのような進め方をするかの詳細を話すので、1回目には必ず出席することが講義受講の条件となる。			
テキスト、参考文献		評価方法	
林 宅男『談話分析のアプローチ～理論と実践』研究社(2008 年)		授業内の発表内容と試験、および期末レポートで評価する。また、授業への参加姿勢も加味し、出席することがきびしく要求される。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

07 年度以前	ことばと思想（Ⅲ）（日本語教材における学習項目の扱い）	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、日本語コミュニケーション能力を育成するための教材について検討する。前半では、初級者用の教科書分析を通じてコミュニケーションのための日本語教育文法について検討する。その上で、日本語でのコミュニケーション能力を促進するには、どのような教材が求められるのかをクラスで考える。 後半では、各自が教材の作成を進める。どのような教材にするかは、自由選択とするが、その作成過程をクラスで発表し、皆でコメントを出し合い協力しながら教材を完成させる。基本的には2課分相当のモデル教材の作成を課題とする。 クラスでの話し合いによる理解を深めることが目的となるため、指定された教科書のページをきちんと読んでくることが求められる。		1. 教材開発の基本理論と教材紹介 2. コミュニケーションのための日本語教育文法の設計図 3. コミュニケーションに役立つための教材 a. 日本語学的文法から独立した日本語教育文法 b. 学習者の習得を考慮した日本語教育文法 c. 学習者の母語を考慮した日本語教育文法 4. 聞くための日本語教育文法＋聴解教材の開発 5. 話すための日本語教育文法＋会話教材の開発 6. 読むための日本語教育文法＋読解教材の開発 7. 教材開発と発表 時間の配分は授業の進展次第とする。	
テキスト、参考文献		評価方法	
①テキスト 「コミュニケーションのための日本語教育文法」 野田尚史編　くろしお出版 ②参考文献 「みんなの日本語」スリーエーネットワーク		① 課題の提出 ② 出席率（クラス活動への参加） ③ 課題教材の作成	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋)	スポーツ・レクリエーション(インラインスケート b)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義の目標】 インラインスケートについての知識、技術の習得によって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にします。初めは慣れない道具で不自由に戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全とモラルが大切になるでしょう。前後方滑走、カーブ、方向転換までの技術習得を目標にします。 【講義概要】 実施場所は室内アリーナです。インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進捗状況によって、授業計画は変えていきます。大学では、22センチから28センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。足首上までのソックスを必ず着用すること。		第1回：オリエンテーション インラインスケートとは（ビデオ視聴）と用具あわせ 立ち方・歩き方・とまり方 第2回：「滑ることに慣れよう」ステップ 第3回：「滑ることに慣れよう」グライド 第4回：「からだを動かしてみよう」腕の使い方 第5回：「からだを動かしてみよう」ボディの使い方 第6回：「自由にからだを動かしてみよう」パイロンを使った練習 第7回：「自由にからだを動かしてみよう」ストックを使った練習 第8回：インラインホッケーの基本 第9回：インラインホッケーを楽しもう 第10回：「後ろ向きになれよう」足の使い方 第11回：「後ろ向きになれよう」ボディの使い方 第12回：「後ろ向きになれよう」バックストロークのバリエーション 第13回：「方向転換」カーブの練習 第14回：「方向転換」スリーターン 第15回：総合滑走	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		出席状況と受講態度ならびに技術の向上度	

春	スポーツ・レクリエーション（ウェルネス入門 a）	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 ウェルネスとは「積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことです。授業では『それぞれの健康観』を構築し、自らその理想とする健康生活を送るための知識と能力を身につけることを目的としています。 〔講義概要〕 いつでもどこでも気軽に体を動かすことのできる方法を学び、実践します。運動の強度は軽～中程度ですので、運動・スポーツが苦手でも十分取り組める内容です。またウェルネスに関する情報を毎回の授業でプリントなどを配布して提供します。主にトレーニングルームで行いますが、内容によってグラウンドや校外などの屋外で行います。 〔受講生への要望〕 各自、トレーニングルーム用のシューズを必ず用意してください。またウォーキングなど他のプログラムもありますので、外運動用のシューズも必要です。運動にふさわしい服装で参加してください。 ★トレーニングルームが主な実技場所ですが、その他の場所を使うときにはあらかじめ授業時に連絡します。		1. ガイダンス 2. 自分の『ウェルネス』について考えてみよう 3. からだをほぐしてリラックス（ストレッチポール） 4. ストレッチングのススメ 5. ウォーキング（楽しく続けるために） 6. 自分の体重を使って筋力アップ 7. 有酸素運動を理解しよう 8. きれいな姿勢のためのエクササイズ 9. ヨガの基本ポーズ① 10. ヨガの基本ポーズ② 11. ヨガの基本ポーズ③ 12. バランスボールを使ったエクササイズ 13. バランスボールを使ったエクササイズ 14. 自分でプログラムを作って実践 15. 春学期の総まとめ (ただし、上記内容の順番は変更になる場合があります。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。	

秋	スポーツ・レクリエーション（ウェルネス入門 b）	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 ウェルネスとは「積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことです。授業では『それぞれの健康観』を構築し、自らその理想とする健康生活を送るための知識と能力を身につけることを目的としています。 〔講義概要〕 いつでもどこでも気軽に体を動かすことのできる方法を学び、実践します。運動の強度は軽～中程度ですので、運動・スポーツが苦手でも十分取り組める内容です。またウェルネスに関する情報を毎回の授業でプリントなどを配布して提供します。主にトレーニングルームで行いますが、内容によってグラウンドや校外などの屋外で行います。 〔受講生への要望〕 各自、トレーニングルーム用のシューズを必ず用意してください。またウォーキングなど他のプログラムもありますので、外運動用のシューズも必要です。運動にふさわしい服装で参加してください。 ★トレーニングルームが主な実技場所ですが、その他の場所を使うときにはあらかじめ授業時に連絡します。		1. これまでのプログラムを振り返る 2. 自分の体をチェック 3. ウォーキングを楽しむ 4. ストレッチング・筋力アップ①・ヨガ 5. ストレッチング・筋力アップ②・ヨガ 6. ストレッチング・筋力アップ③・ヨガ 7. ストレッチング・筋力アップ④・ヨガ 8. バランスボール・エクササイズ 9. ストレッチング・その場でステップ 10. からだをあたためるエクササイズ 11. リクエスト・プログラム 12. 自分でプログラムを作って実践① 13. 自分でプログラムを作って実践② 14. 自分でプログラムを作って実践③ 15. 秋学期の総まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。	

春	スポーツ・レクリエーション（エアロビックダンス a）	担当者	中村 恭子
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】 音楽のリズムに合わせて楽しく有酸素運動を行うことで新陳代謝を高めるとともに、全身持久力、筋力、調整力（リズム感、協応性、巧緻性、平衡性、柔軟性など）を高めます。また、運動の効果を実感し、安全で効果的な動き方・運動への取り組み方を理解して、生涯にわたって運動に親しむ資質を身に付けます。		1. オリエンテーション、エアロビックダンスの特性 2. エアロビックダンスの基礎、ステップ名称の理解 3. ローインパクトのエクササイズ① 4. ローインパクトのエクササイズ② 5. ローインパクトのエクササイズ③ 6. ローインパクトのエクササイズ④ 7. ハイインパクトのエクササイズ① 8. ハイインパクトのエクササイズ② 9. ハイインパクトのエクササイズ③ 10. ハイインパクトのエクササイズ④ 11. コンビネーション・エクササイズ① 12. コンビネーション・エクササイズ② 13. コンビネーション・エクササイズ③ 14. コンビネーション・エクササイズ④ 15. コンビネーション・エクササイズ⑤	
【講義概要】 エアロビックダンスの基礎から始め、受講者の理解度に合わせて、毎回新しい動きを加え、徐々に運動強度・難度を上げていきます。複雑な動きの組み合わせにも挑戦し、元気に、力強く、器用に動ける体を作ります。		※各回の内容は受講生の理解度に合わせて変更する可能性があります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席回数、授業への参加態度、実技の達成度、学習カードの記述内容から総合的に評価します。	

秋	スポーツ・レクリエーション（エアロビックダンス b）	担当者	中村 恭子
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】 音楽のリズムに合わせて楽しく有酸素運動を行うことで新陳代謝を高めるとともに、全身持久力、筋力、調整力（リズム感、協応性、巧緻性、平衡性、柔軟性など）を高めます。また、運動の効果を実感し、安全で効果的な動き方・運動への取り組み方を理解して、生涯にわたって運動に親しむ資質を身に付けます。		1. エアロビックダンスの基礎 2. ローインパクトのエクササイズ① 3. ローインパクトのエクササイズ② 4. ハイインパクトのエクササイズ① 5. ハイインパクトのエクササイズ② 6. ステップ台を用いたエクササイズ① 7. ステップ台を用いたエクササイズ② 8. ステップ台を用いたエクササイズ③ 9. ステップ台を用いたエクササイズ④ 10. ラテン系のエクササイズ① 11. ラテン系のエクササイズ② 12. ラテン系のエクササイズ③ 13. ヒップホップ系のエクササイズ① 14. ヒップホップ系のエクササイズ② 15. ヒップホップ系のエクササイズ③	
【講義概要】 エアロビックダンスの基本から始め、受講者の理解度に合わせて、ステップ台を用いたエクササイズや、ラテン系やヒップホップ系のダンスムーブメントを取り入れたエクササイズへと展開していきます。エアロビックダンスの応用プログラムを体験し、多様な動きを楽しみます。		※各回の内容は受講生の理解度に合わせて変更する可能性があります。	
【準備物】 動きやすい服装、体育館シューズ、タオル、水		※各回の内容は受講生の理解度に合わせて変更する可能性があります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席回数、授業への参加態度、実技の達成度、学習カードの記述内容から総合的に評価します。	

春	スポーツ・レクリエーション（硬式テニス a）	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
硬式テニスのスキルを理解し、獲得することを第1番の目的とし、次にダブルスのゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネージメント能力の向上を図ることを第2番の目的とする。 基本的には、初心者から中級レベルが4面にわかれて練習を行う。受講が決定した時点で名札を作成し、毎回出席を取る。 授業前半は基本スキル練習、後半はダブルスゲーム形式で応用スキルの練習を色々なメンバーの組み合わせにより行う。 受講者の人数などの様子により授業内容が変更される可能性がある。		1. ガイダンス 2. 写真付受講票の作成とスキルテスト 3. フォアハンドストローク（球出し） 4. バックハンドストローク（球出し） 5. ボレー&スマッシュ（球出し） 6. サービス&レシーブ 7. サービス&レシーブ&ラリー（ストレート） 8. サービス&レシーブ&ラリー（クロス） 9. ダブルスゲーム（3ポイント先取） 10. ダブルスゲーム（5ポイント先取） 11. ダブルスゲーム（2ゲーム先取） 12. ダブルスゲーム（4ゲーム先取） 13. ダブルスゲーム（1試合20分間） 14. 15. スキルテスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎回の出席、態度、スキルテストを総合して評価する。	

秋	スポーツ・レクリエーション（硬式テニス b）	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
硬式テニスのシングルス・ダブルスゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネージメント能力の向上を図る。 春学期からの継続履修者と秋学期からの履修者の混合になる。 秋学期からの履修者は、原則として硬式テニスのダブルスのゲームが出来ることを条件とし、顔写真1枚を貼った受講票を作成する。 色々な組み合わせによりダブルスゲームを行う。 受講者の人数などの様子により授業内容が変更される可能性がある。		1. 実技とガイダンス 2. 写真付受講票の作成とスキルテスト 3. シングルスゲーム（順位決め） 4. シングルスゲーム（順位決め） 5. ダブルスゲーム（シングルス順位で組合せ） 6. ダブルスゲーム（順位決め） 7. ダブルスゲーム（リーグ戦①） 8. ダブルスゲーム（リーグ戦②） 9. ダブルスゲーム（リーグ戦③） 10. ダブルスゲーム（ポイントハンデ付） 11. ダブルスゲーム（スキルハンデ付） 12. ダブルスゲーム（トーナメント①） 13. ダブルスゲーム（トーナメント②） 14. ダブルスゲーム（トーナメント③） 15. スキルテスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎回の、出席、態度、スキルテストを総合して評価する。	

春	スポーツ・レクリエーション（硬式テニス a）	担当者	田中 茂宏
講義目的、講義概要		授業計画	
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおける trial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 到達目標 ①学習する者同士がお互いについて、自分自身について考えられるようになる。 ②「まずやってみる」という姿勢、チャレンジについて考えられる。 ③ルールを理解し、ゲームができる。 進め方 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・テニスを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。 ・原則として雨天決行し、服装忘れ、遅刻は認めない。		1. オリエンテーション。 2. } 3. } サービス、ストローク等の練習。 4. } ルールの確認。 5. } 6. } 7. } シングルス、ダブルスのゲーム。 8. } 技能テスト。 9. } 10. } 技術練習。 11. } 12. } 13. } シングルス、ダブルスのゲーム。 14. } 技能テスト。 15. }	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出欠状況、授業への参加姿勢、レポートの内容、技能の向上で評価する。	

秋	スポーツ・レクリエーション（硬式テニス b）	担当者	田中 茂宏
講義目的、講義概要		授業計画	
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおける trial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 到達目標 ①学習する者同士がお互いについて、自分自身について考えられるようになる。 ②「まずやってみる」という姿勢、チャレンジについて考えられる。 ③ルールを理解し、ゲームができる。 進め方 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・テニスを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。 ・原則として雨天決行し、服装忘れ、遅刻は認めない。		1. オリエンテーション。 2. } 3. } サービス、ストローク等の練習。 4. } ルールの確認。 5. } 6. } 7. } シングルス、ダブルスのゲーム。 8. } 技能テスト。 9. } 10. } 技術練習。 11. } 12. } 13. } シングルス、ダブルスのゲーム。 14. } 技能テスト。 15. }	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出欠状況、授業への参加姿勢、レポートの内容、技能の向上で評価する。	

春	スポーツ・レクリエーション（ゴルフ a）	担当者	小笠原 慶太
講義目的、講義概要		授業計画	
ゴルフは、正しい知識を身につけることによって生涯にわたって楽しめるスポーツです。そのためには基本となる技術、ルールの理解、正しいマナーの習得が求められます。授業では、ショートアイアンを中心にスウィングをつくります。また、ルールやマナーについても細かく説明をし、ゴルフというスポーツを正しく理解してもらいます。 他の競技に比べ初心者が多いこと、また人それぞれ打ち方が違うため、個別指導中心の授業になります。 【受講者へ】 ゴルフ練習場での授業には、ボール購入にお金が掛かります。また危険防止の為、練習中はグローブ着用を義務付けます。必ず用意して下さい。		1. オリエンテーション 2. 学内にてスウィング作り（アドレス・グリップ） 3. 学内にてスウィング作り（アドレス・グリップ） 4. 学内にて実習（ショートアイアン） 5. 学内にて実習（ショートアイアン） 6. 学内にて実習（ミニゲーム・ルール学習） 7. 学内にて実習（ミニゲーム・ルール学習） 8. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 9. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 10. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 11. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 12. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 13. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 14. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 15. ゴルフ練習場にて実習（個別指導）	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席状況、授業態度、技能の向上度で評価する。	

秋	スポーツ・レクリエーション（ゴルフ b）	担当者	小笠原 慶太
講義目的、講義概要		授業計画	
ゴルフは、正しい知識を身につけることによって生涯にわたって楽しめるスポーツです。そのためには基本となる技術、ルールの理解、正しいマナーの習得が求められます。授業では、ショートアイアンを中心にスウィングをつくります。また、ルールやマナーについても細かく説明をし、ゴルフというスポーツを正しく理解してもらいます。 他の競技に比べ初心者が多いこと、また人それぞれ打ち方が違うため、個別指導中心の授業になります。 【受講者へ】 ゴルフ練習場での授業には、ボール購入にお金が掛かります。また危険防止の為、練習中はグローブ着用を義務付けます。必ず用意して下さい。		1. 学内にてスウィング作り（アドレス・グリップ） 2. ゴルフ練習場にて実習（スウィングチェック） 3. ゴルフ練習場にて実習（スウィングチェック） 4. ゴルフ練習場にて実習（アプローチ） 5. ゴルフ練習場にて実習（アプローチ） 6. ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン） 7. ゴルフ練習場にて実習（ミドルアイアン） 8. ゴルフ練習場にて実習（ミドルアイアン） 9. ゴルフ練習場にて実習（フェアウェイ・ウッド） 10. ゴルフ練習場にて実習（フェアウェイ・ウッド） 11. ゴルフ練習場にて実習（ドライバー） 12. ゴルフ練習場にて実習（ドライバー） 13. ルール学習 14. ルール学習 15. ルール学習	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席状況、授業態度、技能の向上度で評価する。	

春	スポーツ・レクリエーション（サッカーa）	担当者	菊原 伸郎
講義目的、講義概要		授業計画	
サッカーの実践を通して、社会性・協調性・判断力及び洞察力などを養い、生涯にわたってスポーツの実践や家族・地域での少年少女スポーツ指導を生活の中に取り入れていくことができるようにする。 次の項目を教育的目標とする。 コミュニケーション・スキルとサッカーの技術・技能および戦術理解力と個人・グループ戦術達成力 【授業の内容】 基本技術を習得し、試合で使える戦術力向上を目指す。その上で、自分やチームの力にあった運動課題をもち、その課題の解決を目指してプレーを考え工夫してゲームを行う。		第 1 回 ガイダンス 第 2 回 試合形式：コミュニケーション 第 3 回 試合形式：チームワーク 第 4~5 回 技術の習得：ボールコントロール ボールを止める、支配し続ける リフティング スモールゲーム形式 第 6~8 回 個人戦術の習得：パス&シュート 各種キック（ボレーキック含む） スモールゲーム形式 第 9~11 回 グループ・チーム戦術：攻守のポジショニングと優先順位 フルコートゲーム形式 第 12~14 回 チーム戦術：試合形式：リーグ戦 第 15 回 試合形式：トーナメント戦	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点 60% 技能評価 20% （個人技能） 戦術達成力 20% （グループワーク）	

秋	スポーツ・レクリエーション（サッカーb）	担当者	菊原 伸郎
講義目的、講義概要		授業計画	
サッカーの実践を通して、社会性・協調性・判断力及び洞察力などを養い、生涯にわたってスポーツ（特にサッカー）を生活の一部として楽しむすべを獲得して行くことを目的とする。 次の項目を教育的目標とする。 コミュニケーション・スキルとサッカーの技術・技能および戦術理解力と個人・グループおよびチーム戦術達成力 【授業の内容】 基本技術を習得し、試合で使える戦術力向上を目指す。その上で、自分やチームの力にあった運動課題をもち、その課題の解決を目指してプレーを考え工夫してゲームを行う。		第 1 回 ガイダンス 第 2 回 試合形式：コミュニケーション 第 3 回 試合形式：チームワーク 第 4~5 回 技術の確認：ボールコントロール ボールを止める、支配し続ける リフティング スモールゲーム形式 第 6~8 回 グループ戦術の習得：パス&シュート 各種キック（ボレーキック含む） ゲーム形式 第 9~11 回 グループ・チーム戦術：攻守のポジショニングと優先順位 ゲーム形式 第 12~14 回 チーム戦術：試合形式：リーグ戦 第 15 回 試合形式：トーナメント戦	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点 60% 技能評価 20% （個人技能） 戦術達成力 20% （グループワーク）	

春	スポーツ・レクリエーション（サッカーa）	担当者	西川 誠太
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 1. サッカーの実践者（競技者や指導者など）として、あるいは観戦者としてより楽しく関われるための知識や技能の習得。 2. サッカーというチームスポーツを通して、人とのコミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を育む。 〔講義概要〕 受講生の技能レベルに応じて課題を設定し、ゲームでの実践力を身につける。また、技術戦術に限らずサッカーの様々なトピックを取り扱うことで、サッカーを多角的に捉えることに努めサッカーへの理解を深める。 〔受講生への要望〕 第1回のガイダンス（注意事項伝達）に必ず出席すること。とにかくサッカーをより楽しみたいと願っている学生の受講を希望します。		1. ガイダンス 2. ボールを飛ばす技術①、スモールサイドゲーム 3. ボールを飛ばす技術②、スモールサイドゲーム 4. ボールを受ける技術①、スモールサイドゲーム 5. ボールを受ける技術②、スモールサイドゲーム 6. ボールを運ぶ技術①、スモールサイドゲーム 7. ボールを運ぶ技術②、スモールサイドゲーム 8. ボールを奪う技術①、スモールサイドゲーム 9. ボールを奪う技術②、スモールサイドゲーム 10. 技術・戦術トレーニングの理論と実践① 11. 技術・戦術トレーニングの理論と実践② 12. サッカーの歴史、ルール 13. ゲーム実践（リーグ戦） 14. ゲーム実践（リーグ戦） 15. ゲーム実践（リーグ戦）	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点 60%、実践力・グループへの貢献度・授業態度 40% とした総合評価	

秋	スポーツ・レクリエーション（サッカーb）	担当者	西川 誠太
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 1. サッカーの実践者（競技者や指導者など）として、あるいは観戦者としてより楽しく関われるための知識や技能の習得。 2. サッカーというチームスポーツを通して、人とのコミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を育む。 〔講義概要〕 受講生の技能レベルに応じて課題を設定し、ゲームでの実践力を身につける。また、技術戦術に限らずサッカーの様々なトピックを取り扱うことで、サッカーを多角的に捉えることに努めサッカーへの理解を深める。 〔受講生への要望〕 第1回のガイダンス（注意事項伝達）に必ず出席すること。とにかくサッカーをより楽しみたいと願っている学生の受講を希望します。		1. ガイダンス 2. ボールフィーリング、スモールサイドゲーム 3. 4つの技術要素の確認①、スモールサイドゲーム 4. 4つの技術要素の確認②、スモールサイドゲーム 5. 技術・戦術トレーニングの理論と実践① 6. 技術・戦術トレーニングの理論と実践② 7. グループ・チーム戦術① 8. グループ・チーム戦術② 9. グループ・チーム戦術③ 10. サッカーの歴史、ルール 11. ゲーム実践（リーグ戦） 12. ゲーム実践（リーグ戦） 13. ゲーム実践（リーグ戦） 14. ゲーム実践（リーグ戦） 15. ゲーム実践（リーグ戦）	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点 60%、実践力・グループへの貢献度・授業態度 40% とした総合評価	

春	スポーツ・レクリエーション（スポーツ型デトックス a）	担当者	齋藤 初恵
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 この講義では、エクササイズを行うことによりからだの代謝機能を高めるとともに、老廃物をスムーズに排泄できるからだづくり、つまりデトックスしやすいからだづくりを目指します。また、この講義では様々なエクササイズを行います。いずれのエクササイズも競うことが目的ではなく、楽しんで行うことが目的です。この講義を通して自分に合ったエクササイズを見つけられたら、ぜひ生活の中に取り入れていって欲しいと思います。 ○ ポール＆ヨーガ：ストレッチポールで本来の正しい姿勢へと体を調整します。また、ヨーガでは深い呼吸とポーズを組み合わせることにより、心とからだを調和させるとともに、からだのデトックス機能向上と心のリフレッシュを行います。 ○ エアロビクス：リズムに合わせて全身運動（有酸素運動）を行い、代謝機能を高めます。 ○ ステップエクササイズ：ステップ台を用いたエアロビクスで、非常に運動効果の高いエクササイズです。 【準備するもの】 運動のできるウェア、室内シューズ、タオル、水（真水のみ可）		1 オリエンテーション 年間授業計画の説明 実施上の諸注意 2 スポーツ型デトックスについて ポール＆ヨーガ① 3 ポール＆ヨーガ② 4 ポール＆ヨーガ③ 5 ポール＆ヨーガ④ 6 ポール＆ヨーガ⑤ 7 エアロビクス① 8 エアロビクス② 9 エアロビクス③ 10 エアロビクス④ 11 エアロビクス⑤ 12 ステップエクササイズ① 13 ステップエクササイズ② 14 ステップエクササイズ③ 15 ステップエクササイズ④	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		出席状況、授業への参加態度等により評価する。	

秋	スポーツ・レクリエーション（スポーツ型デトックス b）	担当者	齋藤 初恵
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 春学期に引き続き、エクササイズを行うことでからだの代謝機能を高めるとともに、老廃物をスムーズに排泄できる（デトックスしやすい）からだづくりを目指します。 ○ ポール＆筋コンディショニング：ストレッチポールで本来の正しい姿勢へと体を調整します。また、筋コンディショニングでは体幹部（コア）の筋肉を、有酸素運動と腹筋・背筋のトレーニングの組み合わせで鍛えます。 ○ パワーヨーガ：深い呼吸とポーズを組み合わせることにより、心とからだを調和させるとともに、からだのデトックス機能向上と心のリフレッシュを行います。 ○ リズムボクシング：パンチやキックの動作を音楽に合わせて行う、格闘技系の有酸素エクササイズです。 【準備するもの】 運動のできるウェア、室内シューズ、タオル、水（真水のみ可）		1 スポーツ型デトックスについて ポール＆筋コンディショニング① 2 ポール＆筋コンディショニング② 3 ポール＆筋コンディショニング③ 4 ポール＆筋コンディショニング④ 5 ポール＆筋コンディショニング⑤ 6 パワーヨーガ① 7 パワーヨーガ② 8 パワーヨーガ③ 9 パワーヨーガ④ 10 パワーヨーガ⑤ 11 リズムボクシング① 12 リズムボクシング② 13 リズムボクシング③ 14 リズムボクシング④ 15 リズムボクシング⑤	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		出席状況、授業への参加態度等により評価する。	

春	スポーツ・レクリエーション（ソフトボール a）	担当者	萩野 元祐
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。 〔受講者への要望〕 技術力とはともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。		1. オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など。 2. ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。個人的技能練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習 3. 前回の復習 ゲームの実施 4. バッティング練習（握り方、スタンス、位置、構え方、スイング） リーグ戦 5. 前回の復習。リーグ戦 6. リーグ戦 7 守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習 リーグ戦 8. 前回の復習 リーグ戦 9. リーグ戦 10. リーグ戦 11. リーグ戦 12. リーグ戦 13. リーグ戦 14. リーグ戦 15. リーグ戦	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席3回を越えた者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。	

秋	スポーツ・レクリエーション（ソフトボール b）	担当者	萩野 元祐
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。 〔受講者への要望〕 技術力とはともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。		1. オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など。 2. ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。個人的技能練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習 3. 前回の復習 ゲームの実施 4. バッティング練習（握り方、スタンス、位置、構え方、スイング） リーグ戦 5. 前回の復習。リーグ戦 6. リーグ戦 7 守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習 リーグ戦 8. 前回の復習 リーグ戦 9. リーグ戦 10. リーグ戦 11. リーグ戦 12. リーグ戦 13. リーグ戦 14. リーグ戦 15. リーグ戦	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席が3回を越えた者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。	

春	スポーツ・レクリエーション（卓球 a）	担当者	山口 知恵
講義目的、講義概要		授業計画	
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが一番です。 また、スポーツを通してもっと自分のことをよく知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、卓球という種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。		1. オリエンテーション 2. 卓球導入、ラケットとボールに慣れる（ボール遊び） 3. 構え、スイングの練習（フォアハンド、バックハンド） 4. サービスとサーブレシーブの練習 5. シングルスゲーム（ルールの習得） 6. シングルスゲーム 7. シングルスゲーム 8. ダブルスゲーム（ルールの習得） 9. ダブルスゲーム 10. ダブルスゲーム 11. ダブルスゲーム 12. チーム団体戦（団体戦の形式を覚える） 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は出席点を主に、授業への参加態度などを総合して決めます。	

秋	スポーツ・レクリエーション（卓球 b）	担当者	山口 知恵
講義目的、講義概要		授業計画	
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが一番です。 また、スポーツを通してもっと自分のことをよく知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、卓球という種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。		1. 基本的な打ち方の練習（ボールとラケットに慣れる） 2. フォアハンド、バックハンド、スマッシュなどの練習 3. サービス、レシーブの練習 4. シングルスゲーム（ルールの習得） 5. シングルス・リーグ戦 6. シングルス・リーグ戦 7. シングルス・リーグ戦 8. ダブルスゲーム（ルールの習得） 9. ダブルス・リーグ戦 10. ダブルス・リーグ戦 11. ダブルス・リーグ戦 12. チーム団体戦（団体戦の形式を覚える） 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は出席点を主に、授業への参加態度などを総合して決めます。	

春	スポーツ・レクリエーション（卓球 a）	担当者	神宮司 親治
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的な練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。		1. オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2. 用具の準備と片づけ方 基本知識（ラケットの種類・持ち方、基本姿勢） 3. ボールの打ち方・スイングの基本 4. フォアハンド・バックハンドの練習 簡易ゲーム 5. サービス・レシーブの練習 簡易ゲーム 6. フォアハンドロング・バックハンドショート 7. カット・スマッシュ 8. 審判法とゲームの進め方 シングルスゲーム 9. シングルスゲーム 10. シングルスゲーム 11. ダブルスゲームの進め方・シングルスゲームとの違い ダブルスゲーム 12. ダブルスゲーム パートナーの動きを考える 13. ダブルスゲーム 14. まとめ①（シングルスゲーム） 15. まとめ②（ダブルスゲーム）	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数 4 回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関等の特別な事情以外の遅刻は認めない。	

秋	スポーツ・レクリエーション（卓球 b）	担当者	神宮司 親治
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的な練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。		1. 復習 基本練習 シングルスゲーム 2. 復習 基本練習 ダブルスゲーム 3. 決定打までの組み立て チーム編成とシングルスゲーム・チーム内リーグ戦 4. シングルスゲーム・チーム内リーグ戦 5. シングルスゲーム・チーム対抗戦 6. 上に同じ 7. ダブルスゲーム・チーム内リーグ戦 8. ダブルスゲーム・チーム対抗戦 9. 上に同じ 10. シングルス・トーナメント戦 11. ダブルス・トーナメント戦 12. ミックスダブルス 13. ミックスダブルス・リーグ戦 14. チーム対抗戦（シングルスゲーム・ダブルスゲーム） 15. 総まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数 4 回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関等の特別な事情以外の遅刻は認めない。	

春	スポーツ・レクリエーション（卓球 a）	担当者	太田 朝博
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献出来ること。 〔講義概要〕 基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館シューズを用意すること。		1. オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2. 実技授業の開始 用具の準備と片づけの仕方と基本知識動作などについて 3. ボールの打ち方・スイングの基本 4. サーブ・レシーブの練習 簡易ゲーム 5. フォアハンド・バックハンドの練習 簡易ゲーム 6. 上記の復習 7. カット・スマッシュ練習 シングルスゲーム 8. グループ内でのシングルスリーグ戦 9. 上記に同じ 10. 上記に同じ 11. 各グループ同順位リーグ戦 12. 上記に同じ 13. 技能テスト 14. 上記に同じ 15. 上記に同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席4回以上の者に対しては、評価の対象としない。	

秋	スポーツ・レクリエーション（卓球 b）	担当者	太田 朝博
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献出来ること。 〔講義概要〕 基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館シューズを用意すること。		1. 基本的技術の春学期の復習 2. 上記と同じ ダブルスの動き 3. ダブルスの簡易ゲーム 4. 上記と同じ 5. 上記と同じ 6. 日替わりチーム編成をしチーム内でのダブルスリーグ戦 7. 上記と同じ 8. 上記と同じ 9. 固定チームを編成しチーム対抗戦 1 10. チーム対抗戦 2 11. チーム対抗戦 3 12. チーム対抗戦 4 13. 技能テスト 14. 上記に同じ 15. 上記に同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席4回以上の者に対しては、評価の対象としない。	

春	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 a)	担当者	大森 一伸
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義の目的】本講義では週1回のトレーニングプログラムで筋力アップ・シェイプアップにチャレンジします。 【講義の概要】ウエイトトレーニング、体幹トレーニングの代表的な種目を選びトレーニングを実践します。まず第2週目の授業でトレーニング前の最大筋力、身体組成、形態計測を計測し、各自の目標を設定しトレーニングプログラムを作成します。その後、毎週各自のプログラムに従ってトレーニングを継続し、第15週目の授業でトレーニング後の最大筋力、身体組成、形態計測を計測し、トレーニングの成果を評価します。 各種トレーニングのトレーニング効果に関する科学的根拠を理解し、自身の健康づくりに役に立ててもらいたいと考えています。そのために、授業中に小講義を数回おこない、小テストを実施します。 【学生への要望】トレーニングルーム用のシューズと運動に相応しいウェアを必ず用意してください。トレーニング後は筋肉痛が生じることを承知してください。		1. ガイダンス 2. トレーニング前計測 3. トレーニング①・講義① 4. トレーニング②・小テスト① 5. トレーニング③ 6. トレーニング④ 7. トレーニング⑤ 8. トレーニング⑥・講義② 9. トレーニング⑦・小テスト② 10. トレーニング⑧ 11. トレーニング⑨ 12. トレーニング⑩ 13. トレーニング⑪・講義③ 14. トレーニング⑫・小テスト③ 15. トレーニング後計測 (ただし、講義と小テストのスケジュールは変更になる場合があります。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に購入の必要はありません。講義のときに資料を配布します。		出席とトレーニングへの取り組む姿勢を重要視します。また、トレーニングの基礎知識に関する小テストも評価対象とします。遅刻は減点の対象とします。	

秋	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 b)	担当者	大森 一伸
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義の目的】本講義では週1回のトレーニングプログラムで筋力アップ・シェイプアップにチャレンジします。 【講義の概要】ウエイトトレーニング、体幹トレーニングの代表的な種目を選びトレーニングを実践します。まず第2週目の授業でトレーニング前の最大筋力、身体組成、形態計測を計測し、各自の目標を設定しトレーニングプログラムを作成します。その後、毎週各自のプログラムに従ってトレーニングを継続し、第15週目の授業でトレーニング後の最大筋力、身体組成、形態計測を計測し、トレーニングの成果を評価します。 各種トレーニングのトレーニング効果に関する科学的根拠を理解し、自身の健康づくりに役に立ててもらいたいと考えています。そのために、授業中に小講義を数回おこない、小テストを実施します。 【学生への要望】トレーニングルーム用のシューズと運動に相応しいウェアを必ず用意してください。トレーニング後は筋肉痛が生じることを承知してください。		1. ガイダンス 2. トレーニング前計測 3. トレーニング①・講義① 4. トレーニング②・小テスト① 5. トレーニング③ 6. トレーニング④ 7. トレーニング⑤ 8. トレーニング⑥・講義② 9. トレーニング⑦・小テスト② 10. トレーニング⑧ 11. トレーニング⑨ 12. トレーニング⑩ 13. トレーニング⑪・講義③ 14. トレーニング⑫・小テスト③ 15. トレーニング後計測 (ただし、講義と小テストのスケジュールは変更になる場合があります。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に購入の必要はありません。講義のときに資料を配布します。		出席とトレーニングへの取り組む姿勢を重要視します。また、トレーニングの基礎知識に関する小テストも評価対象とします。遅刻は減点の対象とします。	

春	スポーツ・レクリエーション（ニュースポーツ a）	担当者	村山 光義
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義の目標】 1. 世界の様々なスポーツ文化・人間の遊びの文化を体験し理解する。 2. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 【講義概要】 手軽に楽しめるニュースポーツを紹介し、新たなスポーツ文化を体験するとともに、仲間とのコミュニケーションをはかります。ターゲットバードゴルフ、ペタンク、キンボール、フリスビーを使った競技など、幅広いニュースポーツ種目を数回ずつ体験していきます。雨天時にはニュースポーツの紹介・スポーツの歴史に関する講義を行うこともあります。なお、体験を重視し、技術の出来栄は問いません。 【受講者への要望】 スポーツは、金メダルや優勝を目指すチャンピオンスポーツばかりでなく、日常生活の気晴らし・Recreation としての「遊び」要素をもっています。世界のニュースポーツを体験しながら、人間と遊びの関係を考えてみましょう。		1. イン트로ダクション（各種スポーツの紹介・説明） 2. Flying Disc（フリスビー）を使った競技、投法練習 3. 〃 個人種目 アキュラシー（的通り競技）ほか 4. 〃 集団ゲーム アルティメット 5. 〃 ディスクゴルフ ラウンド 6. ターゲットバードゴルフ 技術練習 7. 〃 ラウンド 8. ペタンク 9-10. インディアカ 11-12. ユニバーサルホッケー 13-14. キンボール 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて印刷物を配布します。		出席(60%)、理解(20%)、態度(20%)の3項目で評価します。理解は内省報告や簡単なレポートによって評価します。態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。	

秋	スポーツ・レクリエーション（ニュースポーツ b）	担当者	村山 光義
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義の目標】 1. 世界の様々なスポーツ文化・人間の遊びの文化を体験し理解する。 2. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 【講義概要】 手軽に楽しめるニュースポーツを紹介し、新たなスポーツ文化を体験するとともに、仲間とのコミュニケーションをはかります。ターゲットバードゴルフ、ペタンク、キンボール、フリスビーを使った競技など、幅広いニュースポーツ種目を数回ずつ体験していきます。雨天時にはニュースポーツの紹介・スポーツの歴史に関する講義を行うこともあります。なお、体験を重視し、技術の出来栄は問いません。 【受講者への要望】 スポーツは、金メダルや優勝を目指すチャンピオンスポーツばかりでなく、日常生活の気晴らし・Recreation としての「遊び」要素をもっています。世界のニュースポーツを体験しながら、人間と遊びの関係を考えてみましょう。		1. イン트로ダクション（各種スポーツの紹介・説明） 2. Flying Disc（フリスビー）を使った競技、投法練習 3. 〃 個人種目 アキュラシー（的通り競技）ほか 4. 〃 集団ゲーム アルティメット 5. 〃 ディスクゴルフ ラウンド 6. ターゲットバードゴルフ 技術練習 7. 〃 ラウンド 8. ペタンク 9-10. インディアカ 11-12. ユニバーサルホッケー 13-14. キンボール 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて印刷物を配布します。		出席(60%)、理解(20%)、態度(20%)の3項目で評価します。理解は内省報告や簡単なレポートによって評価します。態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。	

春	スポーツ・レクリエーション（バスケットボール a）	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 バスケットボールの基本技術を習得し、ルールを理解し、楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。ゲーム時には各チームから審判、オフィシャルを出し、学生自らがゲーム運営を行い、バスケットボールの競技特性をより深く学ぶ。 学生同士の教えあいの機会を積極的に作り、個々のレベルだけでなくチームの力の向上を図る。 〔受講生への要望〕 各自、体育館用のシューズを必ず用意してください。バスケットボールにふさわしい服装で参加してください。水分補給はこまめに行うようにしてください。		1. ガイダンス 2. ファンダメンタルを身につけよう① ボールハンドリング・シュート・パス・ドリブル 3. ファンダメンタルを身につけよう② シュート・パス・ドリブル 4. ファンダメンタルを身につけよう③ シュート・パス・ドリブル 5. ファンダメンタルを身につけよう④ 様々なシュート 6. ファンダメンタルを身につけよう⑤ ストップ・ターンの使い方 7. ファンダメンタルを身につけよう⑥ パスのもらい方、動きの中でのシュート 8. ファンダメンタルを身につけよう⑦ ディフェンスの基本、 9. 試合への応用 10. ゲームの進め方（審判・オフィシャル） 11. ～ 15. ゲーム	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。	

秋	スポーツ・レクリエーション（バスケットボール b）	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 バスケットボールの基本技術を習得し、ルールを理解し、楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。ゲーム時には各チームから審判、オフィシャルを出し、学生自らがゲーム運営を行い、バスケットボールの競技特性をより深く学ぶ。 学生同士の教えあいの機会を積極的に作り、個々のレベルだけでなくチームの力の向上を図る。 〔受講生への要望〕 各自、体育館用のシューズを必ず用意してください。バスケットボールにふさわしい服装で参加してください。水分補給はこまめに行うようにしてください。 *秋学期は試合がメインになります。		1. ファンダメンタルの確認 2. ファンダメンタルの確認 3. ゲームを楽しもう 4. ～ 15. ゲーム（リーグ戦など） *毎週あるいは数週ごとチームを変えて試合を行います。同じチームの仲間とコミュニケーションを取り、教えあい、バスケットボールの試合を楽しみつつ、改善点などを見つけて克服していきます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。	

春	スポーツ・レクリエーション（バスケットボール）a	担当者	川北 準人
講義目的、講義概要		授業計画	
〔目的〕バスケットボールは、我が国において競技人口の多いスポーツの一つでありプロリーグの発足などさらに人気が高まっている。そのバスケットボールの特性およびルールを理解を深め、基本的な個人技能、集団技能を習得することを目的とする。また、スポーツの原点“遊び”を踏まえながらチームスポーツとしての競技特性を体系的に理解しバスケットボールの楽しさを知る。 〔講義概要〕バスケットボールの技術・戦術の習得はもちろん、指導法、審判法などの習得も目指す。授業は初心者・初級者の基本的技術習得を中心に行うが、ゲームを通じての実践的な技術向上を目指すためにも早い段階からゲームを行っていく。具体的には、個人技能の習得に重点を置いたプログラムによって、その日の課題を明確にし、段階的に高度な集団技能へと発展していく。また、「する」「みる」「支える」「知る」のそれぞれの観点から、授業を展開することにより今日のバスケットボール競技の抱える諸問題、教育的可能性、さらには競技力向上にも言及していく。 〔受講生への要望〕各自、バスケットボールシューズ（室内シューズ）及び運動にふさわしい服装を用意してください。腕時計、指輪、ピアス等は危険防止のために必ず外してください。		〔授業計画〕 1.オリエンテーション 2.ゲームの特性・ルールの理解 3.オフェンス・ファンダメンタル①（ボールハンドリング） 4.オフェンス・ファンダメンタル②（シュート） 5.オフェンス・ファンダメンタル③（ドリブル） 6.オフェンス・ファンダメンタル④（パス） 7.チーム・オフェンス①（パス及びドリブルからの展開） 8.チーム・オフェンス②（ハーフコート2ON2、3ON3プレイクダウン） 9.チーム・オフェンス③（ファストブレイク） 10.ディフェンス・ファンダメンタル①（オンボールディフェンス） 11.ディフェンス・ファンダメンタル②（オフボールディフェンス） 12.チーム・ディフェンス①（シェル・ディフェンス） 13.リーグ編成とイベントマネジメント 14.リーグ戦 15.リーグ戦	
テキスト、参考文献		評価方法	
		〔評価方法〕 出席、授業態度を重視します。遅刻は減点の対象とします。	

秋	スポーツ・レクリエーション（バスケットボール）b	担当者	川北 準人
講義目的、講義概要		授業計画	
〔目的〕バスケットボールは、我が国において競技人口の多いスポーツの一つであり、プロリーグの発足などさらに人気が高まっている。そのバスケットボールの特性およびルールを理解を深め、基本的な個人技能、集団技能を習得することを目的とする。また、スポーツの原点である“遊び”を踏まえながら、チームスポーツとしての競技特性を体系的に理解し、バスケットボールの楽しさを知る。 〔講義概要〕授業は初級者以上の経験者を対象に展開する。毎回の授業において、基礎技術の確認を行い、高度な戦略・戦術の習得を目指す。授業はゲームを中心に行うが、コンピューターソフトを用いた情報戦略にも挑戦していく。また、「する」「みる」「支える」「知る」のそれぞれの観点から、授業を展開することにより今日のバスケットボール競技の抱える諸問題、教育的可能性、さらには競技力向上にも言及していく。 〔受講生への要望〕各自、バスケットボールシューズ（室内シューズ）及び運動にふさわしい服装を用意してください。腕時計、指輪、ピアス等は危険防止のために必ず外してください。		〔授業計画〕 1.オリエンテーション 2.オフェンス／ディフェンス・ファンダメンタルの確認① 3.オフェンス／ディフェンス・ファンダメンタルの確認② 4.パッシング・ゲーム① 5.パッシング・ゲーム② 6.アーリー・オフェンス① 7.アーリー・オフェンス② 8.モーション・オフェンス① 9.モーション・オフェンス② 10.チーム・ディフェンス① 11.チーム・ディフェンス② 12.リーグ編成とイベントマネジメント 13.リーグ戦（ゲームプランの立案） 14.リーグ戦（スカルセッションの実施） 15.リーグ戦（総括）	
テキスト、参考文献		評価方法	
		〔評価方法〕 出席、授業態度を重視します。遅刻は減点の対象とします。	

春	スポーツ・レクリエーション（バドミントン a）	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 生涯にわたってスポーツを楽しむきっかけとなるよう、バドミントンの魅力を知り、ゲームを楽しむ。 〔講義概要〕 バドミントンの基本技術の習得と、ルール、マナーを身につける。目標であるバドミントンのゲームを楽しむためにゲーム時には、協力してゲームの運営を行う。ゲームは毎回行い、シングルスあるいはダブルスを行う。 〔受講生への要望〕 各自、体育館専用のシューズを必ず用意してください。バドミントンにふさわしい服装で参加してください。 ★水分補給をこまめに行えるよう適宜休憩をとります。各自タオルや飲み物の用意をしてください。		1. ガイダンス 2. ラケットとシャトルに慣れよう 3. ラケットワークを身につけよう 4. オーバーヘッドストローク（フォア・バック） 5. サイドアームストローク（フォア・バック） 6. アンダーハンドストローク 7. シャトルワークを身につけよう 8. ハイクリア 9. ドロップ・ドライブ・プッシュ 10. スマッシュ・ヘアピン・ 11. サービス・リターン 12. ～ 15. リーグ戦	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。	

秋	スポーツ・レクリエーション（バドミントン b）	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 生涯にわたってスポーツを楽しむきっかけとなるよう、バドミントンの魅力を知り、ゲームを楽しむ。グループに分かれて団体戦を行うことで学生同士のコミュニケーションの促進を図る。 〔講義概要〕 バドミントンの基本技術の習得と、ルール、マナーを身につける。目標であるバドミントンのゲームを楽しむためにゲーム時には、協力してゲームの運営を行う。ゲームはシングルス・ダブルス、そして団体戦を行う。 〔受講生への要望〕 各自、体育館専用のシューズを必ず用意してください。バドミントンにふさわしい服装で参加してください。 ★水分補給をこまめに行えるよう適宜休憩をとります。各自タオルや飲み物の用意をしてください。		1. ラケットワークの確認 2. シャトルワークの確認 3. ～ 6. ゲームを楽しむ 7. ～ 10. 団体戦で楽しむ 団体戦 11. ～ 15. 様々な組み合わせのゲーム	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。	

(春)	スポーツ・レクリエーション (バドミントン a)	担当者	梶野 克之
講義目的、講義概要		授業計画	
ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的な技術やルールについて理解する。各種の技術を試合の中で使い分けられるようにする。 シングルス・ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともにゲームの進行方法の理解を深める。 練習した技術が、実際のゲームの中で有効に生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、より高いレベルのゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判を務めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行に努める。		1. 年間授業計画の説明 実技実施上の注意 連絡事項 2. バドミントン競技の全体的説明 クリヤーの基本 3. ハイクリヤーの基本練習 ドロップの基本 4. クリヤー、ドロップの練習 ヘアピンの基本 5. 各種ストロークの復習 サービスの基本練習 6. 半面シングルスの実施 カウント方法の確認 7. 半面シングルの試合 フットワークの基本練習 8. 半面シングルス 審判法の理解 9. ドライブの基本練習 10. スマッシュの基本練習 シングルスゲーム 11. 各種ストロークの練習 ダブルスの基本 12. ダブルスのルールの理解 試合の実施と審判 13. ダブルスの試合・審判 14. グループ毎のダブルスの試合・審判 15. リーグ戦の実施 結果の整理	
テキスト、参考文献		評価方法	
田中稔監修『基礎からのバドミントン』ナツメ社 2007		出席回数、授業への参加態度、実技の達成度などにより決定する。	

(秋)	スポーツ・レクリエーション (バドミントン b)	担当者	梶野 克之
講義目的、講義概要		授業計画	
ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的な技術やルールについて理解する。各種の技術を試合の中で使い分けられるようにする。 シングルス・ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともにゲームの進行方法の理解を深める。 練習した技術が、実際のゲームの中で有効に生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、より高いレベルのゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判を務めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行に努める。		1. 基本的なストロークの復習 ダブルスの試合 2. ダブルスの組合せの決定 リーグ戦の実施 3. ダブルスのフォーメーションの確認 ゲームの実施 4. ダブルスゲームの実施 問題点の整理 5. ダブルスゲームの実施 ゲーム結果の分析 6. ゲームの進行状況の確認 組合せの変更 7. ダブルスゲームの進行 課題の解決 8. ダブルスゲームの進行 面白さの理解 9. ゲームの中での課題の練習 高いレベルのゲーム 10. ダブルスゲームの進行 組合せの変更 11. ゲームの中での課題の練習 フォーメーション練習 12. ゲームの進行 ゲーム・審判とも全員で実施 13. ゲームの中での課題の練習 14. ゲームの進行 勝敗・順位の整理 15. リーグ戦の実施 結果の整理	
テキスト、参考文献		評価方法	
田中稔監修『基礎からのバドミントン』ナツメ社 2007		出席回数、授業への参加態度、実技の達成度などにより決定する。	

春	スポーツ・レクリエーション（バドミントンa）	担当者	山口 知恵
講義目的、講義概要		授業計画	
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが一番です。 また、スポーツを通してもっと自分のことをよく知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、バドミントンという種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。		1. オリエンテーション 2. バドミントン導入、ラケットとシャトルに慣れる（シャトルの打ち上げ、シャトル拾い、トスノック） 3. ストロークの基本（オーバーヘッド、サイド、アンダーハンド） 4. クリア、ドロップ、ドライブ、スマッシュ、ヘアピン 5. 各ショットの復習 6. ロング&ショートサービスとサービスリターンの練習 7. ダブルスゲームのルールとマナー、審判法を覚える 8. ダブルスゲーム（基本フォーメーション） 9. ダブルスゲーム（フォーメーション復習） 10. ダブルス・リーグ戦 11. ダブルス・リーグ戦 12. ダブルス・リーグ戦 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は出席点を主に、授業への参加態度などを総合して決めます。	

秋	スポーツ・レクリエーション（バドミントンb）	担当者	山口 知恵
講義目的、講義概要		授業計画	
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが一番です。 また、スポーツを通してもっと自分のことをよく知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、バドミントンという種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。		1. 基本的なストロークの練習（オーバーヘッド、サイド、アンダーハンド） 2. 各ショットの練習（クリア、ドロップ、ドライブ、スマッシュ、ヘアピン） 3. 各ショットの復習 4. ロング&ショートサービス、サービスリターンの練習 5. ダブルスゲームのルールとマナー、審判法の確認 6. ダブルスゲーム（フォーメーションの確認） 7. ダブルスゲーム（フォーメーション復習） 8. ダブルス・リーグ戦 9. ダブルス・リーグ戦 10. ダブルス・リーグ戦 11. ダブルス・リーグ戦 12. チーム団体戦 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は出席点を主に、授業への参加態度などを総合して決めます。	

春	スポーツ・レクリエーション（バドミントン a）	担当者	田中 茂宏
講義目的、講義概要		授業計画	
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおける trial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 到達目標 ①学習する者同士がお互いについて、自分自身について考えられるようになる。 ②「まずやってみる」という姿勢、チャレンジについて考えられる。 ③ルールを理解し、ゲームができる。 進め方 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・バドミントンを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動をおこなううえで必要なことを身につける。		1. オリエンテーション（服装、くつ等）。 2. } 3. } グリップ、スイング、サービス、ハイクリヤー 4. } ドロップ、ドライブ、スマッシュ、ヘアピン等の 5. } 練習、ルールの確認。 6. } 7. } シングルのゲーム、ダブルスのゲーム。 8. } 技能テスト。 9. } 10. } 技術トレーニング。 11. } 12. } 13. } シングルのゲーム。ダブルスのゲーム。 14. } 技能テスト。 15. }	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出欠状況、授業への参加姿勢、レポートの内容、技能の向上で評価する。	

秋	スポーツ・レクリエーション（バドミントン b）	担当者	田中 茂宏
講義目的、講義概要		授業計画	
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおける trial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 到達目標 ①学習する者同士がお互いについて、自分自身について考えられるようになる。 ②「まずやってみる」という姿勢、チャレンジについて考えられる。 ③ルールを理解し、ゲームができる。 進め方 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・バドミントンを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動をおこなううえで必要なことを身につける。		1. オリエンテーション（服装、くつ等）。 2. } 3. } グリップ、スイング、サービス、ハイクリヤー 4. } ドロップ、ドライブ、スマッシュ、ヘアピン等の 5. } 練習、ルールの確認。 6. } 7. } シングルのゲーム、ダブルスのゲーム。 8. } 技能テスト。 9. } 10. } 技術トレーニング。 11. } 12. } 13. } シングルのゲーム。ダブルスのゲーム。 14. } 技能テスト。 15. }	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出欠状況、授業への参加姿勢、レポートの内容、技能の向上で評価する。	

(春)	スポーツ・レクリエーション（バレーボール a）	担当者	横矢 勇一
講義目的、講義概要		授業計画	
バレーボールのルールを理解し、個人的および集団的技術を習得するとともに、それらを基にした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 また、様々な学部、学年の学生がコミュニケーションすることによって、親睦を深め、協調性を高めると同時に、生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、バレーボールの特性についてゲームを通して味わえるようにする。		① オリエンテーション ② 基本技術（レシーブとトス、サーブ） ③ 基本技術（スパイク、ブロック） ④ 基本技術の確認、ミニゲームⅠ ⑤ フォーメーションの基本、ゲームⅠ ⑥ フォーメーションの組立、ゲームⅡ ⑦ フォーメーションの確立、ゲームⅢ ⑧ 技術および戦術の習得状況の確認、チーム編成 ⑨ リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅰ ⑩ リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅱ ⑪ リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅲ ⑫ リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅳ ⑬ リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅴ ⑭ ゲームを通して技能および戦術の習得状況の評価 ⑮ 総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
吉田 清司 著『基礎から戦術までバレーボール』日東書院		出席を中心に評価(80%)し、学習意欲・チームメイトとの協調性(10%)、技術習得への努力度(10%)を加味します。また、遅刻・服装・体育館シューズ、学習態度もチェックします。	

(秋)	スポーツ・レクリエーション（バレーボール b）	担当者	横矢 勇一
講義目的、講義概要		授業計画	
バレーボールのルールを理解し、個人的および集団的技術を習得するとともに、それらを基にした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 また、様々な学部、学年の学生がコミュニケーションすることによって、親睦を深め、協調性を高めると同時に、生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、バレーボールの特性についてゲームを通して味わえるようにする。		① オリエンテーション ② 基本技術（レシーブとトス、サーブ） ③ 基本技術（スパイク、ブロック） ④ 基本技術の確認、ミニゲームⅠ ⑤ フォーメーションの基本、ゲームⅠ ⑥ フォーメーションの組立、ゲームⅡ ⑦ フォーメーションの確立、ゲームⅢ ⑧ 技術および戦術の習得状況の確認、チーム編成 ⑨ リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅰ ⑩ リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅱ ⑪ リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅲ ⑫ リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅳ ⑬ リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅴ ⑭ ゲームを通して技能および戦術の習得状況の評価 ⑮ 総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
吉田 清司 著『基礎から戦術までバレーボール』日東書院		出席を中心に評価(80%)し、学習意欲・チームメイトとの協調性(10%)、技術習得への努力度(10%)を加味します。また、遅刻・服装・体育館シューズ、学習態度もチェックします。	

春	スポーツ・レクリエーション(バレーボール a)	担当者	太田 朝博
講義目的、講義概要		授業計画	
[講義の目標] 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 [講義概要] バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技術を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 [受講者への要望] 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。		1. オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成。 2. 基本技と動き（アンダー、オーバー）、パスゲーム 1。 3. レシーブとトス（ボールのつなぎ）、パスゲーム 2。 4. レシーブとカバーリング （守りのフォーメーション）、パスゲーム 3。 5. 基本技と動き（アンダー フローターサーブ）サーブ レシーブ、基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム 1 6. 基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム 2。 7. チーム編成（スターティングポジションの決定） サーブレシーブのフォーメーション サーブレシーブからの攻撃の組立、 スパイクを含んだゲーム。 8. ゲーム、6 チームによるリーグ戦。 9. 上記と同じ。8 ゲーム、6 チームによるリーグ戦。 10. 上記と同じ。 11. 上記と同じ。 12. 上記と同じ。 13. 上記と同じ。 14. 上記と同じ。 15. 上記と同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席 4 回以上の者に対しては、評価の対象としない。	

秋	スポーツ・レクリエーション(バレーボール b)	担当者	太田 朝博
講義目的、講義概要		授業計画	
[講義の目標] 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 [講義概要] バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技術を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 [受講者への要望] 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。		1. チーム編成（スターティングポジションと攻守のフォーメーション）。 2. 上記と同じ。 3. サブレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだゲーム。 4. 上記と同じ。 5. スパイクレシーブのフォーメーション、スパイクを含んだゲーム。ゲーム（リーグ戦）記録、チーム（特に攻撃スパイク、サーブ） 6. 上記と同じ。 7. 上記と同じ。 8. ゲーム（リーグ戦）記録、チーム（特に守りレシーブ、ブロック）。 9. 上記と同じ。 10. ゲーム（リーグ戦）記録、攻撃の組立能力、ゲームの評価と練習課題。 11. 上記と同じ。 12. ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。ルールやセオリー審判法など知的理解度をテストする。 13. 上記と同じ。 14. 上記と同じ。 15. 上記と同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席 4 回以上の者に対しては、評価の対象としない。	

春	スポーツ・レクリエーション（フットサルa）	担当者	神宮司 親治
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 フットサルというスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。フットサルというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 フットサルの基本技術を習得し、ルールを理解したうえで、楽しくゲームができるようにする。ゲームを中心に行っていくがプレーヤーとしてだけでなく、審判法、ゲーム運営なども学ぶ。 〔受講者への要望〕 ・フットサルにふさわしいシューズと服装を準備する。 ・授業はグラウンド（人工芝）で行う。雨天時もグラウンドで実施することがある。 ・ピアス・指輪などのアクセサリは外すこと。		1. オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2. ボールに親しむ 簡易ゲーム 3. ボールコントロール ボールタッチ・ドリブル 4. ボールコントロール パス 5. 1対1の攻防 6. ポジションの理解 7. GKトレーニング 8. 2対1の攻防 9. 1対2の攻防 10. ルールの理解とゲームの進め方 11. リーグ戦 12. リーグ戦 13. リーグ戦 14. リーグ戦 15. リーグ戦	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数4回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関および体調等のやむを得ない事情以外の遅刻は認めない。	

秋	スポーツ・レクリエーション（フットサルb）	担当者	神宮司 親治
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 フットサルというスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。フットサルというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 フットサルの基本技術を習得し、ルールを理解したうえで、楽しくゲームができるようにする。ゲームを中心に行っていくがプレーヤーとしてだけでなく、審判法、ゲーム運営なども学ぶ。 〔受講者への要望〕 ・フットサルにふさわしいシューズと服装を準備する。 ・授業はグラウンド（人工芝）で行う。雨天時もグラウンドで実施することがある。 ・ピアス・指輪などのアクセサリは外すこと。		1. 復習 基本技術の確認 2. 攻撃のグループ戦術 3. 守備のグループ戦術 4. セットプレーからの攻撃 5. セットプレーに対する守備 6. チームごとの練習① 7. 審判法ならびにゲーム運営 8. リーグ戦① 9. リーグ戦② 10. リーグ戦③ 11. チームごとの練習② 12. リーグ戦④ 13. リーグ戦⑤ 14. リーグ戦⑥ 15. リーグ戦⑦	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数4回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関および体調等のやむを得ない事情以外の遅刻は認めない。	

春	スポーツ・レクリエーション（フリスビーa）	担当者	村山 光義
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義の目標】 1. フリスビー（フライングディスク）投法技術の習得。 2. フリスビー（フライングディスク）競技・文化の理解。 3. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 【講義概要】 通称「フリスビー」と呼ばれるフライングディスクには数多くの専門種目があります。ディスクの最大の特徴は世界記録で 250m を越す飛距離と円盤特性による曲進性・滞空性です。円盤を使ったスポーツの総称で、数多くの専門競技があります。ディスクを遠くへ、思う所へ投げることはとても難しく、投げ方も一通りではありません。本授業ではこの専門競技の紹介と投法技術の練習実践を通じ、新たなスポーツ文化を理解・吸収してもらいます。雨天時には技術や競技の解説講義を行うこともあります。 【受講者への要望】 「フリスビーなんてただの遊びでしょ」と思ったら大間違い。専門競技の中では、投げ方はもちろん、風の読みやディスク自体の選択など多くの要素による変化があります。また、集団ゲームのアルティメットは非常に激しいスポーツですし、ディスクゴルフは自己との戦いです。この新しいスポーツに是非挑戦してみてください。		1. イン트로ダクション フライングディスクとは 2. 基礎投法 技術練習（バックハンド・スロー） 3. 基礎投法 技術練習（サイドアーム・スロー） 4. 技能記録会 遠投 アキュラシー（的通り競技） 5. 集団ゲーム アルティメット 導入 6. 集団ゲーム アルティメット 基礎 7. 集団ゲーム アルティメット 基礎 8. 個人種目 セルフコートフライト 9. 個人種目 ディスクゴルフ 10. 個人種目 ディスクゴルフ 11. アルティメット 発展 12. アルティメット 発展 13. アルティメット 発展 14. 個人総合練習 15. 技能記録会 遠投 アキュラシー	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて印刷物を配布します。		出席(60%)、技術(30%)、態度(10%)の3項目で評価します。技術については記録会の結果や向上具合を加味します。態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。	

秋	スポーツ・レクリエーション（フリスビーb）	担当者	村山 光義
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義の目標】 1. フリスビー（フライングディスク）投法技術の習得。 2. フリスビー（フライングディスク）競技・文化の理解。 3. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 【講義概要】 通称「フリスビー」と呼ばれるフライングディスクには数多くの専門種目があります。ディスクの最大の特徴は世界記録で 250m を越す飛距離と円盤特性による曲進性・滞空性です。円盤を使ったスポーツの総称で、数多くの専門競技があります。ディスクを遠くへ、思う所へ投げることはとても難しく、投げ方も一通りではありません。本授業ではこの専門競技の紹介と投法技術の練習実践を通じ、新たなスポーツ文化を理解・吸収してもらいます。雨天時には技術や競技の解説講義を行うこともあります。 【受講者への要望】 「フリスビーなんてただの遊びでしょ」と思ったら大間違い。専門競技の中では、投げ方はもちろん、風の読みやディスク自体の選択など多くの要素による変化があります。また、集団ゲームのアルティメットは非常に激しいスポーツですし、ディスクゴルフは自己との戦いです。この新しいスポーツに是非挑戦してみてください。		1. 基礎投法の確認 2. 技能記録会 遠投 アキュラシー（的通り競技） 3-5. 集団ゲーム アルティメット 6. 集団ゲーム ガッツ 7. 集団ゲーム ドッジビー 8-10. 個人種目 ディスクゴルフ 11-13. アルティメット リーグ戦 14. 個人総合練習 15. 技能記録会 遠投 アキュラシー	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて印刷物を配布します。		出席(60%)、技術(30%)、態度(10%)の3項目で評価します。技術については記録会の結果や向上具合を加味します。態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。	

春	スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンス a)	担当者	内堀 祐子
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目標〕 欧米では、今も身近にあるボールルームダンス（社交ダンス）。日本でも、生涯スポーツとして、幼稚園児から高齢者まで幅広く踊られています。 目の前の相手とのコミュニケーションの取り方、音楽によって体を動かす楽しさを学びながら、踊れるようになることを目標にしています。 〔講義概要〕 ボールルームダンスを通じて、正しい姿勢及び、柔軟な体づくりをします。音楽によって楽しく踊るための、正しい技術を学習します。 〔受講生への要望〕 社交ダンスシューズを使用します。 動きやすい服装で受講してください。（ただし、ジーンズ、半ズボン不可）		1. オリエンテーション ボールルームダンスとは 2. 正しい立ち方、歩き方 3. 手及び腕の使い方 4. 体の各部分の使い方 5. 回転動作の学習 6. ラテン基礎編①、モダン基礎編① 7. ラテン基礎編②、モダン基礎編② 8. ラテン基礎編③、モダン基礎編③ 9. ラテン基礎編④、モダン基礎編④ 10. ラテン基礎編⑤、モダン基礎編⑤ 11. ラテン サンバ編①、モダン ワルツ編① 12. ラテン サンバ編②、モダン ワルツ編② 13. ラテン パソドブレ編①、モダン タンゴ編① 14. ラテン パソドブレ編②、モダン タンゴ編② 15. 各種目まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席状況と受講態度を重要視します。	

秋	スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンス b)	担当者	内堀 祐子
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目標〕 春学期にボールルームダンスの受講の続きになります。前学期より自然に踊れることを目標とし、基本の復習、さらに高度なステップを学んでいきます。 〔講義概要〕 ボールルームダンスを通じて、バランスのよい筋肉をつけていきます。10種目のうち、6種目を踊れるようにします。 〔受講生への要望〕 社交ダンスシューズを使用します。 動きやすい服装で受講してください。（ただし、ジーンズ、半ズボン不可）		1. 春期講座の振り返り 2. ラテン サンバ編③、モダン ワルツ編③ 3. ラテン パソドブレ編③、モダン タンゴ編③ 4. ラテン ルンバ編①、モダン クイックステップ① 5. ラテン ルンバ編②、モダン クイックステップ② 6. ラテン ルンバ編③、モダン クイックステップ③ 7. リードとフォローについて 8. 体の動作の細かい動きと表現方法について 9. 立ち位置の確認、首の使い方 10. ラテン サンバ編④、モダン ワルツ編④ 11. ラテン パソドブレ編④、モダン タンゴ編④ 12. ラテン ルンバ編④、モダン クイックステップ④ 13. ラテン ルンバ編⑤、モダン クイックステップ⑤ 14. 他の種目について 15. 総まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席状況と受講態度を重要視します。	

(春)	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義の目標】 レクリエーション活動のうち、主に自然環境と関連するいくつかの種目を経験し、安全と管理、自然と環境、自由時間の意味、価値について考え、現在と将来の自由時間をデザインする能力をつけることを目標とします。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係を育成することを目標とします。 【講義概要】 学内の授業では、グループゲームによる合宿に向けた人間関係作り、野外炊事の実践による用具の使い方や調理の方法についての学習、山歩きに向けての体力作りのためのトレーニング理論と実践、野外で活動するための重要な知識と技術となるマップ&コンパスワーク、合宿計画の作成を行います。		1.授業の内容と計画についての説明 2.仲間づくりの時間：アイスブレイキング 3.仲間づくりの時間：イニシアティブゲーム 4.仲間づくりの時間：アウトドアクッキングの計画 5.アウトドアクッキング 6. 合宿に向けたトレーニング理論 7.トレーニング実習（有酸素トレーニング） 8.トレーニング実習（筋力トレーニング） 9.アウトドアレクリエーション種目 1 10.アウトドアレクリエーション種目 2 11.アウトドアクッキングの計画とメニュー作り 12.アウトドアを想定した調理実践 13.マップ&コンパス 14.合宿計画の作成 15.合宿についてのオリエンテーション	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて、プリントを配布します。		出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。	

夏季集中	スポーツ・レクリエーション(アウトドア山岳)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
上記のアウトドアレクリエーションと組み合わせて履修していただきます。 山岳高原地域で行うアウトドアレクリエーションを夏季集中合宿で体験します。 将来、家族で再び訪れることを前提にした内容で行いますので身体的にはそれほどハードではありません。（運動不足ではハードに感じます） 皆さんには、山に行くときの計画、持ち物、マナー、道具の使い方、自然の見方、楽しみ方を学んでいただきます。 毎日の昼食はアウトドアで作りますが、それが当たり前でたいへんなことでないという感覚を身に付けてほしいと思います。道具と技術があれば、今までの苦労も楽しみとなります。山での過ごし方全体をそのように感じてもらえる活動になればよいと思います。 合宿は、同じ大学の仲間たちと共有の時間を過ごします。積極的に関わることによって、たくさんの友人を得られるでしょう。このこともこの授業の大切な目的としています。 履修人数によって、合宿の場所、内容を変更する場合があります。		【集中授業】 「山岳型アウトドアレクリエーション」 予定 場所：長野県志賀高原 宿泊：志賀パレスホテル 期日：2012年8月28日（火）～9月1日（土） 4泊5日 費用：35000円（宿泊費、傷害保険料、プログラム費） （内31000円を大学自動発行機で振込、4000円を現地徴収） この他に現地までの交通費が別途かかります。 合宿日程 第1日目 現地集合・開講式 横手山散策（スカイレーダーとリフト） 第2日目 池めぐりコース登山 第3日目 岩菅山登山 第4日目 草津白根山登山と草津温泉探訪 第5日目 前山散策と絵手紙創作鑑賞会 午後解散	
テキスト、参考文献		評価方法	
現地でプリントを配布します。		出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。	

(春)	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
レクリエーション活動のうち、レクリエーションalsポーツとして普及している種目を体験します。実施予定の種目はイニシアティブゲーム、アウトドアクッキングの計画と実践、ペタンク、フリスビー、ウォークラリーの計画と実践、ターゲットバードゴルフです。天候等の条件によって種目を変更する場合があります。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。ここで形成した人間関係を夏季合宿に生かしていきます。 この授業で紹介できる活動種目はほんのわずかですが、自分に与えられた能力と環境があなたの自由時間を充実させる活動へと導いてくれるはずです。この授業はそのきっかけをつくる授業です。この授業は就職のためには何も役立つことはないでしょうが、人生を充実させるためには役立つはずで。この点を重要だと思ふ学生に受講してほしいと思います。 夏季合宿と同時に登録してください。一方のみでの履修はできません。		1.授業の内容と計画についての説明 2.アイスブレイキングゲーム 3.イニシアティブゲーム1 4.イニシアティブゲーム2 5.アウトドアクッキングの計画 6.アウトドアクッキングの実践 7.ペタンクの紹介と練習 8.ペタンクの試合 9.フリスビーの練習 10. アルティメット（フリスビーを使ったチームゲーム） 11. 地域資源を利用したウォークラリーの紹介と計画 12. ウォークラリーの実践 13. ターゲットバードゴルフの練習 14. ターゲットバードゴルフコンペ 15. まとめと夏季合宿についてのオリエンテーション	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じ、プリントを配布します。		出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。	

(夏季集中)	スポーツ・レクリエーション(アウトドア海浜)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
海浜型アウトドアレクリエーションでは、新潟県佐渡島を舞台にスキندайビング（ナイトダイビングも行います）、シーカヤック、星座観察、釣り、サバイバルクッキング、地域研究等、良好な自然環境と地域の環境を活かすプログラムを4泊5日の合宿生活の中で体験してもらいます。この授業の特徴はそのプログラムと実施場所にあります。わざわざ新潟県佐渡市という離島で合宿を行う理由は、その美しい自然環境とその中に住む人々がつくる地域社会を知って欲しいからです。 この合宿において、主に海浜で行う自然活動を体験し、活動を安全に楽しむことのできる知識技術を習得すること、及び合宿生活を送る上で必要な良好な人間関係を育成することがこの授業の目標となります。 この合宿生活で培った人間関係を秋学期の授業を通してさらに深めていくこともこの授業のもう一つの大きな目標としていますので、春学期の授業と合宿を合わせて受講することを履修条件とします。 【受講者への要望】 海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。心配な方は担当教員に活動内容を聞きに来た上で、医師に参加可能かどうかご相談ください。		【集中授業】「海浜型アウトドアレクリエーション」 場所：新潟県佐渡市 期日（予定）：2012年8月16日（木）～20日（月） 4泊5日 費用：32000円（宿泊費、傷害保険料、プログラム費） （内30400円を大学自動発行機で振込、1600円を現地徴収） この他に現地までの交通費が別途かかります。 （青春18切符が利用できるスケジュールにしています。） 合宿日程 第1日目 現地集合・開講式 第2日目 スキンダイビング、シーカヤック 第3日目 スキンダイビング、地域研究 第4日目 サバイバルクッキング、海中清掃 第5日目 午前中解散	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じ、プリントを配布します。		出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。	

(春)	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
レクリエーション活動のうち、レクリエーションalsポーツとして普及している種目を体験します。実施予定の種目はイニシアティブゲーム、アウトドアクッキングの計画と実践、ペタンク、フリスビー、ウォークラリーの計画と実践、ターゲットバードゴルフです。天候等の条件によって種目を変更する場合があります。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。ここで形成した人間関係を夏季合宿に生かしていきます。 この授業で紹介できる活動種目はほんのわずかですが、自分に与えられた能力と環境があなたの自由時間を充実させる活動へと導いてくれるはずです。この授業はそのきっかけをつくる授業です。この授業は就職のためには何も役立つことはないでしょうが、人生を充実させるためには役立つはず。この点を重要だと思う学生に受講してほしいと思います。 夏季合宿と同時に登録してください。一方のみでの履修はできません。		1.授業の内容と計画についての説明 2.アイスブレイキングゲーム 3.イニシアティブゲーム1 4.イニシアティブゲーム2 5.アウトドアクッキングの計画 6.アウトドアクッキングの実践 7.ペタンクの紹介と練習 8.ペタンクの試合 9.フリスビーの練習 10. アルティメット（フリスビーを使ったチームゲーム） 11. 地域資源を利用したウォークラリーの紹介と計画 12. ウォークラリーの実践 13. ターゲットバードゴルフの練習 14. ターゲットバードゴルフコンペ 15. まとめと夏季合宿についてのオリエンテーション	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じ、プリントを配布します。		出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。	

(夏季集中)	スポーツ・レクリエーション(ウインドサーフィン)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
ウインドサーフィンとは、ボードの上に立ちボードにつながれた帆を操作し、風の力を進行方向への力に変えて進む滑走艇のことで、波を使うサーフィンやヨットとは違うものです。オリンピック種目にもなっているスポーツです。 千葉県館山市の獨協学園海の家において、ウインドサーフィン技術の習得を通して海浜環境で安全に楽しく過ごすための知識技術を習得することを目標とします。また、炊事や清掃など共同生活を円滑に進めていくための人間関係の育成も目標としています。 この合宿生活で培った人間関係を秋学期の授業を通してさらに深めていくこともこの授業のもう一つの大きな目標としていますので、合宿と秋学期のアウトドアレクリエーションを合わせて受講することを履修条件とします。 【受講者への要望】 海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。心配な方は担当教員に活動内容を聞きに来た上で、医師に参加可能かどうかご相談ください。		[[集中授業]「ウインドサーフィン」 場所：千葉県館山市 期日（予定）：2011年9月10日（月）～14日（金） 4泊5日 費用：16000 円（宿泊費、傷害保険料、食費、プログラム費） （内 11000 円を大学自動発行機で振込、5000 円を現地で徴収） この他に現地までの交通費が別途かかります。 受講者は春学期4月5日（火）12:30よりE-203にて行うオリエンテーションと夏休み前に予定する合宿説明会に参加してください。合宿説明会日程については春学期オリエンテーションの際に伝えます。 合宿日程 1日目 現地集合・開講式・組み立て・セイルトリム 2日目 セイルアップからセイリングポジション 3日目 方向転換 4日目 いろいろな方向へのセイリング 5日目 レース・午後解散	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じプリントを配布します。		出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。	

(秋)	スポーツ・レクリエーション（スケートトレーニング）	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。秋学期の毎週の授業ではアイススケートを目的としたインラインスケートでの練習を行います。 アイススケートはメディアにはたびたび登場する種目ですが、体験することは難しい種目となっています。カーリングは、長野オリンピックから正式種目となり、カーリングを題材とする映画もつくられましたが、まだまだマイナーなスポーツです。どちらのスポーツも、氷の上で行いますが、近年アイススケート場が次々と閉鎖され、体験のチャンスが少なくなっています。体験すると、そのスポーツに対する見方が大きく変わります。これを機会に、新しいスポーツ種目にチャレンジしてあなたの可能性を広げてみませんか。 秋学期の毎週の授業と冬季集中授業の組み合わせですので、どちらか一つだけを受講することはできません。スケート、カーリング初心者の方から受講できます。		1 オリエンテーション（更衣不要） 2 用具あわせ、基本動作 3 基本動作 4 フォアストロークとバリエーション その1 5 フォアストロークとバリエーション その2 6 パイロンを利用した練習 7 バックストロークとバリエーション その1 8 バックストロークとバリエーション その2 9 ホッケーにチャレンジ その1 10 フォアクロッシング その1 11 フォアクロッシング その2 12 バッククロッシング 13 バッククロッシング 14 ホッケーにチャレンジ 15 集中授業についてのオリエンテーション ストップ、ステップ、カーブ、トランジション等は皆さんの上達状況に応じて、適宜取り入れていきます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じプリントを配布します。		出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。	

(冬季集中)	スポーツ・レクリエーション（アイススポーツ）	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期のスケートトレーニングの授業との組み合わせで受講してもらいます。アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。 長野県軽井沢町のアイススケート、カーリング施設を利用し、3泊4日で合宿を行います。 アイススケートとカーリング アイススケートは、アイススケートの基本的な滑走技術の習得を目指します。技術の進捗度や天候によって内容を変えます。 カーリングは、試合を楽しめるまでの基本的な知識、技術を学習します。 親しい友人をつくる 合宿生活ですので、親しい友人を持つ絶好のチャンスとなります。		合宿について 時期：2012年12月下旬予定 3泊4日 場所：長野県軽井沢町 現地集合解散 宿泊：施設に近い民宿を利用 費用：27,000円（宿泊費、傷害保険料、入場料、貸靴代、プログラム費他） （内、22,000円を自動発行機で振込、5,000円を現地徴収） 1日目 午後：アイススケート 靴合わせと基本的技術 夜：講義「カーリングの楽しみ方」 2日目 午前：カーリング 道具の扱い方と基本技術 午後：カーリング大会 夜：講義「アイススケートの基本」 3日目 午前：アイススケート 午後：アイススケート 夜：懇親会 4日目 午前：アイススケート 午後：昼食後解散 施設の都合により予定を変更することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。	

秋	スポーツ・レクリエーション（バランストレーニング）	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
各自のバランス感覚をトレーニングすることによって、運動能力と、スポーツを楽しむ能力とを向上させることを目的とする。 授業はグラウンドとアリーナで行う。トランポリン、インラインスケート、インラインホッケー、バランスボール、バランスボード、ストックワーク、ボールゲームなど色々な運動を行う予定である。 顔写真1枚を貼った受講票を作成する。 スキー&スノーボード合宿とのセット履修となっている。履修登録と同時に宿泊費予約分18000円を大学に納入すること。		1. ガイダンス 2. 写真付登録票の作成とスキー・スノーボード経験調査 3. インラインスケート（基本滑走） 4. インラインスケート（長距離滑走） 5. インラインスケート（ストックワーク） 6. トランポリン・バランスボール・バランスボード 7. フットサル 8. ショートテニス 9. バレーボール 10. バスケットボール 11. 卓球 12. フリスビー（アルティメット） 13. トランポリン・バランスボール・バランスボード 14. 15. 合宿ガイダンス	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎回の、出席、受講態度、技術などを総合して評価する。	

冬季集中	スポーツ・レクリエーション（スキー&スノーボード）	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
スキーとスノーボードの基本から応用までを合宿を通じて指導し、ひとりひとりの能力の向上を図る。また、合宿を通じてコミュニケーション能力を高める。 アルペンスキーとスノーボードの班を編成し、各班に指導教員がつき実習を行う。 宿泊費予約分として18000円を履修登録と同時に大学に納める。宿泊費以外の必要経費は現地で精算する。 学内のバランストレーニング授業とのセット履修が原則となっている。 （注意）この授業のみを履修したい場合には、スポーツ・レクリエーション準備室にて担当者の許可を得てから履修登録と宿泊費予約分18000円を大学に納入すること。顔写真1枚を貼った受講票を作成する。この場合の合宿ガイダンスは、別途に行う。		合宿期間：2013年2月5-8日を予定している。 合宿場所：セントレジャー舞子スノーリゾート 宿泊場所：外谷旅館（とやりよかん） 合宿費用：宿泊費（大学に納入）18000円（3泊9食）予定 以下は現地精算 リフト10000円（4日間）予定 保険・雑費1000円 （注意）交通費・レンタル代は各自別途負担となる。また、秋学期履修登録時に、期間・場所・宿泊・費用について変更になる可能性もある。秋学期履修登録期間の掲示等に十分注意確認すること。	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		合宿参加、受講態度、技術の進歩などを総合して評価する。	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English(リーディング Ia) / (Academic Reading Strategies Ia) English 111-a Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
○ Academic Listening Strategies I とともに、全学共通カリキュラム英語科目の中核となる重要な科目である。原則として通年で履修すること。 ○ 様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とします。この科目では大きく 3 つの活動を行います。 1. 担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。 2. 大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材 (大学HPから各自ダウンロード) を学習。毎時間語彙テストがある。 3. 教室外で、コンピューターによる英語学習 (ALC Net Academy) を行うことが義務づけられており、期末試験にも出題される。 ○ オリエンテーションや授業で配布される資料に目を通し、連絡事項を聞き漏らさないようにすること。		Lesson 1 コース紹介。各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 Lesson 2-15 - 各担当者が指定した教科書による授業 - 毎回「獨協全カリ英語語彙リスト」を範囲とした語彙小テストを実施 ○ 教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照すること。 ○ 年度末(1月)に全員TOEIC を受験するので、計画的に学習すること。	
テキスト、参考文献		評価方法	
○ 教科書は第 1 回目の授業の指示に従うこと。 ○ “Dokkyo 1964” (獨協大学全カリ英語語彙リスト) : HP から各自ダウンロード ○ ALC NetAcademy Standard Reading Course (Units 1-25)		○ 各担当教員のシラバスに記載。 ○ 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English(リーディング Ib) / (Academic Reading Strategies Ib) English 111-b Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
○ Academic Listening Strategies I とともに、全学共通カリキュラム英語科目の中核となる重要な科目である。原則として通年で履修すること。 ○ 春学期に引き続き、様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とします。この科目では大きく 3 つの活動を行います。 1. 担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。 2. 大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材 (大学HPから各自ダウンロード) を学習。毎時間語彙テストがある。 3. 教室外で、コンピューターによる英語学習 (ALC Net Academy) を行うことが義務づけられており、期末試験にも出題される。 ○ オリエンテーションや授業で配布される資料に目を通し、連絡事項を聞き漏らさないようにすること。		Lesson 1 コース紹介。各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 Lesson 2-15 - 各担当者が指定した教科書による授業 - 毎回「獨協全カリ英語語彙リスト」を範囲とした語彙小テストを実施 ○ 教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照すること。 ○ 年度末(1月)に全員 TOEIC を受験するので、計画的に学習すること。	
テキスト、参考文献		評価方法	
○ 教科書は第 1 回目の授業の指示に従うこと。 ○ “Dokkyo 1964” (獨協大学全カリ英語語彙リスト) : HP から各自ダウンロード ○ ALC NetAcademy Standard Reading Course (Units 26-50)		○ 各担当教員のシラバスに記載。 ○ 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。	

08 年度以降 (春)	English(リーディング I a) / (Academic Reading Strategies I a)	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
○ Academic Listening Strategies I とともに、1 年生の英語科目の中核となる重要な科目である。原則として通年で履修すること。 ○ドイツ語、フランス語、経済、経営、法律、国際関係法、総合政策の各学科 1 年生のうち、入学時に TOEIC で高得点だった学生が受講する科目である。 ○様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とする。 大きく以下の 3 つの活動を行う。 1. 担当者が指示したリーディング教科書。 2. 大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材 (大学 HP から各自ダウンロード) を学習。毎時間語彙テストがある。 3. コンピューターによる英語学習。期末試験にも出題される。 【重要】リーディングは英文和訳ではありません。大学生らしい英語の読み方を学び、ディスカッションや、プレゼンテーション、ライティングなども織り交ぜた活動を、英語で行います。		Class 1: オリエンテーション Classes 2 – 15 教科書を用いた授業活動。毎回、語彙小テストを行う。詳細は、クラス別シラバス、および教員の指示に従って下さい。 【重要】第 1 回目の授業で、個別のシラバスを配布し、春学期の授業の進め方などについて詳細に説明します。積極的な参加を期待しています。	
テキスト、参考文献		評価方法	
・ Q: Skills for Success (Oxford University Press) 副教材として以下がある。 ・ 獨協語彙リスト (大学 HP に掲載) ・ ALC NetAcademy Standard Reading Course (Units 1-25) ・ 英々辞書 (電子辞書又は紙の辞書) を用意すること		出席と積極的な授業参加 20% 語彙小テスト 10% 課題 (プレゼンを含む) 30% 期末試験 (ALC Reading 課題を含む) 40% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。	

08 年度以降 (秋)	English(リーディング I b) / (Academic Reading Strategies I b)	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
○ Academic Listening Strategies I とともに、1 年生の英語科目の中核となる重要な科目である。春学期に引き続き、原則として通年で履修すること。 ○ドイツ語、フランス語、経済、経営、法律、国際関係法、総合政策の各学科 1 年生のうち、入学時に TOEIC で高得点だった学生が受講する科目である。 ○春学期に引き続き、様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とする。 大きく以下の 3 つの活動を行う。 1. 担当者が指示したリーディング教科書。 2. 大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材 (大学 HP から各自ダウンロード) を学習。毎時間語彙テストがある。 3. コンピューターによる英語学習。期末試験にも出題される。 【重要】リーディングは英文和訳ではありません。大学生らしい英語の読み方を学び、ディスカッションや、プレゼンテーション、ライティングなども織り交ぜた活動を、英語で行います。		Class 1: オリエンテーション Classes 2 – 15 教科書を用いた授業活動。毎回、語彙小テストを行う。詳細は、クラス別シラバス、および教員の指示に従って下さい。 【重要】第 1 回目の授業で、個別のシラバスを配布し、秋学期の授業の進め方などについて詳細に説明します。積極的な参加を期待しています。	
テキスト、参考文献		評価方法	
・ Q: Skills for Success (Oxford University Press) 副教材として以下がある。 ・ 獨協語彙リスト (大学 HP に掲載) ・ ALC NetAcademy Standard Reading Course (Units 26-50) ・ 英々辞書 (電子辞書又は紙の辞書) を用意すること		出席と積極的な授業参加 20% 語彙小テスト 10% 課題 (プレゼンを含む) 30% 期末試験 (ALC Reading 課題を含む) 40% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。	

08 年度以降 (春)	English(リーディング I a) / (Academic Reading Strategies I a)	担当者	飯島 優雅
講義目的、講義概要		授業計画	
外国語学部(ドイツ語学科・フランス語学科)・経済学部・法学部の1年生で、入学時の TOEIC スコアが高かった学生を対象とした、学部の枠を取り払ったリーディングの科目です。 様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力を伸ばすことを目的とします。授業活動はリーディングを中心に、ディスカッション、ライティング、プレゼンテーションを取り入れ、総合的にアカデミックスキルを伸ばします。 授業活動はすべて英語で行い実践力をつけます。学生中心の授業ですので、積極的に参加してください。 原則として通年で履修すること。		Lesson 1 Course introduction Lesson 2-15 Weekly Vocabulary Quiz Follow the details in the instructor's class syllabus.	
テキスト、参考文献		評価方法	
- Textbook information will be given in the first class - Vocabulary list on My DOC - ALC NetAcademy Standard Reading Course (Unit 1-25) - English-English dictionary and thesaurus		出席・参加 20% 単語クイズ 10% 課題・中間試験 30% 期末試験 (ALC Reading 含む) 40% 原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象となりませんので注意して下さい。	

08 年度以降 (秋)	English(リーディング I b) / (Academic Reading Strategies I b)	担当者	飯島 優雅
講義目的、講義概要		授業計画	
外国語学部(ドイツ語学科・フランス語学科)・経済学部・法学部の1年生で、入学時の TOEIC テストスコアが高かった学生を対象とした、学部の枠を取り払ったリーディングの科目です。 様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力を伸ばすことを目的とします。授業活動はリーディングを中心に、ディスカッション、ライティング、プレゼンテーションを取り入れ、総合的にアカデミックスキルを伸ばします。 授業活動はすべて英語で行い実践力をつけます。学生中心の授業ですので、積極的に参加してください。 原則として通年で履修すること。		Lesson 1 Course introduction Lesson 2-15 Weekly TOEIC Vocabulary Quiz Follow the details in the instructor's class syllabus.	
テキスト、参考文献		評価方法	
- Textbook information will be given in the first class - Vocabulary list on My DOC - ALC NetAcademy Standard Reading Course (Unit 26-50) - English-English dictionary and thesaurus		出席・参加 20% 単語クイズ 10% 課題・中間試験 30% 期末試験 (ALC Reading 含む) 40% 原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象となりませんので注意して下さい。	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
国際関係法学科・総合政策学科では、本科目がクラス指定科目となっている。原則として通年で履修すること。 本科目の目標は、アカデミック・ライティングの基礎となるパラグラフの構造を学び、情報や出来事、自分の考えなどに関して論理的に書けるようになることである。そのためには、書き始める前にプランニングをし、トピック・センテンスやサポーティング・センテンスを用いてパラグラフを完成させることが求められる。「和文英訳」ではない論理的なライティング力を習得する重要な科目である。これまでに学んだ語彙や文法を基に、修正を加えながらパラグラフを完成させる「プロセス」を大切する姿勢も学んでほしい。課題にはきちんと取り組み、必要に応じて行われる添削指導から少しでも多くのことを学べるよう努力してほしい。		各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第1回目の授業で担当者からシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。 第1回 ガイダンス 第2回 Paragraph Organization 第3回 Unity and Coherence 第4回 Punctuation and Capitalization 第5回 Brainstorming & Outlining 第6回 Descriptive Paragraphs 第7回 Descriptive Paragraphs 第8回 Descriptive Paragraphs 第9回 Process Paragraphs 第10回 Process Paragraphs 第11回 Process Paragraphs 第12回 Opinion Paragraphs 第13回 Opinion Paragraphs 第14回 Opinion Paragraphs 第15回 Wrap-up	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当教員の指示に従うこと。		出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストによる総合評価となる。 原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
国際関係法学科・総合政策学科では、本科目がクラス指定科目となっている。原則として通年で履修すること。 春学期に引き続き、アカデミック・ライティングの基礎となるパラグラフの構造を学び、情報や出来事、自分の考えなどに関して論理的に書けるようになることを目標とする。秋学期には、書き始める前のプランニング、トピック・センテンスやサポーティング・センテンスなどの役割を理解し、より短い時間でパラグラフを完成させることが求められる。引き続き、「和文英訳」ではないライティング力を習得する重要な科目であることに注意してもらいたい。春学期同様、課題にはきちんと取り組み、パラグラフを完成させるプロセスを大切にほしい。必要に応じて行われる添削指導から少しでも多くのことを学べるよう努力し、今学期は、他の履修中の英語科目（リーディング、リスニングなど）のテキストで使用されている語彙や表現も用いてパラグラフを完成させることができると望ましい。		各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第1回目の授業で担当者からシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。 第1回 ガイダンス 第2回 Review of Paragraph Organization 第3回 Narrative Paragraphs 第4回 Narrative Paragraphs 第5回 Narrative Paragraphs 第6回 Classification Paragraphs 第7回 Classification Paragraphs 第8回 Classification Paragraphs 第9回 Comparison / Contrast Paragraphs 第10回 Comparison / Contrast Paragraphs 第11回 Comparison / Contrast Paragraphs 第12回 Opinion Paragraphs 第13回 Opinion Paragraphs 第14回 Opinion Paragraphs 第15回 Wrap-up	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当教員の指示に従うこと。		出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストによる総合評価となる。 原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。	

08 年度以降 (春)	English (スピーキング Ia) / (Speaking in Academic Contexts Ia)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
In this class, we will try to develop one of your most important English communication skills: speaking. This course will focus on the strategies and key expressions you need to speak in English in academic settings. University related themes will include speaking with your classmates and teachers about school life, club activities, and study strategies. Class time will be spent on a variety of speaking activities to help you practice speaking so that you can build confidence as a speaker of English. The more you practice, the more you will be able to speak clearly and naturally. Your listening skills will also improve. Evaluation will be based on a mid-term test, a final examination, and an in-class speaking evaluation. Part of your grade will also be based on your participation in class, as well as homework assignments. 経済学部クラス指定科目です。この科目では、英語コミュニケーションの基本となるスピーキングを学びます。大学生として必要なコミュニケーションの方略（ストラテジー）に注目し、スムーズに会話ができるように学び、また、会話に必要な語彙も学びます。練習を重ねることで、自信もつき、より滑らかに話せるようになります。また、リスニングの力もつきます。評価は、中間テスト、期末テスト、スピーキングテスト、授業への積極的な参加および宿題に基づいて出されます。		Tentative schedule: Class 1 - Course introduction, etc. Classes 2, 3 - Meeting your classmates Classes 4, 5 - Talking to your teachers Classes 6, 7 - Personality: knowing yourself Class 8 – Mid-term exam; Talking about school Class 9 - Talking about school Classes 10, 11 - Study strategies and learning goals Class 12, 13 - Club activities Class 14 - Speaking practice; final exam review Class 15 -- In-class speaking evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Speaking in Academic Contexts I</i> (A publication of the Interdepartmental English Program, Dokkyo University)		Classroom participation/homework 30% Mid-term exam 20% In-class speaking evaluation 20% Final exam 30% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.	

08 年度以降 (秋)	English (スピーキング Ib) / (Speaking in Academic Contexts Ib)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
In this class, we will try to develop one of your most important English communication skills: speaking. This course will focus on the strategies and key expressions you need to speak in English in academic settings. This semester's themes will include choosing your career, preparing for job interviews in English, and studying abroad. Class time will be spent on a variety of speaking activities to help you practice speaking so that you can build confidence as a speaker of English. The more you practice, the more you will be able to speak clearly and naturally. Your listening skills will also improve. Evaluation will be based on two in-class speaking evaluations and a final examination. Part of your grade will also be based on your participation in class, as well as homework assignments. 経済学部クラス指定科目です。この科目では、春学期に引き続き、英語コミュニケーションの基本となるスピーキングを学びます。大学生として必要なコミュニケーションの方略（ストラテジー）に注目し、スムーズに会話ができるように学び、また、会話に必要な語彙も学びます。練習を重ねることで、自信もつき、より滑らかに話せるようになります。また、リスニングの力もつきます。評価は、期末テスト、2 回のスピーキングテスト、授業への積極的な参加および宿題に基づいて出されます。		Tentative schedule: Class 1 - Course introduction, etc. Classes 2, 3 - Travel Classes 4, 5 - Entertainment Classes 6, 7 - Part-time jobs Class 8 – Mid-term speaking evaluation Class 9, 10 - Choosing your career Classes 11, 12 - Job interviews Classes 13, 14 - Studying abroad Class 15 – Final in-class speaking evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Speaking in Academic Contexts I</i> (A publication of the Interdepartmental English Program, Dokkyo University)		Classroom participation/homework 30% In-class speaking evaluation 30% (2 x 15%) Final exam 40% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.	

08年度以降（春） 07年度以前（春）	English（リスニング I a） / (Academic Listening Strategies I a) English 141-a Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生と、経済・経営学科の2年生を対象とする、クラス指定科目です。 高校までに習得した基礎英語の知識を、大学での学びや仕事で使えるように、実践的なリスニング能力に発展させることを目的とします。(1) 状況や場面にふさわしい英語表現を習得し、(2) 身近なテーマに関する様々な会話を聴き、(3) リスニングストラテジーを意識的に使って効果的に聴き、(4) 話の主旨や大切な情報を正確に聴きとる力を身に付けます。また、英語は世界の共通語となっていることから、ネイティブの英語だけでなく、(5) 世界中で話される様々な英語を聴きます。また、オンラインやポッドキャストを利用したリスニングやTOEICの聴解問題練習を取り入れ、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。さらに、リスニングを支える発音・シャドーイング練習やスピーキング練習も行います。 ・毎授業、教科書と USB メモリースティックを持参すること。 ・経済学部生以外は、Academic Reading Strategies I とともに、原則として通年で履修すること。		Class 1 Course introduction/Unit 1: Pleased to meet you Class 2 Unit 1: Pleased to meet you Class 3 Unit 1 Test /Unit 2: What's new? Class 4 Unit 2: What's new? Class 5 Unit 2 Test/Unit 3: Where can I catch a taxi? Class 6 Unit 3: Where can I catch a taxi? Class 7 Unit 3 Test/Unit 4: I need to reschedule Class 8 Unit 4: I need to reschedule Class 9 Unit 4 Test/Unit 5: Do you have a hobby? Class 10 Unit 5: Do you have a hobby? Class 11 Unit 5 Test/Unit 6: You need a passport Class 12 Unit 6: You need a passport Class 13 Unit 6 Test/Review Unit 1-6 Class 14 Review/TOEIC exercises Class 15 Review/TOEIC exercises	
テキスト、参考文献		評価方法	
Beatty, K. & Tinkler, P. (2008). <i>Sounds Good, Student Book 2</i>. Pearson Longman. ※教科書購入時には、自分が使用する教科書を間違えないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。		出席・授業参加 20% ユニットテスト 30% (5% x 6 回) 課題 10% 統一期末試験 40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。	

08年度以降（秋） 07年度以前（秋）	English（リスニング I b） / (Academic Listening Strategies I b) English 141-b Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生と、経済・経営学科の2年生を対象とする、クラス指定科目です。 春学期に引き続き、基礎英語の知識を、大学での学びや仕事で使えるように、実践的なリスニング能力に発展させることを目的とします。(1) 状況や場面にふさわしい英語表現を習得し、(2) 身近なテーマに関する様々な会話を聴き、(3) リスニングストラテジーを意識的に使って効果的に聴き、(4) 話の主旨や大切な情報を正確に聴きとる力を身に付けます。また、英語は世界の共通語となっていることから、ネイティブの英語だけでなく、(5) 世界中で話される様々な英語を聴きます。さらに、オンラインやポッドキャストを利用したリスニングやTOEICの聴解問題練習を取り入れ、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。リスニングを支える発音・シャドーイング練習やスピーキング練習も行います。 ・毎授業、教科書と USB メモリースティックを持参すること。 ・経済学部生以外は、Academic Reading Strategies I とともに、原則として通年で履修すること。 ・1月に全員 TOEIC IP を受験します。計画的に授業外でも学習すること。		Class 1 Course introduction/Unit 7: May I see the menu? Class 2 Unit 7: May I see the menu? Class 3 Unit 7 Test /Unit 8: Does it hurt? Class 4 Unit 8: Does it hurt? Class 5 Unit 8 Test/Unit 9: How much is this watch? Class 6 Unit 9: How much is this watch? Class 7 Unit 9 Test/Unit 10: What does it do? Class 8 Unit 10: What does it do? Class 9 Unit 10 Test/Unit 11: Who won the match? Class 10 Unit 11: Who won the match? Class 11 Unit 11 Test/Unit 12: You're very energetic Class 12 Unit 12: You're very energetic Class 13 Unit 12 Test/Review Unit 7-12 Class 14 Review/TOEIC exercises Class 15 Review/TOEIC exercises	
テキスト、参考文献		評価方法	
Beatty, K. & Tinkler, P. (2008). <i>Sounds Good, Student Book 2</i>. Pearson Longman. ※教科書購入時には、自分が使用する教科書を間違えないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。		出席・授業参加 20% ユニットテスト 30% (5% x 6 回) 課題 10% 統一期末試験 40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。	

08 年度以降（春）	English（リスニング I a） / (Academic Listening Strategies I a)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生と、経済・経営学科の2年生を対象とする、クラス指定科目です。 高校までに習得した日常会話を理解する能力を、大学での研究や仕事で使えるように、より高度なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解したり、講義を聴いてノートを取ったり、放送英語（インタビューなど）を聞いて要点を聴き取るなどの訓練をします。また、TOEICの聴解問題練習を取り入れ、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。さらに、聴解を支える発音・シャドーイング練習やスピーキング練習も行います。授業中はできるだけ英語を使い、実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。 ・毎授業、教科書と USB メモリースティックを持参すること。 ・経済学部生以外は、Academic Reading Strategies I とともに、原則として通年で履修すること。		Week 1 Course Introduction Week 2 Chapter 1: Part 2 Social Language Week 3 Chapter 1: Part 3 & Part 4 Broadcast English Week 4 Chapter 1: Part 5 Academic English Week 5 Review/Chapter 1 Test Week 6 Chapter 2: Part 2 Social Language Week 7 Chapter 2: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 8 Chapter 2: Part 5 Academic English Week 9 Review/Chapter 2 Test Week 10 Chapter 3: Part 2 Social Language Week 11 Chapter 3: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 12 Chapter 3: Part 4 Broadcast English Week 13 Review/Chapter 3 Test Week 14 Review/TOEIC exercises Week 15 Review/TOEIC exercises	
テキスト、参考文献		評価方法	
Blass, L. & Hartmann, P. (2007). <i>Quest Intro: Listening & Speaking</i>. McGraw-Hill. ※教科書購入時には、自分が使用する教科書を間違えないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。		出席・授業参加 20% チャプターテスト 30% (10% x 3 回) 課題 10% 統一期末試験 40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。	

08 年度以降（秋）	English（リスニング I b） / (Academic Listening Strategies I b)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生と、経済・経営学科の2年生を対象とする、クラス指定科目です。 春学期に引き続き、日常会話を理解する能力を、大学での研究や仕事で使えるように、より高度なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解したり、講義を聴いてノートを取ったり、放送英語（インタビューなど）を聞いて要点を聴き取るなどの訓練をします。また、TOEICの聴解問題練習を取り入れ、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。さらに、聴解を支える発音・シャドーイング練習やスピーキング練習も行います。授業中はできるだけ英語を使い、実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。 ・毎授業、教科書と USB メモリースティックを持参すること。 ・経済学部生以外は、Academic Reading Strategies I とともに、原則として通年で履修すること。 ・1 月に全員 TOEIC IP を受験します。計画的に授業外でも学習すること。		Week 1 Course Introduction Chapter 4: Part 2 Social Language Week 2 Chapter 4: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 3 Chapter 4: Part 5 Academic English Week 4 Review/ Chapter 4 Test Week 5 Chapter 5: Part 2 Social Language Week 6 Chapter 5: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 7 Chapter 5: Part 5 Academic English Week 8 Review/Chapter 5 Test Week 9 Chapter 6: Part 2 Social Language Week 10 Chapter 6: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 11 Chapter 6: Part 4 Broadcast English Week 12 Chapter 6: Part 5 Academic English Week 13 Review/Chapter 6 Test Week 14 Review/TOEIC exercises Week 15 Review/TOEIC exercises	
テキスト、参考文献		評価方法	
Blass, L. & Hartmann, P. (2007). <i>Quest Intro: Listening & Speaking</i>. McGraw-Hill. ※教科書購入時には、自分が使用する教科書を間違えないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。		出席・授業参加 20% チャプターテスト 30% (10% x 3 回) 課題 10% 統一期末試験 40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。	

08 年度以降（春）	English (リスニング Ia) / (Academic Listening Strategies Ia)	担当者	M. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
This course aims to develop students' ability to comprehend introductory-level academic lectures in various fields. In order to accomplish this, students will build their academic vocabulary, practice effective note-taking strategies, learn about how lectures are typically organized, and develop their critical thinking skills. In addition to actually listening to various lectures, pre- and post-listening activities such as discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. Students will be expected to participate actively in class. <u>Main skill objectives</u> By the end of the course students should be able to: - identify main and supporting ideas in lectures and understand the relationship between them - understand lecture organization - take effective notes while they listen - think critically about lectures and express their opinions about them - demonstrate understanding of words in the Academic Word List (AWL)		1. Introduction to the course 2. Chapter 1 3. Chapter 1 (continued) 4. Chapter 1 (continued) 5. Chapter 1 (continued) 6. Chapter 2 7. Chapter 2 (continued) 8. Chapter 2 (continued) 9. Chapter 2 (continued) 10. Chapter 3 11. Chapter 3 (continued) 12. Chapter 3 (continued) 13. Chapter 3 (continued) 14. Speaking / discussion activity 15. Review for final exam	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業で指示する		Attendance and participation (20%), homework assignments / quizzes (40%), final exam (40%) 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.	

08 年度以降（秋）	English (リスニング Ib) / (Academic Listening Strategies Ib)	担当者	M. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
This course aims to develop students' ability to comprehend introductory-level academic lectures in various fields. In order to accomplish this, students will build their academic vocabulary, practice effective note-taking strategies, learn about how lectures are typically organized, and develop their critical thinking skills. In addition to actually listening to various lectures, pre- and post-listening activities such as discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. Students will be expected to participate actively in class. <u>Main skill objectives</u> By the end of the course students should be able to: - identify main and supporting ideas in lectures and understand the relationship between them - understand lecture organization - take effective notes while they listen - think critically about lectures and express their opinions about them - demonstrate understanding of words in the Academic Word List (AWL)		1. Introduction 2. Chapter 4 3. Chapter 4 (continued) 4. Chapter 4 (continued) 5. Chapter 4 (continued) 6. Chapter 5 7. Chapter 5 (continued) 8. Chapter 5 (continued) 9. Chapter 5 (continued) 10. Chapter 6 11. Chapter 6 (continued) 12. Chapter 6 (continued) 13. Chapter 6 (continued) 14. Speaking / discussion activity 15. Review for final exam	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業で指示する		Attendance and participation (20%), homework assignments / quizzes (40%), final exam (40%) 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English(リーディングII a) / (Academic Reading Strategies II a) English 211-a Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この科目はAcademic Reading Strategies I (リーディングI) の上位科目です。原則として通年で履修してください。リーディングI で学んだ英語の読み方の基礎を踏まえて、アカデミックな英語を、的確に読み取り、まとめ、それについて考える訓練をします。 春学期には、大きく以下の2つの活動を行います。 1. 担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。 2. E-learning (ALC NetAcademy) の Power Words というプログラムを用いて、各自が、教室外で語彙学習を行い、毎週範囲を決めて語彙小テストを実施します。 大学2年生は、英語運用能力を伸ばすのに最もふさわしくまた重要な1年間です。得意・不得意にかかわらず、現在の自分の力を少しでも伸ばす積極的な姿勢を持って取り組みましょう。		授業計画と評価方法の詳細は、第1回目の授業で各担当教員から個別のシラバスが配布されるので、必ず確認してください。 Week 1 オリエンテーション Week 2～14 各担当教員が指定した教科書の学習 ALC NetAcademy の指定箇所を範囲とする語彙小テスト Week 15 まとめ ○教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 ○年度末(1月)に全員 TOEIC を受験するので、計画的に学習すること。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員指定の教科書 ALC NetAcademy PowerWords レベル 3 (E-learning) 辞書		各担当教員から配布されるシラバスに記載。 原則として 4 回以上欠席した学生は評価の対象とならないので、欠席しないように注意すること。	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English(リーディングIIb) / (Academic Reading Strategies IIb) English 211-b Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この科目はAcademic Reading Strategies I (リーディングI) の上位科目です。原則として通年で履修してください。春学期に引き続き、リーディングI で学んだ英語の読み方の基礎を踏まえて、アカデミックな英語を、的確に読み取り、まとめ、それについて考える訓練をします。 秋学期には、大きく以下の3つの活動を行います。 1. 担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。 2. E-learning (ALC NetAcademy) の Power Words というプログラムを用いて、教室外での語彙学習を行う。これについて毎週語彙小テストを実施します。 3. TOEIC 対策の副教材を用いて、授業内に短時間の TOEIC対策を行う。 秋学期は、学期末に TOEIC テストがひかえています。積極的な姿勢で勉強を続けて下さい。		授業計画と評価方法の詳細は、第1回目の授業で各担当教員から個別のシラバスが配布されるので、必ず確認してください。 Week 1 オリエンテーション Week 2～14 各担当教員が指定した教科書の学習 ALC NetAcademy の指定箇所を範囲とする語彙小テスト 副教材を用いて、TOEIC テスト対策 Week 15 まとめ ○教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 ○年度末 (1月) に全員 TOEIC を受験するので、計画的に学習すること。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員指定の教科書 5-Minute Quizzes for the TOEIC Test (マクミラン): 第1回の授業までに必ず購入しておくこと。 ALC PowerWords レベル 4 (E-learning)、辞書		各担当教員から配布されるシラバスに記載。 原則として 4 回以上欠席した学生は評価の対象とならないので、欠席しないように注意すること。	

08 年度以降（春）	English（リーディング II a） ／(Academic Reading Strategies II a)	担当者	辻田 麻里
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語・経済・経営・法律・国際関係法・総合政策学科の2年次の学生を対象とする、クラス指定科目です。 1年修了時の TOEIC テストスコアが高かった学生を集め、学部を超えたクラス編成になっています。各学部の必修科目と重ならないよう5限目に入っています。他学部の学生と英語を勉強できる貴重な機会ですので、積極的に授業に参加してください。 ARS I に引き続き、リーディングを中心にアカデミックな総合的英語運用力を身につけることを目的とします。各自の専門分野にも生かせるように、新聞・雑誌の記事や学術論文を使用したテキストを用いて多読・速読・精読を行い、効果的に読むためのストラテジーを使えるようにします。内容を的確に把握できるように、語彙力・文法力などの基礎的な側面を伸ばし、文章の主題を即時に捉えて、アウトラインや要約を書く練習をします。さらに、内容を批判的に吟味し、それに対する自分の考えを、口頭および文章で表現できるようにします。 ・毎週授業の初めに Vocabulary Quiz を行うので準備しておくこと。 ・原則として通年で履修すること。		1 回目 コースガイダンス（シラバス配布・教科書発表） ※履修希望者は必ず出席すること。 2～14 回目 詳細は第1回目に配布のクラスシラバス参照。 15 回目 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業で指示する。		出席・授業参加、課題、発表、期末試験など ※原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象としない。	

08 年度以降（秋）	English（リーディング II b） ／(Academic Reading Strategies II b)	担当者	辻田 麻里
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語・経済・経営・法律・国際関係法・総合政策学科の2年次の学生を対象とする、クラス指定科目です。 春学期に引き続き、リーディングを中心にアカデミックな総合的英語運用力をさらに磨くことを目的とします。各自の専門分野にも生かせるように、新聞・雑誌の記事や学術論文を使用したテキストを用いて多読・速読・精読を行い、効果的に読むためのストラテジーを使えるようにします。内容を的確に把握できるように、語彙力・文法力などの基礎的な側面を伸ばし、文章の主題を即時に捉えて、アウトラインや要約を書く練習をします。さらに、内容を批判的に吟味し、それに対する自分の考えを、口頭および文章で表現できるようにします。 ・毎週授業の初めに Vocabulary Quiz を行うので準備しておくこと。 ・原則として通年で履修すること。		1 回目 コースガイダンス（シラバス配布・教科書発表） ※履修希望者は必ず出席すること。 2～14 回目 詳細は第1回目に配布のクラスシラバス参照。 15 回目 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業で指示する。		出席・授業参加、課題、発表、期末試験など ※原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象としない。	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English (ライティング IIa) / (Academic Writing IIa: Essay) English 221-a Basic Composition	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
国際関係法学科・総合政策学科では、本科目がクラス指定科目となっている。原則として通年で履修すること。 本科目の目標は、Academic Writing I で学んだパラグラフの知識を基に、複数のパラグラフから成り立つアカデミックエッセイ（論文）を書けるようになることである。そのためには、英語論文の典型的な構成、書き始める前のプランニングやアウトライン作成、thesis statement、topic sentence などの役割、校正方法を理解し、ルールに基づいてエッセイを完成させることが求められる。「和文英訳」ではなく英語で論理的文章を書く力を習得する重要な科目である。課題にはきちんと取り組み、添削指導を通し、エッセイを完成させる「プロセス」を大切する姿勢を学んでほしい。モデル・エッセイを分析し、学ぶべきルールを習得する姿勢も大切である。他の英語科目のテキストや英字新聞などで用いられている語彙や表現もエッセイを書く時に使えるよう努力してほしい。		各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第1回目の授業で担当者からシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。 第1回 ガイダンス Review of Paragraph Organization 第2回 Review of Paragraph Organization 第3回 Listing-Order Paragraphs 第4回 Listing-Order Paragraphs 第5回 Essay Organization 第6回 Essay Organization 第7回 Descriptive Essays 第8回 Descriptive Essays 第9回 Descriptive Essays 第10回 Descriptive Essays 第11回 Opinion Essays 第12回 Opinion Essays 第13回 Opinion Essays 第14回 Opinion Essays 第15回 Wrap-up	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当教員の指示に従うこと。		出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストによる総合評価となる。 原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English (ライティング IIb) / (Academic Writing IIb: Essay) English 221-b Basic Composition	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
国際関係法学科・総合政策学科では、本科目がクラス指定科目となっている。原則として通年で履修すること。 本科目の目標は、Academic Writing I で学んだパラグラフの知識を基に、複数のパラグラフから成り立つアカデミックエッセイ（論文）を書けるようになることである。そのためには、英語論文の典型的な構成、書き始める前のプランニングやアウトライン作成、thesis statement、topic sentence などの役割、引用の使い方、校正方法を学び、ルールに基づいてエッセイを完成させることが求められる。「和文英訳」ではないライティング力を習得する重要な科目である。春学期同様、課題にはきちんと取り組み、添削指導を通し、エッセイを完成させるプロセスを大切する姿勢を学んでほしい。モデル・エッセイの分析や、他の英語科目のテキストや英字新聞などで用いられている語彙や表現を用いるスキルの習得にも更に努力してもらいたい。		各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第1回目の授業で担当者からシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。 第1回 ガイダンス Review of Essay Organization 第2回 Review of Essay Organization 第3回 Definition Paragraphs 第4回 Definition Paragraphs 第5回 Definition Paragraphs 第6回 Argumentative Essays 第7回 Argumentative Essays 第8回 Argumentative Essays 第9回 Argumentative Essays 第10回 Argumentative Essays 第11回 Comparison / Contrast Essays 第12回 Comparison / Contrast Essays 第13回 Comparison / Contrast Essays 第14回 Comparison / Contrast Essays 第15回 Wrap-up	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当教員の指示に従うこと。		出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストによる総合評価となる。 原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English (リスニング IIa)/(Academic Listening Strategies IIa) English 241-a Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
This course aims to build on the skills and strategies students acquired in ALSI. Students will listen to news broadcasts, interviews, and / or academic lectures on various topics and takes notes as they listen. Pre- and post-listening tasks such as vocabulary building exercises, discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. <u>Main skill objectives</u> By the end of the course students should be able to: - understand the main ideas of news broadcasts, interviews, and/or academic lectures - understand how supporting ideas are related to main ideas - take notes effectively as they listen - guess unknown words from context - demonstrate understanding of words in the Academic Word List (AWL)		各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第 1 回目の授業で担当者からシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。 1. Introduction to the course 2. Preview of topic 1, pre-listening tasks 3. Topic 1 passage(s), post-listening tasks 4. Preview of topic 2, pre-listening tasks 5. Topic 2 passage(s), post-listening tasks 6. Preview of topic 3, pre-listening tasks 7. Topic 3 passage(s), post-listening tasks 8. Midterm exam 9. Preview of topic 4, pre-listening tasks 10. Topic 4 passage(s), post-listening tasks 11. Preview of topic 5, pre-listening tasks 12. Topic 5 passage(s), post-listening tasks 13. Preview of topic 6, pre-listening tasks 14. Topic 6 passage(s), post-listening tasks 15. Wrap-up and review for final exam	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業で指示する		各担当教員の指示にしたがうこと。 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English (リスニング IIb)/(Academic Listening Strategies IIb) English 241-b Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
This course aims to build on the skills and strategies students acquired in ALSI. Students will listen to news broadcasts, interviews, and / or academic lectures on various topics and takes notes as they listen. Pre- and post-listening tasks such as vocabulary building exercises, discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. <u>Main skill objectives</u> By the end of the course students should be able to: - understand the main ideas of news broadcasts, interviews and/or academic lectures - understand how supporting ideas are related to main ideas - take notes effectively as they listen - guess unknown words from context - demonstrate understanding of words in the Academic Word List (AWL)		各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第 1 回目の授業で担当者からシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。 1. Introduction 2. Preview of topic 1, pre-listening tasks 3. Topic 1 passage(s), post-listening tasks 4. Preview of topic 2, pre-listening tasks 5. Topic 2 passage(s), post-listening tasks 6. Preview of topic 3, pre-listening tasks 7. Topic 3 passage(s), post-listening tasks 8. Midterm exam 9. Preview of topic 4, pre-listening tasks 10. Topic 4 passage(s), post-listening tasks 11. Preview of topic 5, pre-listening tasks 12. Topic 5 passage(s), post-listening tasks 13. Preview of topic 6, pre-listening tasks 14. Topic 6 passage(s), post-listening tasks 15. Wrap-up and review for final exam	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業で指示する		各担当教員の指示にしたがうこと。 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.	

08 年度以降（春）	English (リスニング IIa) / (Academic Listening Strategies IIa)	担当者	J. ラシーン
講義目的、講義概要		授業計画	
This class will focus on practical listening skills for academic purposes. Emphasis will be placed on the use of strategies that will make you a better listener, a better note-taker, and a better learner, not just in English, but in any language and in ALL of your classes. While exploring interesting topics (such as gender, diet, and the environment), we will learn to listen for important lecture information and to take notes effectively. We will use information from real English lectures to hold discussions and give presentations. Evaluation will be based on class performance, examinations, and presentations.		Tentative schedule: Class 1 - Course outline, etc. Classes 2 to 4 - Gender and spending habits Classes 5 to 7 - Advertisements in everyday life Class 8 – Mid-term Examination Classes 9 to 11 - Diet Classes 12 to 14 - The effects of air pollution Class 15 - Presentations / Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
Sarosy, P., & Sherak, K. (2006). <i>Lecture Ready 2</i> . New York: Oxford University Press.		Class participation 10% Vocabulary quizzes 10% Presentation 20% Midterm exam 30% Final exam 30% In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.	

08 年度以降（秋）	English (リスニング IIb) / (Academic Listening Strategies IIb)	担当者	J. ラシーン
講義目的、講義概要		授業計画	
This class will focus on practical listening skills for academic purposes. Emphasis will be placed on the use of strategies that will make you a better listener, a better note-taker, and a better learner, not just in English, but in any language and in ALL of your classes. While exploring interesting topics (such as news, television, and the internationalization of English), we will learn to listen for important lecture information and to take notes effectively. We will use information from real English lectures to hold discussions and give presentations. Evaluation will be based on class performance, examinations, and presentations.		Tentative schedule: Class 1 - Course outline, etc. Classes 2 to 4 - News and modern technology Classes 5 to 7 - Themes on television Class 8 – Mid-term Examination Classes 9 to 11 - Slang Classes 12 to 14 - International English Class 15 - Presentations / Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
Sarosy, P., & Sherak, K. (2006). <i>Lecture Ready 2</i> . New York: Oxford University Press.		Class participation 10% Presentation 30% Vocabulary quizzes 20% Final exam 40% In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English(リーディングⅢa) / (Academic Reading and Writing StrategiesⅢa) English 311-a Reading English for Specific Purposes	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語学科 3 年次の学生を対象とするクラス指定科目です。 より高度な英語運用能力と批判的思考能力を総合的に訓練することを目的とします。Academic Reading Strategies I-II で習得した読解ストラテジーをさらに応用し、新聞・雑誌記事や入門レベルの学術的文章のリーディングとライティング（要約、パラグラフライティングなど）を中心に、ディスカッションも練習します。具体的な授業活動は、分野やテーマ特有の文章構成と言語的特徴の理解、語彙の強化、論拠分析、要約、論点に関する意見の発表などを行います。 原則として通年で履修すること。		第 1 回目の授業で担当教員からシラバスが配布され、授業計画について詳細が説明されます。 Lesson 1 : Course introduction Lesson 2-14: See the instructor's class syllabus for details Lesson 15: Wrap-up	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは第 1 回目の授業で発表します。英英辞書・類語辞書を毎回持参すること。		出席・参加 30% 課題・クイズなど 30% 期末試験 40% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象となりませんので注意して下さい。	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English(リーディングⅢb) / (Academic Reading and Writing StrategiesⅢb) English 311-a Reading English for Specific Purposes	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語学科 3 年次の学生を対象とするクラス指定科目です。 より高度な英語運用能力と批判的思考能力を総合的に訓練することを目的とします。Academic Reading Strategies I-II で習得した読解ストラテジーをさらに応用し、新聞・雑誌記事や入門レベルの学術的文章のリーディングとライティング（要約、パラグラフライティングなど）を中心に、ディスカッションも練習します。具体的な授業活動は、分野やテーマ特有の文章構成と言語的特徴の理解、語彙の強化、論拠分析、要約、論点に関する意見の発表などを行います。 原則として通年で履修すること。		第 1 回目の授業で担当教員からシラバスが配布され、授業計画について詳細が説明されます。 Lesson 1 : Course introduction Lesson 2-14: See the instructor's class syllabus for details Lesson 15: Wrap-up	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは第 1 回目の授業で発表します。英英辞書・類語辞書を毎回持参すること。		出席・参加 30% 課題・クイズなど 30% 期末試験 40% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象となりませんので注意して下さい。	

08 年度以降 (春)	English(リーディングⅢa) / (Academic Reading and Writing StrategiesⅢa)	担当者	宇野沢 和子
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語学科 3 年次の学生を対象とするクラス指定科目です。2 年終了時の TOEIC 点数の高かった学生を対象に、より高度な英語運用能力と批判的思考能力を総合的に訓練することを目的とします。 Academic Reading Strategies I-II で習得した読解ストラテジーをさらに応用し、新聞・雑誌記事や入門レベルの学術的文章のリーディングとライティング（要約、パラグラフライティングなど）を中心に、ディスカッションも練習します。具体的な授業活動は、分野やテーマ特有の文章構成と言語的特徴の理解、語彙の強化、論拠分析、要約、論点に関する意見の発表などを行います。 授業活動はすべて英語で行います。 原則として通年で履修すること。		第 1 回目の授業で担当教員からシラバスが配布され、授業計画について詳細が説明されます。 Lesson 1 : Course introduction Lesson 2-14: See the instructor's class syllabus for details Lesson 15: Wrap-up	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは第 1 回目の授業で発表します。英英辞書・類語辞書を毎回持参すること。		出席・参加 30% 課題・クイズなど 30% 期末試験 40% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象となりませんので注意して下さい。	

08 年度以降 (秋)	English(リーディングⅢb) / (Academic Reading and Writing StrategiesⅢb)	担当者	宇野沢 和子
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語学科 3 年次の学生を対象とするクラス指定科目です。2 年終了時の TOEIC 点数の高かった学生を対象に、より高度な英語運用能力と批判的思考能力を総合的に訓練することを目的とします。 Academic Reading Strategies I-II で習得した読解ストラテジーをさらに応用し、新聞・雑誌記事や入門レベルの学術的文章のリーディングとライティング（要約、パラグラフライティングなど）を中心に、ディスカッションも練習します。具体的な授業活動は、分野やテーマ特有の文章構成と言語的特徴の理解、語彙の強化、論拠分析、要約、論点に関する意見の発表などを行います。 授業活動はすべて英語で行います。 原則として通年で履修すること。		第 1 回目の授業で担当教員からシラバスが配布され、授業計画について詳細が説明されます。 Lesson 1 : Course introduction Lesson 2-14: See the instructor's class syllabus for details Lesson 15: Wrap-up	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは第 1 回目の授業で発表します。英英辞書・類語辞書を毎回持参すること。		出席・参加 30% 課題・クイズなど 30% 期末試験 40% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象となりませんので注意して下さい。	

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(留学生 Ia) / (Basic English Skills for International Students Ia) English 110-a Introductory Reading Strategies	担当者	飯島 優雅
講義目的、講義概要		授業計画	
英語初習の留学生が対象で、原則として春学期・秋学期通年で履修します。総合的な英語コミュニケーションの基礎力を身に付けることを目標とし、基本単語・文法・発音と、スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング能力を統合して練習します。基礎力定着のために、毎週授業外で単語の勉強とワークブックの宿題がありますので、必ず取り組んでください。授業ではたくさん英語を使ってみましょう。		1. コースの説明 2. Unit 1 3. Unit 1 4. Unit 1 5. Unit 2 6. Unit 2 7. Unit 2 8. 復習・中間テスト 9. Unit 3 10. Unit 3 11. Unit 3 12. Unit 4 13. Unit 4 14. Unit 4 15. 総復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
Joan Saslow and Allen Ascher. <u>Top Notch Fundamentals Split Edition A (with Workbook + Super CD-ROM)</u> . Second edition. Pearson Longman		出席・授業参加 20%（原則として 4 回以上欠席すると評価対象になりません。）、単語クイズ 10%、ワークブック宿題 10%、中間テスト 30%、期末テスト 30%	

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(留学生 Ib) / (Basic English Skills for International Students Ib) English 110-b Introductory Reading Strategies	担当者	飯島 優雅
講義目的、講義概要		授業計画	
英語初習の留学生が対象で、原則として春学期・秋学期通年で履修します。総合的な英語コミュニケーションの基礎力を身に付けることを目標とし、基本単語・文法・発音と、スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング能力を統合して練習します。基礎力定着のために、毎週授業外で単語の勉強とワークブックの宿題がありますので、必ず取り組んでください。授業ではたくさん英語を使ってみましょう。		1. コースの説明 2. Unit 5 3. Unit 5 4. Unit 5 5. Unit 5 6. Unit 6 7. Unit 6 8. Unit 6 9. Unit 6 10. 復習・中間テスト 11. Unit 7 12. Unit 7 13. Unit 7 14. Unit 7 15. Unit 1-7 総復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
Joan Saslow and Allen Ascher. <u>Top Notch Fundamentals Split Edition A (with Workbook + Super CD-ROM)</u> . Second edition. Pearson Longman		出席・授業参加 20%（原則として 4 回以上欠席すると評価対象になりません。）、単語クイズ 10%、ワークブック宿題 10%、中間テスト 30%、期末テスト 30%	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English (留学生 IIa) / (Basic English Skills for International Students IIa) English 211-a Basic Reading Strategies	担当者	長坂 達彦
講義目的、講義概要		授業計画	
英語初習の留学生(経済学部・法学部・ドイツ語学科・フランス語学科)が対象です。原則として春学期・秋学期通年で履修します。総合的な英語の基礎力を身に付けることを目標とし、基本 単語・文法・発音と、スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング能力を統合して練習し、応用力をつけます。基礎力定着のために、授業外での宿題もあります。		Week 1 オリエンテーション Week 2 Ia/Ib 復習 Week 3-14 Unit 6-7 Week 15 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
Saslow, J. and Ascher, A. (20011). <i>Top Notch Fundamentals B 2nd Ed.</i> Pearson Longman		出席・授業参加・宿題 20% テスト 30% 課題 20% 期末試験 30% 原則として4回以上欠席した学生は成績評価の対象となりません。	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English (留学生 IIb) / (Basic English Skills for International Students IIb) English 211-b Basic Reading Strategies	担当者	長坂 達彦
講義目的、講義概要		授業計画	
英語初習の留学生(経済学部・法学部・ドイツ語学科・フランス語学科)が対象です。原則として春学期・秋学期通年で履修します。総合的な英語の基礎力を身に付けることを目標とし、基本 単語・文法・発音と、スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング能力を統合して練習し、応用力をつけます。基礎力定着のために、授業外での宿題もあります。		Week 1 オリエンテーション Week 2-14 Unit 8-10 Week 15 総復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
Saslow, J. and Ascher, A. (2011). <i>Top Notch Fundamentals B 2nd Ed.</i> Pearson Longman		出席・授業参加・宿題 20% テスト 30% 課題 20% 期末試験 30% 原則として4回以上欠席した学生は成績評価の対象となりません。	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	松岡 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
With more and more businesses in Japan going global, more people with a good command of English are needed. They write and answer dozens of e-mails every day, have meetings in English, give presentations to clients from abroad, conduct teleconferences with people at multi-locations outside Japan and prepare handouts for all these meetings. In view of the circumstances, this course aims to develop your practical English skills especially, your skills of writing and giving presentations. Throughout the course (spring semester), you will have three projects: one is done by individuals; the other two by groups. You have three weeks for each project. You begin with getting your ideas on a given theme, then, write them in an organized and logical manner, make PowerPoint slides and handouts, and rehearse against the clock. Each project is completed by giving a formal presentation to the class.		1. Intro: Paragraph Organization/Presentation Structure 2. Project 1: Why Not Marry Me? (Individual; Descriptive/Listing Paragraph) , Prep 1 3. Project 1: Prep 2 4. Project 1: Presentation 1 5. Review 6. Project 2: News Digest (Group; Narrative Paragraph), Prep 1 7. Project 2: Prep 2 8. Project 2: Prep 3 9. Project 2: Presentation 2 10. Project 3: Why Not Take Our Summer Plans? (Group; Process/Listing Paragraph), Prep 1 11. Project 3: Prep 2 12. Project 3: Prep 3 13. Project 3: Presentation 3 - 1 14. Project 3: Presentation 3 - 2 15. Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
Reference handouts are given for each project in class.		Project (30 x 3 = 90 %), Paper (10 x1 = 10 %) NB: In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English (ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	松岡 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
The components of international understanding are (1) understanding other cultures, (2) knowing the relationships between your country and others, and (3) making your own culture known to other people. It seems that we Japanese have been working comparatively hard on (1) and (2) for centuries, but not quite on (3). Thus, Japan still remains as a mysterious country of the Orient to many people in the world. The fall semester of this course features "Talk about Yourself", with the same objectives as those of the spring semester. Three projects are planned again, and you will learn to use English as another language of yours to let people of the world know more about Japan, the practice of Component (3) mentioned above. Through this practice, you will build up your self-confidence in speaking English in public as well as improve your writing and presentation skills further more.		1. Intro: English and International Understanding; Review of Paragraph Organization/Presentation Structure 2. Project 1: Discussing Social Issues (Group; Cause-and -Effect/Opinion Paragraph) , Prep 1 3. Project 1: Prep 2 4. Project 1: Presentation 1 5. Project 2: Introducing Japan (Group; Descriptive/Comparison Paragraph), Prep 1 6. Project 2: Prep 2 7. Project 2: Prep 3 8. Project 2: Presentation 2 9. Review 10. Project 3: My Future Plans (Individual; Classification/Dada-Illustration Paragraph), Prep 1 11. Project 3: Prep 2 12. Project 3: Prep 3 13. Project 3: Presentation 3 - 1 14. Project 3: Presentation 3 - 2 15. Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
Reference handouts are given for each project in class.		Project (30 x 3 = 90 %), Paper (10 x1 = 10 %) NB: In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.	

08 年度以降(春) 07 年度以前(春)	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	三谷 裕美
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座は、明瞭かつ簡潔で論理的にまとまりのある英語の文章を書く力を養成することを目的としています。英語のパラグラフの基本構造と日英の表現形式の違いを学び、ライティングに活かせるよう演習を行います。 パラグラフ・ライティングの練習と並行して、自分で書いたものをより良い文章に仕上げていくため、校正のコツも学びます。校正の訓練の一環として、課題を提出する際に自分の作文を見直すほか、クラスメートの作文を読んで文法や語句の使い方を確認するというペアまたはグループでの作業を行います。 なお、自分の考えを英文で表現することに慣れるよう、授業内で扱ったテーマに基づいてさまざまなタイプのパラグラフを書く課題が2週に1回程度出されます。 学期の最後には、自分の書いた文章をもとにプレゼンテーションを行い、その最終原稿を期末レポートとして提出していただきます。詳しい手順や内容は授業で説明します。		1 授業ガイダンス・作文「自己紹介」 2 Chapter 1 Getting Organized 3 Chapter 2 Understanding Paragraphs 4-5 Chapter 3 Time Order 6-7 Chapter 4 Order of Importance 8-9 Chapter 5 Spatial Order 10-11 Chapter 6 Understanding the Writing Process 12 Chapter 7 Supporting the Main Idea 13 期末プレゼンテーションの準備と予行演習 14 期末プレゼンテーション 15 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Blanchard, K. and C. Root. <i>Ready to Write 2</i> (4th ed.) (Pearson Longman)		授業参加 30%、課題 30%、期末プレゼンテーションおよびレポート 40% (原則として4回以上欠席した学生は成績評価の対象とならない。)	

08 年度以降(秋) 07 年度以前(秋)	English (ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	三谷 裕美
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座は、明瞭かつ簡潔で論理的にまとまりのある英語の文章を書く力を養成することを目的としています。英語のパラグラフの基本構造と日英の表現形式を学び、ライティングに活かせるよう演習を行います。 パラグラフ・ライティングの練習と並行して、自分で書いたものをより良い文章に仕上げていくため、校正のコツも学びます。校正の訓練の一環として、課題を提出する際に自分の作文を見直すほか、クラスメートの作文を読んで文法や語句の使い方を確認するというペアまたはグループでの作業を行います。 なお、自分の考えを英文で表現することに慣れるよう、授業内で扱ったテーマに基づいてさまざまなタイプのパラグラフを書く課題が2週に1回程度出されます。 学期の最後には、期末レポートとして長めの作文(250～300語)が課されます。詳しい手順や内容は授業で説明します。		1 授業ガイダンス・作文「夏休み」 2-3 Chapter 8 Explaining a Process 4-5 Chapter 9 Writing Descriptions 6-7 Chapter 10 Expressing Your Opinion 8-9 Chapter 11 Comparing and Contrasting 10-11 Chapter 12 Analyzing Causes and Effects 12-13 Chapter 13 Writing Personal Letters and Business Letters 14 期末レポートの校正 15 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Blanchard, K. and C. Root. <i>Ready to Write 2</i> (4th ed.) (Pearson Longman)		授業参加 30%、課題 30%、期末レポート 40% (原則として4回以上欠席した学生は成績評価の対象とならない。)	

08 年度以降(春) 07 年度以前(春)	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
比較的簡単なテキストを使い、「読む」、「書く」、「聞く」の力を養う。 テキストは、“Reading” セクションがあり、その内容理解、そして、英作文の要点を学ぶセクション、そして、自分で英作文するセクションとからなっている。この“Reading” セクションを、高校までの読解、担当者が音読して内容理解を聞く、受講者が音読して内容理解を深める、といったさまざまなかたちで、理解していく。そこで「読む」、「聞く」の力を養う。 また、各チャプターの最後に、“Readinbg” セクションに関連した英作文の課題があり、それをこなすことによって、「書く」力も養う。 この授業の最大な目的は、難解構文や、日常生活ではほとんど使われない単語を覚えさせられた「受験英語」からの呪縛を解き放つ点にある。中学英語でいって、こんなに「読む」、「書く」、「聞く」ことができ、ときには「話す」こともできるんだ、そういったことを体感してもらいたい。		1: introduction 2~3: Chapter 1 4~5: Chapter 2 6~7: Chapter 3 8~9: Chapter 4 10~11: Chapter 5 12~13: Chapter 6 14~15: Chapter 7	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Weaving It Together</i> (Heinle, Cengage Learning)		英作文の提出物、普段の授業への participation、そして学期末のテスト。原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価の対象とならない。	

08 年度以降(秋) 07 年度以前(秋)	English (ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
前期と同じことを、別なチャプターで行う。 受講生に対しての注意。自分の気持ちの持ちよう、毎回の授業をルーティーンにしないこと。毎回違った“Reading” を扱うので、「あ、またこの activity か…」ではなく、「今回はどんな読みものだ？」といった、知的興味を失わないこと。それは、担当者も、毎回アプローチを変えて、そうならないように、手を変え品を変え、努める。		1: 春学期テストの返却、及び講評 2~3: Chapter 8 4~5: Chapter 9 6~7: Chapter 10 8~9: Chapter 11 10~11: Chapter 12 12~13: Chapter 13 14~15: Chapter 14	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	

08 年度以降(春) 07 年度以前(春)	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	高畑 哲男
講義目的、講義概要		授業計画	
2つ以上のセンテンスの集合からパラグラフは構成される。しかし、パラグラフはセンテンスの単なる寄せ集めではなく、明確な目的と論理的構造をもっている。受講者がそうした特徴を理解したうえで、慣用的な表現などを使ったエッセイライティングに移行することを目指します。 まず、日本語・英語のパラグラフの違いなどについて説明したのちに、各課のテーマにしたがってエッセイプランを立ててから、エッセイの一部を英訳、板書して受講者全員で検討します。(英訳は事前に指名します) さらに、指定したエッセイタイトルでパラグラフを各自で考えて、発表してもらい。事前に分担を決めて、担当者に添付ファイルで期日までに提出してもらい、それを全員で検討します。したがって、予習が大切です。 なお、半期に3回程度のレポート(10センテンス程度のパラグラフ)の提出を求めます。 TOEIC400～500点程度の受講者を想定していますが、詳細は授業で説明します。		基本的には教科書のユニットにしたがって進める。 1. 全体的なガイダンス+パラグラフについて 2. Conclusions/Reasons 3. Conclusions/Reasons(オリジナルエッセイ) 4. Analysis 5. Analysis(オリジナルエッセイ) 6. Theory/Proof 7. Theory/Proof(オリジナルエッセイ) 8. Controversy 9. Controversy(オリジナルエッセイ) 10. Comparison/Contrast 11. Comparison/Contrast(オリジナルエッセイ) 12. Classification 13. Classification(オリジナルエッセイ) 14. Instructions(オリジナルエッセイを含む) 15. まとめと復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
石谷 由美子 <i>Skills for Better Writing</i> (『構造で書く英文エッセイ (改訂版)』 南雲堂 ¥1,995		定期試験 70% + レポート 15% + 出席・発表 15% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象としない。	

08 年度以降(秋) 07 年度以前(秋)	English (ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	高畑 哲男
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は English(ライティング Ia)の継続となります。授業目的、授業展開は春学期に準じますが、秋学期のみ受講を希望する人は必ず第 1 回目の授業に出席して、内容と授業展開を理解してから受講してください。 なお、秋学期はパラグラフライティングに平行して、プリント (ニュース記事など) でサマリーライティングの練習も加えます。授業進度、内容も春学期にくらべてやや早く、深くなりますので注意してください。		基本的には教科書のユニットにしたがって進める。 1. 全体的なガイダンス+サマリーライティングについて 2. Chronological Order(History) 3. サマリーライティング 4. Cause & Effect 5. サマリーライティング 6. Process 7. サマリーライティング 8. Explanation (New Product) 9. サマリーライティング 10. Definition 11. サマリーライティング 12. Explanation (Statistics) 13. サマリーライティング 14. サマリーライティング 15. まとめと復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
石谷 由美子 <i>Skills for Better Writing</i> (『構造で書く英文エッセイ (改訂版)』 南雲堂 ¥1,995		定期試験 70% + レポート 15% + 出席・発表 15% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象としない。	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	石月 正伸
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、＜パラグラフ・ライティング＞という大前提のもと、①効果的〔理想的〕なくパラグラフ＞と、②レポートやエッセイの効果的なくアウトライン＞とを作成するためのノウ・ハウ、即ち、センテンスを越えた英文の＜文章＞を書くための基礎的な理屈を、実践を通して、(ある程度)理解することである。1 年間のスパンで、理屈を実践に結び付け、その理屈の深い理解に繋げたい。 《TOEIC のスコアが 3 5 0 から 5 0 0 くらいまでの学生を対象と想定しています》 【授業ではテキストに即して、大きく 3 つのことにする】 ①トピックに関する和文英訳で、英文の構造を理解しながらセンテンスを組み立てる練習 (英作文の基礎固め)。 【これは学生の予習を前提とします】 ②トピックに関する語彙・表現・文章の習得 (情報と英文のイン・プット)。 ③トピックの和文と英文を参考にしてのパラグラフ・ライティングの実践。センテンスの数が 1 0 程度の英文 (PW) を提出してもらいます。英文の「質」に関しては、成績評価の直接的な対象にはしないので、あまり気にしないで OK です。【* 詳しくは、総合ガイダンスで述べます】 【注】 就職活動による欠席は一切認めません		以下の内容は、基本的な進行予定です。 授業状況により<u>多少の変更の可能性</u>があります。 【小テスト】英作 3 0 題中 5 題 6 0 点 (計 2 回) * 授業時間の一部を使って行う。 【PW 提出】センテンス 10 程度の英文 (計 3 回) * テーマは前もって授業時に指示する。 1 総合ガイダンスと PW の説明 1 (プリント) 2 PW の説明 2 (プリント) 3 L 1 (L = テキストの Lesson) 4 L 1 (3 回以下も、適宜、PW の説明が加わる) 5 L 2 6 L 2 7 L 3 【PW 1 提出】* <u>ワープロ文字で提出</u> 8 L 3 9 L 4 【PW 2 提出】 10 L 4 11 L 5 【小テスト 1】(5 題 6 0 点) 12 L 5 13 L 6 【PW 3 提出】 14 L 6 15 まとめ 【小テスト 2】(5 題 6 0 点)	
テキスト、参考文献		評価方法	
石谷由美子著『トピック別エッセイの書き方』(2010 年)、南雲堂		小テスト 6 0 % + レポ 3 0 % + 発表 1 0 % 【原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない (遅刻は 0.5 回欠席)】	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English (ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	石月 正伸
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、「ライティング I a」の続きです。 授業の目的は、原則的に、「ライティング I a」と同じです。 【秋学期のみ履修を希望する学生は】 第 1 回と第 2 回の授業に必ず出てください。授業の進め方とパラグラフ・ライティングの説明があります。 【注】 就職活動による欠席は一切認めません 【* 詳しくは、第 1 回総合ガイダンスで述べます。】		以下の内容は、基本的な進行予定です。 授業状況により<u>多少の変更の可能性</u>があります。 【小テスト】英作 3 0 題中 5 題 5 0 点 (計 2 回) * 授業時間の一部を使って行う。 【PW 提出】センテンス 10 程度の英文 (計 4 回) * テーマは前もって授業時に指示する * 【原則、ワープロ文字】 1 総合ガイダンス 2 春学期の復習を含めた PW の説明 3 L 7 (L = テキストの Lesson) 4 L 7 5 L 8 【PW 1 提出】* <u>ワープロ文字で提出</u> 6 L 8 7 L 9 【PW 2 提出】 8 L 9 9 L 1 0 【小テスト 1】(5 題 5 0 点) 10 L 1 0 11 L 1 1 【PW 3 提出】 12 L 1 2 13 L 1 3 【PW 4 提出】 14 L 1 3 15 まとめ 【小テスト 2】(5 題 5 0 点)	
テキスト、参考文献		評価方法	
石谷由美子著『トピック別エッセイの書き方』(2010 年)、南雲堂		小テスト 5 0 % + レポ 4 0 % + 発表 1 0 % 【原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない (遅刻は 0.5 回欠席)】	

08 年度以降(春) 07 年度以前(春)	English(ライティング IIa) / (Academic Writing IIa: Essay) English 221-a Basic Composition	担当者	斎藤 裕紀恵
講義目的、講義概要		授業計画	
本科目の目標は、Academic Writing1で学んだパラグラフの知識を基に、複数のパラグラフから成り立つアカデミックエッセイ（論文）を書けるようになることである。そのためには、英語論文の典型的な構成、書き始める前のプランニングやアウトライン作成、thesis statement, topic sentenceなどの役割、校正方法を理解し、ルールに基づいてエッセイを完成させることが求められる。「和文英訳」ではなく英語で論理的文章を書く力を習得する重要な科目である。課題にはきちんと取り組み、添削指導を通し、エッセイを完成させる「プロセス」を大切にする姿勢を学んでほしい。またクラスメートのエッセイをお互いに積極的にレビューする機会を設けるが積極的に参加することが求められる。完成したエッセイをクラス内で発表する発信型の授業でもあるので積極的参加が期待される。		第1回 ガイダンス 第2回 (Unit1) Prewriting 第3回 Structure 第4回 Writing and editing 第5回 Journal Assignment 第6回 (Unit2) Prewriting 第7回 Structure 第8回 Writing and editing 第9回 Journal Assignment 第10回 (Unit3) Pre-writing 第11回 Structure 第12回 Writing and editing 第13回 Journal Assignment 第14回 Review 第15回 Wrap up	
テキスト、参考文献		評価方法	
Writing to Learn FROM PARAGRAPH TO ESSAY		出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストによる総合評価となる。原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。	

08 年度以降(秋) 07 年度以前(秋)	English(ライティング IIb) / (Academic Writing IIb: Essay) English 221-b Basic Composition	担当者	斎藤 裕紀恵
講義目的、講義概要		授業計画	
本科目の目標は、Academic Writing1で学んだパラグラフの知識を基に、複数のパラグラフから成り立つアカデミックエッセイ（論文）を書けるようになることである。そのためには、英語論文の典型的な構成、書き始める前のプランニングやアウトライン作成、thesis statement, topic sentenceなどの役割、校正方法を理解し、ルールに基づいてエッセイを完成させることが求められる。「和文英訳」ではなく英語で論理的文章を書く力を習得する重要な科目である。春学期同様に課題にはきちんと取り組み、添削指導を通し、エッセイを完成させる「プロセス」を大切にする姿勢を学んでほしい。またクラスメートのエッセイをお互いに積極的にレビューする機会を設けるが積極的に参加することが求められる。完成したエッセイをクラス内で発表する発信型の授業でもあるので積極的参加が期待される。		第1回 ガイダンス 第2回 (Unit4) Prewriting 第3回 Structure 第4回 Writing and editing 第5回 Journal Assignment 第6回 (Unit5) Prewriting 第7回 Structure 第8回 Writing and editing 第9回 Journal Assignment 第10回 (Unit6) Pre-writing 第11回 Structure 第12回 Writing and editing 第13回 Journal Assignment 第14回 Review 第15回 Wrap up	
テキスト、参考文献		評価方法	
Writing to Learn FROM PARAGRAPH TO ESSAY		出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストによる総合評価となる。原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	W.へイ
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of this course is to build confidence in your speaking ability and oral communication for a variety of academic contexts. By the end of this course, you will be able to: 1. Talk to your teachers, classmates, and others about your university life, including club activities and classes. 2. Use key expressions for a number of situations in academic contexts. 3. Use speaking strategies to contribute to a conversation such as: (a) Ask and respond to questions and requests. (b) Ask questions to clarify things you don't understand. (c) Ask for explanations and examples. (d) Respond to good and bad news in an appropriate manner.		1. Introduction and course orientation. 2. Unit 1, Chapter 1: Meeting your classmates. 3. Unit 1, Chapter 1: Meeting your classmates. 4. Unit 1, Chapter 2: Talking to your teachers. 5. Unit 1, Chapter 2: Talking to your teachers. 6. Unit 1, Chapter 3: Personality: Knowing Yourself. 7. Unit 1, Chapter 3: Personality: Knowing Yourself. 8. Unit 1 Test. Unit 2, Chapter 4: Talking about school. 9. Unit 2, Chapter 4: Talking about school. 10. Unit 2, Study strategies and learning goals. 11. Unit 2, Study strategies and learning goals. 12. Unit 2, Chapter 6: Club activities. 13. Unit 2, Chapter 6: Club activities. 14. Unit 2 Test; final exam review/ in-class evaluation practice. 15. In-class conversation evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Speaking in Academic Contexts I, a publication of the Interdepartmental English Language Program, Dokkyo University.		1. Class participation & Homework (20%) 2. In-class Speaking Evaluation (20%) 3. Unit Tests (30%) 4. Final Examination (30%) <i>In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.</i>	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	W.へイ
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of this course is to build confidence in your speaking ability and oral communication for a variety of academic contexts. By the end of this course, you will be able to: 1. Talk to your teachers, classmates, and others about your university life, including club activities and classes. 2. Use key expressions for a number of situations in academic contexts. 3. Use speaking strategies to contribute to a conversation such as: (a) Ask and respond to questions and requests. (b) Ask questions to clarify things you don't understand. (c) Ask for explanations and examples. (d) Respond to good and bad news in an appropriate manner.		1. Fall semester orientation 2. Unit 3, Chapter 7: Travel 3. Unit 3, Chapter 7: Travel 4. Unit 3, Chapter 8: Entertainment 5. Unit 3, Chapter 8: Entertainment. 6. Unit 3, Chapter 9: Part-time jobs 7. Unit 3, Chapter 9: Part-time jobs 8. Unit 3 Test, Unit 4, Chapter 10: Choosing your career. 9. Unit 4, Chapter 10: Choosing your career. 10. Unit 4, Chapter 11: Job interviews 11. Unit 4, Chapter 11: Job interviews 12. Unit 4, Chapter 12: Studying Abroad 13. Unit 4, Chapter 12: Studying Abroad. 14. Unit 4 Test; final exam review/ in-class evaluation practice. 15. In-class conversation evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Speaking in Academic Contexts I, a publication of the Interdepartmental English Language Program, Dokkyo University.		1. Class participation & Homework (20%) 2. In-class Speaking Evaluation (20%) 3. Unit Tests (30%) 4. Final Examination (30%) <i>In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.</i>	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	M.H.ウィキンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
The goal of this course is for students to improve their English speaking skills. We will focus on conversation and everyday situations. The objective of this semester is for students to become more comfortable in English. We will have fun and learn English in an academic setting.		Week 1: Class Introductions (Unit 0) Week 2: Meeting people (Unit 1) Week 3: Personal Information (Unit 1) Week 4: Describing People (Unit 2) Week 5: Daily Activities and Routines (Unit 3) Week 6: Finish Unit 3, Review for midterm Week 7: Midterm exam Week 8: Talking about locations (Unit 4) Week 9: Finish Unit 4 Week 10: Giving directions (Unit 5) Week 11: Giving directions (Unit 5) Week 12: Describing past events (Unit 6) Week 13: Talking about weekends (Unit 6) Week 14: Review for test Week 15: Summary and Test	
テキスト、参考文献		評価方法	
English Firsthand 1 (Longman)		Class Attendance and homework 25% Class participation 25% Midterm project 25% Final project 25% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。 In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	M.H.ウィキンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
The goal of this course is for students to improve their English speaking skills. We will focus on conversation and everyday situations. The objective of this semester is for students to become more comfortable in English. We will have fun and learn English in an academic setting.		Week 1: Re-introduction Week 2: Jobs (Unit 7) Week 3: Entertainment (Unit 8) Week 4: Invitations (Unit 8) Week 5: Activities and making plans (Unit 9) Week 6: Midterm exam Week 7: Shopping (Unit 10) Week 8: More shopping (Unit 10) Week 9: Describing processes, cooking (Unit 11) Week 10: Finish processes and cooking (Unit 11) Week 11: Movie Scripts Week 12: Movie Scripts Week 13: Music (Unit 12) Week 14: More Music (Unit 12) Week 15: Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
English Firsthand 1 (Longman)		Class Attendance and homework 25% Class participation 25% Midterm project 25% Final project 25% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。 In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	D. R. ギブソン
講義目的、講義概要		授業計画	
This is a speaking skills course intended to provide students with the opportunity to use the English they have already acquired in challenging and meaningful conversation activities. During the first semester, students will learn and practice conversation strategies that can contribute to their fluency and increase their confidence in their speaking abilities. Students will take part in small group discussions and have conversations in pairs in which they will practice the key language from the text and reinforce their use of core conversation patterns and strategies.		The course will focus on approximately one textbook unit every other week. Lesson 1 Orientation Lesson 2 Unit 1 Self Introductions Lesson 3 Unit 1 Strategies/Listening/Conversations Lesson 4 Unit 2 Family. Vocabulary/Key Questions Lesson 5 Unit 2 Family. Strategies/Conversations Lesson 6 Unit 3 Shopping. Vocabulary/Key Questions Lesson 7 Unit 3 Shopping. Strategies/Conversations Lesson 8 Unit 4 Food. Vocabulary/Key Questions Lesson 9 Unit 4 Food. Strategies/Conversations Lesson 10 Unit 5 Music. Vocabulary/Key Questions Lesson 11 Unit 5 Music. Strategies/Conversations Lesson 12 Unit 6 Free Time. Vocab./Key Questions Lesson 13 Unit 6 Free Time. Strategies/Conversations Lesson 14 General Review. Units 1-6 Lesson 15 Test Preparation and Practice	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Nice Talking With You</i>: Tom Kenny and Linda Woo Cambridge University Press: 2011		Active Participation in class activities: 40%; Unit Quizzes: 20%; Homework: 20%; Final Speaking Test: 20%. <i>In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.</i>	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	D. R. ギブソン
講義目的、講義概要		授業計画	
This is a speaking course intended to provide students with the opportunity to add to the conversation strategies that were introduced in the first semester and use them in a variety of speaking activities. Students will take part in small group discussions and have conversations in pairs in which they will practice the key language from the text and reinforce their use of core conversation patterns and strategies.		The course will focus on approximately one textbook unit every other week. Lesson 1 Course Overview and Strategy Review Lesson 2 Unit 7 Travel. Vocabulary/Key Questions Lesson 3 Unit 7 Travel. Strategies/Conversations Lesson 4 Unit 8 Sports. Vocabulary/Key Questions Lesson 5 Unit 8 Sports. Strategies/Conversations Lesson 6 Unit 9 Friends. Vocabulary/Key Questions Lesson 7 Unit 9 Friends. Strategies/Conversations Lesson 8 Unit 10 Work. Vocabulary/Key Questions Lesson 9 Unit 10 Work. Strategies/Conversations Lesson 10 Unit 11 Movies. Vocabulary/Key Questions Lesson 11 Unit 11 Movies. Strategies/Conversations Lesson 12 Unit 12 Personal Tech. Vocabulary/Key Questions Lesson 13 Unit 12 Personal Tech. Strategies/Conversations Lesson 14 General Review. Units 7-12 Lesson 15 Test Preparation and Practice	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Nice Talking With You</i>: Tom Kenny and Linda Woo Cambridge University Press: 2011		Active Participation in class activities: 40%; Unit Quizzes: 20%; Homework: 20%; Final Speaking Test: 20%. <i>In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.</i>	

08年度以降（春） 07年度以前（春）	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	J.ハサウェイ
講義目的、講義概要		授業計画	
Learning should be fun. This is a speaking class. Students will practice speaking, with the teacher, and with each other. Learning a language takes practice. To learn, you must come to class. We will use a text. We will also use youtube, films, and other things in class. We will have regular tests. Students are encouraged to use English every day in class. Mistakes are OK. Sitting quietly is not OK. e-mail sumipainting@yahoo.com If you have questions or problems please send me an e-mail.		Tentative schedule: Class 1 - Course introduction, etc. Classes 2, 3 - Meeting your classmates Classes 4, 5 - Talking to your teachers Classes 6, 7 - Personality: knowing yourself Class 8 - Unit 1 Test; Talking about school Class 9 - Talking about school Classes 10, 11 - Study strategies and learning goals Class 12, 13 - Club activities Class 14 - Unit 2 Test; final exam review Class 15 -- In-class speaking evaluation (class subjects may change during the year)	
テキスト、参考文献		評価方法	
<u>Speaking in Academic Contexts</u> Dokkyo University text		Evaluation: Class participation: 50% Tests and quizzes 50% Warning! In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.	

08年度以降（秋） 07年度以前（秋）	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	J.ハサウェイ
講義目的、講義概要		授業計画	
Learning should be fun. This is a speaking class. Students will practice speaking, with the teacher, and with each other. Learning a language takes practice. To learn, you must come to class. We will use a text. We will also use youtube, films, and other things in class. We will have regular tests. Students are encouraged to use English every day in class. Mistakes are OK. Sitting quietly is not OK. e-mail sumipainting@yahoo.com If you have questions or problems please send me an e-mail.		Week 1 orientation; Unit 3, Chapter 7: Travel Week 2 Unit 3, Chapter 7: Travel Week 3, 4 Unit 3, Chapter 8: Entertainment Week 5, 6 Unit 3: Chapter 9: Part-time Jobs Week 7 Unit 3 In-class speaking evaluation Week 8, 9 Unit 4, Chapter 10: Choosing Your Career Week 10, 11 Unit 4: Chapter 11: Job Interviews Week 12, 13 Unit 4: Chapter 12: Studying Abroad Week 14 Unit 4 In-class speaking evaluation, Final exam review (class subjects may change during the year)	
テキスト、参考文献		評価方法	
<u>Speaking in Academic Contexts</u> Dokkyo University text		Evaluation: Class participation: 20% In class speaking evaluations 40% Final exam 40% Warning! In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X..	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	J. クレイグ
講義目的、講義概要		授業計画	
The goal of this class is to help the student overcome the anxiety and pressure that is often involved in an EFL class, and to hopefully learn to take more risks/chances in acquiring a higher level of English fluency. The students will be introduced to a wide variety of current topics that will hopefully inspire them, through individual, pair, and group tasks, to think and speak freely. The main focus, as well as the grading, will center on the quantity and quality of intelligible dialogue that will transpire in class.		1. Introduction 2. Mini-Speech (Self Introduction) 3. The Creative Process 4. Art/Critiquing Art 5. The Artist's Life 6. The Artist's Life (cont.) 7. Speech Topics 8. Out of the Box 9. Mini-Speech 10. Music 11. Music Video Comparison 12. Songs in Class 13. Poetry 14. Speeches 15. Speeches	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts provided by the instructor		60%: Class Participation/Homework, 30%: Test (Speech) 10%: Class Attendance (In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.)	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	J. クレイグ
講義目的、講義概要		授業計画	
The goal of this class is to help the student overcome the anxiety and pressure that is often involved in an EFL class, and to hopefully learn to take more risks/chances in acquiring a higher level of English fluency. The students will be introduced to a wide variety of current topics that will hopefully inspire them, through individual, pair, and group tasks, to think and speak freely. The main focus, as well as the grading, will center on the quantity and quality of intelligible dialogue that will transpire in class.		1. Introduction 2. Mini-Speech (Hero) 3. Heroes and Sports 4. American Culture 5. Food Questionnaire 6. Food and Health 7. The Supernatural 8. Ghosts/ What Makes A Good Story 9. Constructing a Story 10. Play Topics 11. Play Outlines 12. Dramatic English 13. Play Practice 14. Play Presentations 15. Play Presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts provided by the instructor		60%: Class Participation/Homework, 30%: Test (Speech) 10%: Class Attendance (In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.)	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English(スピーキング I a)/ (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	S.A.フルトン
講義目的、講義概要		授業計画	
This English speaking course will be based on current and interesting topics in the media; a new topic will be covered each week. Students have the opportunity to learn the language associated with current stories in the national and international news, and use it in informal discussion with the teacher and classmates. The main focus is understanding the vocabulary related to the topics and using it in an academic context. Students will also have the opportunity to practice pronunciation and listening skills.		Week 1 – Introduction Week 2 – Vocabulary in current news topics Week 3 – Using synonyms to summarize Week 4 – Explaining meanings Week 5 – Paraphrasing Week 6 – Asking good questions Week 7 – Discussion Week 8 – Role playing Week 9 – Listening points with teacher Week 10 – Listening points with peers Week 11 – Pronunciation Week 12 – Intonation, stress and meaning Week 13 – Speaking test part 1 Week 14 – Speaking test part 2 Week 15 - Review and feedback	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook required – handouts will be provided.		50% - Attendance & class effort 30% - Speaking test (in pairs) 20% - One short assignment In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English(スピーキング I b)/ (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	S.A.フルトン
講義目的、講義概要		授業計画	
This English speaking course will be based on current and interesting topics in the media; a new topic will be covered each week. Students have the opportunity to learn the language associated with current stories in the national and international news, and use it in informal discussion with the teacher and classmates. The main focus is understanding the vocabulary related to the topics and using it in an academic context. Students will also have the opportunity to practice pronunciation and listening skills.		Week 1 – Introduction Week 2 – Vocabulary in current news topics Week 3 – Using synonyms to summarize Week 4 – Explaining meanings Week 5 – Paraphrasing Week 6 – Asking good questions Week 7 – Discussion Week 8 – Role playing Week 9 – Listening points with teacher Week 10 – Listening points with peers Week 11 – Pronunciation Week 12 – Intonation, stress and meaning Week 13 – Speaking test part 1 Week 14 – Speaking test part 2 Week 15 - Review and feedback	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook required – handouts will be provided.		50% - Attendance & class effort 30% - Speaking test (in pairs) 20% - One short assignment In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English(スピーキング II a) /(Speaking in Academic Contexts IIa: Presentation) English 231-a Basic Communicative English	担当者	J .ハサウェイ
講義目的、講義概要		授業計画	
Learning should be fun. We will do presentations. We will talk about presentations. We will watch presentations. We will use youtube etc. Students will present 3 major presentations each semester. We will analyze 3 professional presentations each semester. There will be new vocabulary introduced and quizzed. Students are encouraged to use English every day in class, and to work together in groups. Leaning a language takes practice. <u>To learn, you must come to class.</u> e-mail sumipainting@yahoo.com If you have questions or problems please send me an e-mail.		1. Introduction 2. create first presentation 3. practice in groups 4. present to the class 5. Analyze presentations 6. Create 2nd presentation 7. Work in groups 8. Present in groups 9. Present to the class 10 begin 3rd presentation 11. work on presentation 12. present first draft in groups 13. present to full class 14. final analysis 15. Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text (save the hand outs)		Evaluation: Class work: 60% Homework 15% Quizzes and examinations 25% In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English(スピーキング II b) /(Speaking in Academic Contexts IIb: Presentation) English 231-b Basic Communicative English	担当者	J .ハサウェイ
講義目的、講義概要		授業計画	
In the second semester the presentations will use PowerPoint. Learning should be fun. We will do presentations. We will talk about presentations. We will watch presentations. We will use youtube etc. Students will present 4 major presentations each semester. We will analyze 4 professional presentations each semester. There will be new vocabulary introduced and quizzed. Leaning a language takes practice. <u>To learn, you must come to class.</u> e-mail sumipainting@yahoo.com If you have questions or problems please send me an e-mail. Leaning a language takes practice. <u>To learn, you must come to class.</u>		1. Introduction 2. create first presentation 3. practice in groups 4. present to the class 5. Analyze presentations 6. Create 2nd presentation 7. Work in groups 8. Present in groups 9. Analyze and review 10 begin midterm presentation 11. work on presentation 12. present first draft in groups 13. present to full class 14. present 15. Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text		Evaluation: Class work: 60% Homework 15% Quizzes and examinations 25% In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.	

08 年度以降 (春) 07 年度以前 (春)	English (e-ラーニング) / (Computer Assisted English Learning (CAEL)) English 351 Computer-Assisted English Learning	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
ぎゅっと e というコンピュータプログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。 受講対象者：短期間で TOEIC スコアを向上させたい方。 教室内のみではなく、教室外での集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上させたい方だけ、受講してください。 受講条件： - 現在の TOEIC スコアが 250 点～500 点くらい (現在のスコアが低い方はそれを向上させるためにより大きな努力が必要となります) - 初回の授業に必ず出席。4 回欠席すると単位は出ない。 重要事項： - 教室外で、春学期中に 20 時間以上ぎゅっと e を学習 - 学習プランの作成と詳細な学習記録 (ジャーナル) - 学習自己評価 (2 回) - 実力診断テスト・学習プランの作成 - 期末テスト 本科目は、半期完結なので、通年受講はできません。		1. シラバスとプログラムの説明 2. リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成 3. テキスト Days 1-2 模擬試験 (リスニング) 4. テキスト Day 6 模擬試験 (リスニング) 5. テキスト Days 9-10 模擬試験 (リスニング) 6. テキスト Day 11 模擬試験 (リスニング) 7. リスニング実力診断テスト 8. リーディング実力診断テスト 9. テキスト Days 3-4 (リーディング) 10. テキスト Day 5 (リーディング) 11. テキスト Days 7-8 (リーディング) 12. テキスト Day 9 (リーディング) 13. テキスト Day 10 (リーディング) 14. リーディング実力診断テスト 15. アンケート・自己評価レポートの説明	
テキスト、参考文献		評価方法	
1. 『新 TOEIC テスト 直前の技術：スコアが上がりやすい順に学ぶ』 (アルク) 2. ぎゅっと e プログラム (体験版は http://gyutto-e.jp)		出席 20%、詳細な学習記録 (ジャーナル) 20% 学習プラン、20 時間以上の学習、自己評価レポート 30% 期末テスト 30% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。	

08 年度以降 (秋) 07 年度以前 (秋)	English (e-ラーニング) / (Computer Assisted English Learning (CAEL)) English 351 Computer-Assisted English Learning	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
ぎゅっと e というコンピュータプログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。 受講対象者：短期間で TOEIC スコアを向上させたい方。 教室内のみではなく、教室外での集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上させたい方だけ、受講してください。 受講条件： - 現在の TOEIC スコアが 250 点～500 点くらい (現在のスコアが低い方はそれを向上させるためにより大きな努力が必要となります) - 初回の授業に必ず出席。4 回欠席すると単位は出ない。 重要事項： - 教室外で、秋学期中に 20 時間以上ぎゅっと e を学習 - 学習プランの作成と詳細な学習記録 (ジャーナル) - 学習自己評価 (2 回) - 実力診断テスト・学習プランの作成 - 期末テスト 本科目は、半期完結なので、通年受講はできません。		1. シラバスとプログラムの説明 2. リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成 3. テキスト Days 1-2 模擬試験 (リスニング) 4. テキスト Day 6 模擬試験 (リスニング) 5. テキスト Days 9-10 模擬試験 (リスニング) 6. テキスト Day 11 模擬試験 (リスニング) 7. リスニング実力診断テスト 8. リーディング実力診断テスト 9. テキスト Days 3-4 (リーディング) 10. テキスト Day 5 (リーディング) 11. テキスト Days 7-8 (リーディング) 12. テキスト Day 9 (リーディング) 13. テキスト Day 10 (リーディング) 14. リーディング実力診断テスト 15. アンケート・自己評価レポートの説明	
テキスト、参考文献		評価方法	
1. 『新 TOEIC テスト 直前の技術：スコアが上がりやすい順に学ぶ』 (アルク) 2. ぎゅっと e プログラム (体験版は http://gyutto-e.jp)		出席 20%、詳細な学習記録 (ジャーナル) 20% 学習プラン、20 時間以上の学習、自己評価レポート 30% 期末テスト 30% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。	

08 年度以降（春）	English(コンテンツ) / (English Explorations)	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 半期完結の選択科目です。英語を速く的確に読み取る訓練をしながら英語学習とその関連分野についての知識を深めることを目的とします。スキル（技能）と、コンテンツ（内容）の両方について力をつけることが目的です。 【概要】 外国語学習において、私たちはどのようなことに気をつけ、どのような勉強の仕方をすれば、速く確実に力をつけることができるのでしょうか。外国語を学ぶプロセス、外国語学習の計画の仕方、外国語を学ぶはどんなことか、などの話題について学びます。さらに、学んだことについて的確にまとめ、発表します。コース終了時には、外国語学習についての具体的な考えを持ち、それを実行できる人になりましょう。楽しく勉強しましょう。 【対象】 外国語学習に関心を持ち、積極的に外国語学習に取り組む意欲を持っている方。TOEIC®が 450 点以上で、継続的に英語力を伸ばしていきたいと思っている方。 【授業】 英語で行います。受講者は毎週適度な量の英文を読み、英語で発表したり、レポートを書いたりします。		Tentative Schedule: Class 1 Orientation Class 2 外国語学習者とは何か考える Class 3 宿題のプレゼンテーション Classes 4-5 外国語学習のプロセスとは Classes 6-7 外国語学習の目標を立てる Class 8 宿題のプレゼンテーション Classes 9-10 外国語学習のプランを作る Class 11 宿題のプレゼンテーション Classes 12-13 コミュニケーションの仕方について考える Class 14 宿題のプレゼンテーション Class 15 主体的な外国語学習について考える 春学期のまとめ 期間中に宿題（英語でのレポート）が 4 回あります。それぞれ、自分の外国語学習について考え、振り返り、今後の計画を立てることにつながります。宿題を提出する授業内で、お互いに、自分の考えてきたことを英語で発表し、質疑応答を行います。英語を聞くだけでなく、話したり、質問したりする練習もできます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材は担当者が用意します。		出席と積極的な授業参加 30% クラス内での発表、宿題、ジャーナル 40% 期末テスト 30% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。	

08 年度以降（秋）	English(コンテンツ ii) / (English Explorations)	担当者	J. ラシーン
講義目的、講義概要		授業計画	
This class is NOT all about learning vocabulary (although you will learn many new words in this class). This class is an examination of English words from a linguistic perspective. Through lectures, independent research, online and in-class activities, we will attempt to answer a number of questions about English words: - What is a word? - Where do English words come from? - What does it mean to <i>know</i> a word? - How many English words do you know right now? - How many English words does a Japanese university student need to know? - What is the best way to learn new words? - How is vocabulary organized in the mind? Evaluation will be based on a research project, vocabulary quizzes, and a final exam.		Tentative Schedule: 1. Course introduction 2. Vocabulary testing #1 (This is not a test! This is about how to measure the number of words someone knows.) 3. Word forms, prefixes and suffixes 4. Types of word knowledge 5. Vocabulary myths 6. Corpus Linguistics 7. Vocabulary in the mind 8. Vocabulary Testing #2 9. Word association 10. Vocabulary learning strategies 11. Vocabulary acquisition 12. Vocabulary teaching 13. Vocabulary Testing #3 14. Research project 15. Final exam	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the instructor.		Participation: 10% Research project: 20% Vocabulary quizzes: 40% (4 x10%) Final exam: 30% (In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.)	

08 年度以降（春）	English(資格 I) /(Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	担当者	河原 伸一
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、TOEIC 関連教材を素材として、単語を増やし、文法を復習しながら、英語運用力全般を高めることを目的としています。 スコアアップにつながる効果的な学習方法として、カードを使用した単語学習、Part 5/6 を使用した文法の復習、スラッシュリーディング、スラッシュリスニング、シャドーイングなどを紹介します。 この中から、受講者各自にあった学習方法を選び、楽しい効果的な学習を継続し、英語運用力の向上を目指しましょう。 ① この科目は目安として 400 点未満の英語力を持つ学生を対象とします。 ② 半期完結。通年履修不可。		毎回、単語(W)、リスニング(L)、文法(G)、リーディング(R)の問題に取り組みます。授業では、具体的な解法を説明します。 1. W, L, G, R 2. W, L, G, R 3. W, L, G, R 4. 確認問題 5. W, L, G, R 6. W, L, G, R 7. W, L, G, R 8. 確認問題 9. W, L, G, R 10. W, L, G, R 11. W, L, G, R 12. W, L, G, R 13. 確認問題 14. W, L, G, R 15. 模擬テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
『TOEIC テスト新公式問題集 Vol.4』（国際ビジネスコミュニケーション協会）。その他については、授業において指示します。		原則として、4 回以上欠席した学生は成績評価対象となりません。毎回の授業参加度・小テスト 40%、期末テスト 60%の結果に基づき総合的に評価します。	

08 年度以降（秋）	English(資格 I) / (Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	担当者	河原 伸一
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、TOEIC 関連教材を素材として、単語を増やし、文法を復習しながら、英語運用力全般を高めることを目的としています。 スコアアップにつながる効果的な学習方法として、カードを使用した単語学習、Part 5/6 を使用した文法の復習、スラッシュリーディング、スラッシュリスニング、シャドーイングなどを紹介します。 この中から、受講者各自にあった学習方法を選び、楽しい効果的な学習を継続し、英語運用力の向上を目指しましょう。 ① この科目は目安として 400 点未満の英語力を持つ学生を対象とします。 ② 半期完結。通年履修不可。		毎回、単語(W)、リスニング(L)、文法(G)、リーディング(R)の問題に取り組みます。授業では、具体的な解法を説明します。 1. W, L, G, R 2. W, L, G, R 3. W, L, G, R 4. 確認問題 5. W, L, G, R 6. W, L, G, R 7. W, L, G, R 8. 確認問題 9. W, L, G, R 10. W, L, G, R 11. W, L, G, R 12. W, L, G, R 13. 確認問題テスト 14. W, L, G, R 15. 模擬テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業において指示します。		原則として、4 回以上欠席した学生は成績評価対象となりません。毎回の授業参加度・小テスト 40%、期末テスト 60%の結果に基づき総合的に評価します。	

08 年度以降（春）	English(資格 II) /(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	松岡 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
企業のグローバル化に伴い、社会における英語使用の必要性はますます高まりつつある。本コースでは、こうした社会のニーズを踏まえ、国際コミュニケーションのための英語力の養成を目指す。その具体的な方法として「TOEIC テスト対策」を行うが、目標はあくまでも「仕事で使える英語力」である。音声でも文字でも、「秒速 3 words で反応できる英語力」を身に付けることにある。予習と復習はもちろんのこと、1 回 1 回の授業に集中し、受講生全員が TOEIC で 730 点以上得点することを目標とする。 授業では TOEIC 総合対策教材を使い、毎回の授業で次のことを行う。教材の進め方は、原則として 1 回の授業で 2 章をカバーする。 1) 語彙小テスト 2) 文法の確認 3) 「秒速 3 words の語彙力」の増強 4) Listening Section の演習 (Parts 1-4) と解説 5) Reading Section の演習 (Parts 5-7) と解説 予習と復習の具体的な方法については教室で指示する。 ①この科目は目安として 400 点以上の英語力を持つ学生を対象とします。 ②半期完結で、通年履修不可。		1 回目：「国際コミュニケーションと TOEIC」について 2 回目：Chaps 1, 2: At an Airport / At a Hotel 3 回目：Chaps 3, 4: On the Street / At a Restaurant 4 回目：Chap 5: Shopping / 「機能表現（定型句）」（その 1） 5 回目：Chaps 6, 7: At a Bank / Taking a Trip 6 回目：Chaps 8, 9: Seeing the Doctor / Renting an Apartment 7 回目：Review 8 回目：Chap 10: Sports / 「機能表現（定型句）」（その 2） 9 回目：Chaps 11, 12: Job Hunting / Talking on the Telephone 10 回目：Chaps 13, 14: Appointments / Giving a Presentation 11 回目：Chap 15: Negotiation / 「機能表現（定型句）」（その 3） 12 回目：Chaps 16, 17: Meeting / Business Performance 13 回目：Chaps 18, 19: Dealing with Complaints / Market Trends 14 回目：Chap 20: Parties / 「機能表現（定型句）」（その 4） 15 回目：Review 「英語独習法」	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kick Off for the TOEIC Test（松岡昇著、金星堂） 学習方法関連のプリントを配布		小テスト（5 点 × 10 回 = 50 点）、定期試験（50 点） NB: In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.	

08 年度以降（秋）	English(資格 II) /(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	松岡 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
企業のグローバル化に伴い、社会における英語使用の必要性はますます高まりつつある。本コースでは、こうした社会のニーズを踏まえ、国際コミュニケーションのための英語力の養成を目指す。その具体的な方法として「TOEIC テスト対策」を行うが、目標はあくまでも「仕事で使える英語力」である。音声でも文字でも、「秒速 3 words で反応できる英語力」を身に付けることにある。予習と復習はもちろんのこと、1 回 1 回の授業に集中し、受講生全員が TOEIC で 730 点以上得点することを目標とする。 授業では TOEIC 総合対策教材を使い、毎回の授業で次のことを行う。教材の進め方は、原則として 1 回の授業で 2 章をカバーする。 1) 語彙小テスト 2) 文法の確認 3) 「秒速 3 words の語彙力」の増強 4) Listening Section の演習 (Parts 1-4) と解説 5) Reading Section の演習 (Parts 5-7) と解説 予習と復習の具体的な方法については教室で指示する。 ①この科目は目安として 400 点以上の英語力を持つ学生を対象とします。 ②半期完結で、通年履修不可。		1 回目：「国際コミュニケーションと TOEIC」について 2 回目：Chaps 1, 2: At an Airport / At a Hotel 3 回目：Chaps 3, 4: On the Street / At a Restaurant 4 回目：Chap 5: Shopping / 「機能表現（定型句）」（その 1） 5 回目：Chaps 6, 7: At a Bank / Taking a Trip 6 回目：Chaps 8, 9: Seeing the Doctor / Renting an Apartment 7 回目：Review 8 回目：Chap 10: Sports / 「機能表現（定型句）」（その 2） 9 回目：Chaps 11, 12: Job Hunting / Talking on the Telephone 10 回目：Chaps 13, 14: Appointments / Giving a Presentation 11 回目：Chap 15: Negotiation / 「機能表現（定型句）」（その 3） 12 回目：Chaps 16, 17: Meeting / Business Performance 13 回目：Chaps 18, 19: Dealing with Complaints / Market Trends 14 回目：Chap 20: Parties / 「機能表現（定型句）」（その 4） 15 回目：Review 「英語独習法」	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kick Off for the TOEIC Test（松岡昇著、金星堂） 学習方法関連のプリントを配布		小テスト（5 点 × 10 回 = 50 点）、定期試験（50 点） NB: In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.	

08 年度以降（春）	English（発音）/ (Special Topics: Pronunciation Workshop)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語・経済・経営・法律・国際関係法・総合政策学科の学生を対象とする、半期完結の選択科目です。春学期と秋学期の学習内容は同じですので、いずれかの学期にのみ履修してください。 大学や仕事の様々な場面で英語が使えるよう、だれにでも理解されやすい、明瞭でなめらかな英語発音を目指します。主に次の項目を、リスニングとスピーキングスキルを統合したコミュニケーションな授業活動と、シャドーイングなどの自律的学習を通して訓練します。 ・母音・子音の発音、音の短縮・脱落・同化・結合 ・イントネーション、リズム、発声、スピード、音量 ・発音記号と辞書の使い方 ・英語と日本語の発音の違い 学生には、授業内外で自発的に自らの発音に意識を向け、改善に取り組む姿勢が求められます。		1 回目 コースガイダンス（シラバス配布・教科書発表） ※履修希望者は必ず出席すること。 2～14 回目 詳細は第 1 回目に配布のクラスシラバス参照。 15 回目 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Grant, L. (2010). <i>Well Said, Third Edition</i> . Cengage.		出席・授業参加 30% 課題 10% 発表 30% 期末試験 30% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。	

08 年度以降（秋）	English（発音）/ (Special Topics: Pronunciation Workshop)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語・経済・経営・法律・国際関係法・総合政策学科の学生を対象とする、半期完結の選択科目です。春学期と秋学期の学習内容は同じですので、いずれかの学期にのみ履修してください。 大学や仕事の様々な場面で英語が使えるよう、だれにでも理解されやすい、明瞭でなめらかな英語発音を目指します。主に次の項目を、リスニングとスピーキングスキルを統合したコミュニケーションな授業活動と、シャドーイングなどの自律的学習を通して訓練します。 ・母音・子音の発音、音の短縮・脱落・同化・結合 ・イントネーション、リズム、発声、スピード、音量 ・発音記号と辞書の使い方 ・英語と日本語の発音の違い 学生には、授業内外で自発的に自らの発音に意識を向け、改善に取り組む姿勢が求められます。		1 回目 コースガイダンス（シラバス配布・教科書発表） ※履修希望者は必ず出席すること。 2～14 回目 詳細は第 1 回目に配布のクラスシラバス参照。 15 回目 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Grant, L. (2010). <i>Well Said, Third Edition</i> . Cengage.		出席・授業参加 30% 課題 10% 発表 30% 期末試験 30% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。	

08年度以降（春） 07年度以前（春）	English(基礎文法 a) / (Special Topics: Grammar Refresher a) English 121-a Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	垣下 圭子 (火曜日・4時限)
講義目的、講義概要		授業計画	
高校までに学んだ文法事項を、実用的に使いこなせるようにすることを目標とする。 文法事項のなかでも、英語力向上のために不可欠な項目と、理解していない項目や習得していない項目に焦点をあてて、定着を図る。 更には、それらの文法事項を実際に活用して、総合的な英語力の向上につなげていく。自ら情報を発することができるよう、グループワークやペアワークなどを行い、参加型の授業とする。 TOEICの得点が、300点台後半から400点台半ば程度の学生が受講することが望ましい。		1. オリエンテーション、代名詞、文型 2. 現在形・現在進行形 3. 冠詞 4. 名詞（可算名詞・不可算名詞）・数詞 5. 過去形・過去進行形・現在完了形 6. 現在完了形・現在完了進行形・過去完了形 7. 前置詞 8. 命令形・イディオム 9. 形容詞・副詞 10. 比較級・最上級 11. 未来形 12. 助動詞1 13. 助動詞2 14. 助動詞3 15. 総復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Practical Grammar Level 2</i> (Cengage Learning)		出席・授業参加 (30%) 課題・クイズ(30%) 期末試験(40%)とする。 原則として、4回以上欠席した学生は、成績評価対象とされない。	

08年度以降（秋） 07年度以前（秋）	English(基礎文法 b) / (Special Topics: Grammar Refresher b) English 121-b Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	垣下 圭子 (火曜日・4時限)
講義目的、講義概要		授業計画	
高校までに学んだ文法事項を、実用的に使いこなせるようにすることを目標とする。 文法事項のなかでも、英語力向上のために不可欠な項目と、理解していない項目や習得していない項目に焦点をあてて、定着を図る。 更には、それらの文法事項を実際に活用して、総合的な英語力の向上につなげていく。自ら情報を発することができるよう、グループワークやペアワークなどを行い、参加型の授業とする。 TOEICの得点が、300点台後半から400点台半ば程度の学生が受講することが望ましい。		1. オリエンテーション・時制の復習 2. 時制の復習 3. 不定詞 4. 不定詞と動名詞 5. 限定詞 6. 関係代名詞 7. 関係副詞 8. 受動態 9. 直接話法・間接話法 10. 条件を表す接続詞 11. 仮定法1 12. 仮定法2 13. 疑問文 14. 総復習 15. 総復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Practical Grammar Level 2</i> (Cengage Learning)		出席・授業参加 (30%) 課題・クイズ(30%) 期末試験(40%)とする。 原則として、4回以上欠席した学生は、成績評価対象とされない。	

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(基礎文法 a)/ (Special Topics: Grammar Refresher a) English 121-a Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	長坂 達彦 (水曜日・4 時限)
講義目的、講義概要		授業計画	
これまで学んできた英語文法を整理し、アカデミックレベルで運用する力を養います。 文法項目を軸として、重要事項の確認および、その練習、多読による読解力の向上、グループワーク、ペアワーク等、様々な活動を行い、英語の運用能力を向上させていくように授業を進める予定です。 TOEIC のスコアが 400 点台半ば以上の学生の受講を歓迎します。		Week 1. オリエンテーション Week 2, 3, 4. Chapter 1: Academic Life Around the World Week 5, 6, 7. Chapter 2: Experiencing Nature Week 8, 9, 10. Chapter 3: Living to Eat or Eating to Live? Week 11, 12, 13 Chapter 4: In the Community Week 14 復習・応用・実践 Week 15.まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Interactions 1 Grammar</i> (McGraw-Hill)		出席・小テスト・課題、60%、期末テスト 40% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価の対象となりません。	

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(基礎文法 b)/ (Special Topics: Grammar Refresher b) English 121-b Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	長坂 達彦 (水曜日・4 時限)
講義目的、講義概要		授業計画	
これまで学んできた英語文法を整理し、アカデミックレベルで運用する力を養います。 文法項目を軸として、重要事項の確認および、その練習、多読による読解力の向上、グループワーク、ペアワーク等、様々な活動を行い、英語の運用能力を向上させていくように授業を進める予定です。 TOEIC のスコアが 400 点台半ば以上の学生の受講を歓迎します。		Week 1. オリエンテーション Week 2, 3, 4. Chapter 5: Home Week 5, 6, 7. Chapter 6: Cultures of the World Week 8, 9, 10. Chapter 7: Health Week 11, 12, 13. Chapter 8: Entertainment and Media Week 14. 総復習・応用・実践 Week 15.まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Interactions 1 Grammar</i> (McGraw-Hill)		出席・小テスト・課題、60%、期末テスト 40% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価の対象となりません。	

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(基礎文法 a)/ (Special Topics: Grammar Refresher a) English 121-a Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	菊池 武
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、高等学校までに学んだ文法事項について、その内容をあらためて確認し、その上で実際に運用できるようにすることを目標とする。 文法事項の中には、規則として理解はしているものの、いざとなると実際には活用できないものが多いのではないだろうか。これは、簡単と思われる文法事項でさえも、現実にはそれらを活用する機会や練習が不足してきたことが一つの原因と考えられる。この授業では、文法を自らの意思を表現するための一つの有効な手段として考え、目標とする文法事項が自然に活用される機会を豊富に設定し、グループワークやペアワーク等を含む様々な活動を行う。その結果として、自然な形で文法事項に対する理解を深めて定着させ、新たな視点で文法をとらえ、今後の英語学習に有効に活用していくことを最終的な到達目標と考えている。 TOEIC の得点が 300 点台後半程度までの学生が受講することが望ましい。		1. オリエンテーション、現在形・現在進行形 2. 過去形・過去進行形 3. 現在完了形と現在完了進行形 4. 現在完了形と過去形 5. 疑問文 6. 動名詞・so, neither の用法 7. 依頼の表現・不可算名詞 8. 使役動詞・間接話法（1） 9. 過去完了・過去完了進行形 10. 目的語を 2 つ取る動詞・時を表す節 11. 間接話法（2） 12. 必要・義務の表現 13. 推量の表現・so, such の用法 14. both, neither ; all, none の用法 15. 総復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
Grammar three (Oxford University Press)		出席、授業への参加の姿勢、課題の提出、期末テスト等の結果をふまえ、総合的に評価する。原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。	

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(基礎文法 b)/ (Special Topics: Grammar Refresher b) English 121-b Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	菊池 武
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、高等学校までに学んだ文法事項について、その内容をあらためて確認し、その上で実際に運用できるようにすることを目標とする。 文法事項の中には、規則として理解はしているものの、いざとなると実際には活用できないものが多いのではないだろうか。これは、簡単と思われる文法事項でさえも、現実にはそれらを活用する機会や練習が不足してきたことが一つの原因と考えられる。この授業では、文法を自らの意思を表現するための一つの有効な手段として考え、目標とする文法事項が自然に活用される機会を豊富に設定し、グループワークやペアワーク等を含む様々な活動を行う。その結果として、自然な形で文法事項に対する理解を深めて定着させ、新たな視点で文法をとらえ、今後の英語学習に有効に活用していくことを最終的な到達目標と考えている。 TOEIC の得点が 300 点台後半程度までの学生が受講することが望ましい。		1. オリエンテーション、仮定法（1） 2. 関係詞 3. need+ing ; have/get something done の用法 4. 間接疑問文 5. 義務の表現・動詞句 6. 付加疑問・願望の表現（1）・可算名詞 7. 受動態（1） 8. 受動態（2） 9. 不定詞 10. 仮定法（2） 11. 副詞・願望の表現（2） 12. 不定詞（2）・動名詞（2） 13. 未来完了 14. 時制のまとめ 15. 総復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
Grammar three (Oxford University Press)		出席、授業への参加の姿勢、課題の提出、期末テスト等の結果をふまえ、総合的に評価する。原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。	

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース ドイツ語 (I a 基礎) ドイツ語 I a (基礎)	担当者	各日本人担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語はとても豊かな文化と歴史を持ったドイツ、オーストリア、スイスなどで話されている言葉です。ドイツ語を学ぶことはツールとしてだけでなく、彼らの精神基盤を知ることでもあります。彼らの物の考え方はドイツ語の物の考え方でもある訳です。 一方で日常の言葉としてのドイツ語は、(主観的ですが)美しい響きとややストレートで飾らない言葉として面白いものだと思います。 外国語をマスターするには、基礎文法(だけで十分です)と出来るだけ多くの単語を知ることが重要です。この授業ではその二つを習得できるように配慮してありますから、多少の困難があってもくじけずに頑張って下さい。わからないところがあれば、積極的に担当教員に質問して下さい。曖昧なまま先に進むのは、語学を学ぶ上で大きな精神的ストレスになります。		1. 導入 ー文字と発音ー 2. ～14. 1 課ー動詞の現在人称変化・疑問詞・否定など 2 課ー名詞の性と格・格変化など 3 課ー名詞の複数形・2 格と 3 格など 4 課ー不規則動詞の現在人称変化など 5 課ー冠詞など 6 課ー前置詞など 7 課ー話法の助動詞など 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Schritt für Schritt: 今井田、前田、Büchli 三修社		定期試験による。	

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース ドイツ語 (I b 基礎) ドイツ語 I b (基礎)	担当者	各日本人担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語はとても豊かな文化と歴史を持ったドイツ、オーストリア、スイスなどで話されている言葉です。ドイツ語を学ぶことはツールとしてだけでなく、彼らの精神基盤を知ることでもあります。彼らの物の考え方はドイツ語の物の考え方でもある訳です。 一方で日常の言葉としてのドイツ語は、(主観的ですが)美しい響きとややストレートで飾らない言葉として面白いものだと思います。 外国語をマスターするには、基礎文法(だけで十分です)と出来るだけ多くの単語を知ることが重要です。この授業ではその二つを習得できるように配慮してありますから、多少の困難があってもくじけずに頑張って下さい。わからないところがあれば、積極的に担当教員に質問して下さい。曖昧なまま先に進むのは、語学を学ぶ上で大きな精神的ストレスになります。		1. ～14. 8 課ーzu-不定詞、再帰代名詞、再帰動詞など 9 課ー動詞の三基本形など 10 課ー現在完了、受動文など 11 課ー形容詞の格変化と比較など 12 課ー関係代名詞関係副詞など 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Schritt für Schritt: 今井田、前田、Büchli 三修社		定期試験による。	

08年度以降 05～07年度	総合コース ドイツ語 (Ia 基礎) ドイツ語 Ia (基礎)	担当者	各日本人担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語はとても豊かな文化と歴史を持ったドイツ、オーストリア、スイスなどで話されている言葉です。ドイツ語を学ぶことはツールとしてだけでなく、彼らの精神基盤を知ることでもあります。彼らの物の考え方はドイツ語の物の考え方でもある訳です。 一方で日常の言葉としてのドイツ語は、(主観的ですが)美しい響きとややストレートで飾らない言葉として面白いものだと思います。 総合コースは日本人教員と外国人教員とのペアの授業で文法と会話を総合的に学び、ドイツ語の運用能力を得られるよう配慮してあります。多少の困難があってもくじけずに頑張って下さい。わからないところがあれば、積極的に担当教員に質問して下さい。曖昧なまま先に進むのは、語学を学ぶ上で大きな精神的ストレスになります。		1. 導入－文字と発音 2. ～14. 1 課－動詞の現在人称変化など 2 課－名詞の性・格など 3 課－名詞の複数形など 4 課－不規則動詞の現在人称変化など 5 課－冠詞など 6 課－前置詞など 7 課－話法の助動詞など 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Schritt für Schritt 今井田、前田、Büchli 三修社		定期試験による。	

08年度以降 05～07年度	総合コース ドイツ語 (Ib 基礎) ドイツ語 Ib (基礎)	担当者	各日本人担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語はとても豊かな文化と歴史を持ったドイツ、オーストリア、スイスなどで話されている言葉です。ドイツ語を学ぶことはツールとしてだけでなく、彼らの精神基盤を知ることでもあります。彼らの物の考え方はドイツ語の物の考え方でもある訳です。 一方で日常の言葉としてのドイツ語は、(主観的ですが)美しい響きとややストレートで飾らない言葉として面白いものだと思います。 総合コースは日本人教員と外国人教員とのペアの授業で文法と会話を総合的に学び、ドイツ語の運用能力を得られるよう配慮してあります。多少の困難があってもくじけずに頑張って下さい。わからないところがあれば、積極的に担当教員に質問して下さい。曖昧なまま先に進むのは、語学を学ぶ上で大きな精神的ストレスになります。		1. ～14. 8 課－zu-不定詞など 9 課－動詞の三基本形など 10 課－現在完了、受動態など 11 課－形容詞の格変化など 12 課－関係代名詞など 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Schritt für Schritt 今井田、前田、Büchli 三修社		定期試験による。	

08年度以降 05～07年度	総合コース ドイツ語 (Ia 会話) ドイツ語 Ia (会話)	担当者	各外国人担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
外国語を学んでいて一番うれしいことは、その国の人とその国の言葉でコミュニケーションがとれた時です。「話せる」ということは外国語学習の基本であり、話せない外国語の知識など一片の価値也没有ありません。いくら文法の知識があっても、話せないというのは致命的で、勉強していても面白くも何ともありません。ただし会話と言えども文法を無視しては成り立ちません。日本人教員のもとでしっかりと基礎を学んだ上で「話す」ことにチャレンジして下さい。		1. Lektion 1 人と知り合う 1 2. Lektion 1 3. Lektion 2 人と知り合う 2 4. Lektion 2 5. Lektion 3 専攻と言語 6. Lektion 3 7. 小テスト 8. Lektion 4 趣味 9. Lektion 4 10. Lektion 5 食事 11. Lektion 5 12. Lektion 6 家族と職業 13. Lektion 6 14. 小テスト 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Szenen 1 integriert 佐藤、下田他 三修社		小テストと授業への参加度及び定期試験による。	

08年度以降 05～07年度	総合コース ドイツ語 (Ib 会話) ドイツ語 Ib (会話)	担当者	各外国人担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
外国語を学んでいて一番うれしいことは、その国の人とその国の言葉でコミュニケーションがとれた時です。「話せる」ということは外国語学習の基本であり、話せない外国語の知識など一片の価値也没有ありません。いくら文法の知識があっても、話せないというのは致命的で、勉強していても面白くも何ともありません。ただし会話と言えども文法を無視しては成り立ちません。日本人教員のもとでしっかりと基礎を学んだ上で「話す」ことにチャレンジして下さい。		1. Lektion 7 持ち物 2. Lektion 7 3. Lektion 8 住居 4. Lektion 8 5. Lektion 9 時刻と日付 6. Lektion 9 7. 小テスト 8. Lektion 10 週末の後 9. Lektion 10 10. Lektion 11 街と大学 11. Lektion 11 12. Lektion 12 休暇の前 13. Lektion 12 14. 小テスト 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Szenen 1 integriert 佐藤、下田他 三修社		小テストと授業への参加度及び定期試験による。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース ドイツ語（Ⅱa 基礎） ドイツ語Ⅱa（基礎）	担当者	各日本人担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語Ⅰで学んだ基礎の復習と知識の定着を目指すと共に、さらに一歩進んだドイツ語の練習をします。これだけの知識があれば十分に日常的な語学力を身につけられ、ドイツ語圏を旅行してもさほど言葉に不自由することは無い筈です。あとは実践あるのみですから、本学のドイツ人教員を見かけたら積極的に話し掛けるなどして実力を試し、場慣れするよう心がけて下さい。		1. ～14. Lektion 1A, 1B Lektion 2A, 2B Lektion 3A, 3B Lektion 4A, 4B 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Straße Neu Ver. 2.0 Muelenz、林、五十嵐、須藤他 朝日出版社 (Lesetexte は省略することがあります。)		定期試験による。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース ドイツ語（Ⅱb 基礎） ドイツ語Ⅱb（基礎）	担当者	各日本人担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語Ⅰで学んだ基礎の復習と知識の定着を目指すと共に、さらに一歩進んだドイツ語の練習をします。これだけの知識があれば十分に日常的な語学力を身につけられ、ドイツ語圏を旅行してもさほど言葉に不自由することは無い筈です。あとは実践あるのみですから、本学のドイツ人教員を見かけたら積極的に話し掛けるなどして実力を試し、場慣れするよう心がけて下さい。		1. ～14. Lektion 5A, 5B Lektion 6A, 6B Lektion 7A, 7B Lektion 8A, 8B 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Straße Neu Vers. 2.0 Muelenz、林、五十嵐、須藤他 朝日出版社 (Lesetexte は省略することがあります。)		定期試験による。	

08年度以降 05～07年度	総合コース ドイツ語 (IIa 基礎) ドイツ語 IIa (基礎)	担当者	各日本人担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語 I で学んだ基礎の復習と知識の定着を目指すと共に、さらに一歩進んだドイツ語の練習をします。これだけの知識があれば十分に日常的な語学力を身につけられ、ドイツ語圏を旅行してもさほど言葉に不自由することは無い筈です。あとは実践あるのみですから、本学のドイツ人教員を見かけたら積極的に話し掛けるなどして実力を試し、場慣れするよう心がけて下さい。		1. ～14. Lektion 1A, 1B Lektion 2A, 2B Lektion 3A, 3B Lektion 4A, 4B 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Straße Neu Vers. 2.0 Muelenz、林、五十嵐、須藤他 朝日出版社		定期試験による。	

08年度以降 05～07年度	総合コース ドイツ語 (IIb 基礎) ドイツ語 IIb (基礎)	担当者	各日本人担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語 I で学んだ基礎の復習と知識の定着を目指すと共に、さらに一歩進んだドイツ語の練習をします。これだけの知識があれば十分に日常的な語学力を身につけられ、ドイツ語圏を旅行してもさほど言葉に不自由することは無い筈です。あとは実践あるのみですから、本学のドイツ人教員を見かけたら積極的に話し掛けるなどして実力を試し、場慣れするよう心がけて下さい。		1. ～14. Lektion 5A, 5B Lektion 6A, 6B Lektion 7A, 7B Lektion 8A, 8B 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Straße Neu Vers. 2.0 Muelenz、林、五十嵐、須藤他 朝日出版社		定期試験による。	

08年度以降 05～07年度	総合コース ドイツ語 (IIa 会話) ドイツ語 IIa (会話)	担当者	各外国人担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語 I で基本的な会話の語彙やパターンを身につけたと思います。ドイツ語 II ではさらに多くの場面で使える会話表現を学んで下さい。既に文法的には難しいことはありません。様々な状況に応じた受け答えの練習です。これからはなるべく多くの単語を覚え、ドイツ語圏を旅行しても困らない会話能力を習得して下さい。		1. Lektion 1 Reise und Verkehr 2. Lektion 1 3. Lektion 2 Im Restaurant und im Hotel 4. Lektion 2 5. Lektion 2 6. Lektion 3 In der Stadt 7. Lektion 3 8. 小テスト 9. Lektion 4 Wetter 10. Lektion 4 11. Lektion 5 Krankheiten und Körperpflege 12. Lektion 5 13. Lektion 5 14. 小テスト 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Szenen 2 kompakt 佐藤、下田他 三修社		小テストと授業への参加度及び定期試験による。	

08年度以降 05～07年度	総合コース ドイツ語 (IIb 会話) ドイツ語 IIb (会話)	担当者	各外国人担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語 I で基本的な会話の語彙やパターンを身につけたと思います。ドイツ語 II ではさらに多くの場面で使える会話表現を学んで下さい。既に文法的には難しいことはありません。様々な状況に応じた受け答えの練習です。これからはなるべく多くの単語を覚え、ドイツ語圏を旅行しても困らない会話能力を習得して下さい。		1. Lektion 6 Geschenke und Einladungen 2. Lektion 6 3. Lektion 7 Personenbeschreibung 4. Lektion 7 5. Lektion 8 Müll und Umwelt 6. Lektion 8 7. 小テスト 8. Lektion 9 Verbote und Gebote 9. Lektion 9 10. Lektion 9 11. Lektion 10 Lebenslauf und Schulsystem 12. Lektion 10 13. Lektion 10 14. 小テスト 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Szenen 2 kompakt 佐藤、下田他 三修社		小テストと授業への参加度及び定期試験による。	

08年度以降 05～07年度	ドイツ語 (IIIa 会話) ドイツ語 IIIa (会話)	担当者	D. バイアー＝タグチ
講義目的、講義概要		授業計画	
この時間では Treffpunkt Berlin を使って、様々な練習(簡単な言葉遊び、ロールプレイング、パートナー・インタビューなど)を通して、会話表現力を訓練します。皆さんは既に持っているドイツ語の知識をフルに活用してさらに表現力を高めて下さい。 ドイツの若者たちの日常生活を描いた、短い場面で構成されたビデオ教材を使用し、練習します。		1. 自己紹介 2. 練習 1 3. 練習 2 4. 練習 3 5. 練習 4 6. 練習 5 7. 練習 6 8. 小テスト／練習 7 9. 練習 8 10. 練習 9 11. 練習 10 12. 練習 11 13. 練習 12 14. 練習 13 15. 小テスト／まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料をコピーし、配布します。		試験と出席点を加味して学期の成績とします。	

08年度以降 05～07年度	ドイツ語 (IIIb 会話) ドイツ語 IIIb (会話)	担当者	D. バイアー＝タグチ
講義目的、講義概要		授業計画	
この時間では Treffpunkt Berlin を使って、様々な練習(簡単な言葉遊び、ロールプレイング、パートナー・インタビューなど)を通して、会話表現力を訓練します。皆さんは既に持っているドイツ語の知識をフルに活用してさらに表現力を高めて下さい。 ドイツの若者たちの日常生活を描いた、短い場面で構成されたビデオ教材を使用し、練習します。		1. 練習 1 2. 練習 2 3. 練習 3 4. 練習 4 5. 練習 5 6. 練習 6 7. 練習 7 8. 小テスト／練習 8 9. 練習 9 10. 練習 10 11. 練習 11 12. 練習 12 13. 練習 13 14. 練習 14 15. 小テスト／まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料をコピーし、配布します。		試験と出席点を加味して学期の成績とします。	

08年度以降 05～07年度	フランス語 (Ia 基礎) 【基礎コース】 フランス語 Ia (基礎) 【基礎コース】	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週1回の授業で、2年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。春学期には、<i>Tome 1</i> の第5課まで進む予定。授業ではCDを使うことがある。		1. ガイダンス、発音と綴り字の読み方 2. 発音と綴り字の読み方 3. 第1課 4. 第1課 5. 第2課 6. 第2課 7. 第3課 8. 第3課 9. 第4課 10. 第4課 11. 第5課 12. 第5課 13. まとめ 14. まとめ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：<i>Tome 1</i> (第三書房) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

08年度以降 05～07年度	フランス語 (Ib 基礎) 【基礎コース】 フランス語 Ib (基礎) 【基礎コース】	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週1回の授業で、2年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。秋学期には、<i>Tome 1</i> の第6課から第10課まで進む予定。授業ではCDを使うことがある。		1. 第6課 2. 第6課 3. 第7課 4. 第7課 5. 第8課 6. 第8課 7. 第9課 8. 第9課 9. 第10課 10. 第10課 11. annexe 12. 総合問題 (bilan) 13. まとめ 14. まとめ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：<i>Tome 1</i> (第三書房) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

08年度以降 05～07年度	フランス語 (Ia 総合J) 【総合コース】 フランス語 Ia (総合J) 【総合コース】	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(Ia 総合J) は日本人講師、(Ia 総合F) はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語 (Ia 総合F) とのペアでしか受講できない。 この(Ia 総合J) では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進捗を示すが、実際の進捗は各担当者により異なることがある。		1. ガイダンス、1a 2. 1a, 1b 3. 2a, 2b 4. 2a, 2b 5. 3a, 3b 6. 3a, 3b 7. révision bilan 8. 4a, 4b 9. 4a, 4b 10. 5a, 5b 11. 5a, 5b 12. 6a, 6b 13. 6a, 6b 14. 7a 15. révision bilan	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

08年度以降 05～07年度	フランス語 (Ib 総合J) 【総合コース】 フランス語 Ib (総合J) 【総合コース】	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(Ib 総合J) は日本人講師、(Ib 総合F) はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語 (Ib 総合F) とのペアでしか受講できない。 この(Ib 総合J) では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進捗を示すが、実際の進捗は各担当者により異なることがある。		1. révision bilan 2. 7b 3. 8a, 8b 4. 8a, 8b 5. révision bilan 6. 9a, 9b 7. 9a, 9b 8. 10a, 10b 9. 10a, 10b 10. révision bilan 11. 11a, 11b 12. 11a, 11b 13. 12a, 12b 14. 12a, 12b 15. révision bilan	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

08年度以降 05～07年度	フランス語 (Ia 総合F) 【総合コース】 フランス語 Ia (総合F) 【総合コース】	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際のフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語 (Ia 総合J：日本人講師担当) とペアになる授業で、フランス人講師が担当する（ただし再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語 (Ia 総合J) とのペアでしか受講できない。 この (Ia 総合F) では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進捗を示すが、実際の進捗は各担当者により異なることがある。		1. ガイダンス、1a 2. 1a, 1b 3. 2a, 2b 4. 2a, 2b 5. 3a, 3b 6. 3a, 3b 7. révision bilan 8. 4a, 4b 9. 4a, 4b 10. 5a, 5b 11. 5a, 5b 12. 6a, 6b 13. 6a, 6b 14. 7a 15. révision bilan	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

08年度以降 05～07年度	フランス語 (Ib 総合F) 【総合コース】 フランス語 Ib (総合F) 【総合コース】	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際のフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語 (Ib 総合J：日本人講師担当) とペアになる授業で、フランス人講師が担当する（ただし再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語 (Ib 総合J) とのペアでしか受講できない。 この (Ib 総合F) では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進捗を示すが、実際の進捗は各担当者により異なることがある。		1. révision bilan 2. 7b 3. 8a, 8b 4. 8a, 8b 5. révision bilan 6. 9a, 9b 7. 9a, 9b 8. 10a, 10b 9. 10a, 10b 10. révision bilan 11. 11a, 11b 12. 11a, 11b 13. 12a, 12b 14. 12a, 12b 15. révision bilan	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース フランス語 (IIa) 基礎 フランス語 IIa (基礎)	担当者	S.ジュンタ
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語の初級を終えた学生を対象とするクラスです。フランス語で表現することを主な目的とし、聞き取る、書き取る、読む、話すという学習をバランスよく、自然の流れの中で行なえるように、そしてその継続の結果、いつのまにか無理なくフランス語が表現できるように授業を進めていきます。CD、DVDを使用します。 フランス語を話すのは簡単です。しかし生きた言葉を使いこなすには、よく聞き取り表現する訓練が大切です。多くのフランス語を聞き会話を楽しみながら、フランスやフランス語圏への旅行で使いこなせる会話力を身につけていきましょう。仏検4、5級の準備も兼ね、必要に応じて日本語でも説明します。 注意：毎回、授業の10分間を利用し、DVDでフランスの文化、文明、歴史、教育、社会、美食文化、芸術分野等を紹介し、簡単な説明をします。		1. ガイダンス (1)* 発音 (アルファベットの読み方) 2. 発音 (単語の読み方) 3. 自己紹介 4. 不定冠詞、名詞の単数と複数 5. 定冠詞、名詞の単数と複数 6. 動詞 ETRE の現在形、名詞。C'est, Ce sont, 7. 動詞 ETRE の現在形、形容詞。国と国籍 8. 動詞 ETRE の現在形、名詞、形容詞の性と形 9. 動詞 AVOIR の現在形、IL Y A、部分冠詞 10. ETRE と AVOIR (疑問、肯定、否定) 11. ETRE と AVOIR (肯定、否定) 12. 前置詞 (à, de) と定冠詞 (le, les) 13. 否定の ne ... pas de (d') 14. ER 動詞、同じタイプの活用をするグループ ER 動詞、母音で始まる動詞の場合 15. 前期まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Bis Amicalement (CD 付き) 駿河台出版社 一年を通して使用。		授業中に数回、小レポートを実施し(50%)、授業に対する参加態度を考慮し(50%)、総合的に評価する。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース フランス語 (IIb) 基礎 フランス語 IIb (基礎)	担当者	S.ジュンタ
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語の初級を終えた学生を対象とするクラスです。フランス語で表現することを主な目的とし、聞き取る、書き取る、読む、話すという学習をバランスよく、自然の流れの中で行なえるように、そしてその継続の結果、いつのまにか無理なくフランス語が表現できるように授業を進めていきます。CD、DVDを使用します。 フランス語を話すのは簡単です。しかし生きた言葉を使いこなすには、よく聞き取り表現する訓練が大切です。多くのフランス語を聞き会話を楽しみながら、フランスやフランス語圏への旅行で使いこなせる会話力を身につけていきましょう。仏検4、5級の準備も兼ね、必要に応じて日本語でも説明します。 注意：毎回、授業の10分間を利用し、DVDでフランスの文化、文明、歴史、教育、社会、美食文化、芸術分野等を紹介し、簡単な説明をします。		1. ガイダンス (2) 2. 主語 on の使い方 3. 変則的な IR 動詞 4. 指示形容詞 (ce, cette, ces) 5. 疑問形容詞 (quel, quels, quelle, quelles) 6. 変則的な OIR(e). RE 他の動詞 7. 命令形：... s'il te/vous plait 8. 近い未来の表現：v. aller 9. 近い過去の表現：v. venir 10. 所有形容詞 11. 代名詞 Y、EN 動詞 vouloir, pouvoir 12. 目的語代名詞 13. (簡単な) 未来の表現：未来の表現+現在のの表現 14. 複合過去の助動詞 ETRE . AVOIR 15. 後期まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Bis Amicalement (CD 付き) 駿河台出版社 一年を通して使用。		授業中に数回、小レポートを実施し(50%)、授業に対する参加態度を考慮し(50%)、総合的に評価する。	

08年度以降 05～07年度	フランス語（IIa 総合J）【総合コース】 フランス語 IIa（総合J）【総合コース】	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義で、フランス語（Ia/b 総合）に続くものである。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(IIa 総合J) は日本人講師、(IIa 総合F) はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（IIa 総合F）とのペアでしか受講できない。 この（IIa 総合J）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。		1. révision bilan 2. 13a, 13b 3. 13a, 13b 4. 14a, 14b 5. 14a, 14b 6. 15a, 15b 7. 15a, 15b 8. révision bilan 9. 16a, 16b 10. 16a, 16b 11. 16a, 16b 12. 17a, 17b 13. 17a, 17b 14. 17a, 17b 15. révision bilan	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

08年度以降 05～07年度	フランス語（IIb 総合J）【総合コース】 フランス語 IIb（総合J）【総合コース】	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義で、フランス語（Ia/b 総合）に続くものである。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(IIb 総合J) は日本人講師、(IIb 総合F) はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（IIb 総合F）とのペアでしか受講できない。 この（IIb 総合J）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。		1. révision bilan 2. 18a, 18b 3. 18a, 18b 4. 18a, 18b 5. 19a, 19b 6. 19a, 19b, révision bilan 7. 20a, 20b 8. 20a, 20b 9. 20a, 20b 10. 21a, 21b 11. 21a, 21b, révision bilan 12. 22a, 22b 13. 22a, 22b 14. 22a, 22b 15. révision bilan	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

08年度以降 05～07年度	フランス語（IIa 総合F）【総合コース】 フランス語 IIa（総合F）【総合コース】	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義で、フランス語（Ia/b 総合）に続くものである。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(IIa 総合J) は日本人講師、(IIa 総合F) はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（IIa 総合J）とのペアでしか受講できない。 この（IIb 総合F）では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進捗を示すが、実際の進捗は各担当者により異なることがある。		1. révision bilan 2. 13a, 13b 3. 13a, 13b 4. 14a, 14b 5. 14a, 14b 6. 15a, 15b 7. 15a, 15b 8. révision bilan 9. 16a, 16b 10. 16a, 16b 11. 16a, 16b 12. 17a, 17b 13. 17a, 17b 14. 17a, 17b 15. révision bilan	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

08年度以降 05～07年度	フランス語（IIb 総合F）【総合コース】 フランス語 IIb（総合F）【総合コース】	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義で、フランス語（Ia/b 総合）に続くものである。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(IIb 総合J) は日本人講師、(IIb 総合F) はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（IIb 総合J）とのペアでしか受講できない。 この（IIb 総合F）では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進捗を示すが、実際の進捗は各担当者により異なることがある。		1. révision bilan 2. 18a, 18b 3. 18a, 18b 4. 18a, 18b 5. 19a, 19b 6. 19a, 19b, révision bilan 7. 20a, 20b 8. 20a, 20b 9. 20a, 20b 10. 21a, 21b 11. 21a, 21b, révision bilan 12. 22a, 22b 13. 22a, 22b 14. 22a, 22b 15. révision bilan	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

08年度以降 05～07年度	フランス語 (IIIa) フランス語 IIIa	担当者	S.ジュンタ
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語を2年間学んだ学生を対象としたクラスです。授業の進め方は、日常生活における様々な場面（買い物、道案内、レストランでの注文、地下鉄の利用方法など）を取り上げ、フランスを訪れた時に役立つ知識と自然な言い回しを学びます。また、フランスやフランス人の生活を授業の中で紹介することにより、フランスへの理解をより一層深めたいと思います。年間を通し、皆さんと一緒に楽しいフランス語のクラスにしていきたいと思います。必要に応じ日本語で説明します。 注意：毎回、授業の10分間を利用し、DVDでフランスの文化、文明、歴史、教育、社会、美食文化、芸術分野等を紹介し、簡単な説明をします。		1. ガイダンス 1 2. あいさつ 3. パリに着きました！ 4. 出会い － 友達になろう！ 5. フランス人は誰ですか？ 6. 国と国籍 7. フランス人の生活 8. フランスの家族 － 社会 9. フランスの住まい － 町 10. フランスの地方 11. 時間 － 天気他 12. フランス料理 － 美食文化 13. フランスのワイン他 14. テーブルのエチケット 15. 前期まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
ALLER SIMPLE - COMMUNICATION (CD 付き) 早 美出版社 一年を通して使用。		授業中に数回、小レポートを実施し(50%)、授業に対する参加態度を考慮し(50%)、総合的に評価する。	

08年度以降 05～07年度	フランス語 (IIIb) フランス語 IIIb	担当者	S.ジュンタ
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語を2年間学んだ学生を対象としたクラスです。授業の進め方は、日常生活における様々な場面（買い物、道案内、レストランでの注文、地下鉄の利用方法など）を取り上げ、フランスを訪れた時に役立つ知識と自然な言い回しを学びます。また、フランスやフランス人の生活を授業の中で紹介することにより、フランスへの理解をより一層深めたいと思います。年間を通し、皆さんと一緒に楽しいフランス語のクラスにしていきたいと思います。必要に応じ日本語で説明します。 注意：毎回、授業の10分間を利用し、DVDでフランスの文化、文明、歴史、教育、社会、美食文化、芸術分野等を紹介し、簡単な説明をします。		1. ガイダンス 2 2. 方向 － パリの散歩 3. パリの有名な場所 － 美術館他 4. カフェとレストラン － メニュー他 5. フランスの食料品 6. フランスとヨーロッパ － TGV 他 7. パリの地下鉄 － バス 他 8. 地下鉄の乗り方他 － 料金 9. 買い物 － パリの有名なデパート 10. 洋服 － 支払いの仕方 他 11. フランスの教育 12. フランス映画：Amélie (アメリ) 13. Amélie の Q & A 1 * フランス語と日本語の QUIZZ 14. Amélie の Q & A 2 * フランス語と日本語の QUIZZ 15. 後期まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
ALLER SIMPLE - COMMUNICATION (CD 付き) 早 美出版社 一年を通して使用 -		授業中に数回、小レポートを実施し(50%)、授業に対する参加態度を考慮し(50%)、総合的に評価する。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース スペイン語（I a 文法） スペイン語 I a（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
基本的に週1コマのスペイン語を学習する学生を対象 としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することをめざす。		① 発音・アクセント ② 発音・アクセント ③ 名詞の性・数、冠詞 ④ 名詞の性・数、冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ 形容詞 ⑦ ser, estar 動詞の用法 ⑧ ser, estar 動詞の用法 ⑨ 動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑩ 動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑪ 動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑫ 代名詞の用法 ⑬ gustar 型動詞の用法 ⑭ 動詞 hacer の用法 ⑮ 今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース スペイン語（I b 文法） スペイン語 I b（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
基本的に週1コマのスペイン語を学習する学生を対象 としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。再帰動詞や現在完了形・現在進行形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することをめざす。		① 春学期の復習 ② 代名詞の用法（復習） ③ 動詞の活用---直説法現在不規則活用 ④ 動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑤ 動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑥ 動詞 hacer の用法 ⑦ 動詞の活用---再帰動詞 ⑧ 動詞の活用---再帰動詞 ⑨ 再帰動詞の用法 ⑩ 動詞の活用---現在完了・現在進行形 ⑪ 動詞の活用---現在完了・現在進行形 ⑫ 現在分詞と過去分詞の用法 ⑬ 受け身表現 ⑭ 今学期の復習 ⑮ 春・秋学期のまとめと未習の文法事項について 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース スペイン語（I a 文法） スペイン語 I a（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
基本的に週2コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することをめざす。 原則としてスペイン語（I a 会話）、I a（会話）とペアで履修することとなる。		① 発音・アクセント ② 発音・アクセント ③ 名詞の性・数、冠詞 ④ 名詞の性・数、冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ 形容詞 ⑦ ser, estar 動詞の用法 ⑧ ser, estar 動詞の用法 ⑨ 動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑩ 動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑪ 動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑫ 代名詞の使い方 ⑬ gustar 型動詞の用法 ⑭ 動詞 hacer の用法 ⑮ 今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I ソフト版（黄色い表紙）” 朝日出版社 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース スペイン語（I b 文法） スペイン語 I b（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
基本的に週2コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。再帰動詞や現在完了形・現在進行形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目ざす。 原則としてスペイン語（I b 会話）、I b（会話）とペアで履修することとなる。		① 春学期の復習 ② 代名詞の用法（復習） ③ 動詞の活用---直説法現在不規則活用 ④ 動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑤ 動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑥ 動詞 hacer の用法 ⑦ 動詞の活用---再帰動詞 ⑧ 動詞の活用---再帰動詞 ⑨ 再帰動詞の用法 ⑩ 動詞の活用---現在完了・現在進行形 ⑪ 動詞の活用---現在完了・現在進行形 ⑫ 現在分詞と過去分詞の用法 ⑬ 受け身表現 ⑭ 今学期の復習 ⑮ 春・秋学期のまとめと未習の文法事項について 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I ソフト版（黄色い表紙）” 朝日出版社		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース スペイン語（Ia 会話） スペイン語 Ia（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>基本的に週2コマのスペイン語を学習する学生を対象</u>としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 <u>原則としてスペイン語（Ia 文法）、Ia（文法）とペアで履修することとなる。</u>		学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ia 文法）、Ia（文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ia 会話）、Ia（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ia 文法）、Ia（文法）の「授業計画」を参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I ソフト版（黄色い表紙）” 朝日出版社、およびプリント。 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース スペイン語（Ib 会話） スペイン語 Ib（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>基本的に週2コマのスペイン語を学習する学生を対象</u>としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 <u>原則としてスペイン語（Ib 文法）、Ib（文法）とペアで履修することとなる。</u>		学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ib 文法）、Ib（文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ib 会話）、Ib（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ib 文法）、Ib（文法）の「授業計画」を参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I ソフト版（黄色い表紙）” 朝日出版社、およびプリント。		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース スペイン語（Ⅱa 文法） スペイン語 Ⅱa（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>基本的に週1コマのスペイン語を学習する学生を対象</u> とした、スペイン語（Ⅱb 文法）、Ⅱb（文法）の継続の授業である。現在形の復習のあと、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。		① 既習事項の復習 ② 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞（復習） ③ 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞（復習） ④ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑥ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑨ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑪ 点過去と線過去の違い ⑫ 点過去と線過去の違い ⑬ 比較表現 ⑭ 比較表現 ⑮ 今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース スペイン語（Ⅱb 文法） スペイン語 Ⅱb（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（Ⅱa 文法）、Ⅱa（文法）の継続の授業である。 <u>基本的に週1コマのスペイン語を学習する学生を対象</u> としている。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法の学習を終える。		① 春学期の復習 ② 既習の動詞の時制に関するまとめと復習 ③ 動詞の活用 --- 未来形 ④ 動詞の活用 --- 未来形 ⑤ 動詞の活用 --- 過去未来形 ⑥ 動詞の活用 --- 過去未来形 ⑦ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑧ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑨ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑩ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑪ 命令表現 ⑫ 命令表現 ⑬ 接続法を使った表現 ⑭ 接続法を使った表現 ⑮ 今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース スペイン語（Ⅱa 文法） スペイン語 Ⅱa（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
基本的に週2コマのスペイン語を学習する学生を対象とした、スペイン語（Ⅱb 文法）およびⅡb（文法）の継続の授業である。現在形の復習のあと、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。 原則としてスペイン語（Ⅱa 会話）、Ⅱa（会話）とペアで履修することを要望する。		① 既習事項の復習 ② 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞（復習） ③ 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞（復習） ④ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑥ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑨ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑪ 点過去と線過去の違い ⑫ 点過去と線過去の違い ⑬ 比較表現 ⑭ 比較表現 ⑮ 今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース スペイン語（Ⅱb 文法） スペイン語 Ⅱb（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（Ⅱa 文法）、Ⅱa（文法）の継続の授業である。 基本的に週2コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法の学習を終える。 原則としてスペイン語（Ⅱb 会話）、Ⅱb（会話）とペアで履修することを要望する。		① 春学期の復習 ② 既習の動詞の時制に関するまとめと復習 ③ 動詞の活用 --- 未来形 ④ 動詞の活用 --- 未来形 ⑤ 動詞の活用 --- 過去未来形 ⑥ 動詞の活用 --- 過去未来形 ⑦ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑧ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑨ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑩ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑪ 命令表現 ⑫ 命令表現 ⑬ 接続法を使った表現 ⑭ 接続法を使った表現 ⑮ 今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース スペイン語（Ⅱa 会話） スペイン語 Ⅱa（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>基本的に週2コマのスペイン語を学習する学生を対象</u>としている。過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心の授業である。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 <u>原則としてスペイン語（Ⅱa 文法）、Ⅱa（文法）とペアで履修すること</u>を要望する。		学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ⅱa 文法）、Ⅱa（文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ⅱa 会話）、Ⅱa（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ⅱa 文法）、Ⅱa（文法）の「授業計画」を参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）、およびプリント		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	総合コース スペイン語（Ⅱb 会話） スペイン語 Ⅱb（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（Ⅱa 会話）、Ⅱa（会話）の継続の授業である。 <u>基本的に週2コマのスペイン語を学習する学生を対象</u>としている。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心の授業である。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 <u>原則としてスペイン語（Ⅱa 文法）、Ⅱa（文法）とペアで履修すること</u>を要望する。		学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ⅱb 文法）、Ⅱb（文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ⅱb 会話）、Ⅱb（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ⅱb 文法）、Ⅱb（文法）の「授業計画」を参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）、およびプリント		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	スペイン語（Ⅲa 講読） スペイン語 Ⅲa（講読）	担当者	北岸 団
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語 I, II を既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、スペイン語の講読の能力を獲得することを目指す。具体的には、スペイン語圏の社会・歴史・文化に関する文章の一部や新聞記事などを読む。ある程度の長さのスペイン語を読むことに慣れ、スペイン語圏の文化に関する知識を深めることがこの授業の目的である。 なお、スペイン語Ⅱまでに必ずしも十分に学習できていない文法事項がある場合は、その学習にも重きをおき、中級文法を終了する。 この授業ではとくに予習が不可欠である。		クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	スペイン語（Ⅲb 講読） スペイン語 Ⅲb（講読）	担当者	北岸 団
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（Ⅲa 講読）スペイン語Ⅲa（講読）の継続の授業である。 スペイン語 I, II を既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、スペイン語の講読の能力を獲得することを目指す。具体的には、スペイン語圏の社会・歴史・文化に関する文章の一部や新聞記事などを読む。ある程度の長さのスペイン語を読むことに慣れ、スペイン語圏の文化に関する知識を深めることがこの授業の目的である。 この授業ではとくに予習が不可欠である。		クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	スペイン語（Ⅲa 会話） スペイン語 Ⅲa（会話）	担当者	C.ガリード
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語 I, II を既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。スペイン語に特有のリズムや表現に慣れて、スペイン語らしい発音ができるように繰り返し練習する。また、ジェスチャーやその他の身体表現などについても学ぶ。		クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	スペイン語（Ⅲb 会話） スペイン語 Ⅲb（会話）	担当者	C.ガリード
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（Ⅲa 会話）スペイン語Ⅲa（会話）の継続の授業である。 スペイン語 I, II を既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。スペイン語に特有のリズムや表現に慣れて、スペイン語らしい発音ができるように繰り返し練習する。また、ジェスチャーやその他の身体表現などについても学ぶ。		クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース 中国語(Ia 会話) 中国語 I a(会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】 この授業では、中国語を初めて学ぶ学生を対象に、発音の基礎及びその表記法、簡体字(中国で現在使われている漢字)の書き方、基本的な文法を学習しながら平易な会話ができるように学習します。 【講義概要】 語学力の4分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」(会話)に重点を置きます。 将来就職してからさらに延長できるように、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力の基礎をしっかりと身につけるよう心がけてください。 教科書に出てきた単語をしっかり覚えて語彙力の増強に努めてください。 注意 1) 中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。		第1回 中国語概説、授業の進め方、履修上の注意、基本母音発音 第2回 発音解説・練習 声調、短母音、子音、複合母音、 第3回 発音 複合母音、鼻音を伴う母音、 第4回 発音 声調の変化、簡単なあいさつ 第5回 第1課 人称代名詞、動詞述語文 第6回 第1課 復習読み練習とドリル 第2課 所在文、 第7回 第2課 連体修飾語①、場所代名詞、復習読みとドリル 第8回 第3課 「～です」の文、数詞、日付曜日の言い方 第9回 中間試験 説明不足箇所補充 第10回 第3課 復習読み練習とドリル 第4課 形容詞述語文 第11回 第4課 指示代詞、前置詞① 復習読み練習とドリル 第12回 第5課 “有”の構文、量詞、完了の“了”① 第13回 第5課 復習読み練習とドリル 第6課 助動詞① 第14回 第6課 経験を表す“过”の用法、復習読みとドリル 第15回 春学期のまとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
「中国語の基礎づくり」楊凱榮(白帝社)		平常の授業への取り組み(予習・復習含む)(20%)、中間・期末試験の結果(80%)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース 中国語(Ib 会話) 中国語 I b(会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】春学期に続き以下のことを目標にして進めます - 中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 - 発音面では教科書付きの音声をよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 - 春学期に引き続き発音・声調の矯正をしていきます。 - 会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。		第1回 第7課 文末の“了”②、時刻の表現、連体修飾語② 第2回 第7課 復習読み練習とドリル 第8課 結果補語 第3回 第8課 助動詞② 復習読み練習とドリル 第4回 第9課 存在/出現/消滅を表す文、様態補語 第5回 第9課 復習読み練習とドリル 第10課 助動詞③ 第6回 第10課 二重目的語の文、復習読み練習とドリル 第7回 中間試験 説明不足箇所補充 第8回 第11課 時間量、動詞+時間量+目的語の文、方位詞 第9回 第11課 方位詞、復習読み練習とドリル 第10回 第12課 兼語文、使役文 読み練習とドリル 第11回 第13課 比較の文、動量詞、助動詞④ 第12回 第13課 復習読み練習とドリル 第13回 第14課 第14課 程度の副詞、前置詞“给” 第14回 第14課 復習読み練習とドリル 第15課前置詞“往” 第15回 第15課 助動詞⑤ 秋学期まとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
「中国語の基礎づくり」楊凱榮(白帝社)		平常の授業への取り組み(予習・復習含む)(20%)、中間・期末試験の結果(80%)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

08年度以降 05～07年度	総合コース 中国語（I a 会話） 中国語 I a(会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】 この授業では、中国語を初めて学ぶ学生を対象に、発音の基礎及びその表記法、簡体字(中国で現在使われている漢字)の書き方、基本的な文法を学習しながら平易な会話ができるように学習します。 【講義概要】 語学力の4分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」（会話）に重点を置きます。 将来就職してからさらに延長できるように、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力の基礎をしっかりと身につけるよう心がけてください。 教科書に出てきた単語をしっかりと覚えて語彙力の増強に努めてください。 注意 1) 中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。		第1回 中国語概説、授業の進め方、履修上の注意、基本母音発音 第2回 発音解説・練習 声調、短母音、子音、複合母音、 第3回 発音 複合母音、鼻音を伴う母音、 第4回 発音 声調の変化、簡単なあいさつ 第5回 第1課 人称代名詞、動詞述語文 第6回 第1課 復習読み練習とドリル 第2課 所在文、 第7回 第2課 連体修飾語①、場所代名詞、復習読みとドリル 第8回 第3課 「～です」の文、数詞、日付曜日の言い方 第9回 中間試験 説明不足箇所補充 第10回 第3課 復習読み練習とドリル 第4課 形容詞述語文 第11回 第4課 指示代詞、前置詞① 復習読み練習とドリル 第12回 第5課 “有”の構文、量詞、完了の“了”① 第13回 第5課 復習読み練習とドリル 第6課 助動詞① 第14回 第6課 経験を表す“过”の用法、復習読みとドリル 第15回 春学期のまとめ 履修者の理解状況によってはお進度を調整することもあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
「中国語の基礎づくり」楊凱榮（白帝社）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（20％）、中間・期末試験の結果（80％）等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

08年度以降 05～07年度	総合コース 中国語（I b 会話） 中国語 I b(会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】 春学期に続き以下のことを目標にして進めます - 中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 - 発音面では教科書付きの音声をよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 - 春学期に引き続き発音・声調の矯正をしていきます。 - 会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。		第1回 第7課 文末の“了”②、時刻の表現、連体修飾語② 第2回 第7課 復習読み練習とドリル 第8課 結果補語 第3回 第8課 助動詞② 復習読み練習とドリル 第4回 第9課 存在/出現/消滅を表す文、様態補語 第5回 第9課 復習読み練習とドリル 第10課 助動詞③ 第6回 第10課 二重目的語の文、復習読み練習とドリル 第7回 中間試験 説明不足箇所補充 第8回 第11課 時間量、動詞+時間量+目的語の文、方位詞 第9回 第11課 方位詞、復習読み練習とドリル 第10回 第12課 兼語文、使役文 読み練習とドリル 第11回 第13課 比較の文、動量詞、助動詞④ 第12回 第13課 復習読み練習とドリル 第13回 第14課 第14課 程度の副詞、前置詞“给” 第14回 第14課 復習読み練習とドリル 第15課前置詞“往” 第15回 第15課 助動詞⑤ 秋学期まとめ 履修者の理解状況によってはお進度を調整することもあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
「中国語の基礎づくり」楊凱榮（白帝社）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（20％）、中間・期末試験の結果（80％）等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

08年度以降 05～07年度	総合コース 中国語(Ia 講読・文法) 中国語 I a(講読・文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 この授業では、中国語を初めて学ぶ学生を対象に、発音の基礎及びその表記法(ピンイン)、簡体字(中国で現在使われている漢字)の書き方、基本的な文法を学習し、平易な文章の読解ができるようにします。 【講義概要】 ①語学力の4分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「書く」、「読む」にやや重点を置きます。 ②表音文字のない中国語ではローマ字を借用して表音しています。特別な発音規則が作られていますのでそれを先ず習得してください。 ③さらに、基本文型を学習し、それを用いた作文練習、易しい文章の読解を学びます。 ④将来就職してからさらに延長できるように、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力の基礎をしっかりと身につけるよう心がけてください。 注意 1) 中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。		第1回 中国語概説、授業の進め方、履修上の注意、基本母音発音 第2回 発音解説・練習 声調、短母音、複合母音、 第3回 発音 複合母音、鼻音を伴う母音、子音 第4回 発音 声調の変化、簡単なあいさつ 第5回 第1課 人称代名詞、(～は・・・です)の文 第6回 第1課 復習読み練習とドリル 第7回 第2課 動詞述語文、(～と同じだ)の表現、連体修飾語 第8回 第2課 復習読み練習とドリル 第9回 中間試験 説明不足箇所補充 第10回 第3課 形容詞述語文、 第11回 第3課 復習読み練習とドリル 第12回 第4課 “在”の用法、数詞、量詞 第13回 第4課 復習読み練習とドリル 第14回 第5課 日付・曜日、年齢表示、比較の表現 第15回 第5課 復習読み練習とドリル 春学期のまとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
「極める中国語」初級編 内田慶市(同学社)		平常の授業への取り組み(予習・復習含む)(20%)、中間・期末試験の結果(80%)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

08年度以降 05～07年度	総合コース 中国語(Ib 講読・文法) 中国語 I b(講読・文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・春学期に続き中国語の基礎力増強を図ります。 ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声をよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 ①春学期に引き続き発音・声調の矯正をしていきます。 ②総合的表現力を増やすために先ず基本的文型を学び、その文型を用いた作文練習をしていきます。		第1回 第6課 存在と所在の表現、時刻と時間、助動詞① 第2回 第6課 方位詞 復習読み練習とドリル 第3回 第7課 完了の“了”①、経験の“过”、動量詞 第4回 第7課 復習読み練習とドリル 第5回 第8課 文末の“了”② 結果補語、助動詞② 第6回 第8課 復習読み練習とドリル 第7回 中間試験 説明不足箇所補充 第8回 第9課 受身構文、前置詞①、動作の進行形、方向補語 第9回 第9課 復習読み練習とドリル 第10回 第10課 兼語文、様態補語、因果関係表現 第11回 第10課 “把”の用法、復習読み練習とドリル 第12回 第11課 可能補語、使役表現、二重目的語を取る動詞 第13回 第11課 復習読み練習とドリル 第14回 第12課 状態の持続表現、仮定表現、“是”～“的”表現 第15回 第12課 復習読み練習とドリル 秋学期まとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
「中国語の基礎づくり」楊凱榮(白帝社)		平常の授業への取り組み(予習・復習含む)(20%)、中間・期末試験の結果(80%)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース 中国語(Ⅱa 会話) 中国語Ⅱa(会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】 中国語Ⅰの基礎の上に更に語彙、文法事項の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めていきます。この中国語Ⅱabを習得して中国語検定3級に合格する力を付けたことになります。それを目指して毎日学習してください。 【講義概要】 語学力の4分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」、「書く」に重点を置きます。 様々な会話場面を設定してあります、できれば覚えてしまおうのが上達の最上方法です。 引き続き、教科書に出てきた単語をしっかりと覚えて語彙力の増強に努めてください。 注意 1) 中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。		第1回 1年時の学習内容の復習、確認 履修上の留意点の説明 第2回 第1課 「ここで待ちます」 文法ポイント 第3回 第1課 復習読み練習とドリル 第4回 第2課 このお酒少し強い文法ポイント、 第5回 第2課 復習読み練習とドリル 第6回 第3課 上海語聞いて分かる？ 第7回 第3課 復習読み練習とドリル 第8回 中間試験 説明不足個所の補充 第9回 第4課 立って歩いてみて 文法ポイント 第10回 第4課 復習読み練習とドリル 第11回 第5課 車にぶつかった 文法ポイント 第12回 第5課 復習読み練習とドリル 第13回 第6課 ギョーザの作り方を教えて 文法ポイント 第14回 第6課 復習読み練習とドリル 第15回 春学期のまとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
「中国語のかたちづくり」楊凱榮（白帝社）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（20％）、中間・期末試験の結果（80％）等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

08年度以降 05～07年度	基礎コース 中国語(Ⅱb 会話) 中国語Ⅱb(会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】春学期に続き以下のことを目標にして進めます。 - 中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 - 発音面では教科書付きの音声をよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 - 春学期に引き続き発音・声調の矯正もしていきます。 - 会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。		第1回 春学期復習 第9課 乾杯！ 文法ポイント 第2回 第7課 私がやってみよう 文法ポイント 第3回 第7課 復習読み練習とドリル 第4回 第8課 要領を掴めばいい 文法ポイント 第5回 第8課 復習読み練習とドリル 第6回 第9課 乾杯！ 文法ポイント 第7回 第9課 復習読み練習とドリル 第8回 中間試験 説明不足箇所補充 第9回 第10課 小さなお客 文法ポイント ドリル 第10回 第11課 言わないで 文法ポイント ドリル 第11回 第12課 ずっとこうなんだ 文法ポイント ドリル 第12回 第13課 おばあさんは彼に優しい 文法ポイント ドリル 第13回 第14課 弟の話① 第14回 第15課 弟の話② 第15回 秋学期まとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
「中国語の基礎づくり」楊凱榮（白帝社）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（20％）、中間・期末試験の結果（80％）等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

08年度以降 05～07年度	総合コース 中国語(Ⅱa 会話) 中国語Ⅱa(会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】 中国語Ⅰの基礎の上に更に語彙、文法事項の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めていきます。この中国語Ⅱabを習得して中国語検定3級に合格する力を付けたことになります。それを目指して毎日学習してください。 【講義概要】 語学力の4分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」、「書く」に重点を置きます。 様々な会話場面を設定してあります、できれば覚えてしまおうのが上達の最上方法です。 引き続き、教科書に出てきた単語をしっかり覚えて語彙力の増強に努めてください。 注意 1) 中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。		第1回 1年時の学習内容の復習、確認 履修上の留意点の説明 第2回 第1課 「ここで待ちます」 文法ポイント 第3回 第1課 復習読み練習とドリル 第4回 第2課 このお酒少し強い文法ポイント、 第5回 第2課 復習読み練習とドリル 第6回 第3課 上海語聞いて分かる？ 第7回 第3課 復習読み練習とドリル 第8回 中間試験 説明不足個所の補充 第9回 第4課 立って歩いてみて 文法ポイント 第10回 第4課 復習読み練習とドリル 第11回 第5課 車にぶつかった 文法ポイント 第12回 第5課 復習読み練習とドリル 第13回 第6課 ギョーザの作り方を教えて 文法ポイント 第14回 第6課 復習読み練習とドリル 第15回 春学期のまとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
「中国語のかたちづくり」楊凱榮（白帝社）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（20％）、中間・期末試験の結果（80％）等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

08年度以降 05～07年度	総合コース 中国語(Ⅱb 会話) 中国語Ⅱb(会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】春学期に続き以下のことを目標にして進めます - 中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 - 発音面では教科書付きの音声のをよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 - 春学期に引き続き発音・声調の矯正もしていきます。 - 会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。		第1回 春学期復習 第9課 乾杯！ 文法ポイント 第2回 第7課 私がやってみよう 文法ポイント 第3回 第7課 復習読み練習とドリル 第4回 第8課 要領を掴めばいい 文法ポイント 第5回 第8課 復習読み練習とドリル 第6回 第9課 乾杯！ 文法ポイント 第7回 第9課 復習読み練習とドリル 第8回 中間試験 説明不足箇所補充 第9回 第10課 小さなお客 文法ポイント ドリル 第10回 第11課 言わないで 文法ポイント ドリル 第11回 第12課 ずっとこうなんだ 文法ポイント ドリル 第12回 第13課 おばあさんは彼に優しい 文法ポイント ドリル 第13回 第14課 弟の話① 第14回 第15課 弟の話② 第15回 秋学期まとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
「中国語の基礎づくり」楊凱榮（白帝社）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（20％）、中間・期末試験の結果（80％）等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

08年度以降 05～07年度	総合コース 中国語(Ⅱa 講読・文法) 中国語Ⅱa(講読・文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 1年次で学習した語彙、文型、文法事項を復習しながらさらにややレベルアップした中国語を学び、総合的な中国語運用能力を身に付けることを目指します。 このレベルの学習を終われば中国語検定3級に合格する力を付けたことになります。 【講義概要】 ①語学力の4分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「書く」、「読む」にやや重点を置きます。 ②1年次の教材より量的に少し長めの文章を、文法の復習と更なる文法事項を学習しながら、読解する力を付けていきます。 ③各課の練習問題をしっかり予習復習することで、キーポイントで学習した文法事項の定着を図ってください。 ④複文を作る様々な呼応を学習し、中国語の表現力を増していきます。 ⑤できれば会話の時間と共に学習し、将来就職してからさらに延長できるような、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力の基礎をしっかりと身につけるよう心がけてください。 注意 中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。		第1回 1年次中国語の復習・確認、履修上の注意 第2回 第1課 連体修飾、呼応“既～又…”、“有的～有的…” 第3回 第1課 復習読み練習と練習問題 第4回 第2課 連用修飾 呼応“连～也…”、比較表現の否定文 第5回 第2課 復習読み練習と練習問題 第6回 第3課 疑問詞の呼応“即使～也…”、“除了～以外”、“一点儿也…” 第7回 第3課 復習読み練習と練習問題 第8回 中間試験 説明不足箇所補充 第9回 第4課 “着”の用法、複合方向補語、動詞の重ね型 第10回 第4課 復習読み練習と練習問題 第11回 文法のまとめ1 第12回 第5課 結果補語、存現文、呼応“因为～所以…”、“一边～一边…” 第13回 第5課 復習読み練習と練習問題 第14回 第6課 可能補語①、呼応“只要～就…”、“一～就…” 第15回 第6課 復習読み練習と練習問題 春学期のまとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
「2冊目の中国語」講読クラス 劉穎 他（白水社）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（20%）、中間・期末試験の結果（80%）等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

08年度以降 05～07年度	総合コース 中国語(Ⅱb 講読・文法) 中国語Ⅱb(講読・文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・春学期に続き中国語の基礎力プラス応用力増強を図ります。 ・中国語の語彙を増やし読解力を増強することを目標とします。 ・中国語の総合的な中国語運用能力を身に付けることを目指します。 【講義概要】 ①春学期に引き続き「書く」、「読む」にやや重点を置きます。 ②複文を作る様々な呼応をさらに学習し、中国語の表現力を増していきます。		第1回 第7課 様態補語 呼応“好像～一样”“是～的” 第2回 第7課 復習読み練習と練習問題 第3回 第8課 可能補語②、呼応“无论～都…”“要是～就…” 第4回 第8課 復習読み練習と練習問題 第5回 文法のまとめ2 第6回 第9課 受身文、動詞の後の“给” 第7回 第9課 復習読み練習と練習問題 第8回 中間試験 説明不足箇所補充 第9回 第10課 離合動詞、動量補語 呼応“虽然～但是…”“不但～而且…” 第10回 第10課 復習読み練習と練習問題 第11回 第11課 使役表現、兼語文 第12回 第11課 復習読み練習と練習問題 第13回 第12課 “把”構文、呼応“对～来说”“只有～才…” 第14回 第12課 復習読み練習と練習問題 第15回 文法のまとめ3 秋学期のまとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
「2冊目の中国語」講読クラス 劉穎 他（白水社）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（20%）、中間・期末試験の結果（80%）等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

08年度以降 05～07年度	中国語(IIIa 会話) 中国語IIIa(会話)	担当者	頼 明
講義目的、講義概要		授業計画	
中国語Ⅲの授業では、Ⅰ、Ⅱで学習した内容の定着を図るとともに、発音の矯正を行い、日常会話レベルの中国語運用能力を目指します。 授業では、 1、中国語のリスニングの練習を行います。 2、書き取った中国語の暗記・暗唱・会話練習を行います。 3、必要に応じて、文法事項などの補足説明、応用練習を行います。 4、毎回小テストを行います。		第1回：概説・復習 第2回：リスニング、答え合わせ 第3回：暗記・暗唱 第4回：リスニング、答え合わせ 第5回：暗記・暗唱 第6回：リスニング、答え合わせ 第7回：暗記・暗唱 第8回：総合練習 第9回：リスニング、答え合わせ 第10回：暗記・暗唱 第11回：リスニング、答え合わせ 第12回：暗記・暗唱 第13回：リスニング、答え合わせ 第14回：暗記・暗唱 第15回：総合練習	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし(毎回資料を用意します)		出席点 10%、小テスト 20%、期末試験 70%	

08年度以降 05～07年度	中国語(IIIb 会話) 中国語IIIb(会話)	担当者	頼 明
講義目的、講義概要		授業計画	
中国語Ⅲの授業では、Ⅰ、Ⅱで学習した内容の定着を図るとともに、発音の矯正を行い、日常会話レベルの中国語運用能力を目指します。 授業では、 1、中国語のリスニングの練習を行います。 2、書き取った中国語の暗記・暗唱・会話練習を行います。 3、必要に応じて、文法事項などの補足説明、応用練習を行います。 4、毎回小テストを行います。		第1回：概説・復習 第2回：リスニング、答え合わせ 第3回：暗記・暗唱 第4回：リスニング、答え合わせ 第5回：暗記・暗唱 第6回：リスニング、答え合わせ 第7回：暗記・暗唱 第8回：総合練習 第9回：リスニング、答え合わせ 第10回：暗記・暗唱 第11回：リスニング、答え合わせ 第12回：暗記・暗唱 第13回：リスニング、答え合わせ 第14回：暗記・暗唱 第15回：総合練習	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし(毎回資料を用意します)		出席点 10%、小テスト 20%、期末試験 70%	

08年度以降 05～07年度	中国語(Ⅲa 講読・文法) 中国語Ⅲa(講読・文法)	担当者	平野 佐和
講義目的、講義概要		授業計画	
読解・応用練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに、中国語の文章を読むのに慣れ、教科書以外の文章も自力で読むのに必要な豊かな読解力の養成を目指します。 読解では、変貌を遂げつつある中国社会を理解する一助として新しい社会を反映する新語、流行語を含む時事文を対象とし、中国語の文の構造に注意をはらい正確に読み取る力を養います。 他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習（解釈・作文）も並行して行います。		1. 第1課 読解 2. 第1課 読解の手がかり 3. 第2課 読解 4. 第2課 読解の手がかり 5. 第3課 読解 6. 第3課 読解の手がかり 7. 第4課 読解 8. 第4課 読解の手がかり 9. 第5課 読解 10. 第5課 読解の手がかり 11. 第6課 読解 12. 第6課 読解の手がかり 13. 第7課 読解 14. 第7課 読解の手がかり 15. 総復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『2012年度版 時事中国語の教科書』 朝日出版社		期末試験 60%・平常点（出席・発表・課題・参加姿勢） 40% によって評価します。	

08年度以降 05～07年度	中国語(Ⅲb 講読・文法) 中国語Ⅲb(講読・文法)	担当者	平野 佐和
講義目的、講義概要		授業計画	
読解・応用練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに、中国語の文章を読むのに慣れ、教科書以外の文章も自力で読むのに必要な豊かな読解力の養成を目指します。 読解では、変貌を遂げつつある中国社会を理解する一助として新しい社会を反映する新語、流行語を含む時事文を対象とし、中国語の文の構造に注意をはらい正確に読み取る力を養います。 他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習（解釈・作文）も並行して行います。		1. 第8課 読解 2. 第8課 読解の手がかり 3. 第9課 読解 4. 第9課 読解の手がかり 5. 第10課 読解 6. 第10課 読解の手がかり 7. 第11課 読解 8. 第11課 読解の手がかり 9. 第12課 読解 10. 第12課 読解の手がかり 11. 第13課 読解 12. 第13課 読解の手がかり 13. 第14課 読解 14. 第14課 読解の手がかり 15. 第15課 読解・読解の手がかり	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『2012年度版 時事中国語の教科書』 朝日出版社		期末試験 60%・平常点（出席・発表・課題・参加姿勢） 40% によって評価します。	

08 年度以降 05～07 年度	韓国語(Ia 総合) 朝鮮語 I a(総合)	担当者	金 泰植
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目標) 本講義は、初めて韓国語を学ぶ学生を対象に、基礎的な知識の習得を目標とする。 (講義概要) 前半の授業において文字（ハングル）の発音と書き方を身につけ、後半ではテキストの内容に沿って韓国語の基礎的な文法と表現を学ぶ。具体的には、平叙・疑問・否定文の作り方、所有、存在の有無などを学ぶ。また授業中には、朝鮮半島の文化や生活について随時紹介し、映像もみることとする。 (受講生への要望) 週に一回の講義で外国語を習得することは大変です。講義目標を達成するために毎時間行う単語テストと予習をしっかりとってください。また出来る限り韓国語の辞典を準備してください。		1 回 ガイダンス 2 回～6 回 文字の発音と書き方 7 回～15 回 「私は日本人です」 「これは何ですか」 「誰の本ですか」 「学校はどこにありますか」 「何をしますか」 「どこに行きますか」 など	
テキスト、参考文献		評価方法	
李昌圭『韓国語をはじめよう 初級』朝日出版社		出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテスト、課題および平常点（50％）と定期試験の成績（50％）を総合して評価する	

08 年度以降 05～07 年度	韓国語(Ib 総合) 朝鮮語 I b(総合)	担当者	金 泰植
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目標) 前期に引き続き、基礎的な文法と表現をしっかり身に付けていき、基礎過程の完成を目指す。 (講義概要) 授業では、テキストの内容に沿って、基本文型を中心に韓国語の文法と表現を学び、練習問題を通じて学んだことを確かめる。具体的には、数詞、助詞、尊敬形、丁寧形、過去形などを学んでいく。また授業中には、朝鮮半島の文化や生活についても随時紹介する。 (受講生への要望) 週に一回の講義で外国語を習得することは大変です。講義目標を達成するために毎時間行う単語テストと予習をしっかりとってください。また出来る限り韓国語の辞典を準備してください。		1 回 前期の復習 2 回～15 回 「天気はどうですか」 「今日は何日ですか」 「一個いくらですか」 「何時に起きますか」 「どこにお住まいですか」 「週末に何をしますか」 「昨日何をしましたか」 「今何をしていますか」 「何を食べましょうか」 など	
テキスト、参考文献		評価方法	
李昌圭『韓国語をはじめよう 初級』朝日出版社		出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテスト、課題および平常点（50％）と定期試験の成績（50％）を総合して評価する	

08年度以降 07年度以前	韓国語(Ia 総合) 朝鮮語 I a(総合)	担当者	金 鉉洙
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、初めて韓国語を学ぶ学生を対象に、韓国語の文字や発音、基礎的な文法事項の修得を目標とする。 ・ネイティブの発音に慣れ、正確な発音を身につけるようにする。 ・基本的な文法事項を学び、簡単な挨拶、自己紹介などの初級の会話ができるようにする。 ・辞書の引き方を習得し、常に活用できるようにする。 ・韓国/朝鮮の歴史、文化、社会などについても学び、異文化への理解を深める。 ※受講に際して予備知識は必要ないが、授業に欠席せず、予習や復習を徹底的にする心構えを持ってほしい。		1. 授業ガイダンス、韓国/朝鮮の歴史、文化、社会 2. 韓国語と文字(系統と特徴、文字の仕組み) 3. 基本母音 4. 基本子音① 5. 基本子音② 6. 基本子音③(激音) 7. 合成子音字(濃音) 8. 合成母音字 9. パッチム 10. 発音の変化①(有声音化/連音化/舌側音化/濃音化) 11. 発音の変化②(音の変化/口蓋音化/鼻音化) 12. 日本語のハングル表記法、辞書の引き方 13. 私は日本人です。(自己紹介) 14. これは何ですか。(指示代名詞①/体言の否定表現) 15. 前期授業の総まとめ(文字、発音など)	
テキスト、参考文献		評価方法	
李昌圭『書いて身につくテキスト 韓国語をはじめよう(初級)』(朝日出版社、2400円+税) この他に辞書、参考書などについては必要に応じて授業中に紹介する。		授業への参加度、出席、テストなどを総合して評価する。 【平常点 20%、提出物 20%、テスト 60% なお、韓国語関連の語学資格取得者は成績に大いに反映する。】	

08年度以降 07年度以前	韓国語(Ib 総合) 朝鮮語 I b(総合)	担当者	金 鉉洙
講義目的、講義概要		授業計画	
前期授業に引き続き、韓国語の文字や発音、基礎的な文法事項を修得しつつ、様々な表現にチャレンジする。 ・ネイティブの発音に慣れ、正確な発音を身につけるようにする。 ・新たな文法事項や表現を学び、日常生活における簡単な会話(買い物など)ができるようにする。 ・辞書の引き方を習得し、常に活用できるようにする。 ・韓国/朝鮮の歴史、文化、社会などについても学び、異文化への理解を深める。 ※受講に際して予備知識は必要ないが、授業に欠席せず、予習や復習を徹底的にする心構えを持ってほしい。		1. 前期授業の復習と学生による自己紹介(簡単な会話) 2. 誰の本ですか。(指示代名詞②) 3. 学校はどこにありますか。(場所/位置関係の言葉) 4. 何をしますか。(丁寧な表現①) 5. どこに行きますか。(用言の否定表現/～しに) 6. 天気はどうですか。(疑問詞) 7. 今日は何日ですか。(漢数詞) 8. 一つにいくらですか。(固有数詞) 9. 何時に起きますか。(時間/～から～まで) 10. どこにお住まいですか。(敬語①) 11. 週末に何をしますか。(丁寧な表現②) 12. 昨日何をしましたか。(過去形) 13. 今何をしていますか。(敬語②) 14. 何を食べましょうか。(勧誘/提案/意思/命令の表現) 15. 後期授業の総まとめ(簡単な会話)	
テキスト、参考文献		評価方法	
李昌圭『書いて身につくテキスト 韓国語をはじめよう(初級)』(朝日出版社、2400円+税) この他に辞書、参考書などについては必要に応じて授業中に紹介する。		授業への参加度、出席、テストなどを総合して評価する。 【平常点 20%、提出物 20%、テスト 60% なお、韓国語関連の語学資格取得者は成績に大いに反映する。】	

08 年度以降 05～07 年度	韓国語(Ia 総合) 朝鮮語 I a(総合)	担当者	呉 吉煥 (オ・ギルハン)
講義目的、講義概要		授業計画	
前期の講義では、韓国語文字（ハングル）の読み方と書き方などを中心に韓国語の知識について学び、正確な発音と正しい書き方を覚え、また文意を理解するための基礎的な文法を身に付けることを目指す。 授業では、ハングルの発音と書き方をしっかり学びつつ、教室で使う用語や挨拶文などの簡単な会話も覚えていく。その後、後半の授業では、テキストの本文にある基本文型を中心に韓国語の文法と表現を学ぶ。そして授業中には、朝鮮半島の社会や文化などについても随時紹介する。		1 回 ガイダンス、ハングルについて 2 回 母音（1） 3 回 子音（1） 4 回 子音（2） 5 回 母音（2） 6 回 子音（3） 7 回 終声（1）、発音のまとめ 8 回 連音化（1）、日本語のハングル表記など 9 回 復習または補助教材 10 回 最敬体の表現 11 回 終声（2）、助詞（1）など 12 回 鼻音化、助詞（2）など 13 回 連音化（2）、指示詞（1）など 14 回 助詞（3）、激音化など 15 回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
油谷幸利『総合韓国語』1（白帝社、2005 年）		出席・授業への参加度・小テスト：50％、期末試験：50％	

08 年度 05～07 年度	韓国語(Ib 総合) 朝鮮語 I b(総合)	担当者	呉 吉煥 (オ・ギルハン)
講義目的、講義概要		授業計画	
前期に引き続き、韓国語の正しい読み方と書き方を練習しつつ、基礎的な文法と表現をしっかり身に付けていくことで、基礎過程の完成を目指す。 授業はテキストの内容に沿って、まず基本文型を中心に韓国語文章の発音に注意しながら、さまざまな文法表現について学ぶ。そして練習問題を通じて学んだことを確かめる。また授業中には、朝鮮半島の社会や文化などについても随時紹介する。		1 回 前期の復習 2 回 敬体の表現（1）など 3 回 敬体の表現（2）など 4 回 体言の否定、指示詞（2） 5 回 用言の否定形と不可能形の表現 6 回 助詞（4）、作文練習 7 回 漢数詞（1）、人称代名詞 8 回 指示詞（3）、日付など 9 回 用言の過去形 10 回 復習または補助教材 11 回 固有数詞（1） 12 回 固有数詞（2）、時刻 13 回 漢数詞（2）、助数詞 14 回 用言の未来形 15 回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
油谷幸利『総合韓国語』1（白帝社、2005 年）		出席・授業への参加度・小テスト：50％、期末試験：50％	

08 年度以降 05～07 年度	韓国語(Ia 講読・会話) 朝鮮語 I a(講読・会話)	担当者	金 泰植
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目的) 本講義は、韓国語初心者を対象に読み書き能力に関する基礎的な知識の習得と同時に、会話の基礎的な表現力を身につけることを目標とする。 (講義概要) テキストに従い、韓国語の基礎的な知識を習得する。習ったことに対する問題を解き、ペアやグループでの会話の練習なども行う。 また授業中には、朝鮮半島の文化や生活について随時紹介し、映像もみることとする。 (受講生への要望) 毎時間行う単語テストと予習をしっかりとってください。また出来る限り韓国語の辞典を準備してください。		1 ガイダンス 2 基本母音字 3 複合母音字 4 濃音、パッチム 5 発音規則 6 復習 1、映像資料 7 はじめまして。私はチェ・ユリです 8 はじめまして。私はチェ・ユリです 9 これは何ですか 10 これは何ですか 11 あの人は誰ですか? 12 あの人は誰ですか? 13 誕生日はいつですか? 14 誕生日はいつですか? 15 前期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プルチョウ・吉岡美愛、李英和『韓国語ゴージャス』白水社		出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテスト、課題および平常点 (50%) と定期試験の成績 (50%) を総合して評価する	

08 年度以降 05～07 年度	韓国語(Ib 講読・会話) 朝鮮語 I b(講読・会話)	担当者	金 泰植
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目的) 本講義は前期に引き続き、韓国語初心者を対象に読み書き能力に関する基礎的な知識の習得と同時に、会話の基礎的な表現力を身につけることを目標とする。講義終了後には、ハングル能力検定試験 5 級程度の韓国語能力を身につける。 (講義概要) テキストに従い、韓国語の基礎的な知識を習得する。習ったことに対する問題を解き、ペアやグループでの会話の練習なども行う。 また授業中には、朝鮮半島の文化や生活について随時紹介し、映像もみることとする。 (受講生への要望) 毎時間行う単語テストと予習をしっかりとってください。また出来る限り韓国語の辞典を準備してください。		1 前期の復習 2 誕生日はいつですか? 3 誕生日はいつですか? 4 今何時ですか? 5 今何時ですか? 6 復習 1、映像資料 7 「はじめまして。私はチェ・ユリです」 8 「はじめまして。私はチェ・ユリです」 9 「これは何ですか」 10 「これは何ですか」 11 「あの人は誰ですか?」 12 「あの人は誰ですか?」 13 復習 2 14 復習 3 15 後期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プルチョウ・吉岡美愛、李英和『韓国語ゴージャス』白水社		出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテスト、課題および平常点 (50%) と定期試験の成績 (50%) を総合して評価する	

08年度以降 05～07年度	韓国語(Ia 講読・会話) 朝鮮語 I a(講読・会話)	担当者	呉 吉煥 (オ・ギルハン)
講義目的、講義概要		授業計画	
前期の講義では、韓国語文字（ハングル）の正しい読み方と書き方を覚え、基礎的な会話能力の習得を目指す。 まず前半の授業では、ハングルの発音と書き方をしっかり学びつつ、教室で使う用語や挨拶文など、簡単な会話も覚えていく。そして後半の授業では、テキストの内容に沿って、本文の基本文型とそれに関連する会話の表現を覚えていく。また朝鮮半島の文化や生活についても、授業中に随時紹介する。		1回 ガイダンス・ハングルについて 2回 基本母音字母 3回 基本子音字母（1） 4回 基本子音字母（2） 5回 無声子音の有声音化 6回 派生子音字母（1） 7回 派生子音字母（2） 8回 終声（パッチム） 9回 発音の規則 10回 復習または補助教材 11回 自己紹介 12回 指示・所有の表現（1） 13回 指示・所有の表現（2） 14回 否定の表現 15回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
長谷川由起子『コミュニケーション韓国語－会話編1－』（白帝社）		出席・授業への参加度：30%、期末試験：70%	

08年度以降 05～07年度	韓国語(Ib 講読・会話) 朝鮮語 I b(講読・会話)	担当者	呉 吉煥 (オ・ギルハン)
講義目的、講義概要		授業計画	
後期の講義では、前期に引き続き、文字の正しい読み書きに注意しつつ、韓国語会話能力の向上を目指す。 授業はテキストの内容に沿って、本文の基本文型とそれに関連する日常的な会話の表現を身に付けていく。また授業では、朝鮮半島の文化や生活についても随時紹介する。		1回 前期の復習、漢語数詞の言い方 2回 買い物・固有語数詞の言い方（1） 3回 買い物・固有語数詞の言い方（2） 4回 存在の有無・年月日・曜日・年齢の言い方（1） 5回 存在の有無・年月日・曜日・年齢の言い方（2） 6回 時間の言い方（1） 7回 時間の言い方（2） 8回 うちとけた丁寧語の表現（1） 9回 うちとけた丁寧語の表現（2） 10回 好みの表現 11回 復習または補助教材 12回 過去・不可能の表現（1） 13回 過去・不可能の表現（2） 14回 希望の表現 15回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
長谷川由起子『コミュニケーション韓国語－会話編1－』（白帝社）		出席・授業への参加度：30%、期末試験：70%	

08 年度 05～07 年度	韓国語(Ia 講読・会話) 朝鮮語 I a(講読・会話)	担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は韓国語をはじめて学ぶ人を対象にし、ハングル文字の発音、読み書きと挨拶や自己紹介など単文中心の簡単な表現を学んでいく。さらに、韓国語を学んでいく上に必要な基礎文法や基本文型を学習し、日常会話の基本フレーズを身につけて簡単なコミュニケーションができるように練習していく。そのため、授業中には積極的な参加が求められる。		1 韓国語とハングル文字、基本母音 2 基本子音 3 合成母音 4 バッチム 5 発音規則 6 文字と発音のおさらい、韓国語の文法的な仕組み 7 Review 8 私は日本人です 9 これは何ですか 10 誰の本ですか 11 学校はどこにありますか 12 何をしますか 13 どこに行きますか 14 会話練習（簡単な自己紹介等） 15 Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
李昌圭『韓国語をはじめよう』朝日出版社、2009 年		出席、中間テスト、期末テスト、課題	

08 年度 05～07 年度	韓国語(Ib 講読・会話) 朝鮮語 I b(講読・会話)	担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は韓国語をはじめて学ぶ人を対象にし、ハングル文字の発音、読み書きと挨拶や自己紹介など単文中心の簡単な表現を学んでいく。さらに、韓国語を学んでいく上に必要な基礎文法や基本文型を学習し、日常会話の基本フレーズを身につけて簡単なコミュニケーションができるように練習していく。そのため、授業中には積極的な参加が求められる。		1 前期のおさらい 2 天気はどうですか 3 今日は何日ですか 4 数詞 1 5 数詞 2 6 数詞 3 7 Review 8 どこに住んでいますか 9 週末に何をしますか 10 昨日は何をしましたか 11 Review 12 今何をしていますか 13 何を食べましょうか 14 会話練習 15 Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
李昌圭『韓国語をはじめよう』朝日出版社、2009 年		出席、中間テスト、期末テスト、課題	

08年度以降 05～07年度	韓国語(IIa 総合) 朝鮮語 II a(総合)	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、韓国語初級を修了した学生を対象として、韓国語中級を講義します。 ここでいう初級とは、 (1)文字が読め、基本的な発音変化を理解している。 (2)体言と用言のハムニダ体・ヘヨ体を理解している。 (3)用言の尊敬、過去形を理解している。 (4)漢字語数詞、固有語数詞を理解している。 (5)基本的な接尾辞を理解している。 を意味します。 授業では、まず初級課程の復習から初め、単語の習得と応用練習を増やしつつ、徐々に中級課程に入っていきます。春学期での中心的な文法事項は、変則用言と連体形です。 参加者の習熟度や人数によって進度を調節していきます。 受講を希望する学生は、最初の授業に参加する時に、初級で使ったテキストを必ず持参してください。また、ほぼ毎回小テストと暗記を課しますので、継続して参加できるやる気のある学生だけを募集します。		1. ガイダンス：実力診断テスト 2. 初級の復習 (1) 3. 初級の復習 (2) 4. 初級の復習 (3) 5. リウル語幹 6. ウ変則用言 7. p変則用言 8. t変則用言 9. s変則用言 10. ル変則用言 11. 現在連体形 12. 過去連体形 13. 未来連体形 14. 応用練習 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは開講時に指示する。 授業で使う単語集は講師が作成する。		小テスト (50%)、期末試験 (50%) ※ただし、期末試験が50点未満の場合は単位を与えません。	

08年度 05～07年度	韓国語(IIb 総合) 朝鮮語 II b(総合)	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、春学期に続き、韓国語中級を講義します。秋学期では、接続語尾と終了語尾を中心として学習していきます。		1. ガイダンス 2. 接続語尾(1) 3. 接続語尾(2) 4. 接続語尾(3) 5. 接続語尾(4) 6. 接続語尾(5) 7. 接続語尾(6) 8. 終了語尾(1) 9. 終了語尾(2) 10. 終了語尾(3) 11. 終了語尾(4) 12. 終了語尾(5) 13. 終了語尾(6) 14. 終了語尾(7) 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時に指示する。 授業で使う単語集は講師が作成する。		小テスト (50%)、期末試験 (50%) ※ただし、期末試験が50点未満の場合は単位を与えません。	

08年度 05～07年度	韓国語(IIa 講読・会話) 朝鮮語 II a(講読・会話)	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、韓国語初級を修了した学生を対象として、韓国語中級を講義します。プログラムの基本は韓国語（総合）と同じですが、会話に中心をおきます。 ここでいう初級とは、 (1)文字が読め、基本的な発音変化を理解している。 (2)体言と用言のハムニダ体・ヘヨ体を理解している。 (3)用言の尊敬、過去形を理解している。 (4)漢字語数詞、固有語数詞を理解している。 (5)基本的な接尾辞を理解している。 を意味します。 授業では、まず初級課程の復習から初め、単語の習得と応用練習を増やしつつ、徐々に中級課程に入っていきます。春学期での中心的な文法事項は、変則用言と連体形です。 参加者の習熟度や人数によって進度を調節していきます。 受講を希望する学生は、最初の授業に参加する時に、初級で使ったテキストを必ず持参してください。また、ほぼ毎回小テストと暗記を課しますので、継続して参加できるやる気のある学生だけを募集します。		1. ガイダンス：実力診断テスト 2. 初級の復習 (1) 3. 初級の復習 (2) 4. 初級の復習 (3) 5. リウル語幹 6. ウ変則用言 7. p変則用言 8. t変則用言 9. s変則用言 10. ル変則用言 11. 現在連体形 12. 過去連体形 13. 未来連体形 14. 応用練習 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時に指示する。 授業で使う単語集は講師が作成する。		小テスト (50%)、期末試験 (50%) ※ただし、期末試験が50点未満の場合は単位を与えません。	

08年度以降 05～07年度	韓国語(IIb 講読・会話) 朝鮮語 II b(講読・会話)	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、春学期に続き、韓国語中級を講義します。秋学期では、接続語尾と終了語尾を中心として学習していきます。		1. ガイダンス 2. 接続語尾(1) 3. 接続語尾(2) 4. 接続語尾(3) 5. 接続語尾(4) 6. 接続語尾(5) 7. 接続語尾(6) 8. 終了語尾(1) 9. 終了語尾(2) 10. 終了語尾(3) 11. 終了語尾(4) 12. 終了語尾(5) 13. 終了語尾(6) 14. 終了語尾(7) 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時に指示する。 授業で使う単語集は講師が作成する。		小テスト (50%)、期末試験 (50%) ※ただし、期末試験が50点未満の場合は単位を与えません。	

08年度以降 07年度以前	外国語(イタリア語 Ia 基礎) イタリア語 Ia	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。		1 ガイダンスと導入(イタリア語のアルファベット) 2 イタリア語の発音について 3 名詞と冠詞(1) 4 名詞と冠詞(2) 5 挨拶の表現、形容詞 6 イタリア語の be 動詞と have 動詞: essere と avere 7 規則動詞の現在形(1) 8 規則動詞の現在形(2) 9 規則動詞の現在形(3) 10 会話表現:自分の名前を言う、相手の名前を尋ねる 11 前置詞 12 不規則で重要な動詞(1) 13 不規則で重要な動詞(2) 14 不規則で重要な動詞(3) 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書:ナンニーニ アルダ、藤谷道夫『入門イタリア語の最初歩』(三修社)／推薦する辞書:『伊和中辞典』(小学館)／その他に適宜プリントを配布する。		平素の学習態度と、授業内に随時行う小テストの成績による。特別な事情がない限り、あまりにも欠席回数が多い者には単位を認めない。	

08年度以降 07年度以前	外国語(イタリア語 Ib 基礎) イタリア語 Ib	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。		1 会話表現:家族構成を話す 2 様態動詞(～できる、～しなくてはならない、～したい) 3 所有形容詞(1) 4 所有形容詞(2) 5 会話表現:住んでいる場所、出身地を話す 6 代名動詞(1) 7 代名動詞(2) 8 会話表現:あるものが存在するかしないかを聞く 9 比較級と最上級 10 近過去(1) 11 近過去(2) 12 直接・間接目的語代名詞 13 半過去(1) 14 半過去(2) 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書:ナンニーニ アルダ、藤谷道夫『入門イタリア語の最初歩』(三修社)／推薦する辞書:『伊和中辞典』(小学館)／その他に適宜プリントを配布する。		平素の学習態度と、授業内に随時行う小テストの成績による。特別な事情がない限り、あまりにも欠席回数が多い者には単位を認めない。	

08年度以降 05～07年度	外国語(イタリア語 Ia 基礎) イタリア語 Ia	担当者	島津 寛
講義目的、講義概要		授業計画	
(目的) 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします。 (概要) 伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習が中心となります。 (受講上の注意点) 教科書、辞書は必ず購入して下さい。		1) ガイダンス 2) 簡単な自己紹介・挨拶の練習(1) 3) 簡単な自己紹介・挨拶の練習(2) 4) 規則動詞の練習(1) 5) 規則動詞の練習(2) 6) 規則動詞の練習(3) 7) 規則動詞の練習(4) 8) 基本不規則動詞の練習(1) 9) 基本不規則動詞の練習(2) 10) 基本不規則動詞の練習(3) 11) 冠詞・形容詞・所有形容詞のまとめ(1) 12) 冠詞・形容詞・所有形容詞のまとめ(2) 13) 頻出不規則動詞の練習(1) 14) 頻出不規則動詞の練習(2) 15) 頻出不規則動詞の練習(3)	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書 一ノ瀬俊和『新ア・ゾンゾ(CD付)』朝日出版社、2009年。		平常点(宿題を含む)、小テスト、期末試験の成績をもとに総合的に判断します。	

08年度以降 05年～07年度	外国語(イタリア語 Ib 基礎) イタリア語 Ib	担当者	島津 寛
講義目的、講義概要		授業計画	
(目的) 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします。 (概要) 伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習が中心となります。		1) 人称代名詞の練習(1) 2) 人称代名詞の練習(2) 3) 近過去形の練習(1) 4) 近過去形の練習(2) 5) 近過去形の練習(3) 6) 近過去形の練習(4) 7) 近過去形の練習(5) 8) 再帰動詞の練習(1) 9) 再帰動詞の練習(2) 10) 再帰動詞の練習(3) 11) 半過去形の練習(1) 12) 半過去形の練習(2) 13) 半過去形の練習(3) 14) 半過去形の練習(4) 15) 半過去形の練習(5)	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書 一ノ瀬俊和『新ア・ゾンゾ(CD付)』朝日出版社、2009年。		平常点(宿題を含む)、小テスト、課題提出をもとに総合的に判断します。	

08 年度以降 05～07 年度	外国語(イタリア語 IIa 基礎) イタリア語 IIa	担当者	島津 寛
講義目的、講義概要		授業計画	
(目的) 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします。 (概要) 伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習が中心となりますが、単文を中心とする文法問題演習の単調さをおぎなうため、ストーリー性を備えた長めの会話テキストの使用も並行します。また 60 年代のカンツォーネを鑑賞し、その歌詞を解釈する作業もとります。		1) 過去形・再帰動詞の復習(1) 2) 過去形・再帰動詞の復習(2) 3) 過去形・再帰動詞の復習(3) 4) 過去形・再帰動詞の復習(4) 5) 過去形・再帰動詞の復習(5) 6) 大過去形の練習(1) 7) 大過去形の練習(2) 8) 未来形の練習(1) 9) 未来形の練習(2) 10) 条件法の練習(1) 11) 条件法の練習(2) 12) 条件法の練習(3) 13) 遠過去形の練習(1) 14) 遠過去形の練習(2) 15) 遠過去形の練習(3)	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書 入江たまよ『しっかり身につくイタリア語トレーニングブック』ベレ出版、2005 年。		平常点（宿題を含む）、小テスト、課題提出をもとに総合的に判断します。	

08 年度以降 05～07 年度	外国語(イタリア語 IIb 基礎) イタリア語 IIb	担当者	島津 寛
講義目的、講義概要		授業計画	
(目的) 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします。 (概要) 前半は伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習が中心となります。後半では受講者のレベルに応じて、時事的な文章、小説を中心とした文学作品、映画のシナリオなどの実践的テキストを講読し、読解力養成を図ります。最終授業ではしめくりとしてイタリア映画の鑑賞を行います。		1) 接続法の練習(1) 2) 接続法の練習(2) 3) 接続法の練習(3) 4) 接続法の練習(4) 5) 接続法の練習(5) 6) 接続法の練習(6) 7) 接続法の練習(7) 8) 講読(1) 9) 講読(2) 10) 講読(3) 11) 講読(4) 12) 講読(5) 13) 講読(6) 14) 講読(7) 15) 映画鑑賞	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書 入江たまよ『しっかり身につくイタリア語トレーニングブック』ベレ出版、2005 年。		平常点（宿題を含む）、小テスト、課題提出をもとに総合的に判断します。	

08 年度以降 07 年度以前	外国語(ポルトガル語 Ia 文法) ポルトガル語 Ia(文法)	担当者	牧野 真也
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義はポルトガル語を初めて学習する人を対象としており、後期のポルトガル語 I b に続く形でポルトガル語の初級文法を学びます。 授業では、教科書の対話テキストの理解を出発点としながら、基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、教科書と補助プリントを用いつつ、必要に応じて英語などと対照させながら説明していく予定です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。 質問等は itakanro@hotmail.com まで。		01. ガイダンス、教科書用プリント配布、文字と発音 02. 主格人称代名詞、不規則動詞 ser、否定文、真偽疑問文 03. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞、形容詞の性数変化 04. 規則動詞の直説法現在形(1)、基本前置詞 de, em, com 05. 不規則動詞 estar、所有詞、基数詞(1) 06. 規則動詞の直説法現在形(2)、疑問詞、指示詞、曜日名 07. 不規則動詞の直説法現在形(1)、基本前置詞 a, para, por 08. 規則動詞の直説法過去形、不規則動詞の直説法過去形(1) 09. 不規則動詞の直説法現在形(2)と直説法過去形(2) 10. 対格・与格人称代名詞、序数詞(1) 11. 再帰人称代名詞、再帰動詞、基数詞(2)、序数詞(2) 12. 感嘆文、強調構文(1)、時間表現(1) 13. 直説法半過去形、月日表現、名詞・形容詞の不規則な複数形 14. 関係代名詞 que と quem(1)、接尾辞-inho、命令形 15. 過去分詞、直説法大過去形、接尾辞-mente、絶対最上級	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：講師がプリント形式で用意します 辞書：上記を参照のこと		出席点 5 割 + 定期試験点 5 割とし、60 点以上の者を合格とします。	

08 年度以降 07 年度以前	外国語(ポルトガル語 Ib 文法) ポルトガル語 Ib(文法)	担当者	牧野 真也
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では前期のポルトガル語 Ia に引き続いてポルトガル語の初級文法を学びます。 授業では、教科書の対話テキストの理解を出発点としながら、基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、教科書と補助プリントを用いつつ、必要に応じて英語などと対照させながら説明していく予定です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。 質問等は itakanro@hotmail.com まで。		01. 優等比較級、劣等比較級 02. 同等比較級、相対最上級 03. 法動詞 poder と dever、完了不定詞、人称不定詞 04. 受動文、結果構文 05. 斜格人称代名詞、不規則動詞の直説法現在形(3) 06. 直説法複合過去形、二重過去分詞 07. 直説法未来形、直説法前未来形、気象表現 08. 直説法過去未来形、直説法過去前未来形、時間表現(2) 09. 現在分詞句、補文標識 se 10. 過去分詞句、関係代名詞 o que と quem(2)、指示詞 o 11. 関係代名詞 o qual、関係形容詞 cujo 12. 接続法現在形(1)、強調構文(2) 13. 接続法半過去形、時間表現(3) 14. 接続法過去形、接続法大過去形 15. 接続法未来形、接続法前未来形、仮定文	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：講師がプリント形式で用意します 辞書：上記を参照のこと		出席点 5 割 + 定期試験点 5 割とし、60 点以上の者を合格とします。	

08年度以降 07年度以前	外国語(ポルトガル語 IIa 応用) ポルトガル語 II a	担当者	牧野 真也
講義目的、講義概要		授業計画	
ポルトガル語 I では a と b を通じて基礎的な文法を学びますが、II では、それに対応したより詳細な文法項目の説明と応用練習を行います。 現時点で授業内容としては、以下のものを考えています。 - 文法の補足的説明 - 単語の補強 - 筆記問題練習 - 作文練習 - 口頭練習 その他、機会があればポルトガル語圏の文化なども随時紹介する予定です辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。 質問等は itakanro@hotmail.com まで。		- ガイドンス、教科書用プリント配布、文字と発音 - 主格人称代名詞、不規則動詞 ser、否定文、真偽疑問文 - 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞、形容詞の性数変化 - 規則動詞の直説法現在形(1)、基本前置詞 de, em, com - 不規則動詞 estar、所有詞、基数詞(1) - 規則動詞の直説法現在形(2)、疑問詞、指示詞、曜日名 - 不規則動詞の直説法現在形(1)、基本前置詞 a, para, por - 規則動詞の直説法過去形、不規則動詞の直説法過去形(1) - 不規則動詞の直説法現在形(2)と直説法過去形(2) - 対格・与格人称代名詞、序数詞(1) - 再帰人称代名詞、再帰動詞、基数詞(2)、序数詞(2) - 感嘆文、強調構文(1)、時間表現(1) - 直説法半過去形、月日表現、名詞・形容詞の不規則な複数形 - 関係代名詞 que と quem(1)、接尾辞-inho、命令形 - 過去分詞、直説法大過去形、接尾辞-mente、絶対最上級	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：講師がプリント形式で用意します 辞書：上記を参照のこと		出席点 5 割 + 定期試験点 5 割とし、60 点以上の者を合格とします。	

08年度以降 07年度以前	外国語(ポルトガル語 IIb 応用) ポルトガル語 II b	担当者	牧野 真也
講義目的、講義概要		授業計画	
ポルトガル語 I では a と b を通じて基礎的な文法を学びますが、II では、それに対応したより詳細な文法項目の説明と応用練習を行います。 現時点で授業内容としては、以下のものを考えています。 - 文法の補足的説明 - 単語の補強 - 筆記問題練習 - 作文練習 - 口頭練習 その他、機会があればポルトガル語圏の文化なども随時紹介する予定です辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。 質問等は itakanro@hotmail.com まで。		- 優等比較級、劣等比較級 - 同等比較級、相対最上級 - 法動詞 poder と dever、完了不定詞、人称不定詞 - 受動文、結果構文 - 斜格人称代名詞、不規則動詞の直説法現在形(3) - 直説法複合過去形、二重過去分詞 - 直説法未来形、直説法前未来形、気象表現 - 直説法過去未来形、直説法過去前未来形、時間表現(2) - 現在分詞句、補文標識 se - 過去分詞句、関係代名詞 o que と quem(2)、指示詞 o - 関係代名詞 o qual、関係形容詞 cujo - 接続法現在形(1)、強調構文(2) - 接続法半過去形、時間表現(3) - 接続法過去形、接続法大過去形 - 接続法未来形、接続法前未来形、仮定文	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：講師がプリント形式で用意します 辞書：上記を参照のこと		出席点 5 割 + 定期試験点 5 割とし、60 点以上の者を合格とします。	

08 年度以降 05～07 年度	外国語（ロシア語 I a 総合） ロシア語 I a（総合）	担当者	齊藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
初心者を対象としたロシア語クラスです。 アルファベット（キリル文字）の読み書きから始め、秋学期を含めた一年間でロシア語文法の初歩をマスターすることを目指します。 ロシア語を身につけることが、皆さんにとって様々な意味で豊かな糧となる時代がすでにやってきました。この機会にぜひロシア語の世界をのぞいてみてください。 会話を中心とした「ロシア語 I 会話」とあわせて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。		教科書の第 9 課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。 1-8 アルファベット（キリル文字）の発音・書き方、基本的な文型（平叙文、疑問文、否定文） 9-10 名詞の性、形容詞類の変化 11-12 動詞の現在変化（1） 13-14 場所の表現（1）（前置詞、名詞の格変化の導入） 15 予備日 教室では受講者の皆さん一人一人の練習に重点を置きます。春学期はとくに発音の練習に力を入れます。 ロシアの地理・歴史・文化についても話してゆくつもりです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林）辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。		①期末試験、②出席・小テスト・授業態度などの平常点。	

08 年度以降 05～07 年度	外国語（ロシア語 I b 総合） ロシア語 I b（総合）	担当者	齊藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
「ロシア語 Ia 総合」の続きの授業です。「Ia」と同じ教科書を持ちいて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。		教科書の第 18 課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。 1 場所の表現（2）（前置詞） 2 動詞の現在変化（2） 3 不規則動詞の現在変化 4-5 形容詞の変化 6-7 名詞の複数形 8-9 名詞の格変化（1）生格 10-11 名詞の格変化（2）対格 12 動詞の過去変化 13-14 運動の動詞、方向の表現 15 予備日	
テキスト、参考文献		評価方法	
黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林）辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。		①期末試験、②出席・小テスト・授業態度などの平常点。	

08年度以降 05～07年度	外国語（ロシア語 Ia 会話） ロシア語 I a(会話)	担当者	小西 昌隆
講義目的、講義概要		授業計画	
このクラスははじめてロシア語を学ぶ人を対象としています。 キリル文字といわれるロシア語アルファベットの文字と発音に慣れるところから始めて、会話を中心にしながらロシア語の基礎を学習していきます。自己紹介や挨拶、買い物、道の訊ね方等、日常に必要な表現を習得します。 ロシアは政治的にはもちろん、近年経済的なプレゼンスを高めつつあり、日本もそうした面で深く関わりをもつようになってきています。その意味でロシア語はますます重要性を増してゆく言語だといえるでしょう。しかしロシアはそれだけでなく実に多様で奥深い文化的足跡を残してきた国です。ロシア語学習に奥行きをもたせるためにも、授業のなかでおもに映像によりながらロシアの現在や文化の一端を紹介していきたいと思います。		1. ガイダンス 2. 文字と発音 (1) 3. 文字と発音 (2) 4. 文字と発音 (3) 5. 名詞の性、代名詞 6. 形容詞の変化 7. 名詞の複数形 8. 所有代名詞 9. 人称代名詞 10. 動詞の現在形 (1) 11. 名詞の対格 (1) 12. 願望の表現 13. 命令形の表現 14. まとめ 15. 映画鑑賞 ※ その他、授業のなかで随時ロシアの文化を紹介する時間をもちたいと思います。	
テキスト、参考文献		評価方法	
中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。		期末試験および出席率、授業態度をもとに評価します。	

08年度以降 05～07年度	外国語（ロシア語 Ib 会話） ロシア語 I b(会話)	担当者	小西 昌隆
講義目的、講義概要		授業計画	
ロシア語 Ia の続きの授業になります。 春学期の復習を行い、習熟度を深めた上で、ロシア語の基礎学習を進め、またあらたに具体的な状況に即した口語表現を身につけていきます。		1. 春学期の復習 2. 方向と場所の表現 3. 時間の表現 4. 年齢の表現 5. 運動の動詞 6. 名詞の生格、所有の表現 7. 曜日の表現 8. 未来の表現 9. 形容詞の変化 10. 名詞の前置格と場所の表現 11. 動詞の過去 12. 名詞の対格 (2) 13. 人称代名詞の対格 14. まとめ 15. 映画鑑賞 ※ その他、授業のなかで随時ロシアの文化を紹介する時間をもちたいと思います。	
テキスト、参考文献		評価方法	
中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。		期末試験および出席率、授業態度をもとに評価します。	

08年度以降 05～07年度	外国語（ロシア語Ⅱa 総合） ロシア語Ⅱa（総合）	担当者	齊藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
昨年度の「ロシア語Ⅰ 総合」の続編の授業です。昨年度と同じ教科書を用いて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。春学期、および秋学期の最初のうちにこの教科書を終え、ロシア語文法の基礎（検定試験4級程度）をしっかりとマスターすることを目標にします。 会話を中心とした「ロシア語Ⅱ 会話」とあわせて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。 昨年度「ロシア語Ⅰ 総合」を履修していなくても、ロシア語の初歩を勉強したことがある人ならば受講可能です。		教科書の第17課から始めます。学習事項としては、ロシア語文法のかなめである「格変化」（日本語の助詞に相当）が中心になります。 1-2 運動の動詞、方向の表現 3-4 格変化・生格 5-6 格変化・前置格 7 まとめと応用（数詞） 8-9 格変化・与格 10-11 状態の表現（無人称文） 12 未来の表現 13-14 数詞と名詞 15 予備日 さらに、ロシア語学習には不可欠なアルファベット筆記体の書き方、および辞書の引き方を練習し、プリント教材を用いて簡単な文章の読解練習も始めます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林）辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。		①期末試験、②出席・小テスト・授業態度などの平常点。	

08年度以降 05～07年度	外国語（ロシア語Ⅱb 総合） ロシア語Ⅱb（総合）	担当者	齊藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
「ロシア語Ⅱa 総合」の続きの授業です。最終的に、辞書を引きながら自力で簡単なロシア語の文章を読めるだけの力（検定試験3級程度）を身につけることを目標にします。		教科書の残りの課を終えたうえで、プリント教材を用いて、ロシア語の文章の読解練習、および新たな文法事項の習得を行なってゆきます。これまでの復習や、基本単語の習得にも多く時間を割きます。 1-2 格変化・造格 3-4 まとめと応用（前置詞と格変化） 5-7 動詞の体（不完了体と完了体） 8-10 読解練習、格変化の総まとめ 11 読解練習、形容詞短語尾 12 読解練習、比較級・最上級 13 読解練習、関係代名詞、不定人称文 14 読解練習 15 予備日	
テキスト、参考文献		評価方法	
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』（大学書林）辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。		①期末試験、②出席・小テスト・授業態度などの平常点。	

08年度以降 05～07年度	外国語（ロシア語Ⅱa 会話） ロシア語Ⅱa(会話)	担当者	小西 昌隆
講義目的、講義概要		授業計画	
「ロシア語Ⅰ 会話」の続きの授業ですが、「ロシア語Ⅰ」の既習者、およびロシア語の初歩を学んだことのある人を対象とします。 この授業では学んだことを生かして自分なりに文章を作り上げられるようになることを目標にします。 教科書は「ロシア語Ⅰ 会話」で前年度に使用したものを引き続き使っていきます。		1. ガイダンス 2. 曜日の表現 3. 未来の表現（1） 4. 名詞の前置格と場所の表現 5. 「ーの中に」と「ーの上に」 6. 過去の表現 7. 名詞の対格 8. 人称代名詞の対格 9. まとめ 10. 名詞の与格 11. 名詞の造格 12. 不完了体動詞と完了体動詞（1） 13. 不完了体動詞と完了体動詞（2） 14. まとめ 15. 映画鑑賞 ※ その他、授業のなかで随時ロシアの文化を紹介する時間を持ちたいと思います。	
テキスト、参考文献		評価方法	
中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。		レポートおよび出席率、小テスト等の平常点をもとに評価します。	

08年度以降 05～07年度	外国語(ロシア語Ⅱb 会話) ロシア語Ⅱb(会話)	担当者	小西 昌隆
講義目的、講義概要		授業計画	
「ロシア語Ⅱa 会話」の続きの授業です。 春学期の復習を行い、習熟度を深めた上で学習を進め、またあらたに具体的な状況に即した口語表現を身につけていきます。		1. 春学期の復習 2. 未来の表現（2） 3. 形容詞の格変化 4. 「暑い」「寒い」等の表現 5. 運動の動詞 6. 前置詞のまとめ 7. 仮定の表現 8. 関係代名詞(1) 9. 関係代名詞(2) 10. 順序数詞（1） 11. 順序数詞（2） 12. 会話文を作る（1） 13. 会話文を作る（2） 14. まとめ 15. 映画鑑賞 ※ その他、授業のなかで随時ロシアの文化を紹介する時間を持ちたいと思います。	
テキスト、参考文献		評価方法	
中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。		レポートおよび出席率、小テスト等の平常点をもとに評価します。	

08年度以降 05～07年度	外国語（タイ語Ⅰa 会話） タイ語Ⅰa（会話）	担当者	江藤 双恵
講義目的、講義概要		授業計画	
入門レベルの標準タイ語会話を発音記号で学ぶ。声調、子音や母音の発音、発音記号の表記の仕方などの特徴を理解したうえで、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を学ぶ。また、その背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。 さらに、ディクテーションによって発音記号による表記の能力を高め、作文練習によって表現能力をつける。 映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。 なお、文字の読み書きはタイ語Ⅱaで学ぶ。Ⅱaの方が難易度が高いので、Ⅰaを先に履修することが望ましい。復習時間に余裕のある人は、両方同時に履修してもよい。また、昨年度も同様の科目を履修した人がもう一度この科目を申請する場合、昨年度とは異なる教科書を用いる場合もあるのでぜひとも講師に相談されたい。		1 導入：現代タイの状況、タイ語を学ぶ意義について 発音練習（声調・数字・子音・母音）	
		2 会話1（挨拶、所在に関する表現）	
		3 会話2（ものの性質などに関して）	
		4 会話3（家族）、タイ語を聞いて書く	
		5 会話4（所有、存在）、タイ語を聞いて書く	
		6 会話5（職業、国名）タイ語を聞いて書く	
		7 会話6（可能、不可能）、タイ語を聞いて書く	
		8 会話7（名前、所在、手段などに関する表現）	
		9 会話8（動詞を用いた表現）、タイ語を聞いて書く	
		10 会話9（類別詞の用法1）、タイ語を聞いて書く	
		11 会話10（お金の計算）タイ語を聞いて書く	
		12 会話11（形容詞の使い方）タイ語を聞いて書く	
		13 タイ事情（映画 どのビジュアル教材の鑑賞）	
		14 タイ事情（映画などのビジュアル教材の鑑賞）	
		15 全体の復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		定期試験の成績および出席状況	

08年度以降 05～07年度	外国語（タイ語Ⅰb 会話） タイ語Ⅰb（会話）	担当者	江藤 双恵
講義目的、講義概要		授業計画	
Ⅰaに引き続き、標準タイ語会話を中心に学ぶ。声調、子音や母音の発音などの理解を深め、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を身につけ、文法事項についても整理する。また、言葉の背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。 ディクテーションによる表記練習や、作文練習によって運用能力や表現能力を高める。 映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。		1 会話1（類別詞の用法2）、タイ語を聞いて書く	
		2 会話2（日付に関する表現）、タイ語を聞いて書く	
		3 会話3（時刻の表し方）、タイ語を聞いて書く	
		4 会話4（年月などの表し方）、タイ語を聞いて書く	
		5 会話5（レストランで）、タイ語を聞いて書く	
		6 会話6（自己紹介など）、タイ語を聞いて書く	
		7 会話7（類別詞の用法3）、タイ語を聞いて書く	
		8 会話8（比較を含む表現）、タイ語を聞いて書く	
		9 会話9（電話をかける）、タイ語を聞いて書く	
		10 会話10（受身の表現）、タイ語を聞いて書く	
		11 会話11（依頼の表現）、タイ語を聞いて書く	
		12 会話12（病気のとき）、タイ語を聞いて書く	
		13 タイ事情（映画鑑賞または特定のトピックを取り上げた解説）	
		14 タイ事情（映画鑑賞または特定のトピックを取り上げた解説）	
		15 全体の復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		定期試験の成績および出席状況	

08年度以降 05～07年度	外国語（タイ語Ⅱa 文字の読み書き） タイ語Ⅱa（文字の読み書き）	担当者	江藤 双恵
講義目的、講義概要		授業計画	
文字の表記と発音を中心に学習し、初級レベルのタイ語を習得するための基礎固めを行う。初級レベルとは、タイ語を母語とする人々との間にある程度の意思疎通ができることである。そのためには文字が判読でき、正しく発音できることが大前提となる。また、タイ人の行動様式やものの考え方などを理解しようとする姿勢も求められる。そこで本講義では、文字の読み方、発音方法、書き方、表現手法の習熟にとどまらず、言葉の背景にある文化的・社会的特徴ないしタイ的な世界観にも触れることをめざす。 具体的には、タイ文字の表記と発音方法についてテキストを用いた講義を行い、タイ文字の子音、母音、数字および各種記号の表記方法、発音方法についてマスターする。できれば、随時、タイ映画などのビジュアル教材を通じて生きたタイ語に触れる機会をもち理解を深める。 初めてタイ語を学ぶ人は、タイ語会話Ⅰaを先に履修する方が望ましいが、復習時間に余裕があれば同時に履修してもかまわない。Ⅱaのみを履修したい人は前もって講師に相談されたい。		1 導入；今タイ語を学ぶ意義は？	
		2 タイ文字の成立と種類、タイ語の特徴についての概説、ローマ字表記の方法、数字の発音	
		3 文字の読み書き1（中子音・高子音）	
		4 文字の読み書き2（低子音と長母音）	
		5 文字の読み書き3（真正二重子音・平音節・促音節）	
		6 文字の読み書き4（声調符号、短母音）	
		7 文字の読み書き5（低子音の高子音化と中子音化、擬似二重子音）	
		8 文字の読み書き6（一字再読字）	
		9 文字の読み書き7（タイ数字など）	
		10 文字の読み書き8（特殊な表記）	
		11 タイ事情（映画などのビジュアル教材を使う予定）	
		12 タイ事情（映画などのビジュアル教材）	
		13 講読1（読み方、文章のつながり方など）	
		14 講読2（読み方、タイ語らしい言い回し）	
		15 全体の復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
「やさしいタイ語 文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント		定期試験の成績および出席状況	

08年度以降 05～07年度	外国語（タイ語Ⅱb 文字の読み書き） タイ語Ⅱb（文字の読み書き）	担当者	江藤 双恵
講義目的、講義概要		授業計画	
Ⅱaで学んだタイ文字の読み書き能力をさらに高め、簡単な文章を講読しながら背景にあるタイの文化、社会、人の行動様式や考え方などについても理解する。また、基礎文法を身につけ、簡単な作文能力や、辞書を用いて公文書レベルのタイ文を自力で読めるような力をつける。 なお、受講者の関心や進度に応じて講義の内容が変わる場合もある。タイの政治、宗教、農村開発、ジェンダーなど、今日的な話題を取りあげて議論を行うこともありえる。		1 講読1（読み方、文章のつながり方など）	
		2 講読2（平易な物語など）	
		3 文法1（指示詞の用法）	
		4 文法2（一般動詞の用法）	
		5 文法3（形容詞の用法）	
		6 講読3（平易な物語など）	
		7 文法4（類別詞の用法・比較）	
		8 講読4（タイの文化・祭り）	
		9 講読5（首都バンコクについて）	
		10 文法5（否定の表現）	
		11 講読6（子どもの夢）	
		12 講読7（書店）	
		13 タイ事情（現代映画の鑑賞）	
		14 タイ事情（現代映画の鑑賞）	
		15 全体の復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
やさしいタイ語 文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント		定期試験の成績および出席状況	

08年度以降 05～07年度	外国語（アラビア語 Ia 会話と文化） アラビア語 I a(会話と文化)	担当者	師岡カリマ・エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
アラビア語は総人口が2億8千万に達するアラブ21カ国の国語であり、国連公用語の一つでもあります。 またイスラームの啓典『クルアーン（コーラン）』の言葉であることから、アラブ以外のイスラーム圏でも広く学習されています。近年にわかに日本人の関心が高まったイスラームは、13億を超える人々に信仰されているにもかかわらず、「世界でもっとも誤解された宗教」と言われています。アラブ世界もまた、世界でもっとも誤解された文化圏の一つだと言えるでしょう。 本講義では、会話と文化に焦点を絞り、「言いたいことを言う」自己表現のためのアラビア語を学びます。毎回一つのテーマを決め、ディスカッションを通して「言いたいこと」を募り、それをアラビア語で言う練習をします。 またアラブの歴史や現代を生きるアラブ人の社会や日常についても広く取り上げていく計画です。 この講義は、「アラビア語 IIa 読み書きと文法の基礎」と同時に履修することができます。		1. Introduction 2. 文字と発音の基礎 3. あなたに平和を」挨拶に対するアラブ人のこだわり 4. 「ありがとう」「どういたしまして」「すみません」 5. ご機嫌いかがですか？」「元気です。おかげさまで」 6. 「あなたの名前は？」「私の名前は～」 7. 「私は東京出身の日本人です」国籍を述べる 8. 「私は学生です」職業の色々 9. 「これは何ですか」よく使う名詞 10. 「私は音楽が好きです」 11. 「私は映画が好きではありません」 12. 「トイレはどこですか？」 13. 「アレppo石鹸ありますか？」 14. 「どうしたんですか？」「お腹が痛いんです」 15. 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『恋するアラブ人』（師岡カリマ・エルサムニー著、白水社）『アラビア語単語帳』（師岡カリマ・エルサムニー、NHK出版）		常時会話の小テストを行うほか、期末にレポートを提出してもらいます。積極的にディスカッションに参加してもらうことを期待します。	

08年度以降 05～07年度	外国語（アラビア語 Ib 会話と文化） アラビア語 I b(会話と文化)	担当者	師岡カリマ・エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
前期に引き続き、会話と文化に焦点を絞って、アラビア語を使ったコミュニケーション・スキルと異文化理解を深めていきます。 この講義は、「アラビア語 IIb 読み書きと文法の基礎」と同時に履修することができます。		1. 前期の復習 2. 数と数字 3. 「私はアラビア語を勉強しました」 4. 「私は昨日～しました」 5. 「私はアラビア語を勉強しています」 6. 「水を下さい」「コーヒーがほしいです」 7. 「アスワンに行きたいです」 8. 「アラビア語を話すことができますか？」 9. 「いくらですか？」「高いですね」 10. 「～さんはいますか？」「銀行ありますか？」 11. 「銀行は病院の隣にあります」 12. 「なぜ？」「なぜなら」 13. 「早く！」便利なの一言 14. 復習 15. 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『恋するアラブ人』（師岡カリマ・エルサムニー著、白水社）『アラビア語単語帳』（師岡カリマ・エルサムニー、NHK出版）		常時会話の小テストを行います。積極的に質問・発言し、ディスカッションに参加してもらうことを期待します。	

08 年度以降 05～07 年度	外国語（アラビア語 IIa 読み書きと文法の基礎） アラビア語 II a(読み書きと文法の基礎)	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
アラビア語は総人口が 2 億 8 千万に達するアラブ 21 カ国の国語であり、国連公用語の一つでもあります。 また近年は、世界的金融危機を背景に「イスラーム金融」が注目され、ドバイをはじめとして湾岸地域が世界有数のビジネスの中心地として世界の関心を集めています。こうした世界の動向から見ても、アラビア語やアラブ文化の知識は、将来において大いに有益であると言えます。 本講義では、アラビア文字、アラビア語の読み書きの基本と基礎的な文法を学習しますが、文法の規則を知るだけでなく、すぐに使える文章を通して、楽しみながらアラビア語の論理を吸収してもらうことを目的としています。 この講義は「アラビア語 Ia 会話と文化」と同時に履修することができます。		1. Introduction 2. アラビア文字を覚える (1) 挨拶の言葉 3. アラビア文字を覚える (2) 挨拶の言葉 4. アラビア文字を覚える (3) 自己紹介 5. アラビア文字に覚える (4) 「私は日本人です」 6. アラビア文字を覚える (5) アラブの国名 7. 自分の名前を書く！ 8. 自己紹介の文章を書く！ 9. 自己紹介の文章を書く！ 10. アラビア語を読む 11. 定冠詞の使い方「そのバスに乗りたいです」 12. 男性形と女性形「私は学生です」 13. 疑問詞「それは何ですか？」「それは誰ですか？」 14. 復習・テストなど 15. テスト・アラビア語によるビデオ鑑賞	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『アラビア語のかたち』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）『アラビア語単語帳』（師岡カリーマ・エルサムニー、NHK 出版）		授業の中で常時小テストを行うほか、期末に筆記試験を行います。	

08 年度以降 05～07 年度	外国語（アラビア語 IIb 読み書きと文法の基礎） アラビア語 II b(読み書きと文法の基礎)	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
アラビア文字や言葉の響きに触れることによって、異文化に対する理解を深めてもらうことを目指しています。 本講義では、前期に引き続き、アラビア語の読み書きと文法の基礎を学習します。歌謡曲やビデオなど、様々なメディアを通じて自然にアラビア語を吸収してほしいと考えています。 この講義は、「アラビア語 Ib 会話と文化」と同時に履修することができます。		1. 前期の復習 2. 前置詞を使う「私はいつも〇〇にいます」 3. 前置詞を使う「私はいつも〇〇にいます」（続き） 4. 所有の表現「あなたは車を持っていますか？」 5. 形容詞の使い方「それはいい考えだ！」 6. イダーファ構文「これはナイルの水ですか？」 7. アラビア語の動詞は過去形から「彼は飲んだ」 8. アラビア語の動詞は過去形から「誰が言ったの？」 9. 現在形動詞「あなたは知っていますか？」 10. 現在形動詞の否定「知りません」 11. 現在形動詞と未来形「どうするつもりですか」 12. 複数と双数「エジプトのアーティストたち」 13. 辞書の引き方の基礎 14. 辞書の引き方の基礎・復習 15. テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『アラビア語のかたち』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）『アラビア語単語帳』（師岡カリーマ・エルサムニー、NHK 出版）		授業の中で常時小テストを行うほか、期末に筆記試験を行います。	

08 年度以降 07 年度以前	外国語(現代ヘブライ語 Ia 基礎) 現代ヘブライ語 I a	担当者	阿部 望
講義目的、講義概要		授業計画	
イスラエル国の公式言語であり、旧約聖書、タルムード、カバラー・ユダヤ神秘主義などの言語であるヘブライ語の基礎を学びます。 現代ヘブライ語は、三千年以上のユダヤ人の歴史や思想を語彙や概念として現代に伝えていきます。現代ヘブライ語を学ぶことは、コミュニケーションの手段としてだけではなく、ユダヤ学全体への入口となります。 フェニキア文字から発展したアルファベットの歴史を学び、ヘブライ文字がどのように生まれたのか、ギリシア文字、ローマ字がどう発展したかの歴史をたどります。 ヘブライ文字の書き方、発音練習を通して、欧米諸語で使われる人名、地名のオリジナル発音を探ります。 さらに、クラシック音楽の表題、シャガールの絵画、小中学校で踊るフォークダンス「マイム・マイム」など幅広く使われるヘブライ語を正しく理解します。 授業は随時配布されるプリントにそって進められます。皆さんは説明を聞きながら練習問題を解き、それを毎回授業の最後に提出します。 次回までに添削をして、返却および補足解説をおこない文法知識を身に付けていきます。		1. アルファベットの歴史・発音練習 2. 発音練習 3. ヘブライ文字の書き方・ユダヤ人の祭 4. ヘブライ語発音練習・発音練習 5. ヘブライ語会話練習 ヘブライ語起源の人名・地名 6. 名詞と形容詞、日本に進出するイスラエル企業 7. 名詞と形容詞の複数形 8. 動詞の現在形（1） 神名について「エホバ、ヤハウェ、アドナイ」 9. 動詞の現在形（2） 10. 動詞の現在形（3） フォークダンス「マイム・マイム」 11. 動詞の現在形（4） 12. 所有・所在・所持の表現 13. 不定詞の用法（1） 会話練習「私はヘブライ語を話すことができます」 14. 総復習 15. 総復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業テキストはプリントで配布。 『ヘブライ語入門』改版 日本ヘブライ文化協会		授業毎のプリント提出（40%） 筆記試験（60%）	

08 年度以降 07 年度以前	外国語(現代ヘブライ語 Ib 基礎) 現代ヘブライ語 I b	担当者	阿部 望
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に続き、ヘブライ語文法を学びながら、基礎フレーズを盛り込んだ会話練習をします。 セム語におけるヘブライ語の正しい位置を把握し、ヘブライ語史の問題点を学びます。 1. アラビア語とヘブライ語の違い。 2. イエス・キリスト時代の言語はアラム語か、ヘブライ語か。 3. ヘブライ語が死語になったとはどういう意味か。 4. 現代ヘブライ語はどのように“復活”したのか。 さらに、ユダヤ人の祭りや習慣を学び、ユダヤ人とお付き合いする際の注意点やエチケットを学びます。 「ユダヤ教」、「キリスト教」、「イスラム教」の違いを正しく認識し、それぞれの特徴を学びます。 ヘブライ語やユダヤにまつわる珍説・奇説などもを紹介し、“俗本”がヘブライ語起源だと主張する日本語をヘブライ語学の観点から解説を加え、正しい知識を身に付けます。 日本で食べられるイスラエル料理についても学びます。		1. 復習・会話練習 2. 会話練習、ユダヤ人の祭り 3. 動詞の不定詞、ユダヤ人の祭り 4. 動詞の不定詞（2）ユダヤ人の祭り 5. 動詞の不定詞（3） カバラー神秘主義に応用されたヘブライ数字 6. ユダヤ人のファミリーネーム（1） 7. ユダヤ人のファミリーネーム（2） 8. 名詞の用法（連結語） 9. 名詞の不規則な複数形 10. 動詞の過去形（1） 11. 動詞の過去形（2） 12. 動詞の過去形（3） 13. 使役動詞の用法 日・ユ同祖論について（本当か、嘘か） 14. イスラエル料理について 15. 総復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業テキストはプリントで配布。		授業毎のプリント提出（40%） 筆記試験（60%）	

08 年度以降 07 年度以前	日本語(総合1Aa) / 日本語 (総合1Ba) / 日本語 (総合1Ca) 日本語 Ia	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本コースは、タイトルにもあるように日本語を総合的に学び、大学における専門科目の履修上において必要とされる日本語力を向上させるためのものである。習 3 コマがセットになっており、連続して履修しなければならない。 授業内容 1. プレゼンテーション：具体的な方法を学んだ後、学期中少なくとも 2 回は、プレゼンテーションを準備し、発表する。 2. 読解： トピックに基づき、本、雑誌、新聞等から抜粋した生教材を使用する。内容理解はもちろん文中の表現、語彙を学習し、豊かな表現力を身につけることを目的とする。 3. 作文：基本的にはクラス内で作文をする。コースでは文献からの引用の仕方について学習した上で、レポート作成の具体的な指導を行う。 語学教育においては、予習、復習が重要であることは当然である。宿題についても指定された期日を厳守しなければならない。		読解教材 (クラス内で配布 変更の可能性もある) 『若者』のライフスタイル 「高齢化・少子化」 「起業」 「医療問題」 - プレゼンテーション - 作文指導 (論文の書き方) 各トピック終了時にテストを行う。	
テキスト、参考文献		評価方法	
- プリント - 参考分権はクラスで紹介する		- テスト結果 - 作文 (宿題) - プレゼンテーション - 出席 - クラス活動への参加度	

08 年度以降 07 年度以前	日本語(総合1Ab) / 日本語 (総合1Bb) / 日本語 (総合1Cb) 日本語 Ia	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		読解教材：トピックについては他称の変更がある可能性がある。 「食文化・食生活」 「日本を知る」 「情報社会」 「国際社会」 - プレゼンテーション - 作文指導 (論文の書き方) 各トピック終了時にテストを行う。	
テキスト、参考文献		評価方法	
- プリント - 参考分権はクラスで紹介する		- テスト結果 - 作文 (宿題) - プレゼンテーション - 出席 - クラス活動への参加度	

08年度以降 07年度以前	日本語（総合Ⅱa） 日本語Ⅱa	担当者	桂 千佳子
講義目的、講義概要		授業計画	
「水曜日4限」と「木曜日3限」では内容が異なります。このシラバスは「水曜日 4限」のものであります。注意してください。 *** 自分自身が考えていることを自力で掘り起こし、意見文に仕上げることを目標とします。 様々な文章を読みながら、そこに書かれていることと自分が考えたことを区別していくことを徹底的に練習します。 更に、ちょっと考えただけでは出てこない、自分の深いところにある考えを引き出す練習もしていきます。 毎回課題に取り組み、発展させていくので、欠席すると次の作業に移れません。欠席しないようにすること。		1. 自己紹介。 読みとること、考えること 2. 「読む」① 書かれていることと理解したこと 3. 「読む」② 理解したことと考えたこと 4. 「考える」① ひらめきを利用して思考を発展させる 5. 「書く」① 社会への提言文としてまとめる 6. 「読む」③ 意見文を読む 7. 「考える」② 読んだ内容について考える 8. 「書く」② 意見文を書く 9. 「話す」① ディベートの準備 10. 「話す」② ディベート テーマ1 11. 「話す」③ ディベート テーマ2 12. ディベートのテーマについて各自まとめる 13. 好きなテーマの文章を読む 14. 好きなテーマの意見文を書く 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布プリント		出席点 20% 提出物点 10% 授業中に指示する課題 70%	

08年度以降 07年度以前	日本語（総合Ⅱb） 日本語Ⅱb	担当者	岩沢 正子
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では新聞、雑誌、新書などから選んだテーマを教材とする。内容を読み取り、討論をし、自分の意見をまとめることを目標とする。 テーマは学生の興味も考慮して選んでいく。学生たちの積極的な授業参加を望む。		1回～5回 日本 の課題 6回～10回 国際社会の課題 11回～15回 自国（留学生出身国）の課題	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを用意する。		授業中に指示する課題および平常点	

08 年度以降 07 年度以前	日本語(総合 IIa) 日本語 II a	担当者	生田 守
講義目的、講義概要		授業計画	
外国語としての日本語学習を一通り終え、各分野で学業に励んでいる学生を対象にしたコースである。 新聞社説や専門的な記事、雑誌、専門誌などから素材を選び、読解・要約・ディスカッションなどを行う。 学業を支援する目的もあるので、各自、取り上げたい素材があれば、優先的に扱う予定である。		講義のスケジュール詳細は、第 1 回目の授業の際に、伝達する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント類		授業参加 (20%) および期末試験 (80%) により評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	日本語(総合 IIb) 日本語 II b	担当者	生田 守
講義目的、講義概要		授業計画	
基本的には春学期と同様であるが、秋学期はさらに自律学習的な性格が強まる。		講義のスケジュール詳細は、第 1 回目の授業の際に、伝達する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント類		授業参加 (20%) および期末試験 (80%) により評価する。	

08年度以降 07年度以前	日本語(総合Ⅱa) 日本語Ⅱa	担当者	桂 千佳子
講義目的、講義概要		授業計画	
「水曜日4限」と「木曜日3限」では内容が異なります。このシラバスは「木曜日3限」のものです。注意してください。 *** この授業では主に、自分が納得できる内容を言語化できるようにすることを目指します。 内容を作り上げていくことを重視しますので、日本語の文法、表現、語彙などを細かく指導していくことはしません。 一貫して、自問自答を繰り返しながら内容を構築していきます。特に春学期は、参考資料などに頼らずに自分一人で内容を作り上げることに集中して取り組んでいきます。 自分の中に豊かな情報がつまっていることを実感してください。 毎回課題に取り組み、発展させていくので、欠席すると次の作業に移れません。欠席しないようにすること。		1. 自己紹介。 自分らしさとは？ 2. 感覚的な表現① 自分を感じる 3. 感覚的な表現② 相手を感じる 4. 感覚的な表現③ 自分の世界を創る 5. 感覚的な表現④ 自分の世界を伝える 6. 説明的な表現① 自分を見る 7. 説明的な表現② 自分について考える 8. 説明的な表現③ 自分の価値観を書く 9. 説明的な表現④ 自己PR文を書く 10.プレゼンテーション① 自己PR 11.プレゼンテーション② 自己PR 12.プレゼンテーション③ 自己PR 13.プレゼンテーション④ 自己PR 14.今までの自分を振り返る 15.まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布プリント		出席点 20% 提出物点 10% 授業中に指示する課題 70%	

08年度以降 07年度以前	日本語(総合Ⅱb) 日本語Ⅱb	担当者	桂 千佳子
講義目的、講義概要		授業計画	
主に、理解するというのとはどういうことなのか、について考えながら、表現することにつなげていきます。 話を聞く、文章を読むということは、受動的な行為であるように思いますが、実は、私たち自身が自分で頭の中に内容を作りあげる、大変に創造的な行為です。 理解することが創造的な行為であることを自覚し、理解した内容を対象化できるようにします。それによって、話を聞く、資料を読むという行為を、自分自身の言葉で表現するという行為へとスムーズに移行できるようにしていきます。 毎回課題に取り組み、発展させていくので、欠席すると次の作業に移れないことがあるので、欠席しないようにすること。		1. 自己紹介。 コミュニケーションをとること 2. ストーリーから「人生の理」をひろう 3. ストーリーから思考を発展させていく 4. ストーリーから連想したことを短文にまとめる 5. 文学作品を読む。「読む」ときのこつとは？ 6. 感想文を書く① 構想を練る 7. 感想文を書く② 文章化する 8. 友人の感想を聞いて報告する① 9. 友人の感想を聞いて報告する② 10.新聞記事、コラムを読む 11.10で読んだ文章について考える 12.意見文を書く 13.友人の意見文を読んで話し合う 14.全体の振り返り 15.まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布プリント		出席点 20% 提出物点 10% 授業中に指示する課題 70%	

08年度以降 07年度以前	日本語(総合Ⅱa) 日本語Ⅱa	担当者	武田 明子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 論理的思考能力を身につけるための、言葉を統御する力を鍛えることを目的とする。基本的な日本語構文や表現を身につけていると思っていても、日本語で書く力、すなわち日本語能力を大学生の間に再度高めておく必要がある。その上で社会に出てからも役立つことを目指し、社会生活に必要な日本語力ができるだけ完成に近づくようにしていく。 講義概要 毎回、講義後に理解度チェックを実施する。したがって、きちんと授業に出席することが必要である。ただ聞いているだけでは実力として自分の身に付かないので、各自、欠席をしないことを第一と考えられる者のみの参加を期待する。		1 講義の概要 2 適切な語の選択 3 日本語として正しい文(1) 4 日本語として正しい文(2) 5 複数理解ができる文 6 期待に添って展開する文章 7 文体の統一 8 図表で示す 9 図表で説明する 10 事実と意見の区別 11 履歴書 12 エントリーシート 13 手紙(1)ー一般ルール 14 手紙(2)ービジネス文書・メール 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		出席を重視する。また、毎回の理解度チェックも評価の対象となる。更に授業への参加度を加味して、総合的に評価する。	

08年度以降 07年度以前	日本語(総合Ⅱb) 日本語Ⅱb	担当者	武田 明子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 日常の日本語に堪能になり、大学の講義における日本語に違和感なくなじむようになって、なお、社会に出てからの日本語は大学生にとっては難しいものがある。ビジネスにおけるコミュニケーション上の誤解や障壁を取り除き、国内外のビジネス関係者の相互理解がスムーズにできるための基礎を理解することを目的とする。 講義概要 日本語を声に出して相手に理解を求める方法、失笑されないような一般的な敬語の使用方法、理解しておいて損のない一般的な日本語や行動のマナー、ビジネスにおけるマナーなどを通じて、ビジネスにおける日本語能力をどのようにすれば高めていけるかが理解できるようにする。		1 講義の概要 2 声・抑揚・スピードの必要性(1) 3 声・抑揚・スピードの必要性(2) 4 敬語(1)ー基本的な作り方 5 敬語(2)ー社会の敬語 6 敬語(3)ー行動と言葉遣い 7 日本の一般マナー(1) 8 日本の一般マナー(2) 9 日本の一般マナー(3) 10 日本のビジネスマナー(1) 11 日本のビジネスマナー(2) 12 日本のビジネスマナー(3) 13 ビジネスに通じる日本語能力(1) 14 ビジネスに通じる日本語能力(2) 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		出席を重視する。また、毎回の理解度チェックも評価の対象となる。更に授業への参加度を加味して、総合的に評価する。	

シラバス 全学共通授業科目

2012年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1655



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	